
**福山市 福祉に関するアンケート調査
報告書**

**2020年（令和2年）年3月
福山市**

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 調査結果（18歳以上）	3
II-1 回答者の属性	3
II-2 調査結果	4
【1】障がいの状況について	4
1 障がいの種類（身体障がい者）	4
2 難病の診断の有無	5
3 発達障がいの診断の有無	5
4 高次脳機能障がいの診断の有無	6
5 自立支援医療（精神通院）受給者証の有無	6
6 介護保険の認定状況	7
【2】住まいや暮らしについて	8
1 現在の生活の場	8
2 主な介助者	9
3 介助者の年齢や健康状態	11
4 今後希望する暮らし方	13
5 地域で暮らすために必要な支援	15
【3】相談について	17
1 相談したいこと	17
2 相談先に望むこと	21
3 基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況	24
4 権利擁護支援センターの利用状況	26
5 地域活動支援センターの利用状況	28
6 地域活動支援センターに希望する活動内容	30
【4】就労について	32
1 現在の就労状況	32
2 就労期間	34
3 1か月の給料（工賃）	36
4 今後の就労意向	39
5 働きやすくするために必要なこと	41
6 勤務形態	43
7 一般就労への希望	45
8 一般就労をしていない理由	46
9 日中の主な過ごし方	47
10 今後の就労意向	49

【5】 障がい福祉サービスなどについて -----	50
1 障がい福祉サービスなどの利用の有無 -----	50
2 障がい福祉サービスなどの利用状況 -----	51
3 サービスを利用できていない理由 -----	54
4 今後新たに利用したいサービス -----	56
5 サービスを利用しやすくするために必要なこと -----	57
【6】 地域での暮らしについて -----	59
1 地域の人との付き合い程度 -----	59
2 地域の行事やイベントへの参加状況 -----	61
3 地域活動への参加意向 -----	63
4 地域活動に参加しやすくするために必要なこと -----	65
5 他の障がい者の悩みなどを聞く取組への参加意向 -----	67
6 他の障がい者のために手助けできること -----	69
【7】 障がいに対する理解について -----	71
1 障がいを理由とする差別を受けた経験 -----	71
2 差別を受けた場面 -----	73
3 差別を受けた場合の相談先 -----	75
4 障がい者に対する地域の人々の理解について -----	77
5 障がい者に対する理解を深めるために必要な取組 -----	79
【8】 災害時の対応について -----	81
1 災害時に自力で避難すること -----	81
2 災害時に困ること -----	83
3 災害時の備えとして必要な対策 -----	85
4 防災訓練への参加状況 -----	87
5 防災訓練に参加していない理由 -----	89
6 避難行動要支援者避難支援制度の認知状況 -----	91
【9】 スポーツ活動について -----	93
1 スポーツをすること -----	93
2 スポーツをする頻度 -----	95
3 スポーツをする場所 -----	96
4 スポーツの種類 -----	98
5 スポーツをしていない理由 -----	100
【10】 行政の福祉施策などについて -----	102
1 福祉情報の入手経路 -----	102
2 障がい者が安心して暮らすために重要と思う施策 -----	106
3 サポートファイル結愛の利用状況 -----	108
4 サポートファイル結愛の今後の利用意向 -----	110
5 サポートファイル結愛の利用場面 -----	112
II-3 資料 調査票 -----	114

Ⅲ 調査結果（18歳未満）	-----145
Ⅲ-1 回答者の属性	-----145
Ⅲ-2 調査結果	-----146
【1】障がいの状況について	----- 146
1 障がいの種類（身体障がい者）	----- 146
2 難病の診断の有無	----- 147
3 発達障がいの診断の有無	----- 147
4 高次脳機能障がいの診断の有無	----- 148
5 医療的ケアの有無	----- 148
【2】現在の暮らしについて	----- 149
1 現在の生活の場	----- 149
2 同居家族	----- 149
3 家族の中で働いている人	----- 150
4 主な介助者	----- 150
5 介助者の年齢	----- 151
6 介助ができなくなった場合の対処について	----- 152
7 介助者に必要な支援	----- 154
【3】相談について	----- 156
1 障がいに気付いたきっかけ	----- 156
2 障がいに気付いた年齢	----- 158
3 障がいに気付いてから悩んだこと	----- 160
4 相談したいこと	----- 162
5 子どもが就労するために重要だと思うこと	----- 164
6 発達上の支援が必要な子どものために必要なこと	----- 166
7 基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況	----- 168
8 こども発達支援センターの利用状況	----- 169
9 相談先に望むこと	----- 170
【4】日中の過ごし方について	----- 172
1 通所・通学先	----- 172
2 通所・通学先で充実してほしいこと	----- 174
【5】障がい児福祉サービスなどについて	----- 176
1 障がい児福祉サービスなどの利用の有無	----- 176
2 障がい児福祉サービスなどの利用状況	----- 177
3 サービスを利用できていない理由	----- 180
4 今後新たに利用したいサービス	----- 182
5 放課後等デイサービスの利用状況及び利用意向	----- 184
6 放課後等デイサービスを利用している理由	----- 186
7 放課後等デイサービスの支給決定を受けていない理由	----- 188

8 放課後等デイサービスの今後の利用意向 -----	189
9 サービスを利用しやすくするために必要なこと -----	190
【6】障がいに対する理解について -----	192
1 障がいを理由とする差別を受けた経験 -----	192
2 差別を受けた場面 -----	193
3 差別を受けた場合の相談先 -----	195
4 障がい者に対する地域の人の理解について -----	196
5 障がい者に対する理解を深めるために必要な取組 -----	197
【7】災害時の対応について -----	199
1 災害時に困ること -----	199
2 災害時の備えとして必要な対策 -----	201
3 防災訓練への参加状況 -----	203
4 防災訓練に参加していない理由 -----	204
【8】行政の福祉施策などについて -----	206
1 福祉情報の入手経路 -----	206
2 障がい者が安心して暮らすために重要と思う施策 -----	208
3 サポートファイル結愛の利用状況 -----	210
4 サポートファイル結愛の利用のしやすさ -----	211
5 サポートファイル結愛の今後の利用意向 -----	212
6 サポートファイル結愛の利用場面 -----	213
Ⅲ-3 資料 調査票 -----	214
Ⅳ 調査結果（手帳等非所持者） -----	241
Ⅳ-1 回答者の属性 -----	241
Ⅳ-2 調査結果 -----	243
【1】地域との関わりについて -----	243
1 地域の人との付き合い程度 -----	243
2 地域の行事や町内活動などへの参加状況 -----	244
3 支援を必要としている方を見かけた時の望ましい対応について -----	246
【2】障がいがある人とのふれあいなどについて -----	248
1 身近な障がい者の有無 -----	248
2 障がい者と関わる機会 -----	249
3 障がい者やその家族に対する手助けの経験 -----	251
4 障がい者やその家族に対して手助けできること -----	253
5 障がい者に対するボランティア活動への参加状況 -----	255
6 障がい者に対するボランティア活動への参加意向 -----	257
7 障がい者とふれあう機会への参加意向 -----	259
8 障がい者とふれあうために必要なこと -----	261

【3】障がいに対する理解などについて -----	263
1 障がい者に対する差別や偏見について -----	263
2 障がい者に対して人権上問題があると思うこと -----	265
3 障がい者に対する地域の人々の理解度 -----	267
4 障がい者に対する理解を深めるために必要な取組 -----	269
【4】地域での福祉の取組について -----	271
1 地域の福祉課題への関心度 -----	271
2 地域の福祉課題に対して住民相互の助け合いの必要性 -----	273
3 行政と地域住民の関係について -----	275
4 障がい者に対する行政の取組について -----	276
5 障がい者の就労促進のために必要な取組 -----	277
6 障がい者にとって福山市での暮らしやすさ -----	279
【5】行政の取組などについて -----	280
1 障がい者に関することへの認知状況 -----	280
2 障がい者のために行政が力を入れるべきこと -----	282
IV-3 資料 調査票 -----	284
V フリーアンサー集約結果 -----	293
【1】18歳以上 -----	293
【2】18歳未満 -----	294
【3】手帳等非所持者 -----	295

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「福山市障がい者保健福祉総合計画及び福山市障がい福祉計画」(2021年度(令和3年度)～2026年度(令和8年度))を策定するため、障がい者手帳等所持者及び障がい者手帳等非所持者における、障がいの状況、住まいや暮らし、保健・医療、就労、保育・教育などについての意識や福祉ニーズ等を調査し、計画の基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査概要】

調査対象	(1)市内に住所を有する身体障がい者手帳,療育手帳,精神障がい者保健福祉手帳の所持者及び障がい児通所支援受給者 (2)市内に住所を有する障がい者手帳等非所持者
調査期間	2019年(令和元年)12月～2020年(令和2年)1月
調査方法	郵送による調査票の配布・回収
配布数	(1)3,500人(18歳以上:2,900人,18歳未満:600人) (2)1,000人
回収数	(1)1,513人(18歳以上:1,254人,18歳未満:259人) (2)340人
回収率	(1)43.2%(18歳以上:43.2%,18歳未満:43.2%) (2)34.0%

◆障がい別回収状況(18歳以上)◆ (数値部分上段は構成比%,下段は回答件数)

サンプル数	身体障がい者手帳						療育手帳 [※]			
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	OA	A	OB	B
100.0	17.5	7.9	10.1	8.9	5.3	2.8	3.0	7.9	5.9	4.6
1254	219	99	127	112	66	35	37	99	74	58

精神障がい者保健福祉手帳			無回答
1級	2級	3級	
0.9	19.0	8.7	4.3
11	238	109	54

注:「問4 手帳の種類・等級」より

※等級の表記については、次頁(6)を参照。

◆障がい別回収状況(18歳未満)◆ (数値部分上段は構成比%, 下段は回答件数)

サンプル数	身体障がい者手帳						療育手帳 [※]			
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	○A	A	○B	B
100.0	7.3	3.9	1.9	0.0	1.2	0.4	3.1	6.9	10.4	18.1
259	19	10	5	0	3	1	8	18	27	47

精神障がい者 保健福祉手帳			手帳は 持っていない	無回答
1級	2級	3級		
0.4	5.0	17.8	22.0	6.2
1	13	46	57	16

注:「問4 手帳の種類・等級」より

※等級の表記については、次頁(6)を参照。

【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表, 図表, 文中に示すNは, 比率算出上の基数(標本数)である。全標本数を示す「全体」を「N」, 「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中における障がい種別や年齢別などのクロス集計結果については, 該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば, 年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため, 属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し, 回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%, 0.1%など)は, 図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また, 複数回答の図表中においては, 見やすさを考慮し, 回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 本報告書の図表や文章では, 療育手帳の等級について, 次のように略記している。

マルエー	Ⓐ	→	○A
マルビー	Ⓑ	→	○B

- (7) この他, 個別に参照事項がある場合は, 本報告書の該当箇所に適宜記載した。

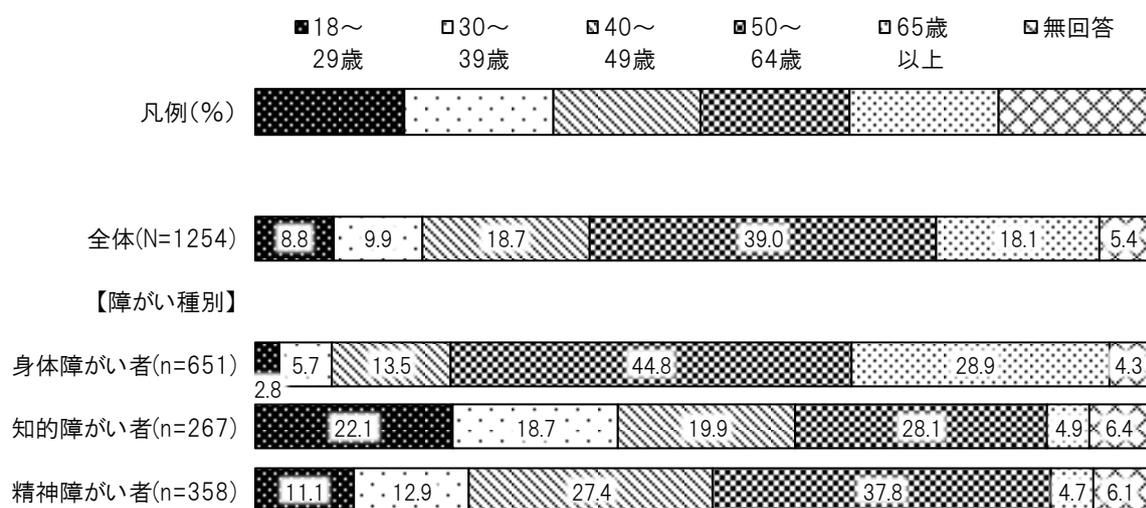
Ⅱ 調査結果（18歳以上）

Ⅱ-1 回答者の属性

1 年齢別構成

年齢別構成では、「50～64歳」が39.0%と最も高く、次いで「40～49歳」（18.7%）、「65歳以上」（18.1%）が続いている。

障がい種別では、身体障がい者で「50～64歳」「65歳以上」、知的障がい者で「18～29歳」「30～39歳」、精神障がい者で「40～49歳」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



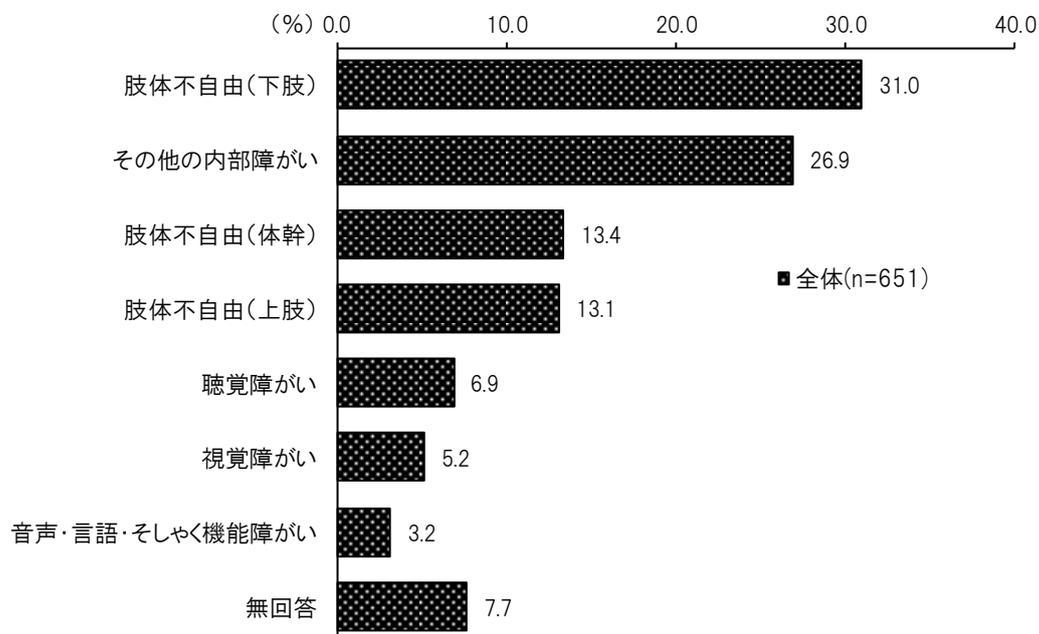
Ⅱ-2 調査結果

【1】障がいの状況について

1 障がいの種類（身体障がい者）

問5 あなたは身体障がい者手帳をお持ちですが、主な障がいをお答えください。
(○は1つだけ)

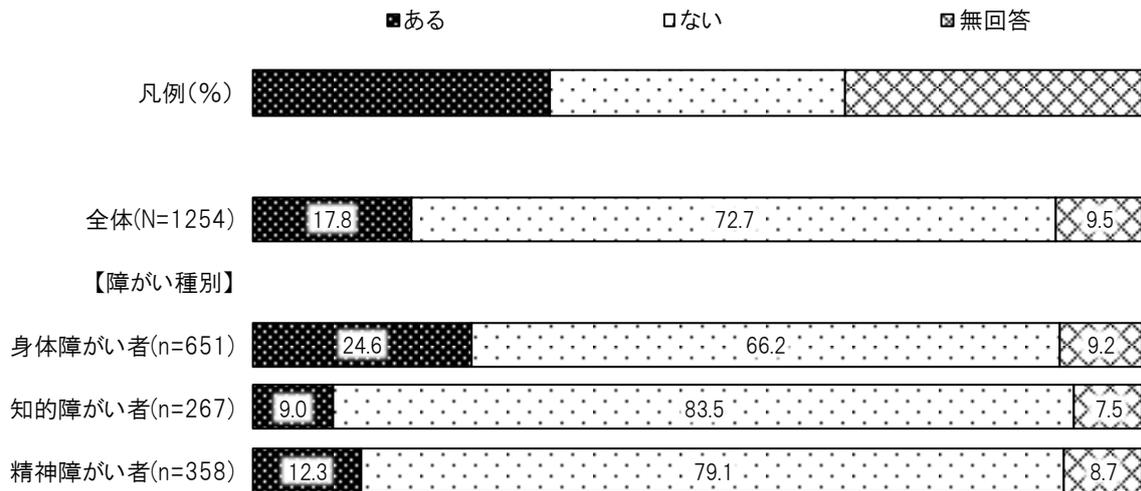
障がいの種類（身体障がい者）については、「肢体不自由（下肢）」の割合が31.0%と最も高く、次いで「その他の内部障がい」（26.9%）、「肢体不自由（体幹）」（13.4%）、「肢体不自由（上肢）」（13.1%）の順となっている。



2 難病の診断の有無

問6 あなたは医師から難病と診断を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

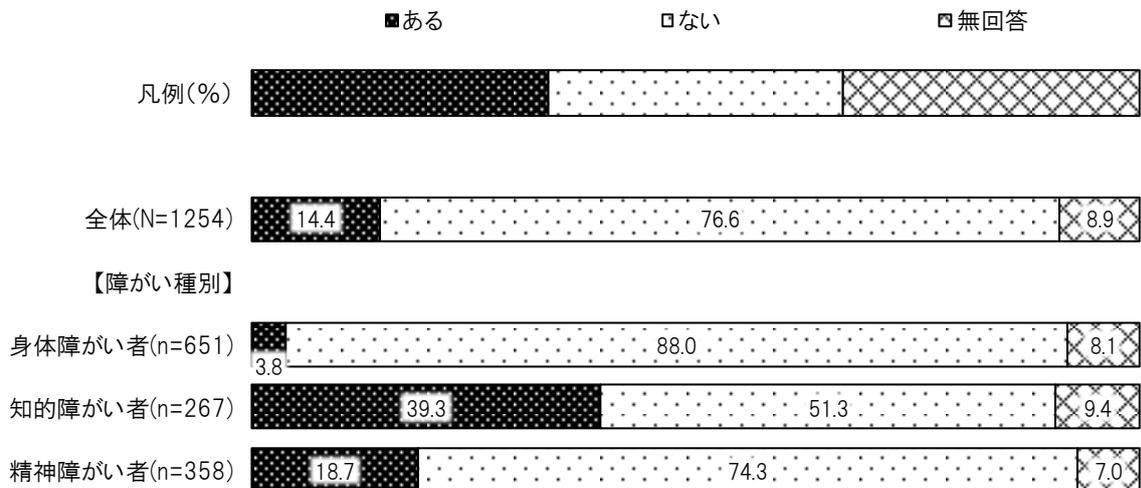
難病の診断の有無については、診断を受けたことが「ある」が17.8%となっている。障がい種別では、身体障がい者で「ある」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。



3 発達障がいの診断の有無

問7 あなたは医師から発達障がいと診断を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

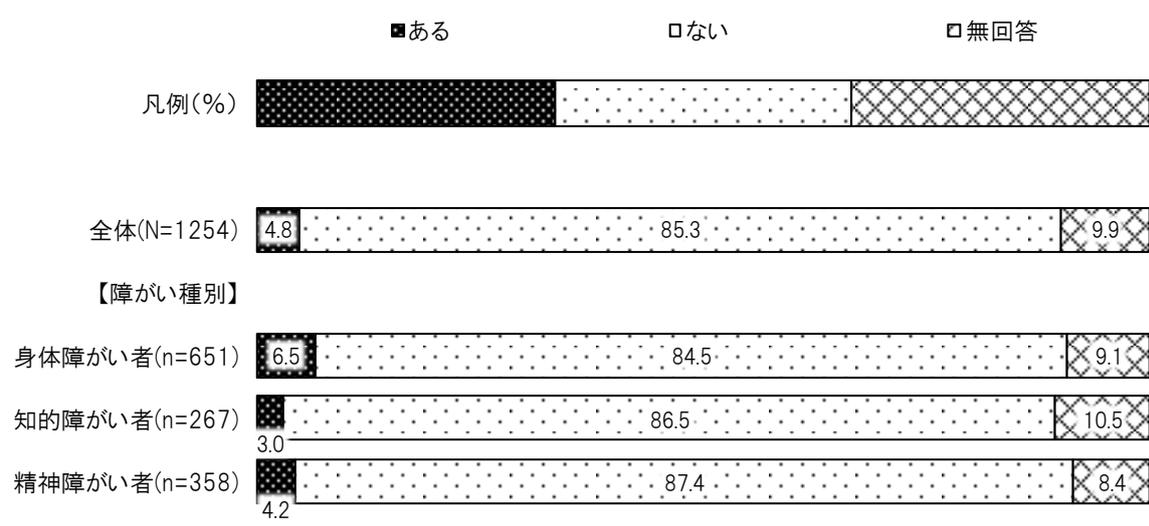
発達障がいの診断の有無については、「ある」が14.4%となっている。障がい種別では、知的障がい者の約4割が発達障がいと診断されている。



4 高次脳機能障がい診断の有無

問8 あなたは医師から高次脳機能障がいと診断を受けたことがありますか。
(○は1つだけ)

高次脳機能障がいの診断の有無については、「ある」が4.8%となっている。
障がい種別では、身体障がい者はほかの障がいに比べ「ある」の割合がやや高くなっている。

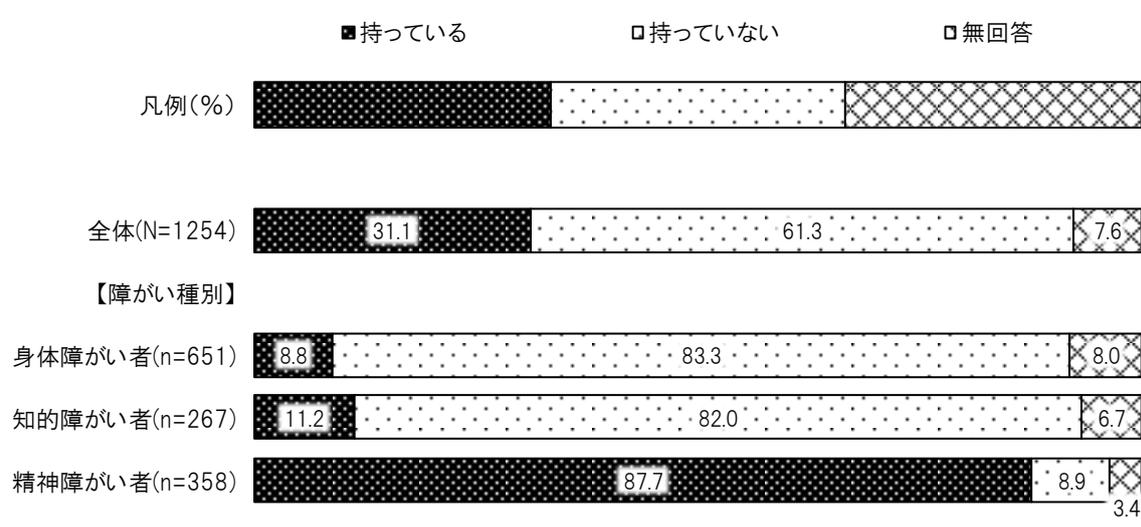


5 自立支援医療（精神通院）受給者証の有無

問9 あなたは自立支援医療（精神通院）受給者証を持っていますか。(○は1つだけ)

自立支援医療（精神通院）受給者証の有無については、「持っている」が約3割(31.1%)となっている。

障がい種別では、精神障がい者の約9割が自立支援医療（精神通院）受給者証を持っている。

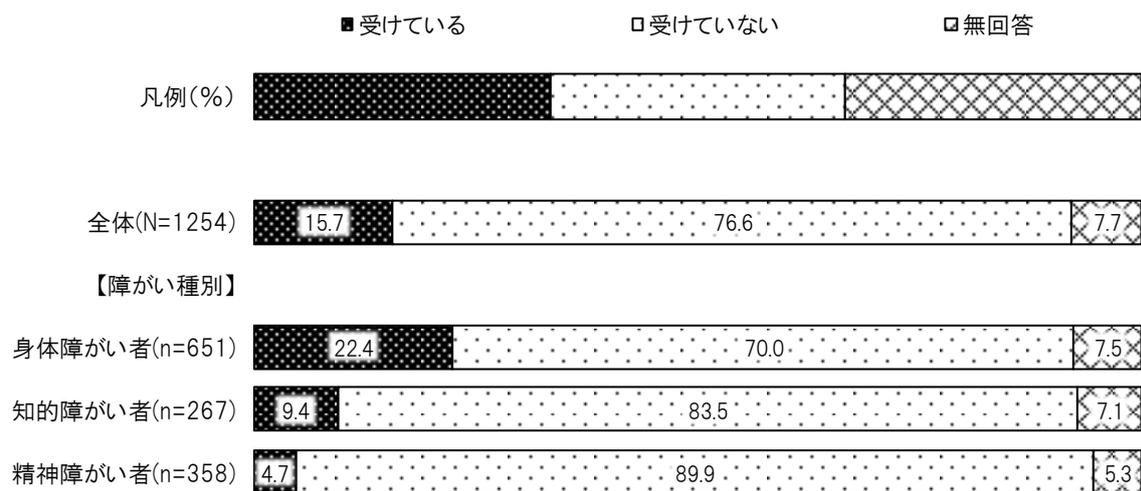


6 介護保険の認定状況

問 10 あなたは介護保険制度の要支援・要介護認定を受けていますか。(○は1つだけ)

介護保険の認定状況については、「受けている」が15.7%となっている。

障がい種別では、身体障がい者で「受けている」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

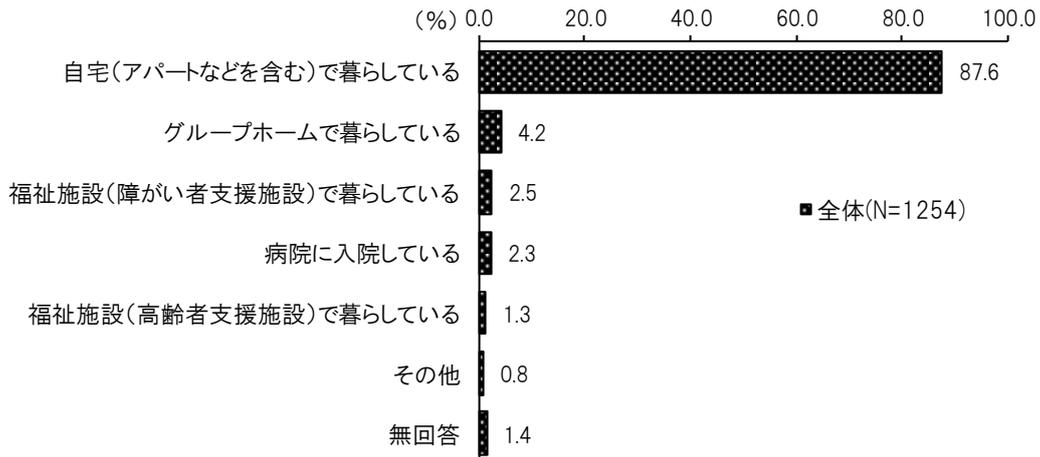


【2】住まいや暮らしについて

1 現在の生活の場

問 11 あなたは現在、どのように暮らしていますか。（○は1つだけ）

現在の生活の場については、「自宅（アパートなどを含む）で暮らしている」が大半（87.6%）を占めている。



障がい種別では、知的障がい者で「グループホームで暮らしている」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

単位 (%)	自宅(アパートなどを含む)で暮らしている	グループホームで暮らしている	福祉施設(障がい者支援施設)で暮らしている	病院に入院している	福祉施設(高齢者支援施設)で暮らしている	その他
全体(N=1254)	87.6	4.2	2.5	2.3	1.3	0.8
【障がい種別】						
身体障がい者(n=651)	90.3	1.5	2.3	2.3	2.2	0.9
知的障がい者(n=267)	71.2	16.1	8.2	2.2	0.0	0.7
精神障がい者(n=358)	93.9	1.7	0.8	2.8	0.3	0.3

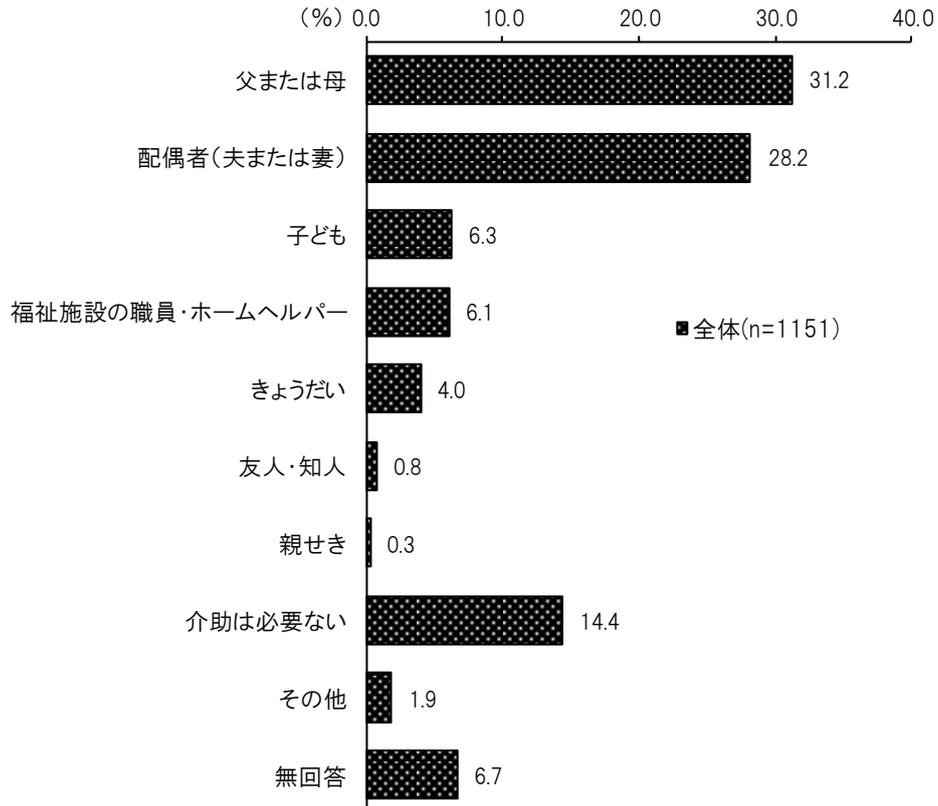
注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(障がい種別や年齢別など)において最も高い割合を示している。
 (例/障がい種別の場合、各障がいを比べて最も高い層に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)
 但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。
 また「無回答」は表記から省略している。(本報告書においては、以下同様)

2 主な介助者

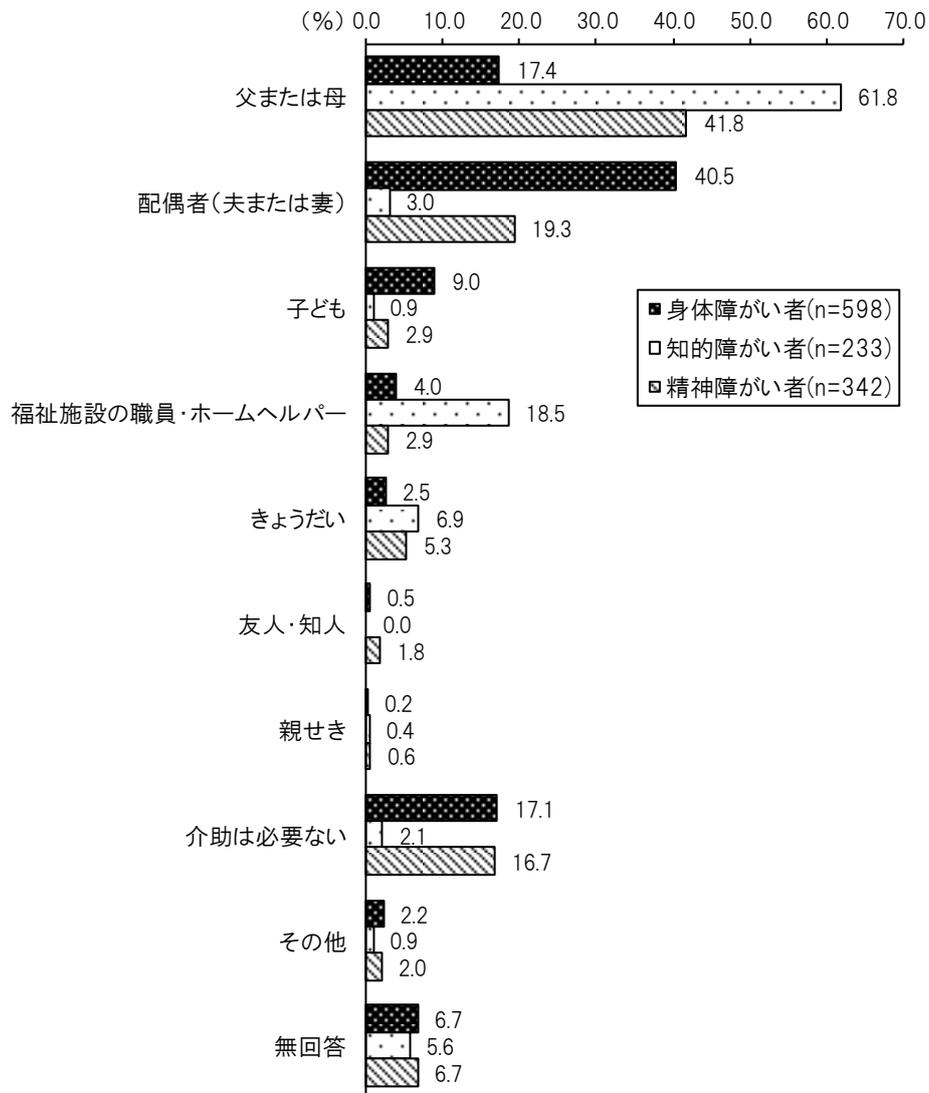
【問 11 で「自宅（アパートなどを含む）やグループホームで暮らしている」を選んだ方について】

問 12 あなたの主な介助者は、どなたですか。（○は1つだけ）

主な介助者については、「父または母」の割合が 31.2%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」（28.2%）が続いている。一方、「介助は必要ない」は 14.4%みられた。



障がい種別では、身体障がい者で「配偶者（夫または妻）」、知的障がい者で「父または母」「福祉施設の職員・ホームヘルパー」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。



3 介助者の年齢や健康状態

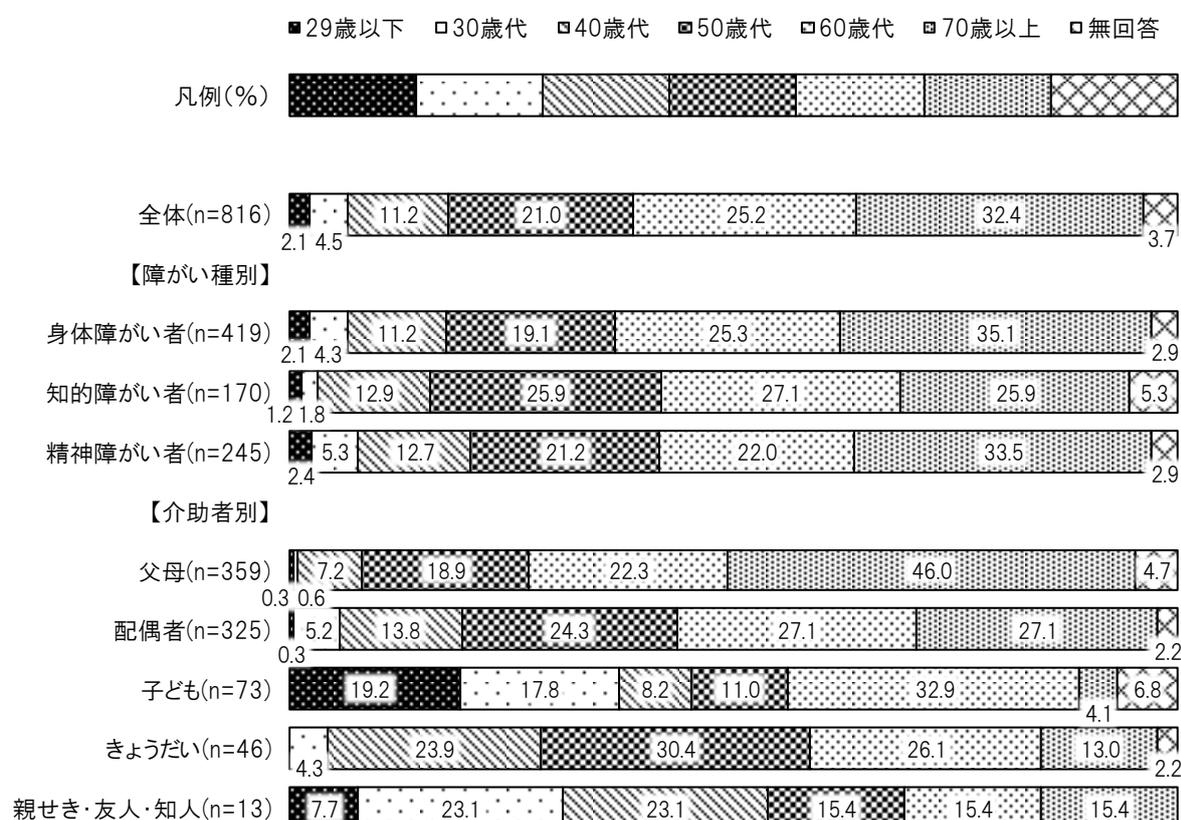
【問 12 で主な介助者が「父または母，配偶者（夫または妻），子ども，きょうだい，親せき，友人・知人」を選んだ方について】

問 13 介助者の年齢，健康状態についてお答えください。（○は1つずつ）

①介助者の年齢

介助者の年齢については、「70歳以上」が32.4%と最も高く，次いで「60歳代」(25.2%)，「50歳代」(21.0%)が続き，『50歳以上（合計）』で約8割（78.6%）を占めている。障がい種別では，知的障がい者はほかの障がいに比べ「50歳代」の割合がやや高くなっている。

介助者別でみると，父母で「70歳以上」の割合が半数近くを占めており，子どもで『30歳代以下（合計）』が約4割を占めている。

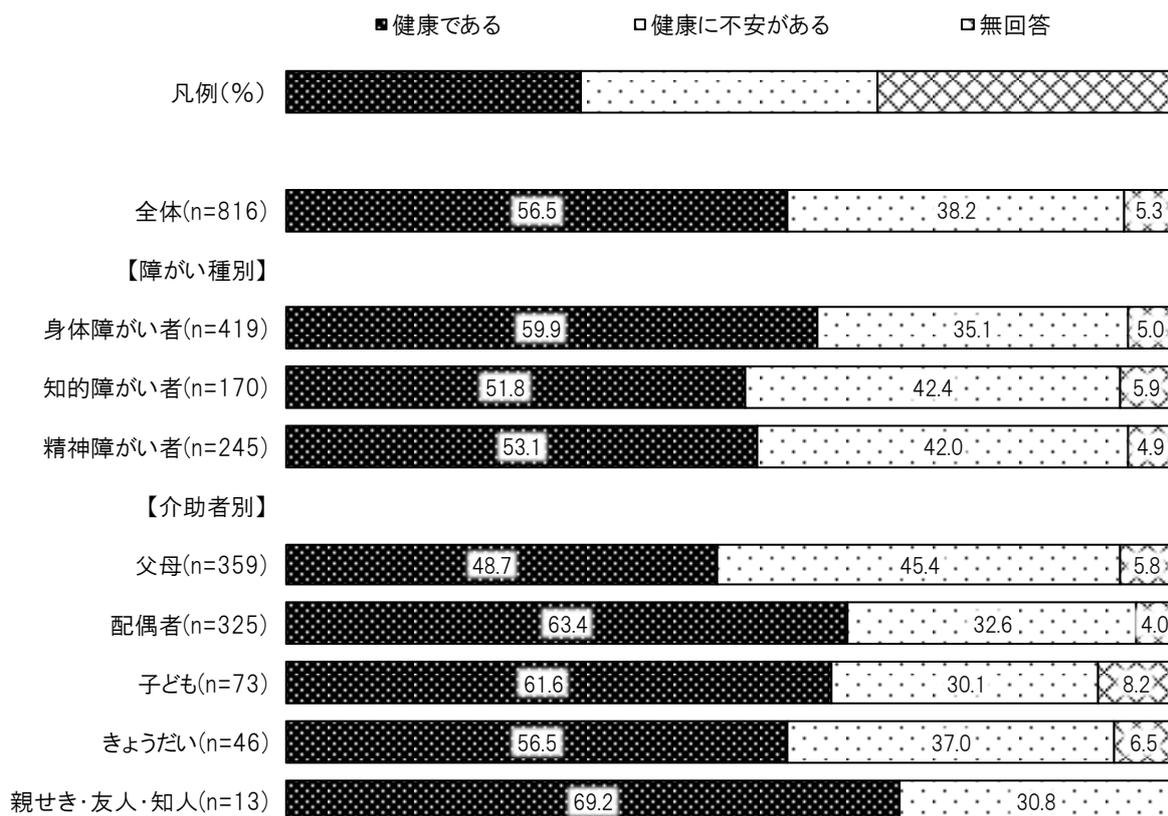


②介助者の健康状態

介助者の健康状態については、「健康である」が56.5%、「健康に不安がある」が38.2%となっている。

障がい種別では、身体障がい者はほかの障がいに比べ「健康である」の割合が高くなっている。

介助者別でみると、父母で「健康に不安がある」の割合がほかの介助者に比べて高くなっている。

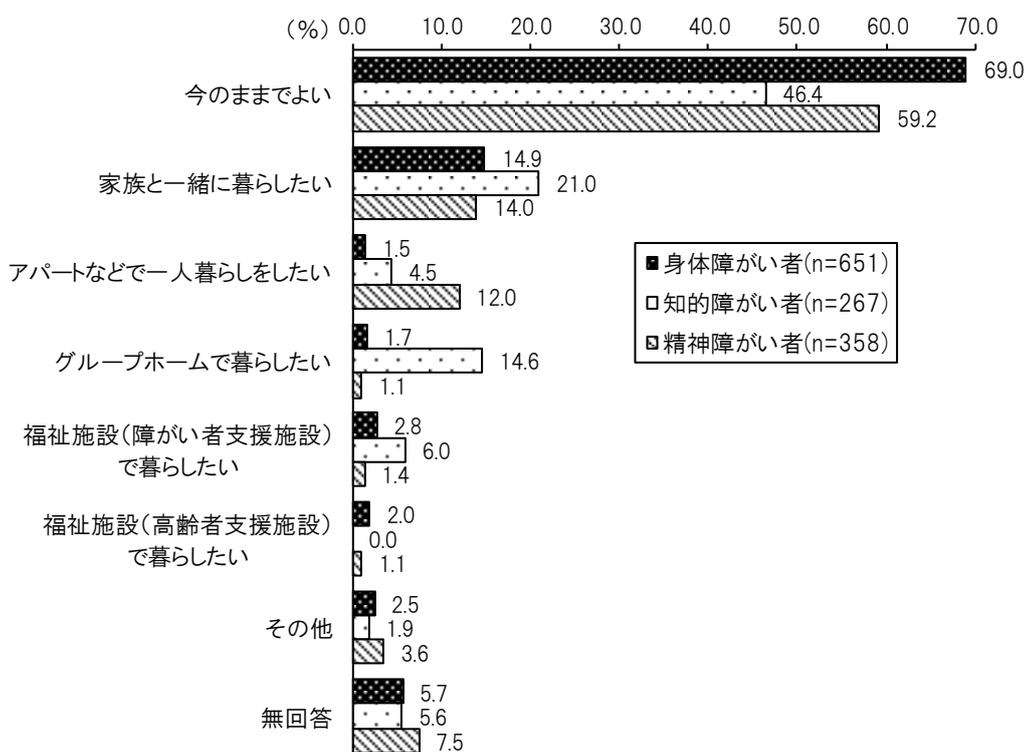
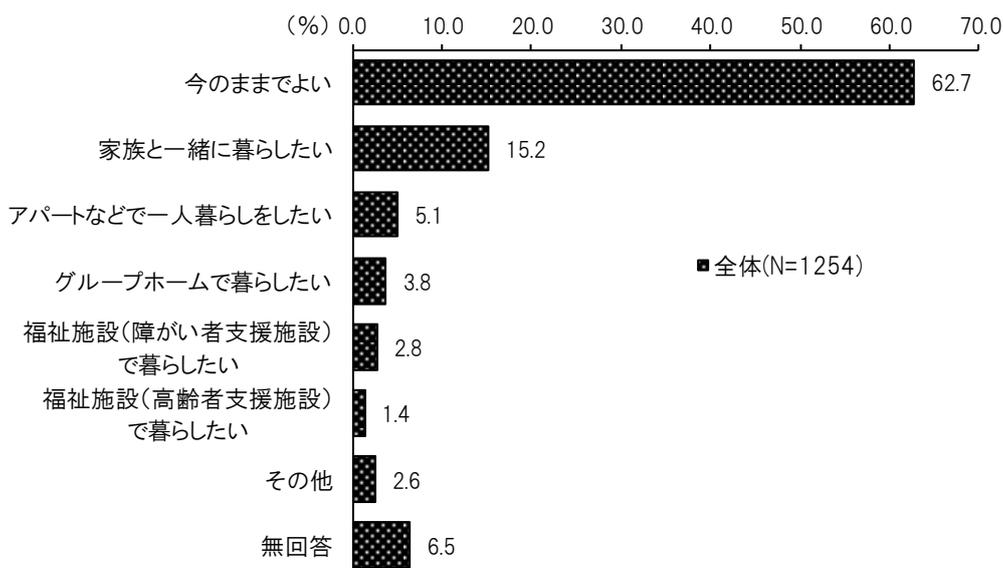


4 今後希望する暮らし方

問 14 今後、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。(○は1つだけ)

今後希望する暮らし方については、「今のままでよい」が62.7%と突出して最も高く、次いで「家族と一緒に暮らしたい」(15.2%)が続いている。

障がい種別では、知的障がい者で「家族と一緒に暮らしたい」「グループホームで暮らしたい」、精神障がい者で「アパートなどで一人暮らしをしたい」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



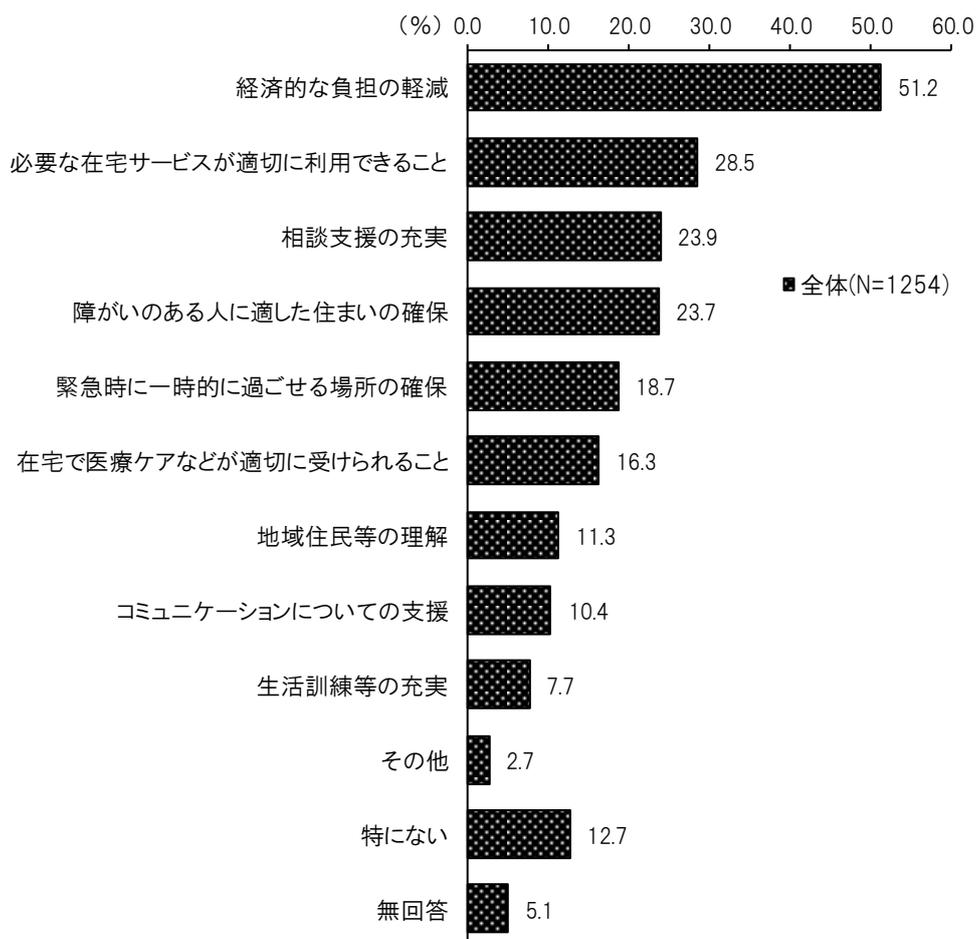
居住形態別でみると、自宅で「今のままでよい」、グループホームで「グループホームで暮らしたい」、高齢者支援施設入所で「福祉施設（高齢者支援施設）で暮らしたい」、入院中で「家族と一緒に暮らしたい」の割合がそれぞれほかの居住形態に比べて高くなっている。

単位 (%)	今のままでよい	家族と一緒に暮らしたい	アパートなどで一人暮らしをしたたい	グループホームで暮らしたい	福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしたい	福祉施設（高齢者支援施設）で暮らしたい	その他
全体(N=1254)	62.7	15.2	5.1	3.8	2.8	1.4	2.6
【居住形態別】							
自宅(n=1098)	65.7	14.8	4.8	2.7	2.4	1.0	2.6
グループホーム(n=53)	52.8	7.5	11.3	24.5	0.0	0.0	1.9
障がい者支援施設入所(n=31)	45.2	6.5	6.5	6.5	16.1	0.0	6.5
高齢者支援施設入所(n=16)	31.3	18.8	0.0	0.0	0.0	31.3	0.0
入院中(n=29)	24.1	48.3	3.4	3.4	10.3	6.9	0.0

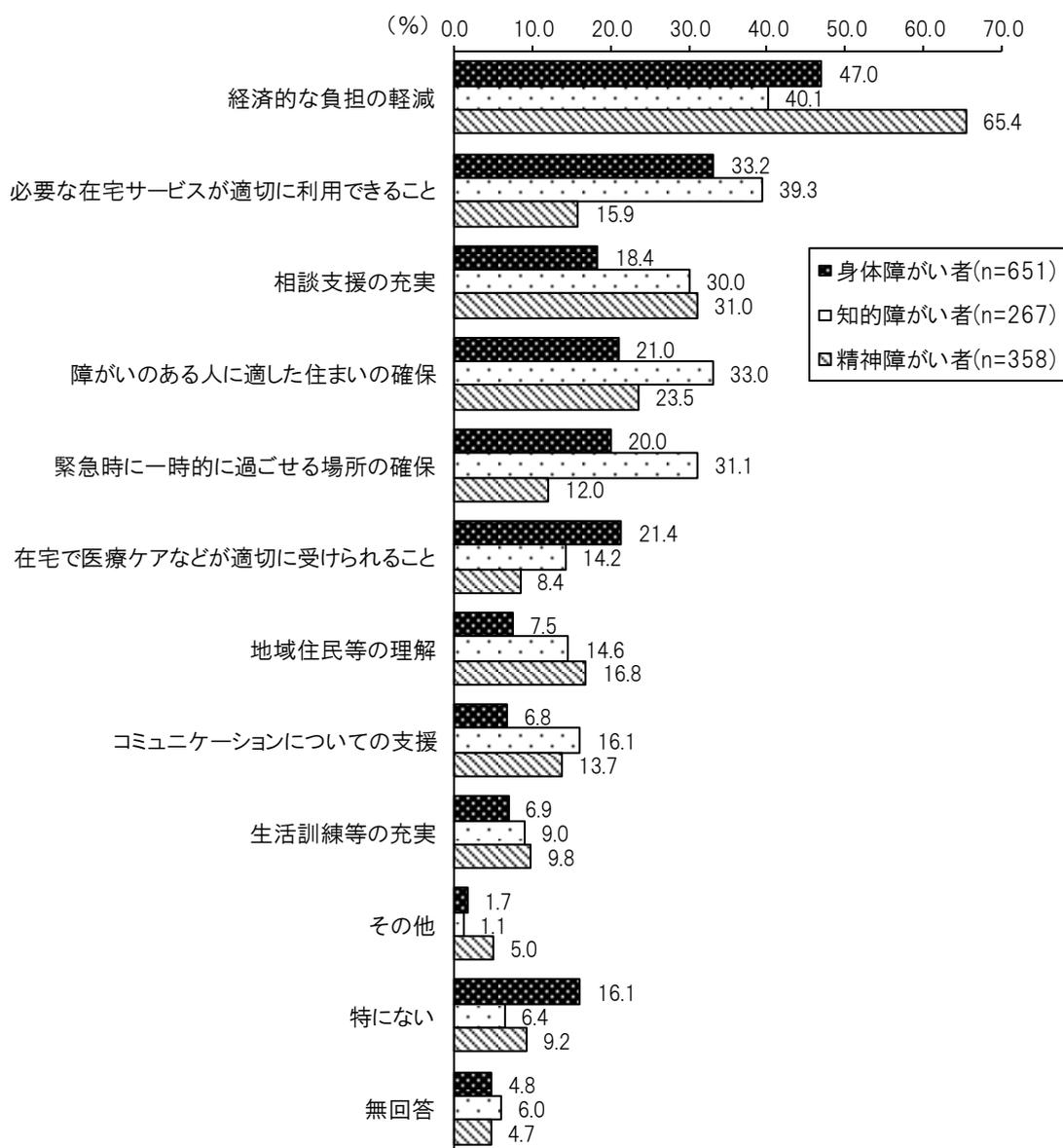
5 地域で暮らすために必要な支援

問 15 今後、あなたは、地域で安心して暮らすために、どのような支援が必要ですか。
(主なもの3つまでに○)

地域で暮らすために必要な支援については、「経済的な負担の軽減」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(28.5%)、「相談支援の充実」(23.9%)、「障がいのある人に適した住まいの確保」(23.7%)、「緊急時に一時的に過ごせる場所の確保」(18.7%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」、知的障がい者で「障がいのある人に適した住まいの確保」「緊急時に一時的に過ごせる場所の確保」、精神障がい者で「経済的な負担の軽減」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

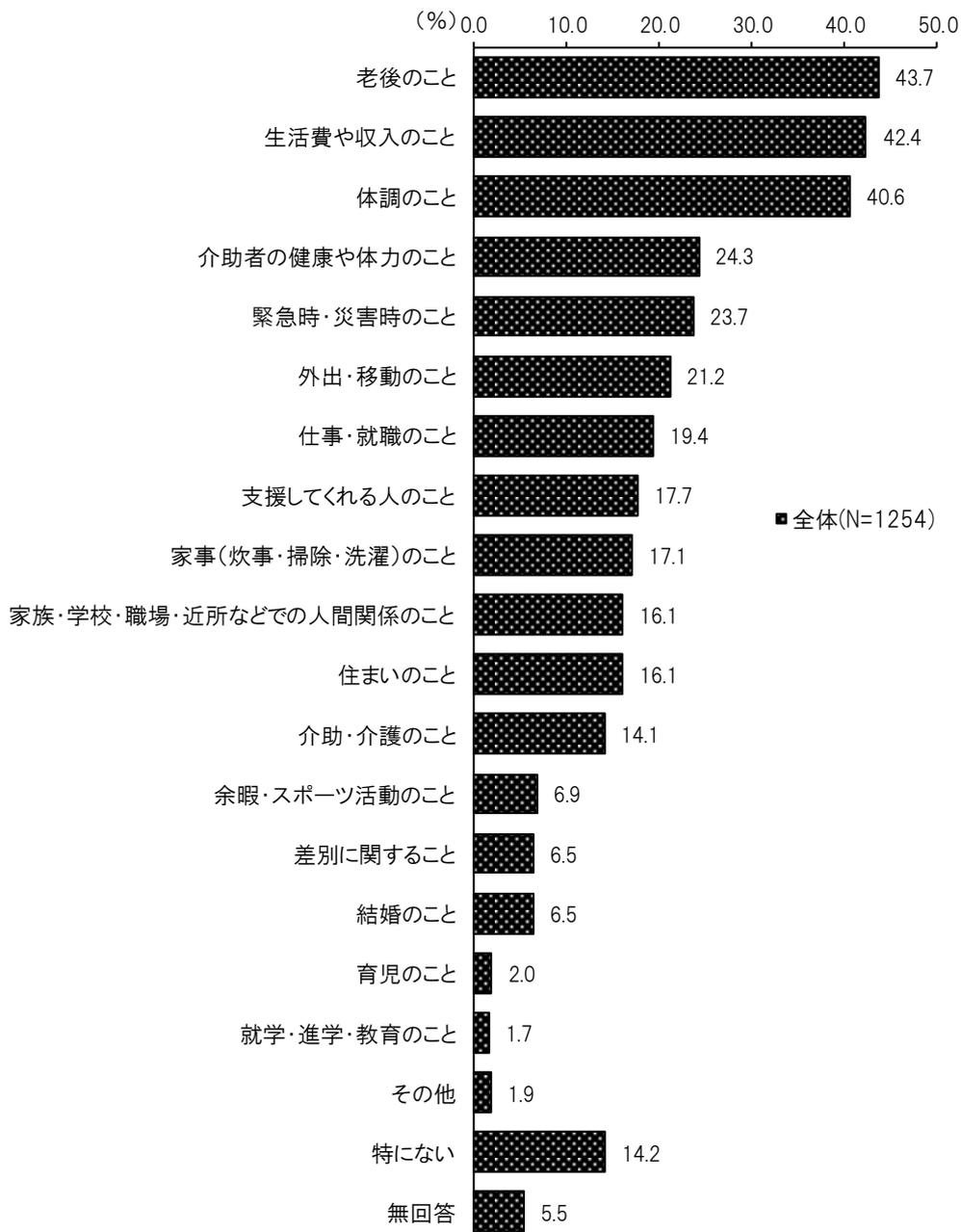


【3】相談について

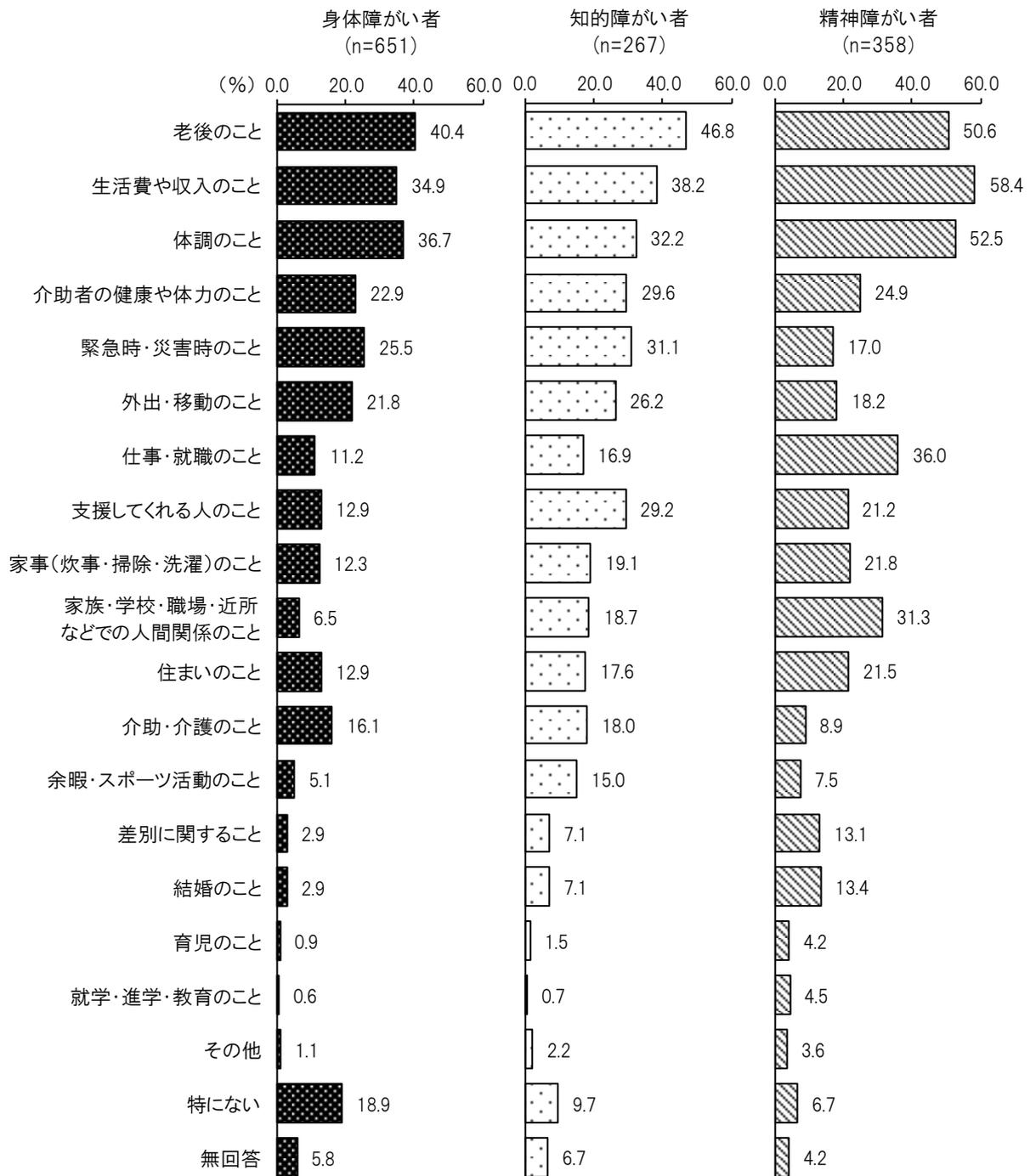
1 相談したいこと

問 16 あなたが相談したいことは、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

相談したいことについては、「老後のこと」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「生活費や収入のこと」(42.4%)、「体調のこと」(40.6%)、「介助者の健康や体力のこと」(24.3%)、「緊急時・災害時のこと」(23.7%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「特にない」、知的障がい者で「緊急時・災害時のこと」「支援してくれる人のこと」「余暇・スポーツ活動のこと」、精神障がい者で「生活費や収入のこと」「体調のこと」「仕事・就職のこと」「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



年齢別では、身体障がい者の29歳以下で「緊急時・災害時のこと」、精神障がい者の30～39歳で「生活費や収入のこと」「住まいのこと」「結婚のこと」などの割合がほかの年齢層に比べて高く、精神障がい者では若い年齢層ほど「仕事・就職のこと」の割合が増える傾向にある。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「仕事・就職のこと」「支援してくれる人のこと」「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」などの割合が高く、相談内容が多岐にわたっている。

要支援・要介護認定を受けている人は受けていない人に比べ、「介助者の健康や体力のこと」「外出・移動のこと」「介助・介護のこと」などの割合が高くなっている。

単位 (%)	老後のこと	生活費や収入のこと	体調のこと	介助者の健康や体力のこと	緊急時・災害時のこと	外出・移動のこと	仕事・就職のこと	と支援してくれる人のこと	濯家事（炊事・掃除・洗濯）のこと	所などでの人間関係の近
全体(N=1254)	43.7	42.4	40.6	24.3	23.7	21.2	19.4	17.7	17.1	16.1
【身体障がい者】										
29歳以下(n=18)	44.4	44.4	27.8	33.3	55.6	16.7	22.2	27.8	11.1	16.7
30～39歳(n=37)	37.8	24.3	27.0	24.3	21.6	13.5	18.9	10.8	5.4	8.1
40～49歳(n=88)	33.0	40.9	37.5	17.0	20.5	15.9	21.6	15.9	13.6	10.2
50～64歳(n=292)	44.2	39.4	34.9	18.2	25.3	18.5	13.4	12.3	12.3	7.5
65歳以上(n=188)	38.8	27.7	39.4	31.9	26.1	31.4	0.5	11.7	12.2	2.1
【知的障がい者】										
29歳以下(n=59)	40.7	40.7	15.3	28.8	40.7	28.8	20.3	28.8	18.6	23.7
30～39歳(n=50)	52.0	46.0	32.0	46.0	32.0	26.0	14.0	32.0	18.0	24.0
40～49歳(n=53)	50.9	35.8	32.1	35.8	30.2	32.1	13.2	28.3	22.6	20.8
50～64歳(n=75)	41.3	37.3	37.3	17.3	28.0	21.3	12.0	26.7	20.0	13.3
65歳以上(n=13)	53.8	15.4	38.5	23.1	15.4	23.1	7.7	30.8	7.7	7.7
【精神障がい者】										
29歳以下(n=40)	32.5	52.5	37.5	12.5	7.5	15.0	65.0	17.5	12.5	32.5
30～39歳(n=46)	45.7	71.7	58.7	28.3	19.6	21.7	43.5	34.8	17.4	41.3
40～49歳(n=98)	51.0	61.2	60.2	26.5	17.3	15.3	39.8	25.5	24.5	35.7
50～64歳(n=135)	57.8	56.3	50.4	22.2	19.3	19.3	25.2	14.8	23.7	25.9
65歳以上(n=17)	41.2	41.2	35.3	41.2	23.5	17.6	0.0	17.6	11.8	5.9
【発達障がい診断別】										
ある(n=181)	46.4	50.8	33.1	26.5	30.4	23.2	30.9	34.3	22.1	29.3
ない(n=961)	43.1	41.7	42.6	23.7	23.1	20.8	17.9	14.7	16.0	14.3
【要支援・要介護認定別】										
受けている(n=197)	39.1	36.5	47.2	38.1	26.4	28.9	5.1	16.2	15.2	7.1
受けていない(n=960)	44.5	44.0	40.1	21.7	23.5	19.5	22.9	18.2	16.7	18.9

→続く

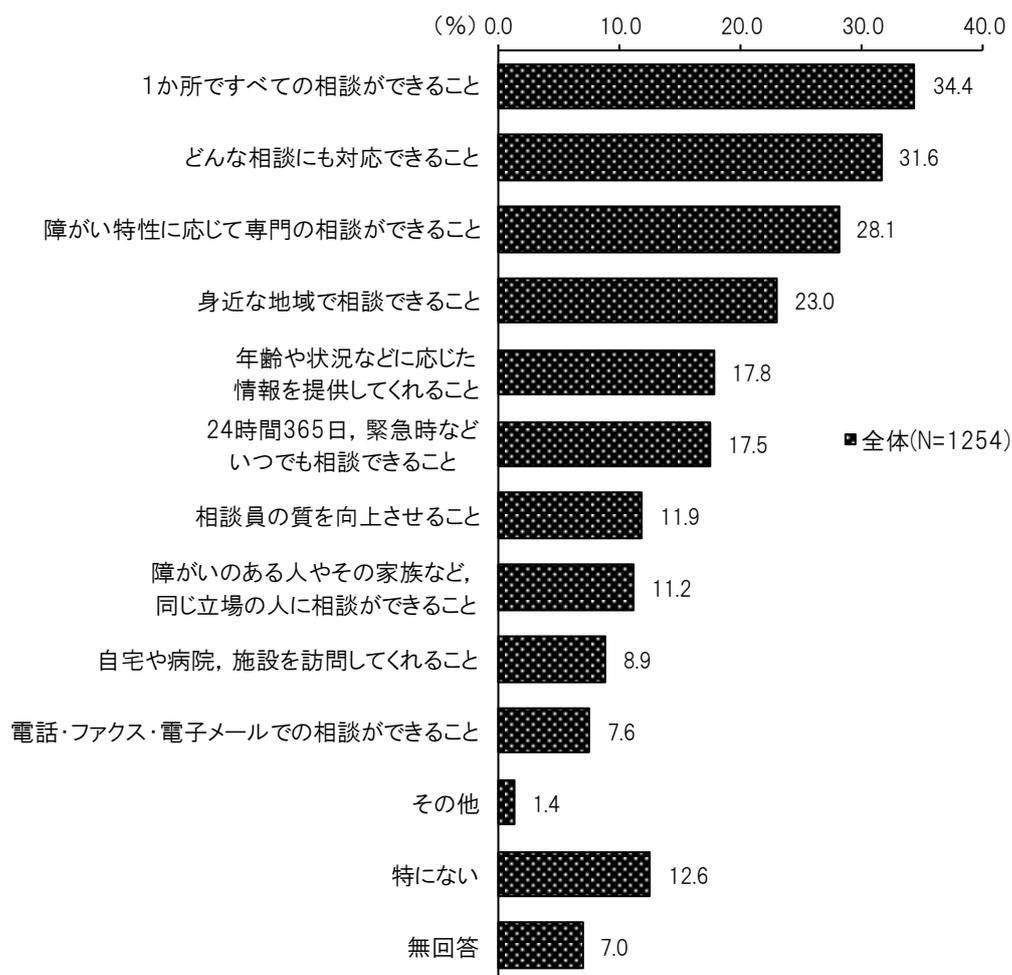
→続き

単位 (%)	住まいのこと	介助・介護のこと	余暇・スポーツ活動のこと	差別に関する事	結婚のこと	育児のこと	就学・進学・教育のこと	その他	特にな
全体(N=1254)	16.1	14.1	6.9	6.5	6.5	2.0	1.7	1.9	14.2
【身体障がい者】									
29歳以下(n=18)	16.7	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1
30～39歳(n=37)	5.4	8.1	13.5	2.7	2.7	8.1	2.7	0.0	16.2
40～49歳(n=88)	15.9	17.0	3.4	3.4	10.2	2.3	3.4	4.5	18.2
50～64歳(n=292)	15.8	14.4	4.1	4.1	2.1	0.3	0.0	0.3	21.2
65歳以上(n=188)	8.5	19.1	4.8	0.0	0.5	0.0	0.0	1.1	17.6
【知的障がい者】									
29歳以下(n=59)	25.4	18.6	20.3	8.5	6.8	1.7	0.0	3.4	6.8
30～39歳(n=50)	18.0	20.0	10.0	6.0	8.0	6.0	4.0	0.0	4.0
40～49歳(n=53)	18.9	26.4	13.2	7.5	11.3	0.0	0.0	3.8	13.2
50～64歳(n=75)	10.7	9.3	13.3	6.7	5.3	0.0	0.0	2.7	16.0
65歳以上(n=13)	7.7	30.8	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
【精神障がい者】									
29歳以下(n=40)	12.5	0.0	12.5	10.0	10.0	2.5	5.0	7.5	7.5
30～39歳(n=46)	41.3	10.9	8.7	10.9	28.3	8.7	6.5	6.5	2.2
40～49歳(n=98)	20.4	12.2	7.1	20.4	18.4	9.2	7.1	2.0	8.2
50～64歳(n=135)	21.5	9.6	5.9	9.6	7.4	0.0	3.0	3.7	6.7
65歳以上(n=17)	5.9	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
【発達障がい診断別】									
ある(n=181)	26.5	15.5	12.2	9.9	12.2	1.7	2.2	3.9	7.2
ない(n=961)	14.4	13.9	6.3	5.8	5.3	2.0	1.5	1.6	15.8
【要支援・要介護認定別】									
受けている(n=197)	10.2	28.9	3.0	0.5	1.5	0.0	0.0	0.5	11.7
受けていない(n=960)	17.7	11.5	7.9	7.8	7.4	2.4	2.0	2.1	15.2

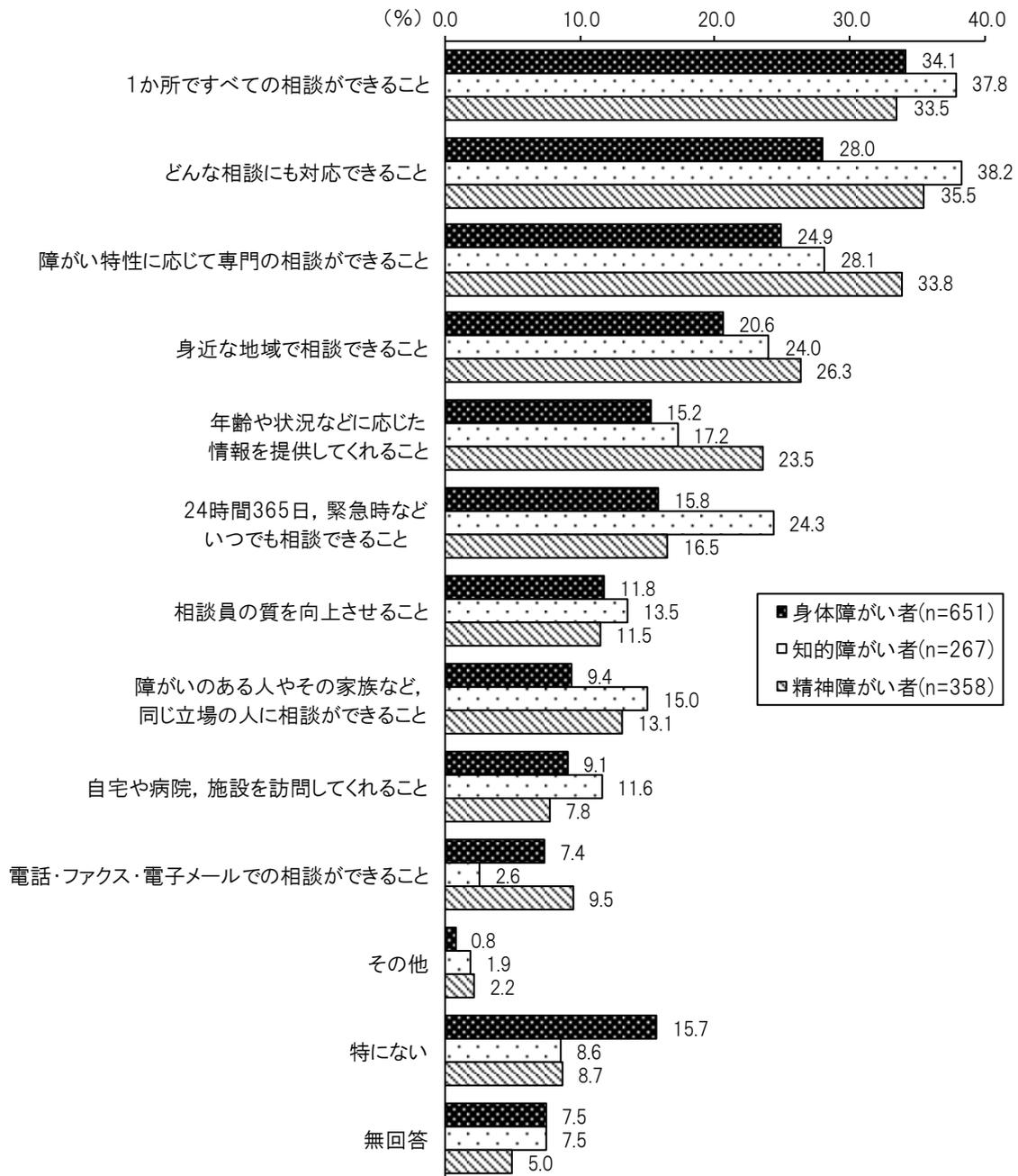
2 相談先に望むこと

問 17 あなたが相談するときに望むことは何ですか。(主なもの3つまでに○)

相談先に望むことについては、「1か所ですべての相談ができること」の割合が34.4%と最も高く、次いで「どんな相談にも対応できること」(31.6%)、「障がい特性に応じて専門の相談ができること」(28.1%)、「身近な地域で相談できること」(23.0%)、「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」(17.8%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「特にない」、知的障がい者で「24時間365日、緊急時などいつでも相談できること」、精神障がい者で「障がい特性に応じて専門の相談ができること」「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



年齢別でみると、知的障がい者では 30～39 歳で「1 か所ですべての相談ができること」、精神障がい者では 29 歳以下で「障がい特性に応じて専門の相談ができること」「電話・ファクス・電子メールでの相談ができること」、30～39 歳で「どんな相談にも対応できること」などの割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「障がい特性に応じて専門の相談ができること」などの割合が高くなっている。

単位 (%)	で1 きか るこ とす べて の相 談が	ど ん な 相 談に も対 応で き	の障 が い特 性 に 応 じ て 専 門	こ と 身 近 な 地 域 で 相 談 で き る	と 情 報 を 提 供 し て く れ る こ と	年 齢 や 状 況 な ど に 応 じ た こ と	時 間 つ も 5 日 談, で 緊 急	こ と 相 談 員 の 質 を 向 上 さ せ る	相 談 が ど い る こ と 立 場 の そ の に	障 が い の あ る 人 や そ の 家 族 が ど い る こ と	自 宅 や 病 院 、 施 設 を 訪 問 し て く れ る こ と	こ と メ ー ル ・ フ ァ ク ス ・ 電 子 の 相 談 が で き る	特 に な い
全体(N=1254)	34.4	31.6	28.1	23.0	17.8	17.5	11.9	11.2	8.9	7.6	12.6		
【身体障がい者】													
29歳以下(n=18)	33.3	27.8	38.9	5.6	27.8	33.3	16.7	11.1	0.0	11.1	5.6		
30～39歳(n=37)	35.1	32.4	21.6	29.7	16.2	24.3	18.9	13.5	5.4	8.1	13.5		
40～49歳(n=88)	37.5	25.0	30.7	19.3	14.8	6.8	13.6	15.9	13.6	9.1	13.6		
50～64歳(n=292)	36.0	28.1	26.4	19.9	16.1	16.8	13.7	9.9	7.5	8.6	14.0		
65歳以上(n=188)	31.4	26.1	19.1	22.3	12.8	15.4	5.9	5.3	10.6	3.2	20.7		
【知的障がい者】													
29歳以下(n=59)	35.6	37.3	32.2	20.3	22.0	27.1	16.9	22.0	10.2	3.4	6.8		
30～39歳(n=50)	52.0	40.0	38.0	30.0	14.0	36.0	16.0	6.0	8.0	2.0	6.0		
40～49歳(n=53)	26.4	28.3	26.4	18.9	15.1	18.9	7.5	22.6	18.9	1.9	9.4		
50～64歳(n=75)	33.3	41.3	21.3	28.0	17.3	20.0	13.3	9.3	10.7	4.0	12.0		
65歳以上(n=13)	46.2	38.5	30.8	23.1	0.0	23.1	7.7	23.1	7.7	0.0	7.7		
【精神障がい者】													
29歳以下(n=40)	32.5	35.0	50.0	32.5	30.0	12.5	22.5	12.5	2.5	25.0	5.0		
30～39歳(n=46)	26.1	50.0	41.3	23.9	23.9	21.7	15.2	10.9	17.4	2.2	4.3		
40～49歳(n=98)	31.6	37.8	34.7	30.6	23.5	15.3	11.2	15.3	10.2	11.2	7.1		
50～64歳(n=135)	38.5	31.9	28.1	21.5	23.7	16.3	6.7	10.4	5.2	8.1	11.1		
65歳以上(n=17)	35.3	17.6	35.3	35.3	17.6	11.8	5.9	0.0	5.9	0.0	23.5		
【発達障がい診断別】													
ある(n=181)	34.8	38.1	40.9	24.3	19.3	23.2	16.6	16.6	11.6	8.8	5.5		
ない(n=961)	35.2	31.1	26.1	23.7	17.6	16.0	11.4	10.1	8.3	7.7	14.0		

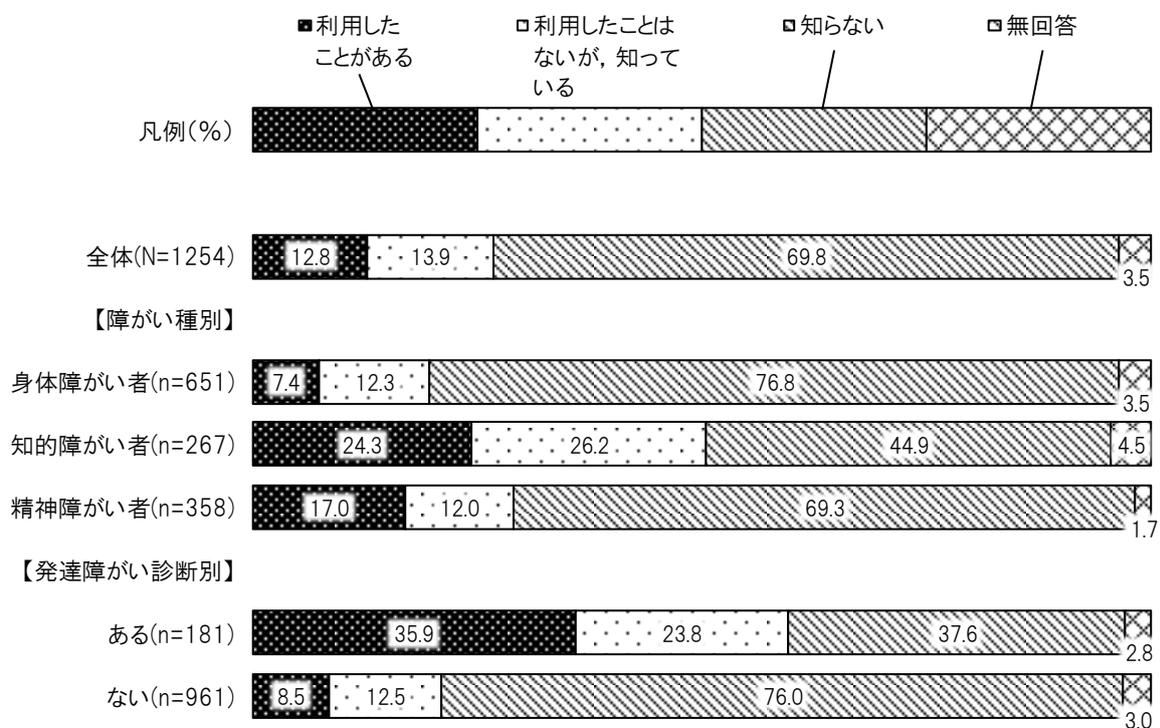
3 基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況

問 18 あなたは、基幹相談支援センター（クローバー）を利用したことがありますか。
 (○は1つだけ)

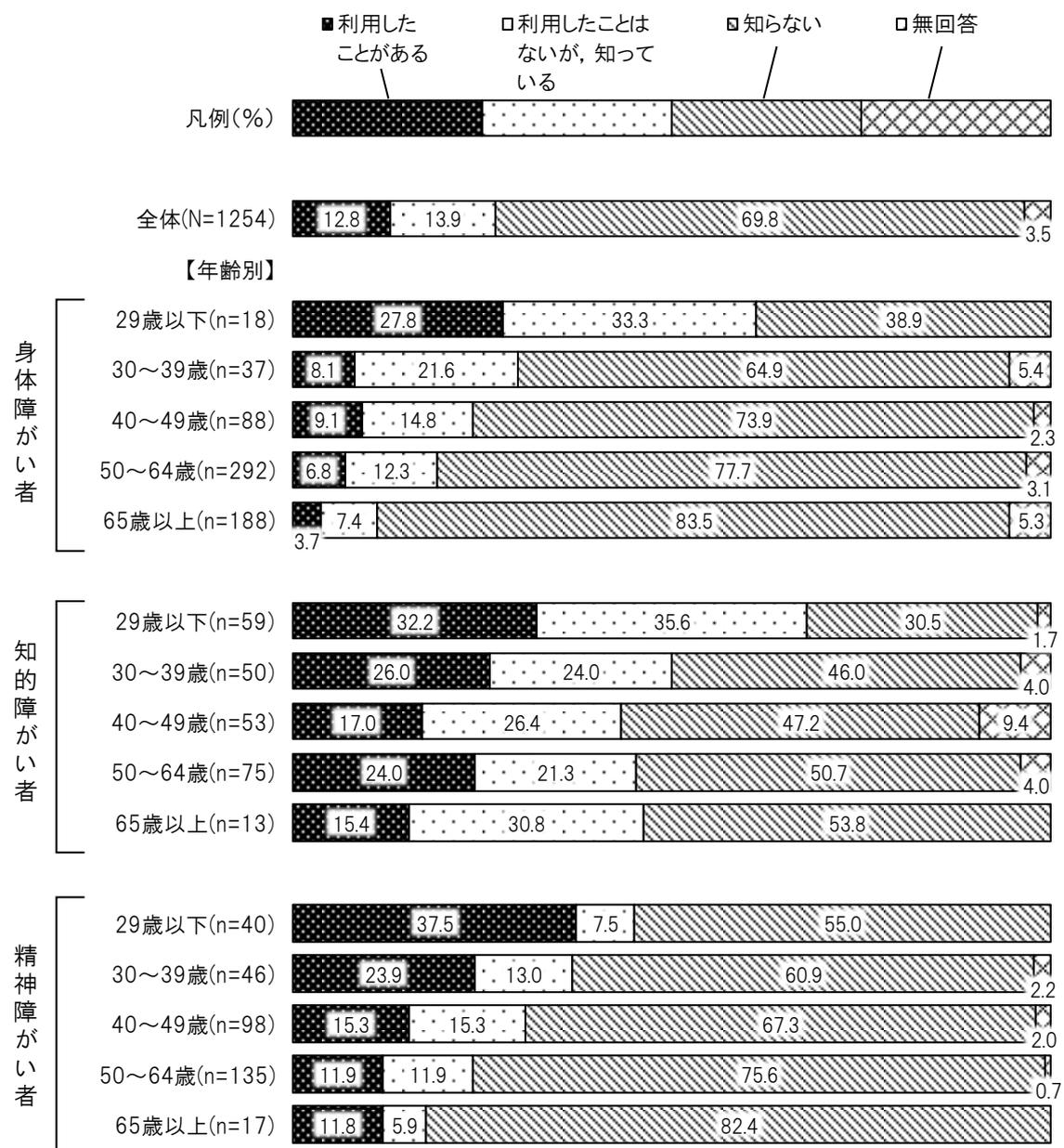
基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況については、「利用したことがある」が12.8%、「利用したことはないが、知っている」が13.9%で、合計26.7%の認知率となっている。一方、約7割（69.8%）は「知らない」と回答している。

障がい種別では、知的障がい者はほかの障がいに比べ「利用したことがある」「利用したことはないが、知っている」の割合が高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「利用したことがある」「利用したことはないが、知っている」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。



年齢別では、いずれの障がいも 29 歳以下の認知率がほかの年齢層に比べて高く、特に身体障がい者や精神障がい者では、若い年齢層ほど認知率が高くなる傾向にある。



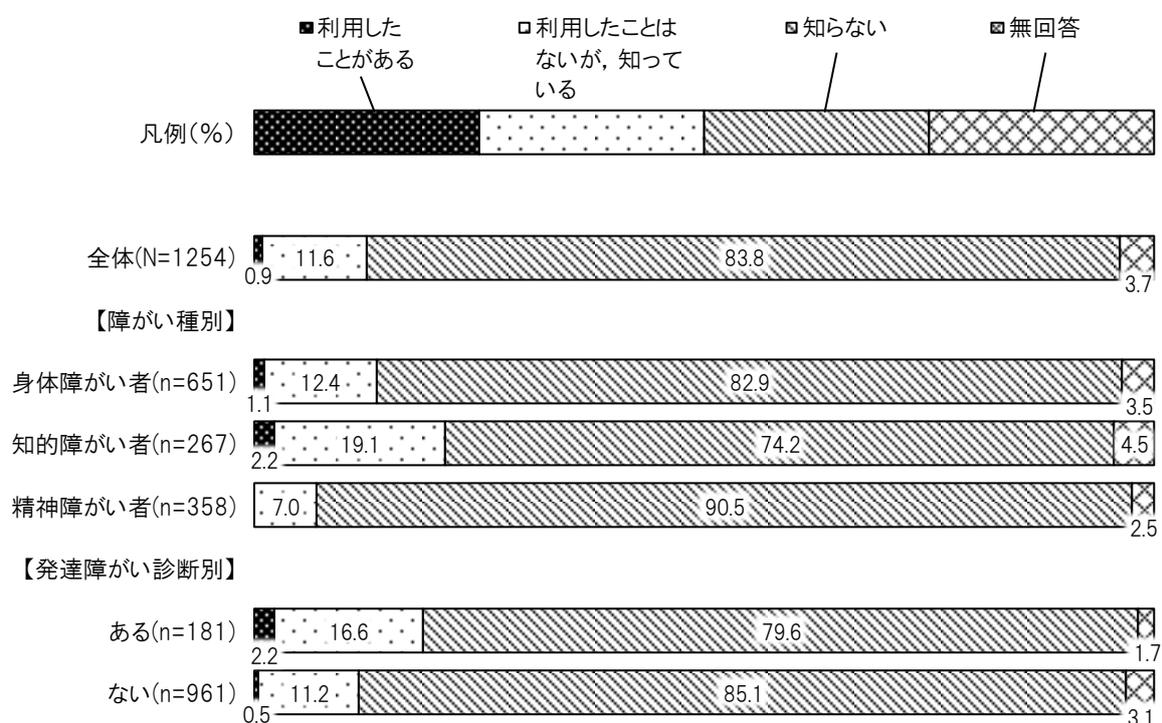
4 権利擁護支援センターの利用状況

問 19 あなたは、権利擁護支援センターを利用したことがありますか。(○は1つだけ)

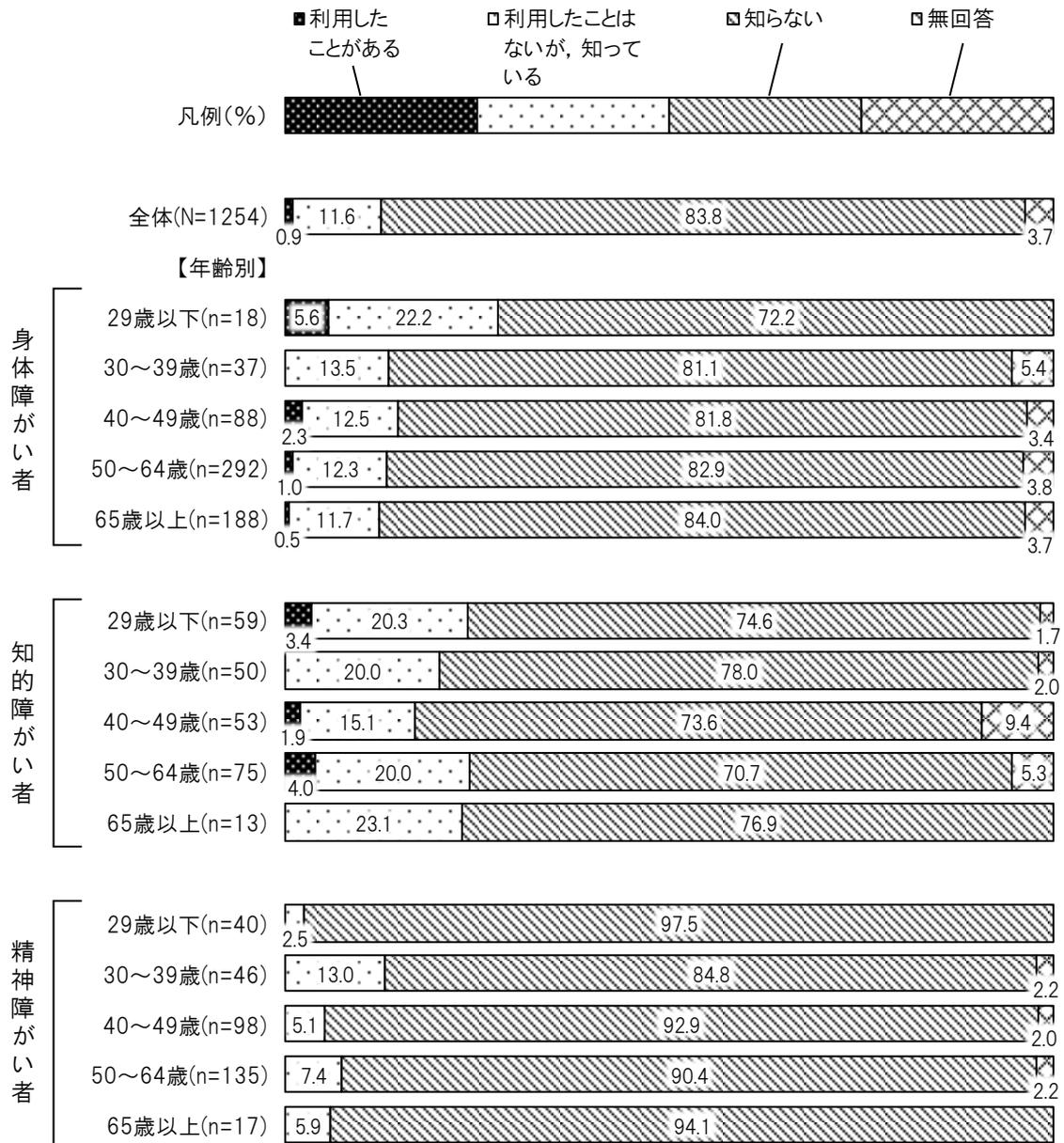
権利擁護支援センターの利用状況については、「利用したことがある」が 0.9%、「利用したことはないが、知っている」が 11.6%で、合計 12.5%の認知率となっている。一方、「知らない」は 83.8%となっている。

障がい種別では、知的障がい者はほかの障がいに比べ「利用したことはないが、知っている」の割合が高くなっている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「利用したことはないが、知っている」の割合が高くなっている。



年齢別では、身体障がい者の 29 歳以下で「利用したことはないが、知っている」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。



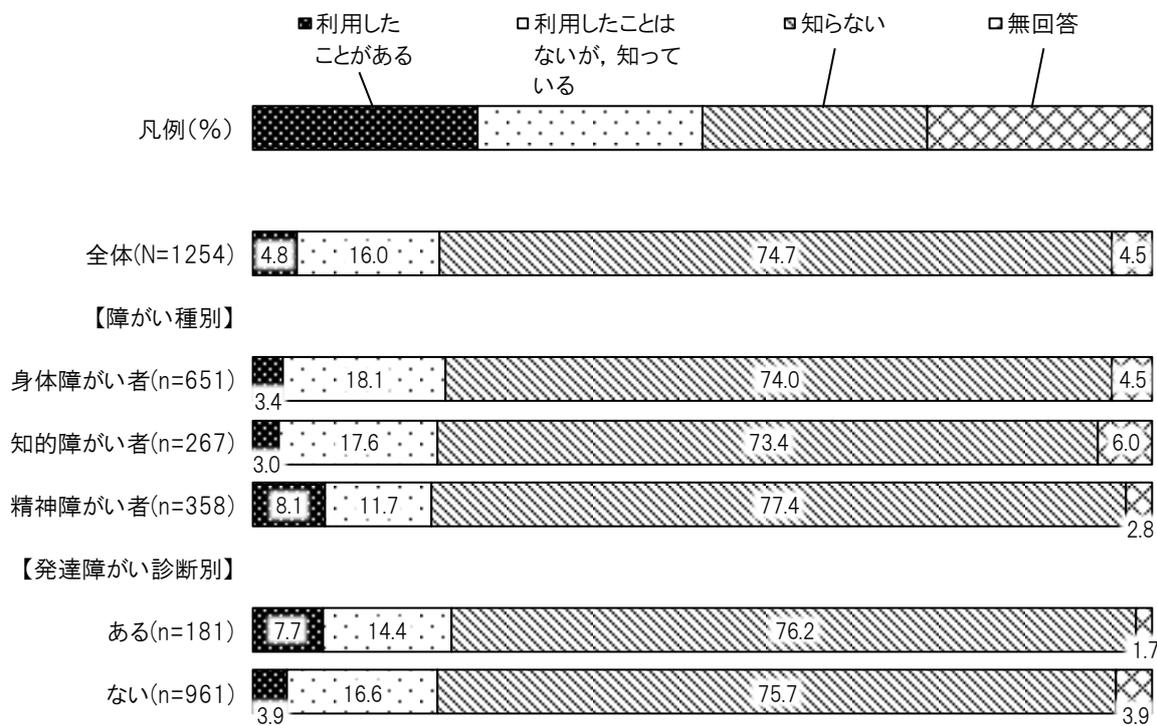
5 地域活動支援センターの利用状況

問 20 あなたは地域活動支援センターを利用したことがありますか。（○は1つだけ）

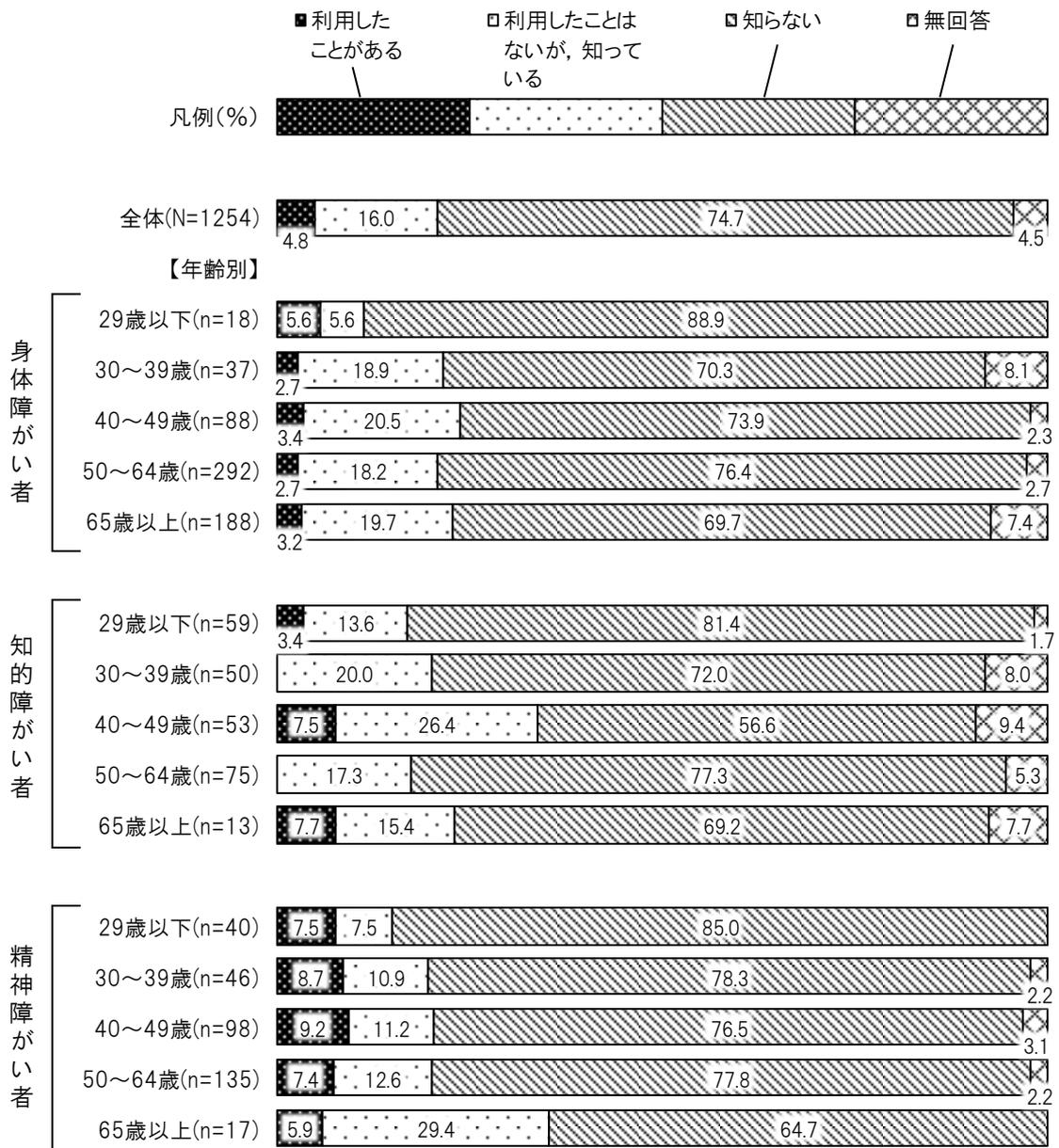
地域活動支援センターの利用状況については、「利用したことがある」が 4.8%、「利用したことはないが、知っている」が 16.0%で、合計 20.8%の認知率となっている。一方、「知らない」は 74.7%となっている。

障がい種別では、精神障がい者はほかの障がいに比べ「利用したことがある」の割合がやや高くなっている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「利用したことがある」の割合がやや高くなっている。



年齢別では、知的障がい者の40～49歳や精神障がい者の65歳以上で「利用したことはないが、知っている」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。

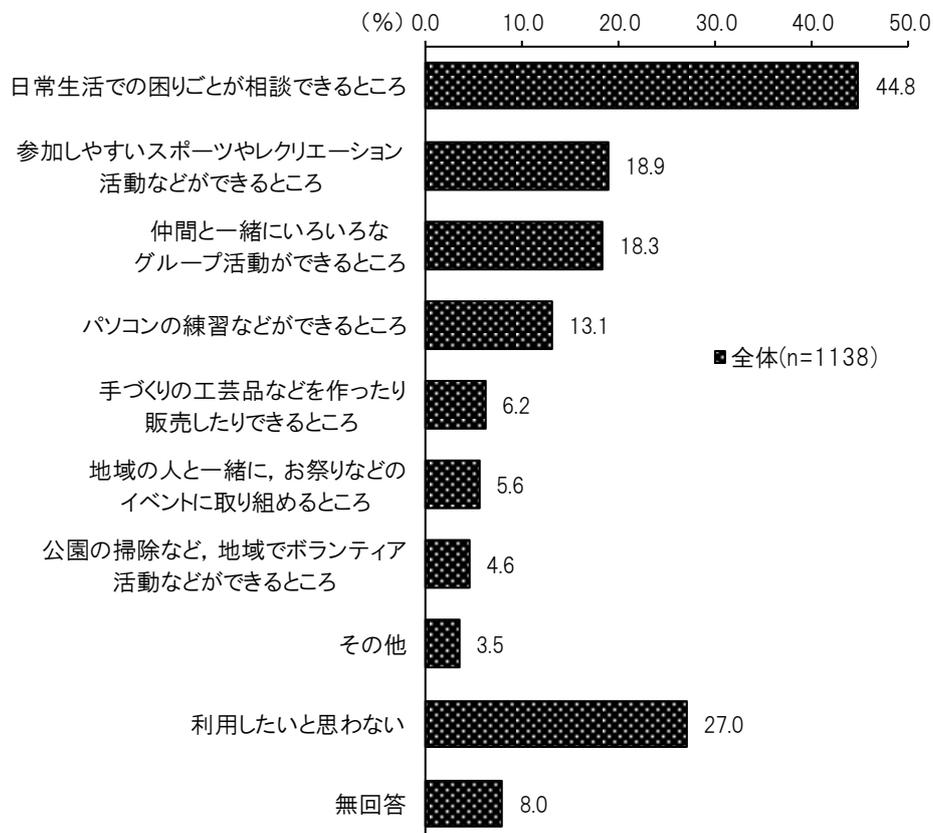


6 地域活動支援センターに希望する活動内容

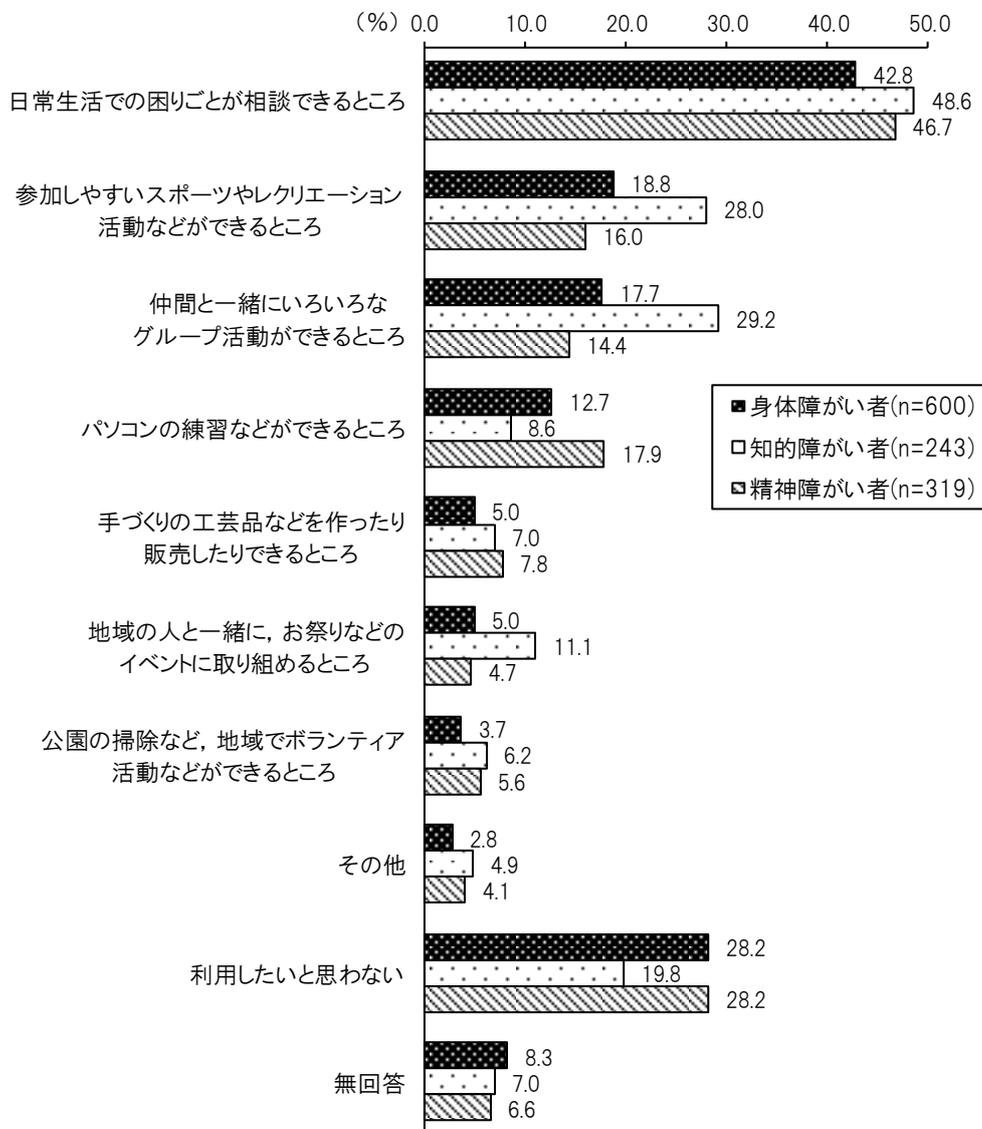
【問 20 で地域活動支援センターを「利用したことはないが、知っている」「知らない」を選んだ方について】

問 21 あなたは、地域活動支援センターが、どのような場所であれば利用してみたいですか。（主なもの3つまでに○）

地域活動支援センターに希望する活動内容については、「日常生活での困りごとが相談できる場所」の割合が44.8%と最も高く、次いで「参加しやすいスポーツやレクリエーション活動などができる場所」(18.9%)、「仲間と一緒にいろいろなグループ活動ができる場所」(18.3%)、「パソコンの練習などができる場所」(13.1%)の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「参加しやすいスポーツやレクリエーション活動などができるところ」「仲間と一緒にいろいろなグループ活動ができるところ」、精神障がい者で「パソコンの練習などができるところ」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



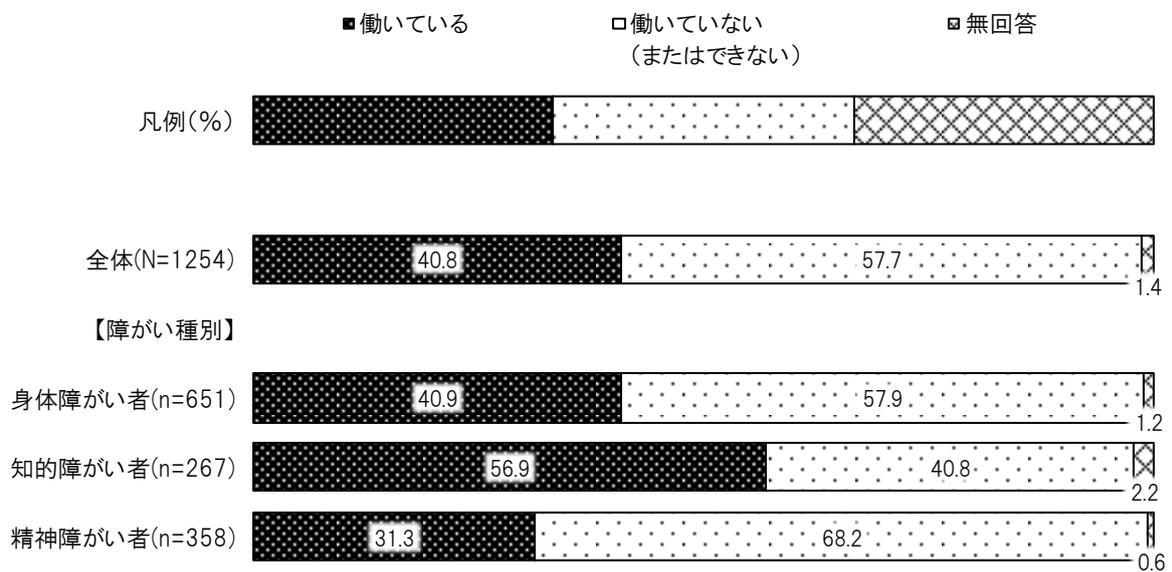
【4】就労について

1 現在の就労状況

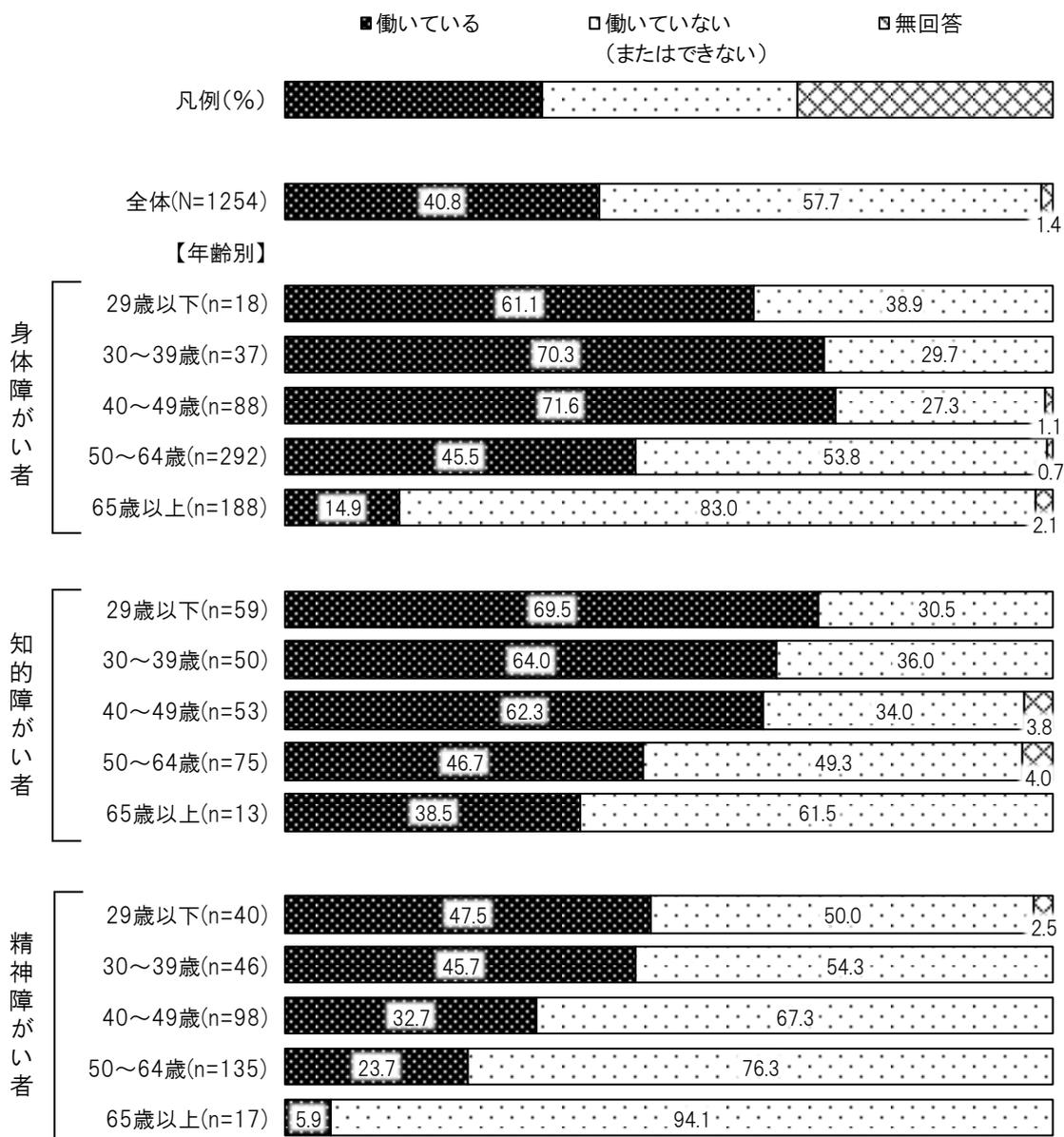
問 22 あなたは、現在働いていますか。（○は1つだけ）

現在の就労状況については、「働いている」が40.8%、「働いていない（またはできない）」が57.7%となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「働いている」の割合が6割近くを占め、ほかの障がいを大きく上回っている。



年齢別でみると、知的障がい者や精神障がい者では、若い年齢層ほど「働いている」の割合が増える傾向にある。

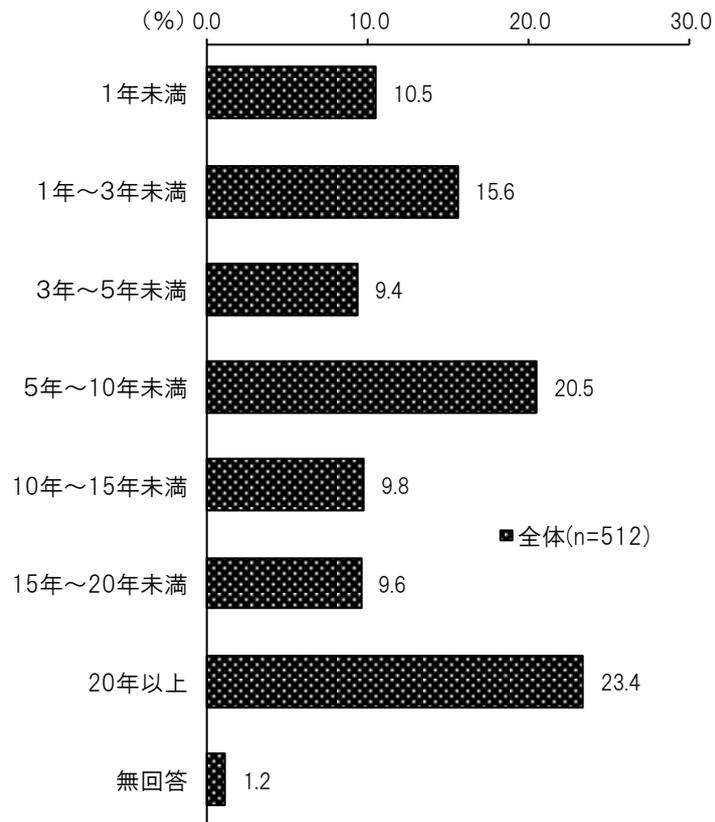


2 就労期間

【問 22 で「働いている」を選んだ方について】

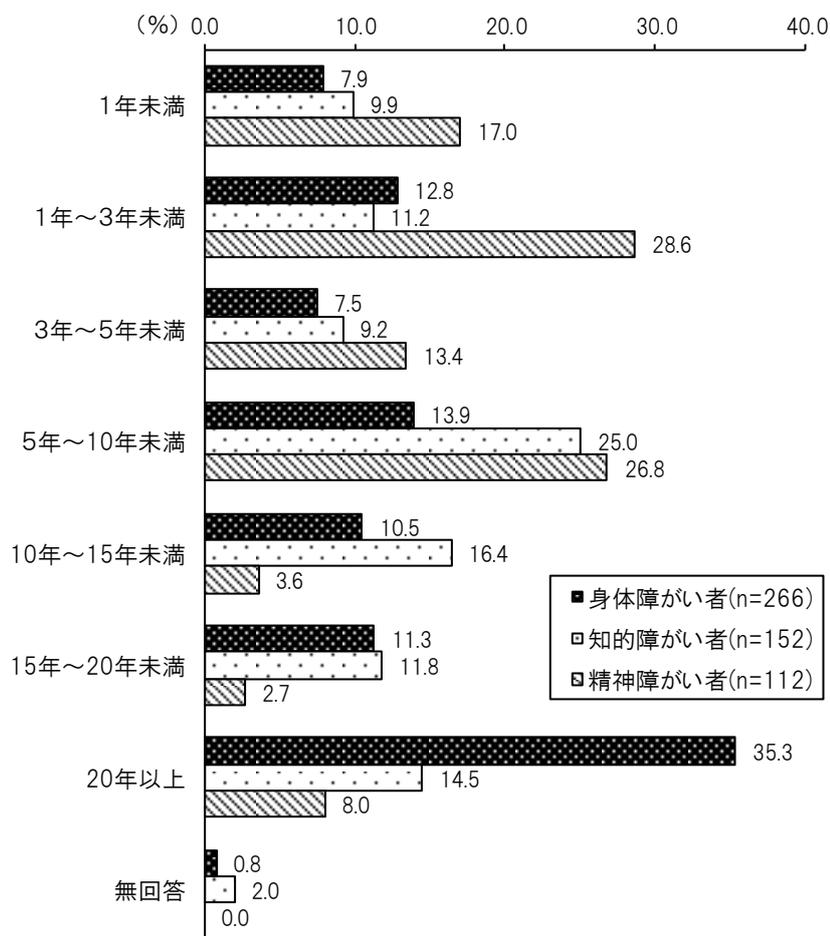
問 23 あなたが現在の仕事に就いてからの期間をお答えください。（○は1つだけ）

就労期間については、「20年以上」が23.4%と最も高く、次いで「5年～10年未満」(20.5%)、「1年～3年未満」(15.6%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「20年以上」、知的障がい者で「10年～15年未満」、精神障がい者で「1年未満」「1年～3年未満」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

勤務形態別では、正社員・正職員や自営業等で「20年以上」、パート・アルバイト等や福祉施設・作業所等で「1年未満」「1年～3年未満」の割合がそれぞれほかの勤務形態に比べて高くなっている。



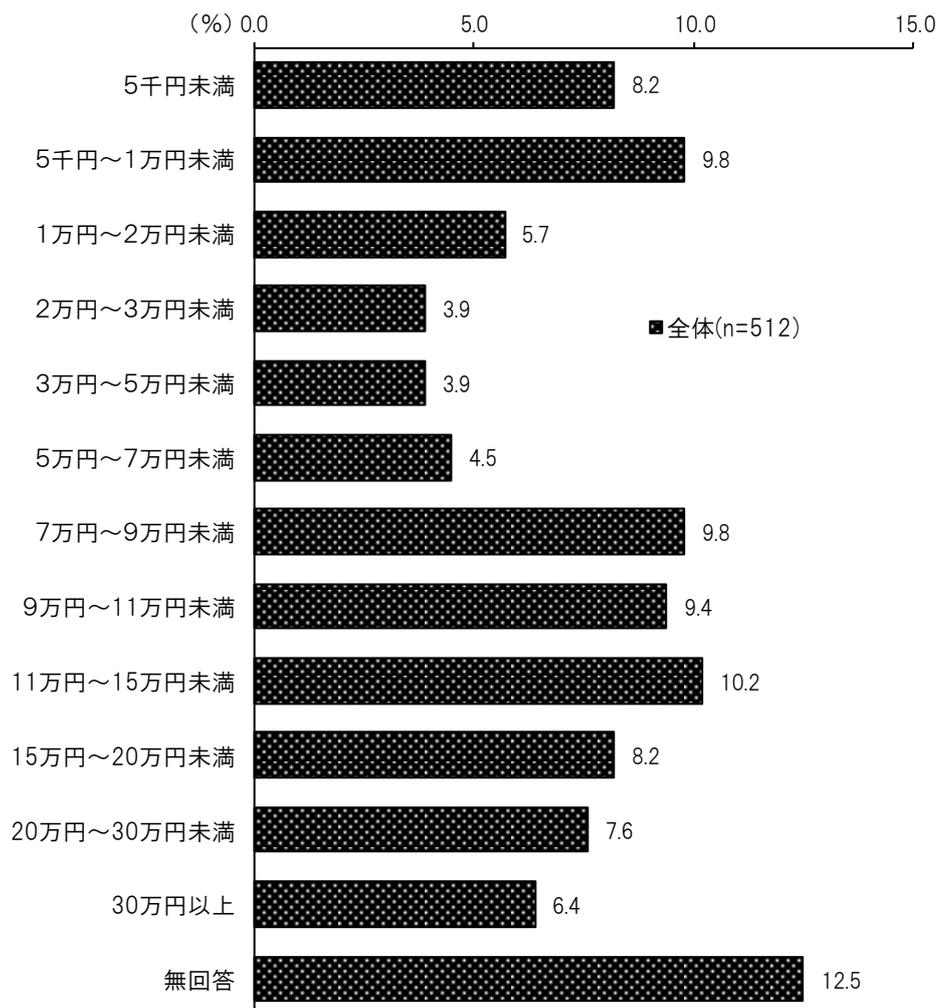
単位 (%)	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上
全体 (n=512)	10.5	15.6	9.4	20.5	9.8	9.6	23.4
【勤務形態別】							
正社員・正職員 (n=146)	6.2	6.8	7.5	19.9	10.3	9.6	39.7
パート・アルバイト等 (n=133)	20.3	23.3	12.8	26.3	6.8	5.3	5.3
自営業等 (n=31)	3.2	0.0	0.0	6.5	12.9	16.1	61.3
福祉施設・作業所等 (n=131)	7.6	20.6	10.7	22.9	11.5	14.5	9.9

3 1か月の給料（工賃）

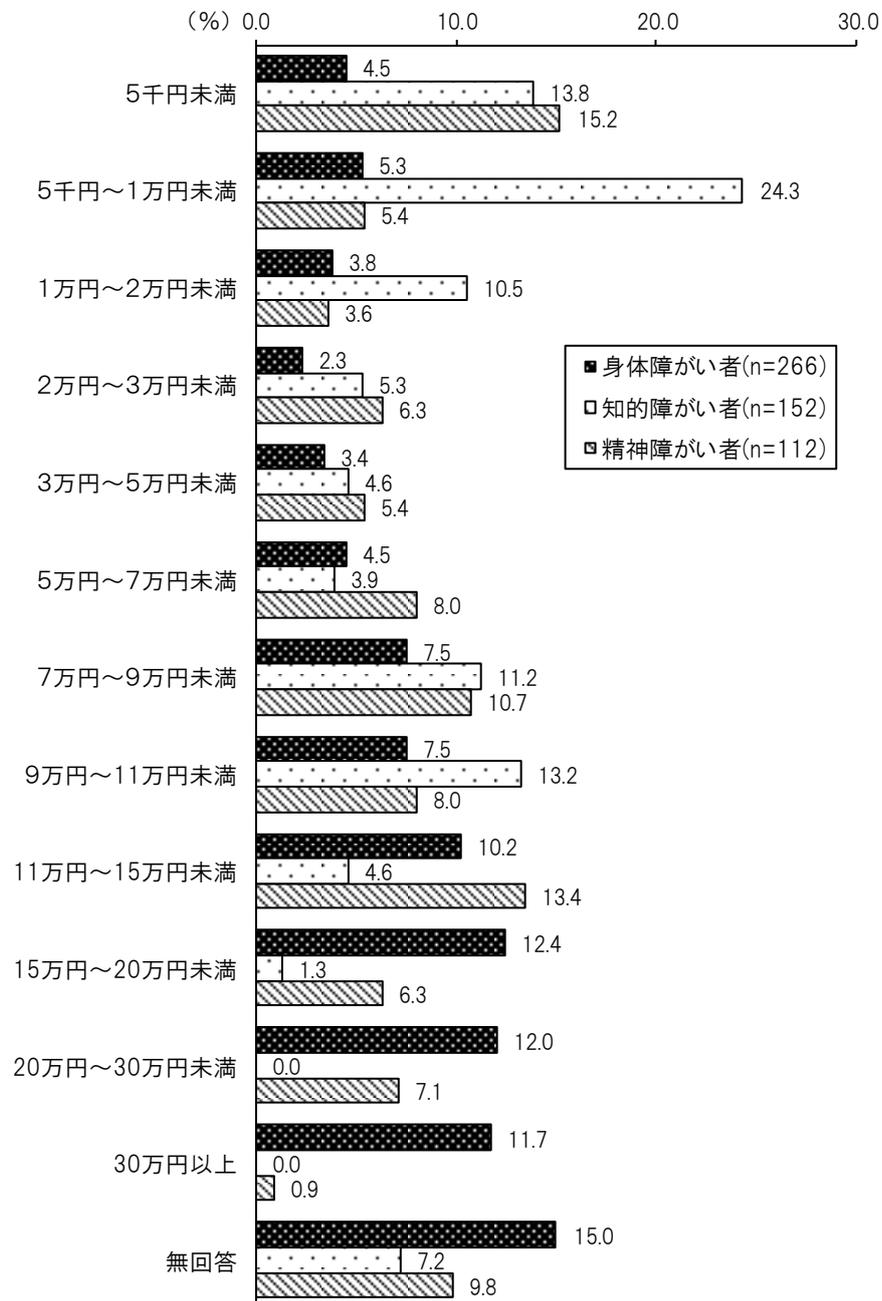
【問 22 で「働いている」を選んだ方について】

問 24 あなたの1か月の給料（工賃）は平均いくらですか。（○は1つだけ）

1か月の給料（工賃）については、「11万円～15万円未満」の割合が10.2%と最も高く、次いで「5千円～1万円未満」「7万円～9万円未満」（各9.8%）、「9万円～11万円未満」（9.4%）の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「15万円～20万円未満」「20万円～30万円未満」「30万円以上」、知的障がい者で「5千円～1万円未満」「1万円～2万円未満」「9万円～11万円未満」、精神障がい者で「5万円～7万円未満」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



勤務形態別では、正社員・正職員で「15万円～20万円未満」「20万円～30万円未満」「30万円以上」、パート・アルバイト等で「7万円～9万円未満」「9万円～11万円未満」、福祉施設・作業所等で「5千円未満」「5千円～1万円未満」などの割合がそれぞれほかの勤務形態に比べて高くなっている。

就労期間別でみると、1年未満で「7万円～9万円未満」、5年～10年未満で「11万円～15万円未満」、10年～15年未満で「15万円～20万円未満」、20年以上で「30万円以上」の割合がそれぞれほかの就労期間に比べて高くなっている。

単位 (%)	5千円未満	5千円～1万円未満	1万円～2万円未満	2万円～3万円未満	3万円～5万円未満	5万円～7万円未満	7万円～9万円未満	9万円～11万円未満	11万円～15万円未満	15万円～20万円未満	20万円～30万円未満	30万円以上
全体(n=512)	8.2	9.8	5.7	3.9	3.9	4.5	9.8	9.4	10.2	8.2	7.6	6.4
【勤務形態別】												
正社員・正職員(n=146)	0.0	1.4	0.0	0.7	0.0	1.4	0.7	5.5	15.8	23.3	21.2	18.5
パート・アルバイト等(n=133)	0.8	1.5	3.8	3.0	5.3	10.5	27.1	24.8	15.0	4.5	1.5	0.0
自営業等(n=31)	6.5	6.5	6.5	6.5	16.1	6.5	0.0	9.7	6.5	0.0	9.7	12.9
福祉施設・作業所等(n=131)	26.7	31.3	13.7	9.2	6.1	1.5	6.1	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0
【就労期間別】												
1年未満(n=54)	5.6	9.3	9.3	1.9	7.4	7.4	25.9	16.7	5.6	5.6	1.9	0.0
1年～3年未満(n=80)	10.0	10.0	6.3	5.0	3.8	8.8	15.0	8.8	11.3	7.5	1.3	0.0
3年～5年未満(n=48)	8.3	12.5	6.3	2.1	2.1	4.2	16.7	8.3	10.4	4.2	6.3	2.1
5年～10年未満(n=105)	6.7	9.5	2.9	6.7	2.9	3.8	8.6	16.2	15.2	5.7	10.5	2.9
10年～15年未満(n=50)	16.0	8.0	10.0	6.0	4.0	6.0	4.0	8.0	8.0	16.0	6.0	4.0
15年～20年未満(n=49)	12.2	16.3	4.1	4.1	6.1	4.1	4.1	6.1	6.1	6.1	10.2	8.2
20年以上(n=120)	5.0	6.7	4.2	0.8	3.3	0.8	1.7	3.3	10.0	11.7	12.5	19.2

4 今後の就労意向

【問 22 で「働いている」を選んだ方について】

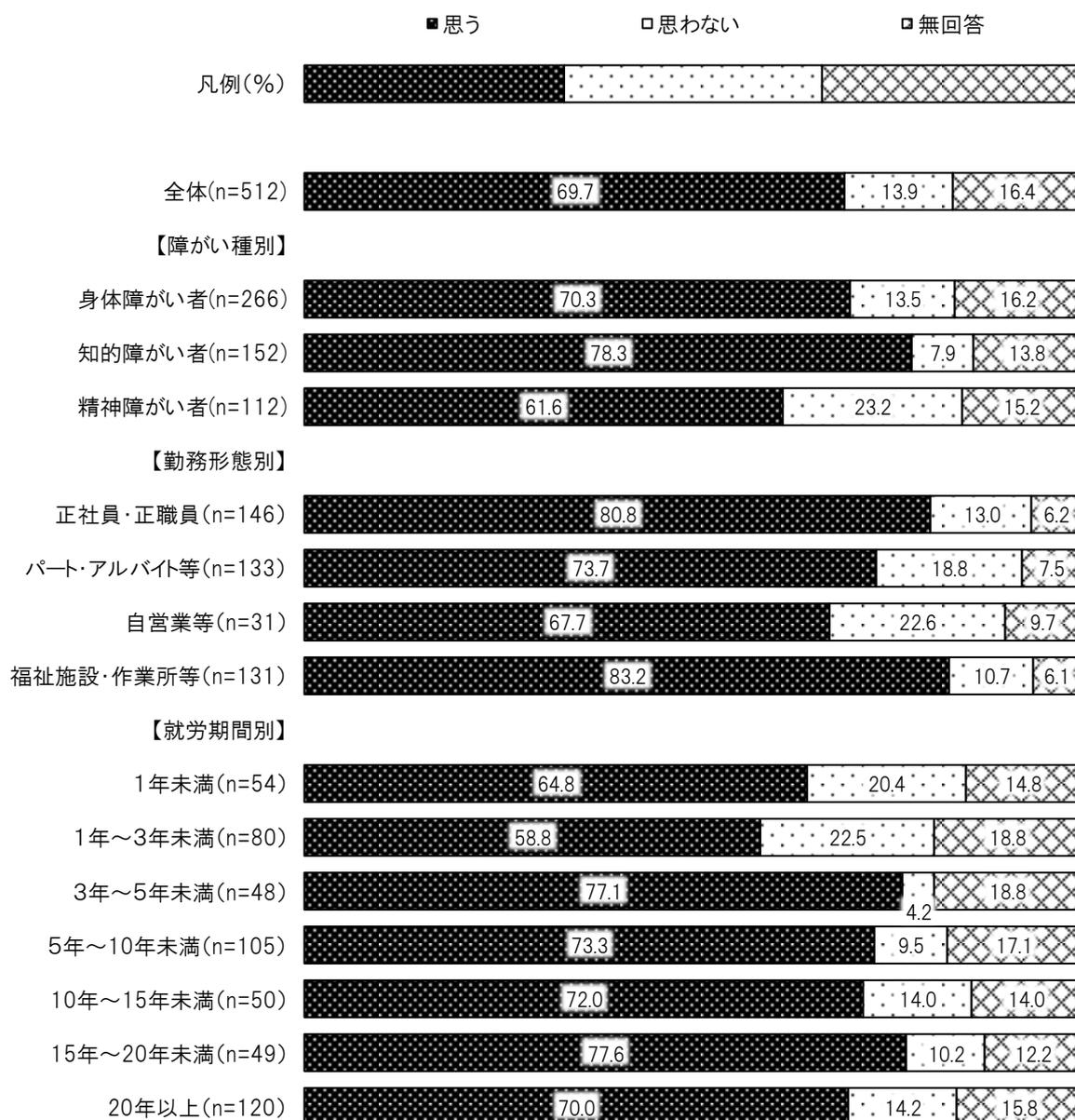
問 25 あなたは今後も、現在の仕事を続けたいと思いますか。（○は1つだけ）

今後の就労意向については、現在の仕事を続けたいと「思う」が約7割（69.7%）を占めており、「思わない」が13.9%となっている。

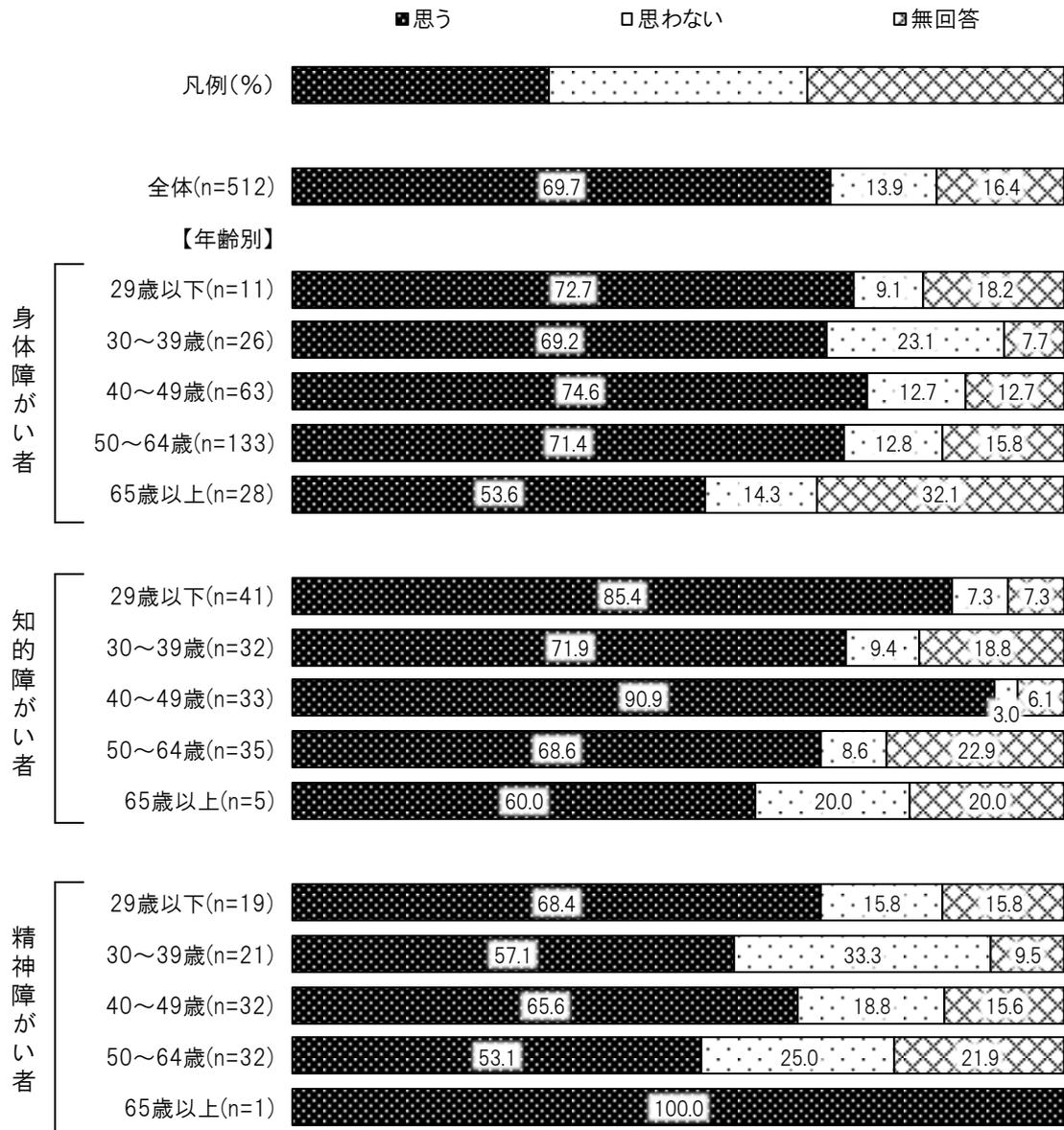
障がい種別では、知的障がい者で「思う」、精神障がい者で「思わない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

勤務形態別では、パート・アルバイト等や自営業等で「思わない」の割合がほかの勤務形態に比べて高くなっている。

就労期間別でみると、1年未満や1年～3年未満で「思わない」の割合がほかの就労期間に比べて高くなっている。



年齢別では、知的障がい者の29歳以下や40～49歳で「思う」、精神障がい者の30～39歳で「思わない」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



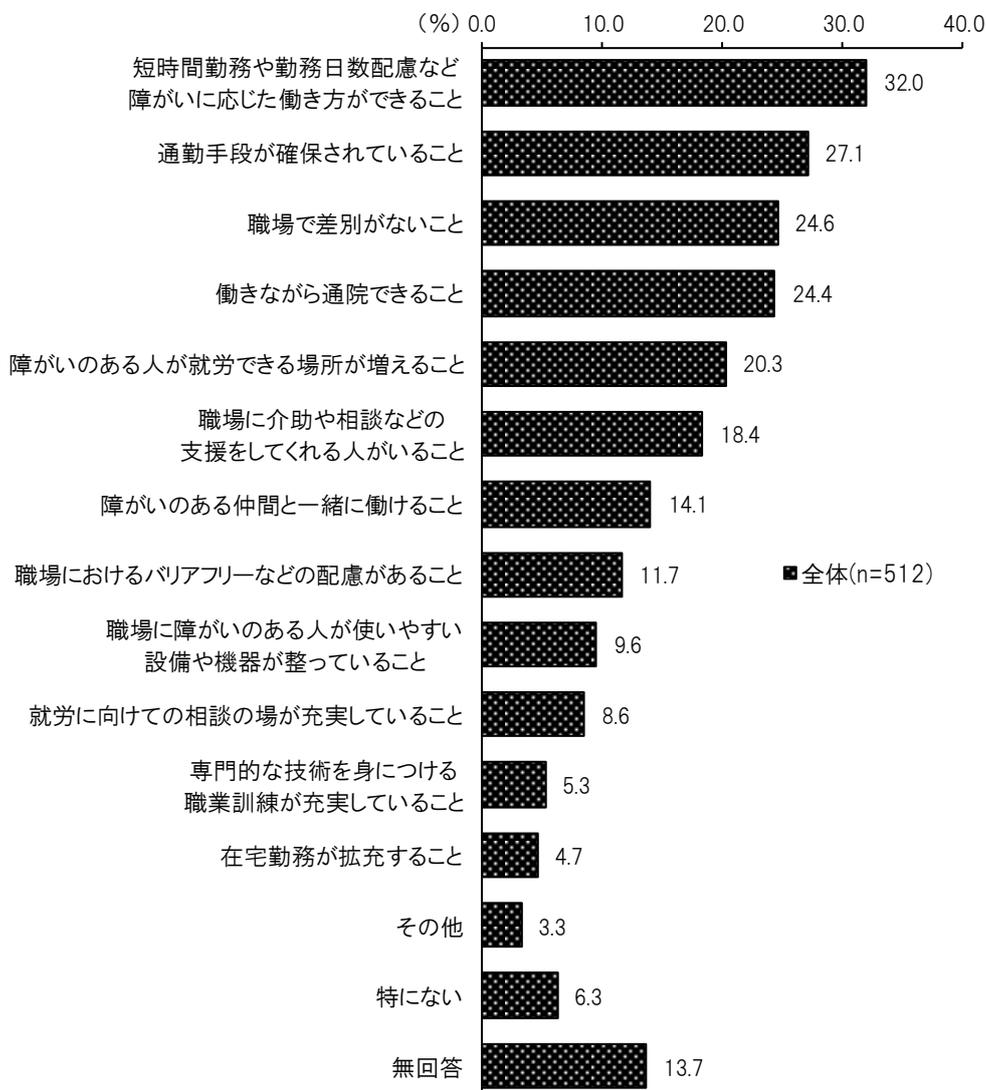
注：件数(n)が10未満の項目については、参考値として参照。

5 働きやすくするために必要なこと

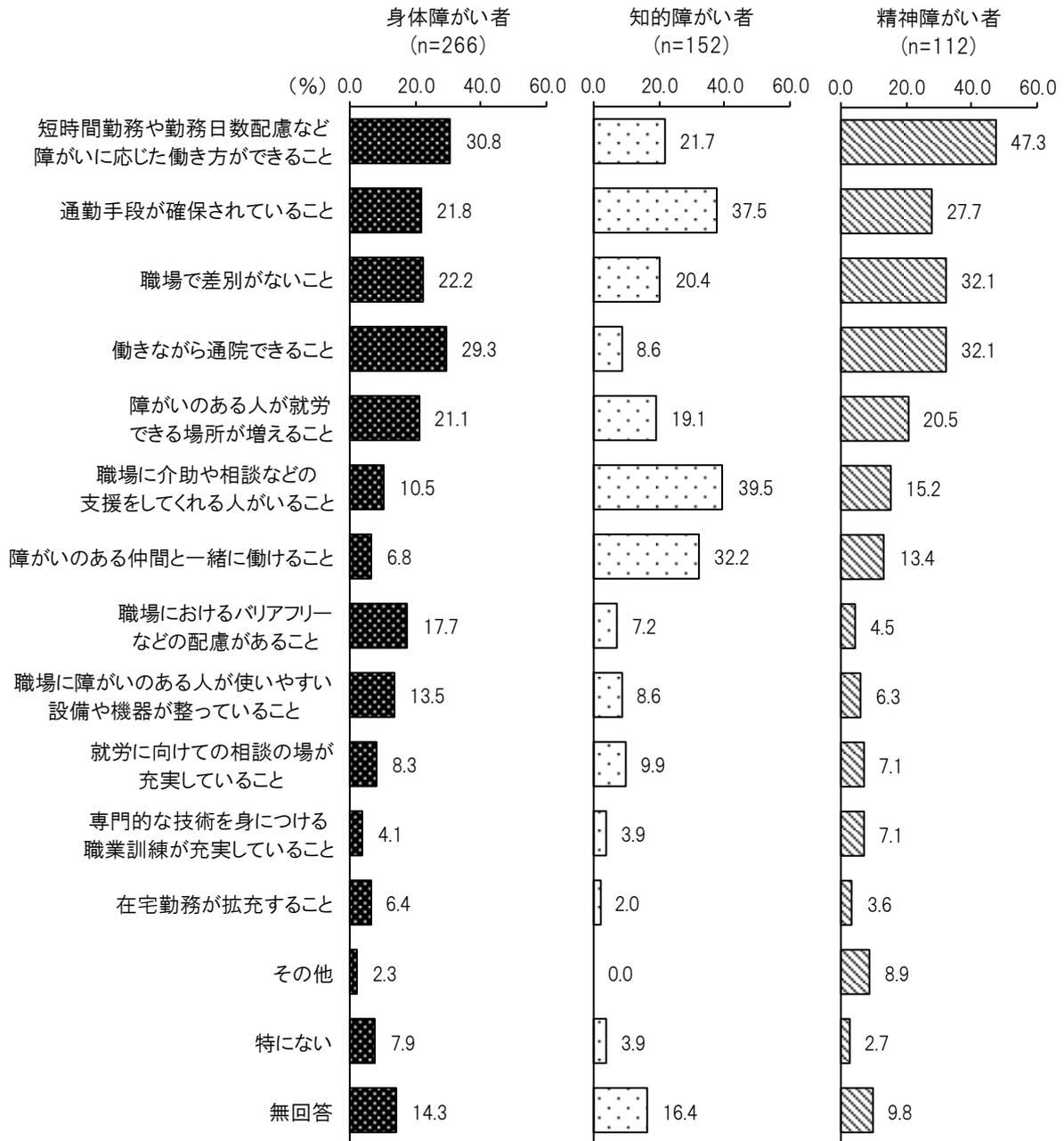
【問 22 で「働いている」を選んだ方について】

問 26 障がいがあっても働きやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。
(主なもの3つまでに○)

働きやすくするために必要なことについては、「短時間勤務や勤務日数配慮など障がいに応じた働き方ができること」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「通勤手段が確保されていること」(27.1%)、「職場で差別がないこと」(24.6%)、「働きながら通院できること」(24.4%)、「障がいのある人が就労できる場所が増えること」(20.3%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「職場におけるバリアフリーなどの配慮があること」、知的障がい者で「通勤手段が確保されていること」「職場に介助や相談などの支援をしてくれる人がいること」「障がいのある仲間と一緒に働けること」、精神障がい者で「短時間勤務や勤務日数配慮など障がいに応じた働き方ができること」「職場で差別がないこと」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。



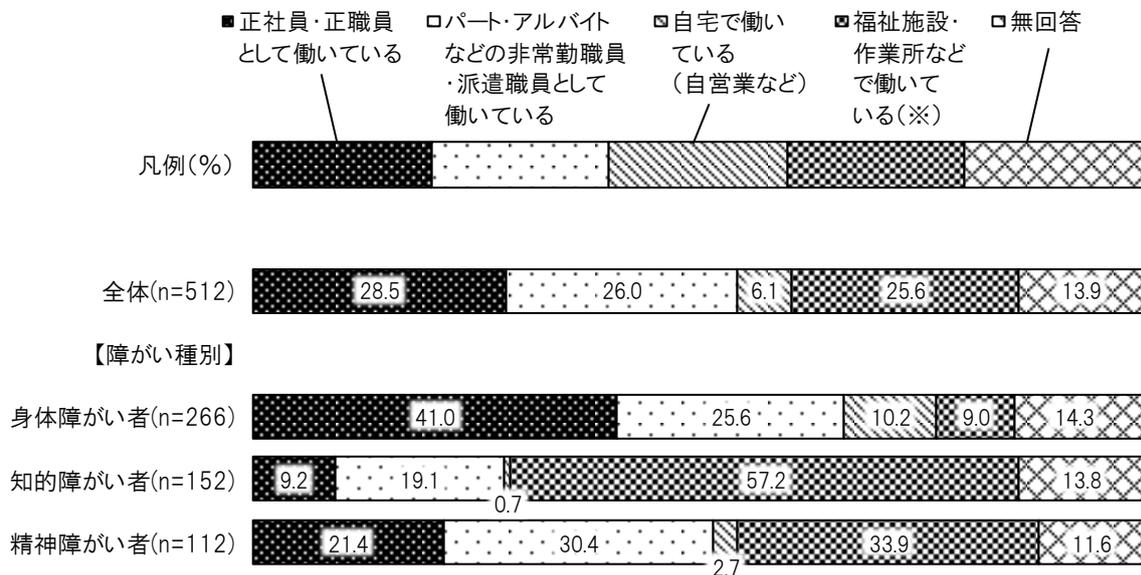
6 勤務形態

【問 22 で「働いている」を選んだ方について】

問 27 あなたは、どのような勤務形態で働いていますか。（○は1つだけ）

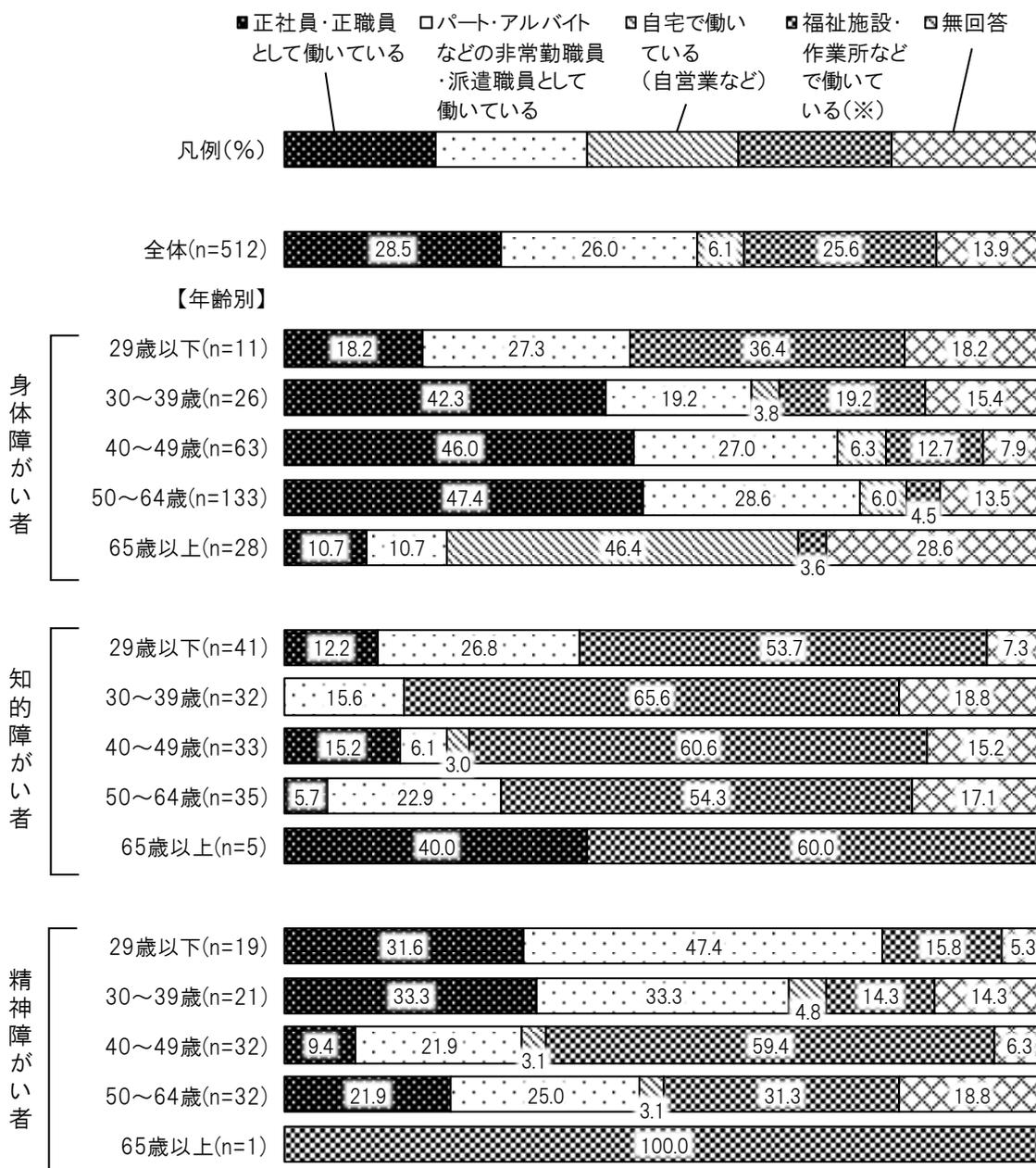
勤務形態については、「正社員・正職員として働いている」が 28.5%、「パート・アルバイトなどの非常勤職員・派遣職員として働いている」が 26.0%、「福祉施設・作業所などで働いている（給料・工賃をもらっている）」が 25.6%となっている。

障がい種別では、身体障がい者で「正社員・正職員として働いている」、知的障がい者で「福祉施設・作業所などで働いている」、精神障がい者で「パート・アルバイトなどの非常勤職員・派遣職員として働いている」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



※福祉施設・作業所などで働いている（給料・工賃をもらっている）

年齢別でみると、身体障がい者では 29 歳以下で「福祉施設・作業所などで働いている」、65 歳以上で「自宅で働いている(自営業など)」, 精神障がい者では 29 歳以下で「パート・アルバイトなどの非常勤職員・派遣職員として働いている」、40～49 歳で「福祉施設・作業所などで働いている」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



※福祉施設・作業所などで働いている(給料・工賃をもらっている)

注: 件数(n)が10未満の項目については、参考値として参照。

7 一般就労への希望

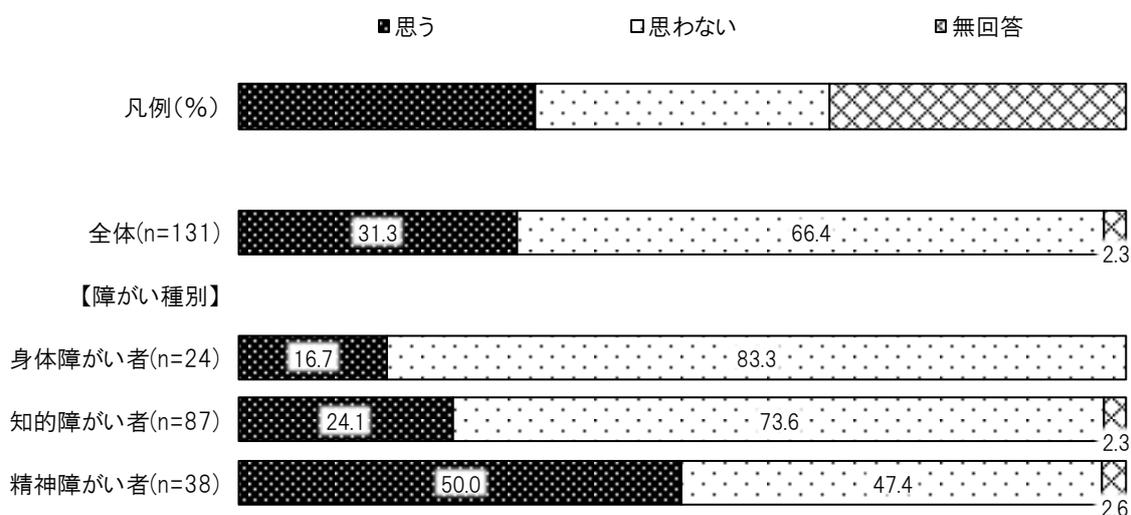
【問 27 で「福祉施設・作業所などで働いている」を選んだ方について】

問 28 あなたは、一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思いますか。

（○は1つだけ）

一般就労への希望については、一般就労をしたいと「思う」が 31.3%、「思わない」が 66.4%となっている。

障がい種別では、精神障がい者は「思う」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

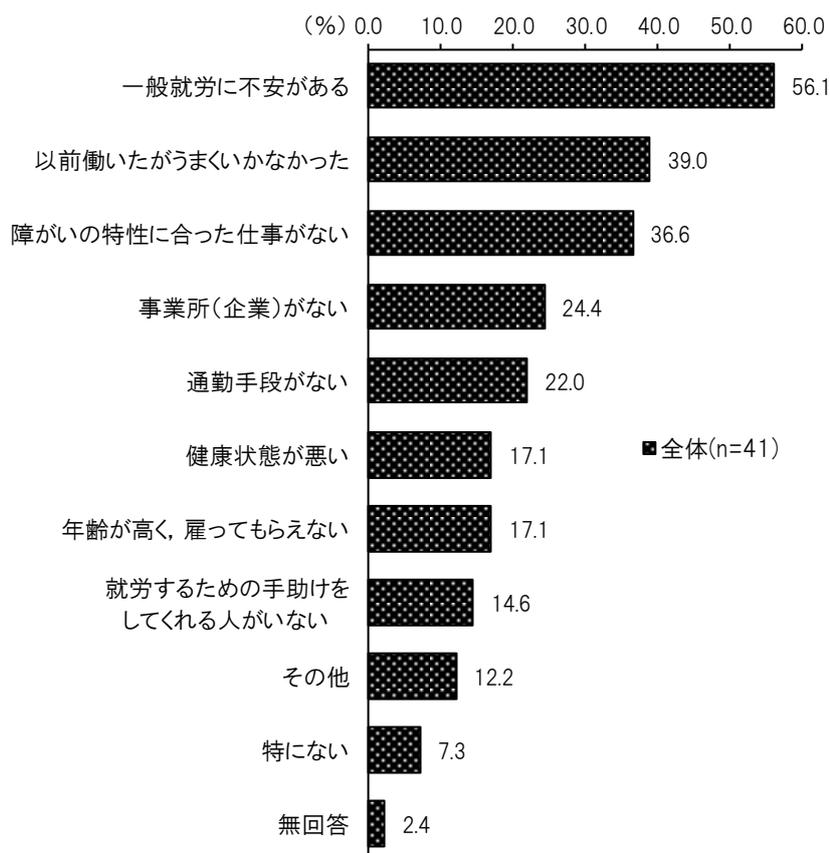


8 一般就労をしていない理由

【問 28 で「一般就労をしたいと思う」を選んだ方について】

問 29 現在、一般就労をしていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

一般就労をしていない理由については、「一般就労に不安がある」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「以前働いたがうまくいかなかった」(39.0%)、「障がいの特性に合った仕事がない」(36.6%)、「事業所(企業)がない」(24.4%)、「通勤手段がない」(22.0%)の順となっている。



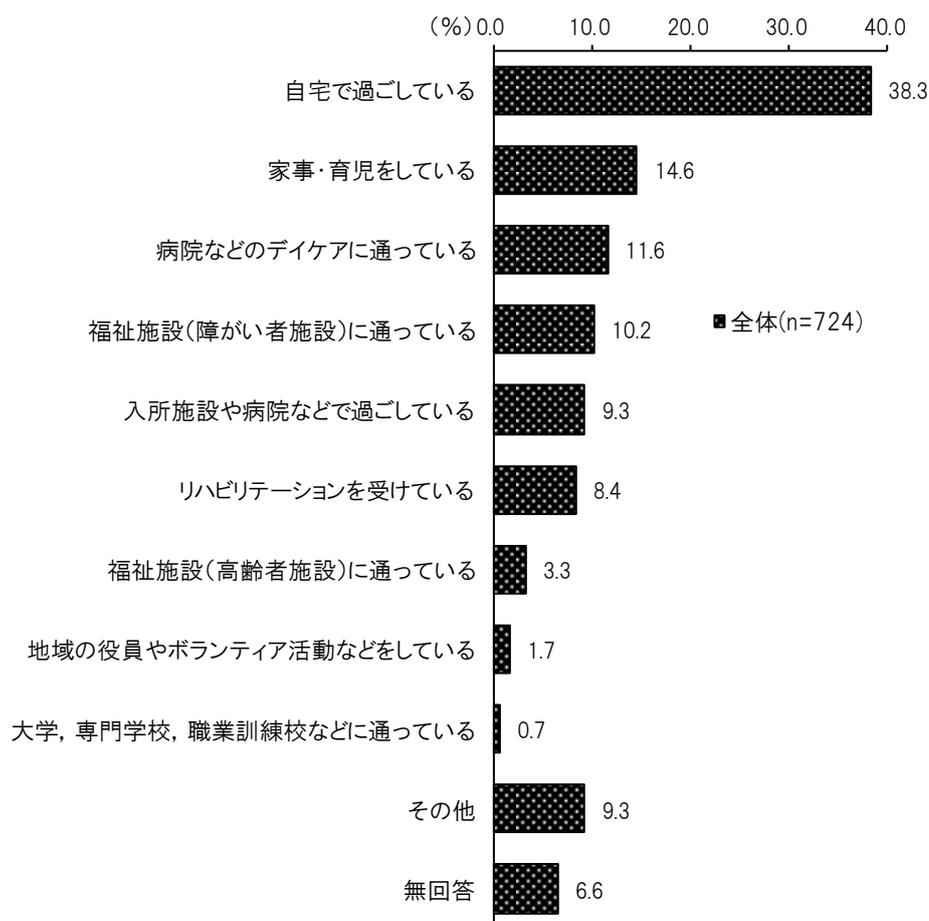
9 日中の主な過ごし方

【問 22 で「働いていない」を選んだ方について】

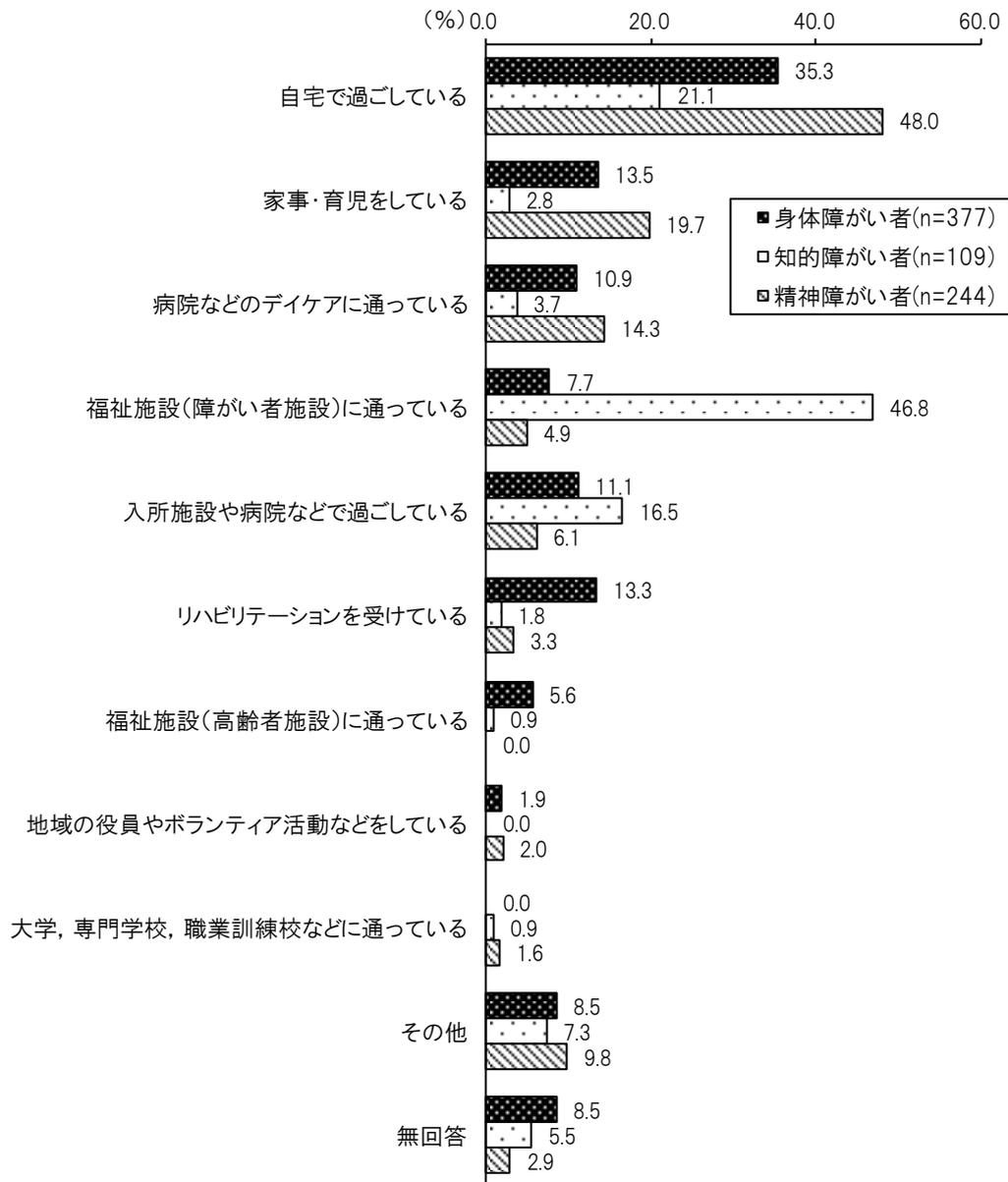
問 30 あなたは、日中を主にどのように過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

日中の主な過ごし方については、「自宅で過ごしている」の割合が **38.3%** と最も高く、次いで「家事・育児をしている」(14.6%)、「病院などのデイケアに通っている」(11.6%)、「福祉施設(障がい者施設)に通っている」(10.2%) の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「リハビリテーションを受けている」、知的障がい者で「福祉施設（障がい者施設）に通っている」、精神障がい者で「自宅で過ごしている」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



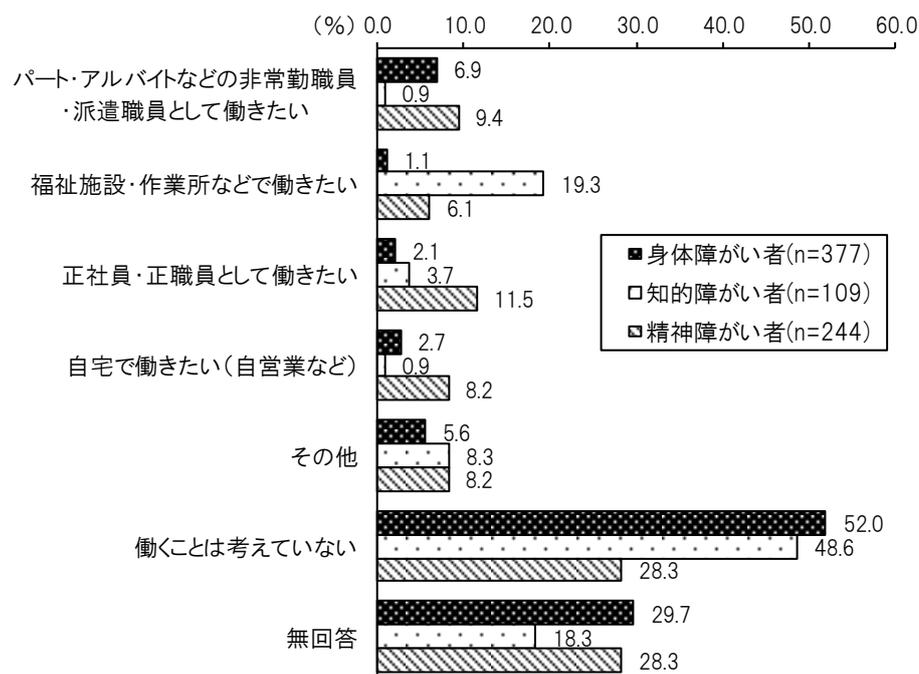
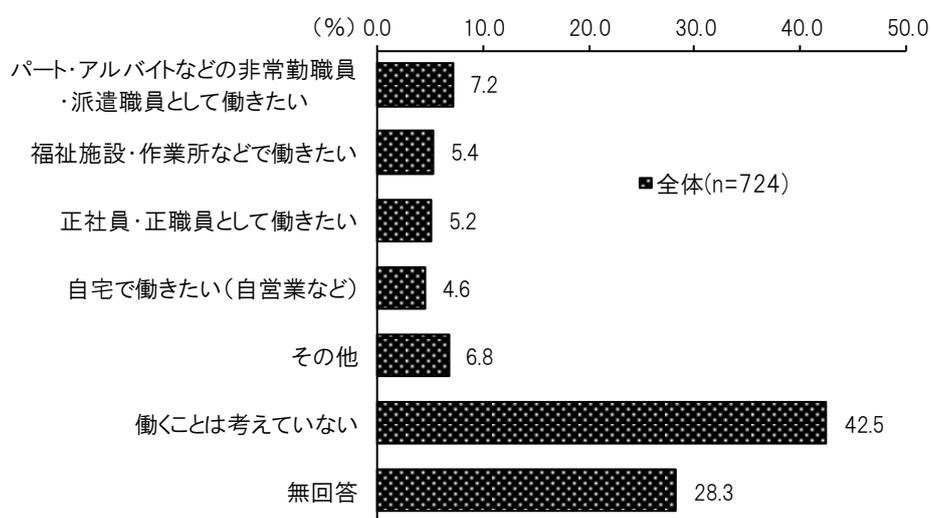
10 今後の就労意向

【問 22 で「働いていない」を選んだ方について】

問 31 あなたの、今後の就労の希望についてお答えください。（○は1つだけ）

今後の就労意向については、「働くことは考えていない」の割合が 42.5%と突出して最も高く、次いで「パート・アルバイトなどの非常勤職員・派遣職員として働きたい」（7.2%）が続いている。

障がい種別では、知的障がい者で「福祉施設・作業所などで働きたい」、精神障がい者で「正社員・正職員として働きたい」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



【5】障がい福祉サービスなどについて

1 障がい福祉サービスなどの利用の有無

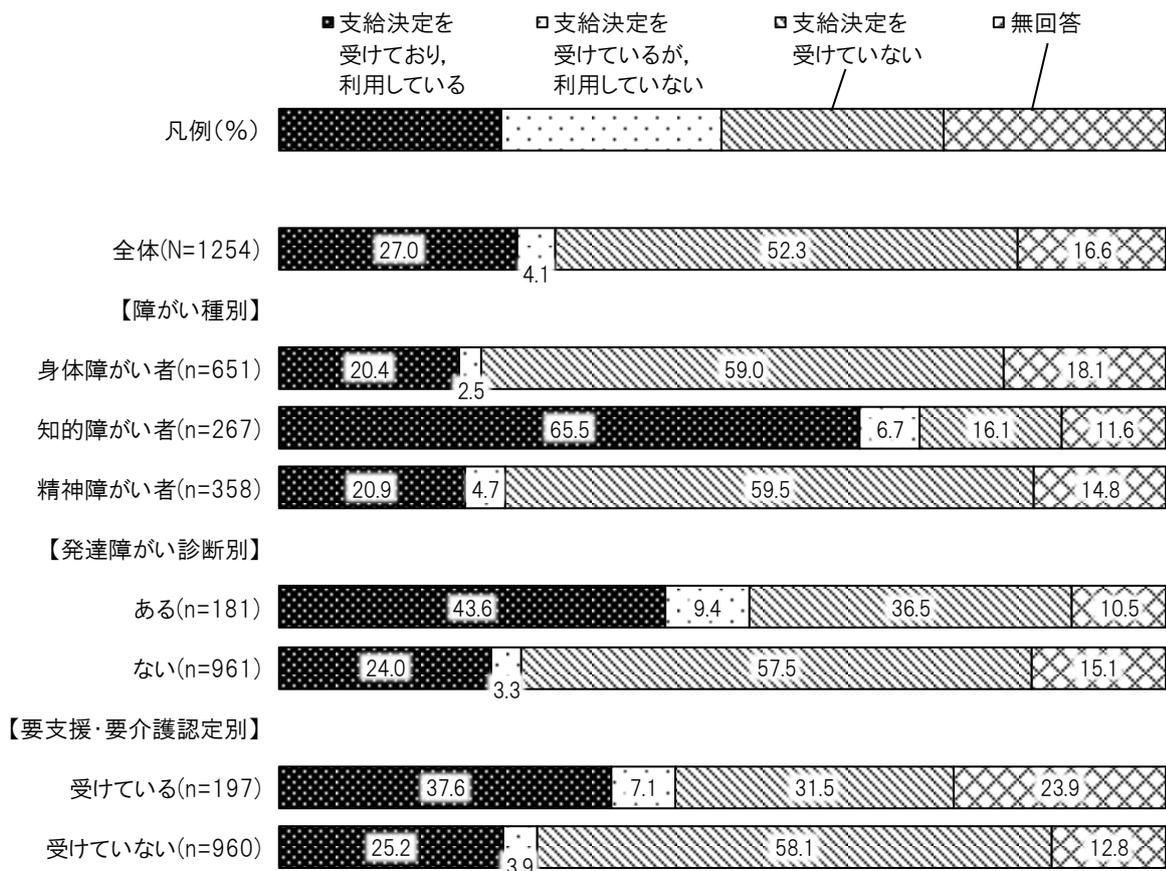
問 32 あなたは、現在、問 33 の 1～19 に書いてある障がい福祉サービスなどを利用していますか。（○は1つだけ）

障がい福祉サービスなどの利用の有無については、「支給決定を受けており、利用している」の割合が 27.0%、「支給決定を受けているが、利用していない」が 4.1%で、合計約 3 割（31.1%）が「支給決定を受けている」と回答している。一方、「支給決定を受けていない」は 52.3%となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「支給決定を受けており、利用している」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断がある人では「支給決定を受けており、利用している」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。

要支援・要介護認定を受けている人では「支給決定を受けており、利用している」の割合が、認定を受けていない人を大きく上回っている。



2 障がい福祉サービスなどの利用状況

【問 32 で「支給決定を受けている」を選んだ方について】

問 33 あなたが支給決定を受けているサービスについておたずねします。

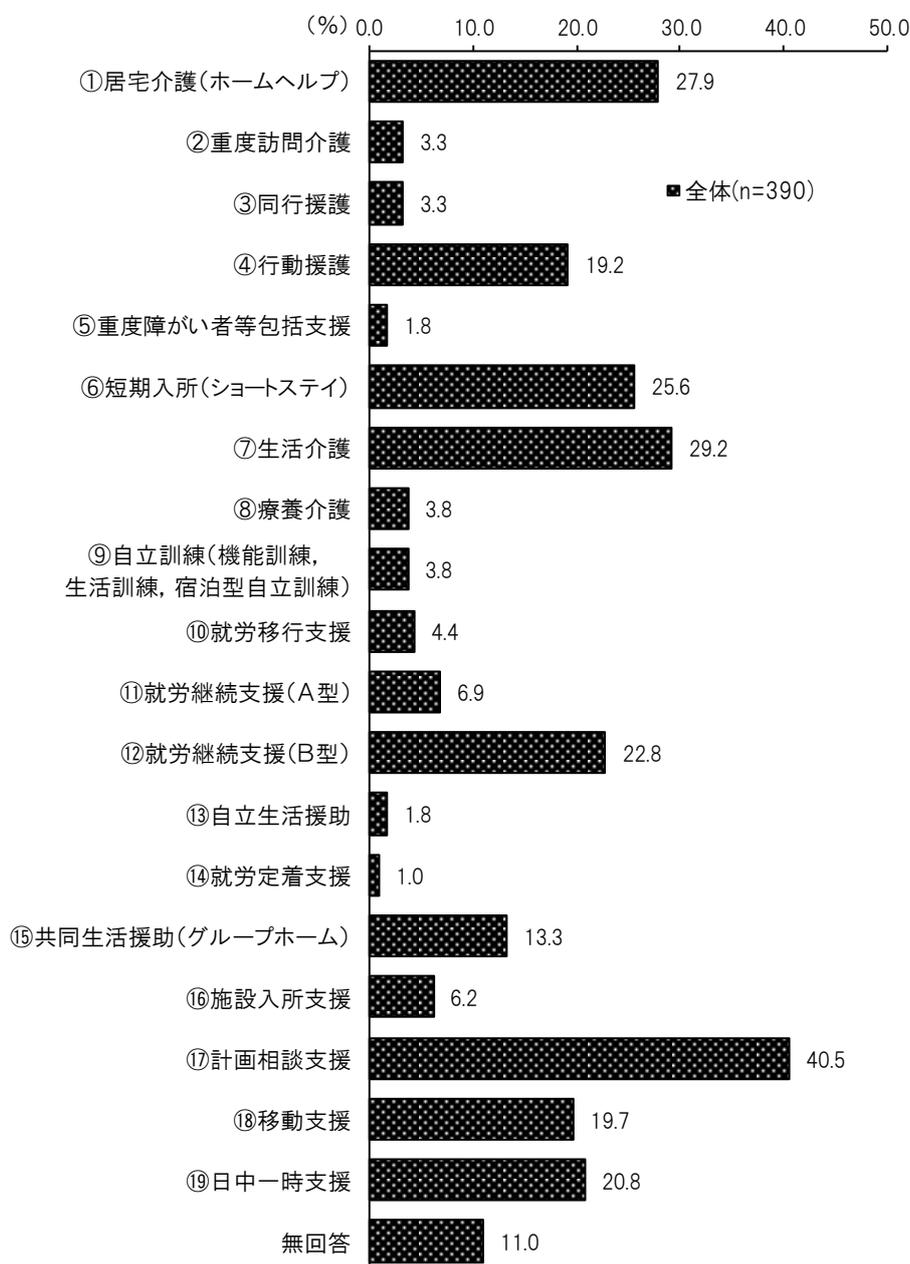
①現在、支給決定を受けているサービスをすべてお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

②上記①で支給決定を受けているサービスについて、それぞれの利用状況をお答えください。(○は1つだけ)

①支給決定を受けているサービス

支給決定を受けているサービスについては、「⑰計画相談支援」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「⑦生活介護」(29.2%)、「①居宅介護(ホームヘルプ)」(27.9%)、「⑥短期入所(ショートステイ)」(25.6%)、「⑫就労継続支援(B型)」(22.8%)の順となっている。



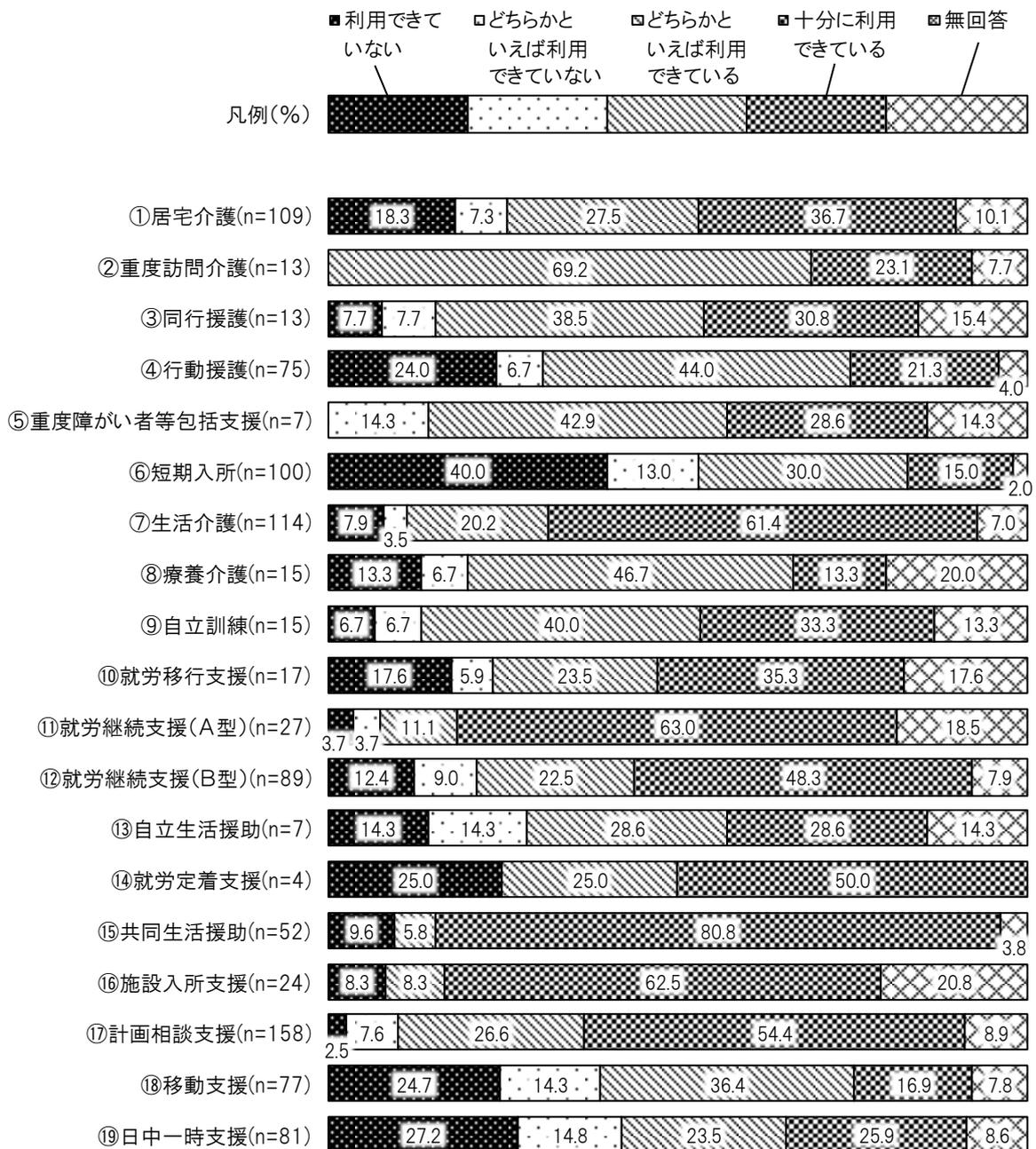
障がい種別では、身体障がい者で「①居宅介護（ホームヘルプ）」、知的障がい者で「④行動援護」「⑮共同生活援助（グループホーム）」「⑰計画相談支援」「⑲日中一時支援」、精神障がい者で「⑪就労継続支援（A型）」「⑫就労継続支援（B型）」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

単位 (%)	① 居宅介護 (ホームヘルプ)	② 重度訪問介護	③ 同行援護	④ 行動援護	⑤ 重度障がい者等 包括支援	⑥ 短期入所 (ショートステイ)	⑦ 生活介護	⑧ 療養介護	⑨ 自立訓練 (機能訓練、生活 訓練、宿泊型自立訓練)	⑩ 就労移行支援	⑪ 就労継続支援 (A型)	⑫ 就労継続支援 (B型)
全体(n=390)	27.9	3.3	3.3	19.2	1.8	25.6	29.2	3.8	3.8	4.4	6.9	22.8
【障がい種別】												
身体障がい者(n=149)	34.2	7.4	7.4	14.8	4.7	30.2	39.6	4.7	2.0	2.0	2.7	8.1
知的障がい者(n=193)	28.5	2.6	1.0	31.6	0.5	37.3	39.9	1.6	2.6	3.6	6.7	25.9
精神障がい者(n=92)	21.7	1.1	2.2	13.0	0.0	5.4	9.8	5.4	7.6	8.7	15.2	39.1

単位 (%)	⑬ 自立生活 援助	⑭ 就労定着 支援	⑮ 共同生活 援助 (グループ ホーム)	⑯ 施設入所 支援	⑰ 計画相談 支援	⑱ 移動支 援	⑲ 日中一時 支援
全体(n=390)	1.8	1.0	13.3	6.2	40.5	19.7	20.8
【障がい種別】							
身体障がい者(n=149)	0.7	0.0	6.7	8.7	37.6	22.1	20.1
知的障がい者(n=193)	1.0	1.6	23.8	9.8	53.9	25.4	32.6
精神障がい者(n=92)	4.3	1.1	3.3	1.1	33.7	14.1	8.7

②サービスの利用状況

サービスの利用状況について「利用できていない」の割合をみると、「⑥短期入所」(40.0%)、「⑱日中一時支援」(27.2%)、「⑱移動支援」(24.7%)、「④行動援護」(24.0%)などで割合が高くなっている。



注: 件数(n)が10未満の項目については、参考値として参照。

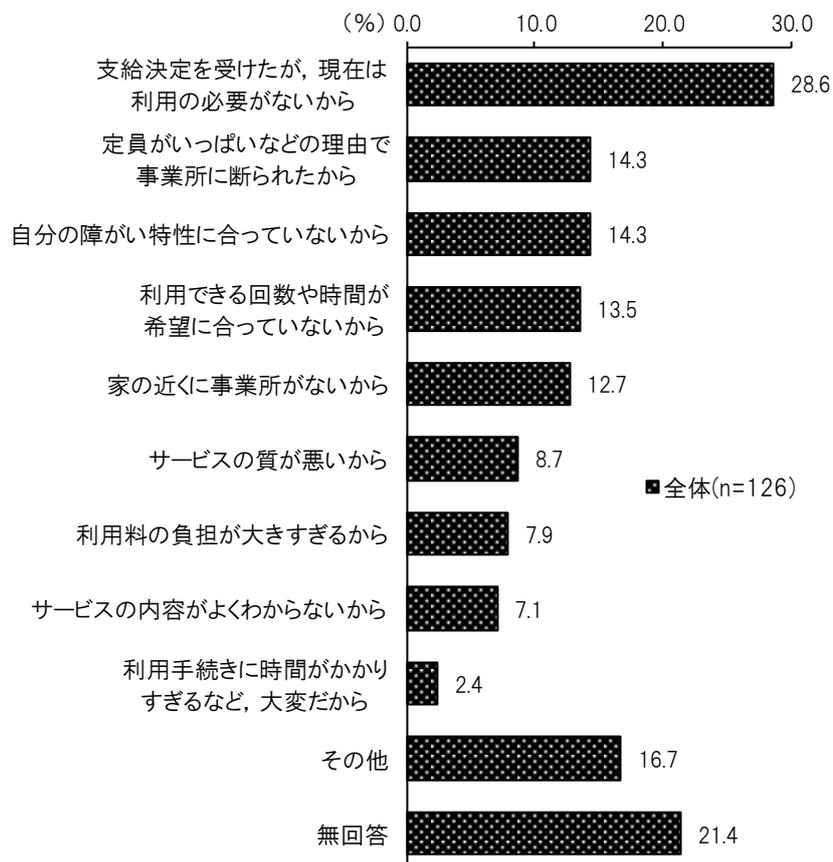
3 サービスを利用できていない理由

【問 33②でいずれか1つでも「利用できていない」「どちらかといえば利用できていない」を選んだ方について】

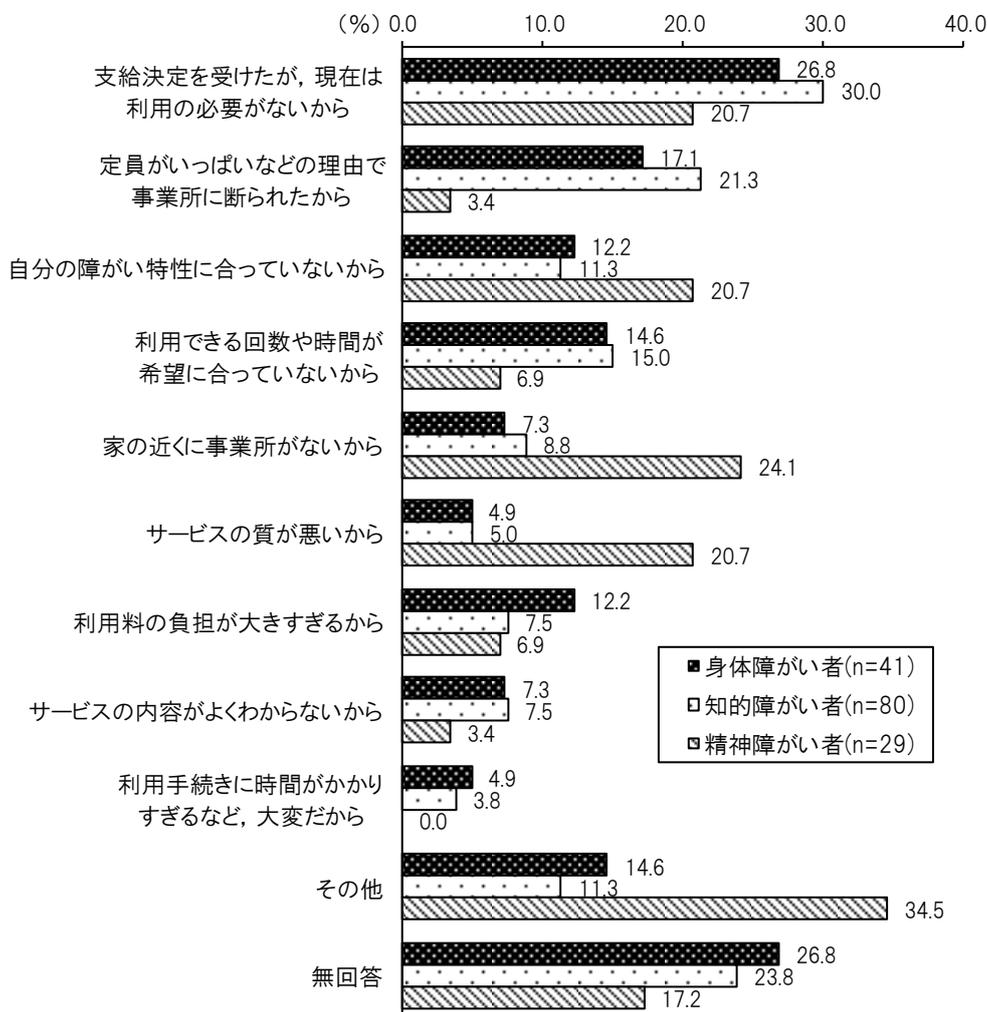
問 34 サービスを利用できていないサービスについて、その理由をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

サービスを利用できていない理由については、「支給決定を受けたが、現在は利用の必要がないから」の割合が28.6%と最も高く、次いで「定員がいっぱいなどの理由で事業所に断られたから」「自分の障がい特性に合っていないから」(各14.3%)、「利用できる回数や時間が希望に合っていないから」(13.5%)、「家の近くに事業所がないから」(12.7%)の順となっている。

また「その他」では、「体調がすぐれないから」「本人が拒否」などの意見がみられた。



障がい種別では、精神障がい者はほかの障がいに比べ「自分の障がい特性に合っていないから」「家の近くに事業所がないから」「サービスの質が悪いから」の割合が高くなっている。



4 今後新たに利用したいサービス

問 35 あなたが、今後新たに利用したいサービスはありますか。

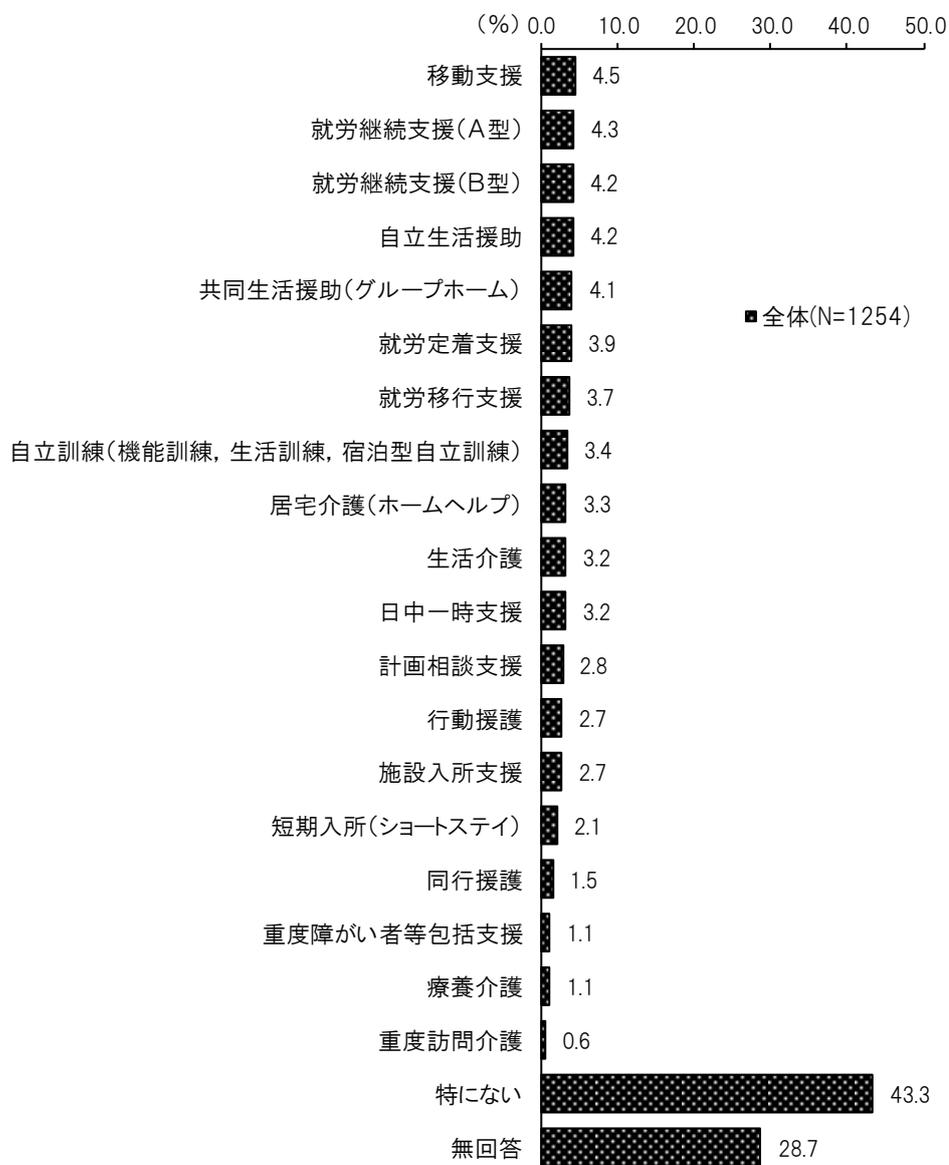
(あてはまるものすべてに○)

※65歳以上の方は、介護保険サービスが優先となるため、「6 短期入所」「7 生活介護」「9 自立訓練（機能訓練）」「10 就労移行支援」「11 就労継続支援（A型）」「16 施設入所支援」「17 計画相談支援」は選べません。

「1 居宅介護」については、要介護の認定を受けている方は選べません。

「15 共同生活援助」については、あなたの状態によっては、利用できない場合があります。

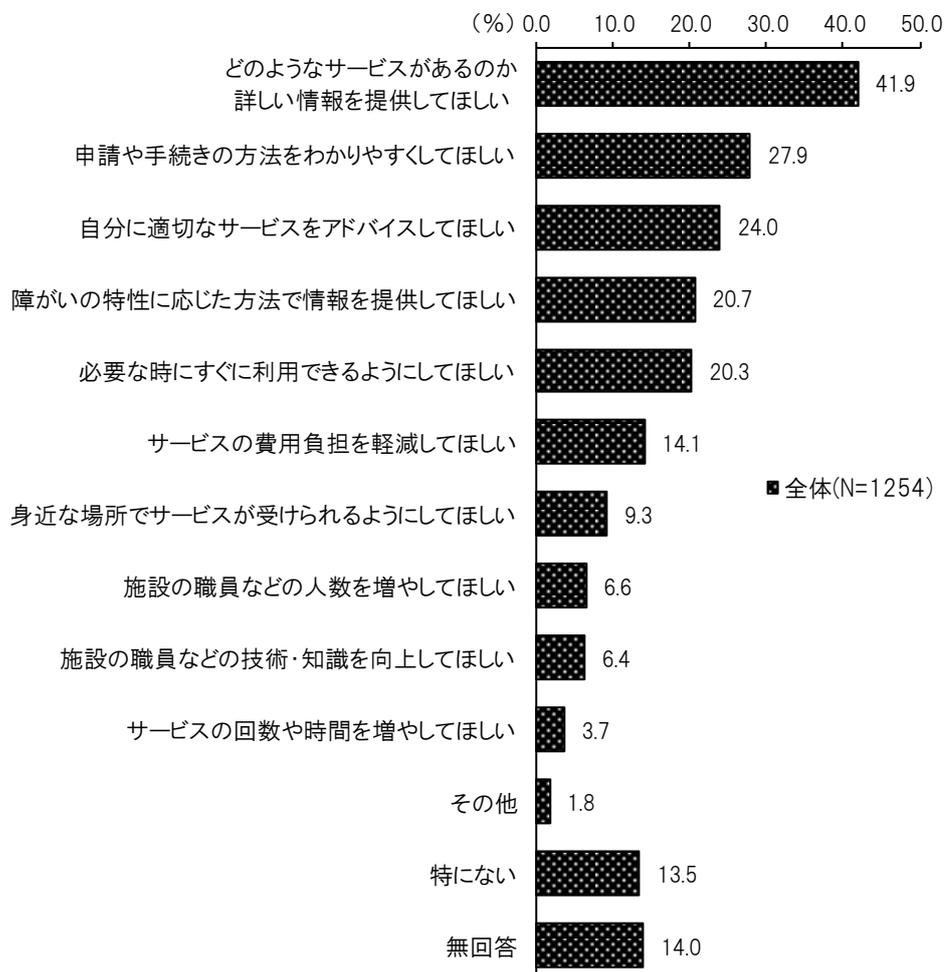
今後新たに利用したいサービスについては、「特にない」が43.3%と最も高く、次いで「移動支援」(4.5%)、「就労継続支援（A型）」(4.3%)、「就労継続支援（B型）」「自立生活援助」(各4.2%)、「共同生活援助（グループホーム）」(4.1%)が続いている。



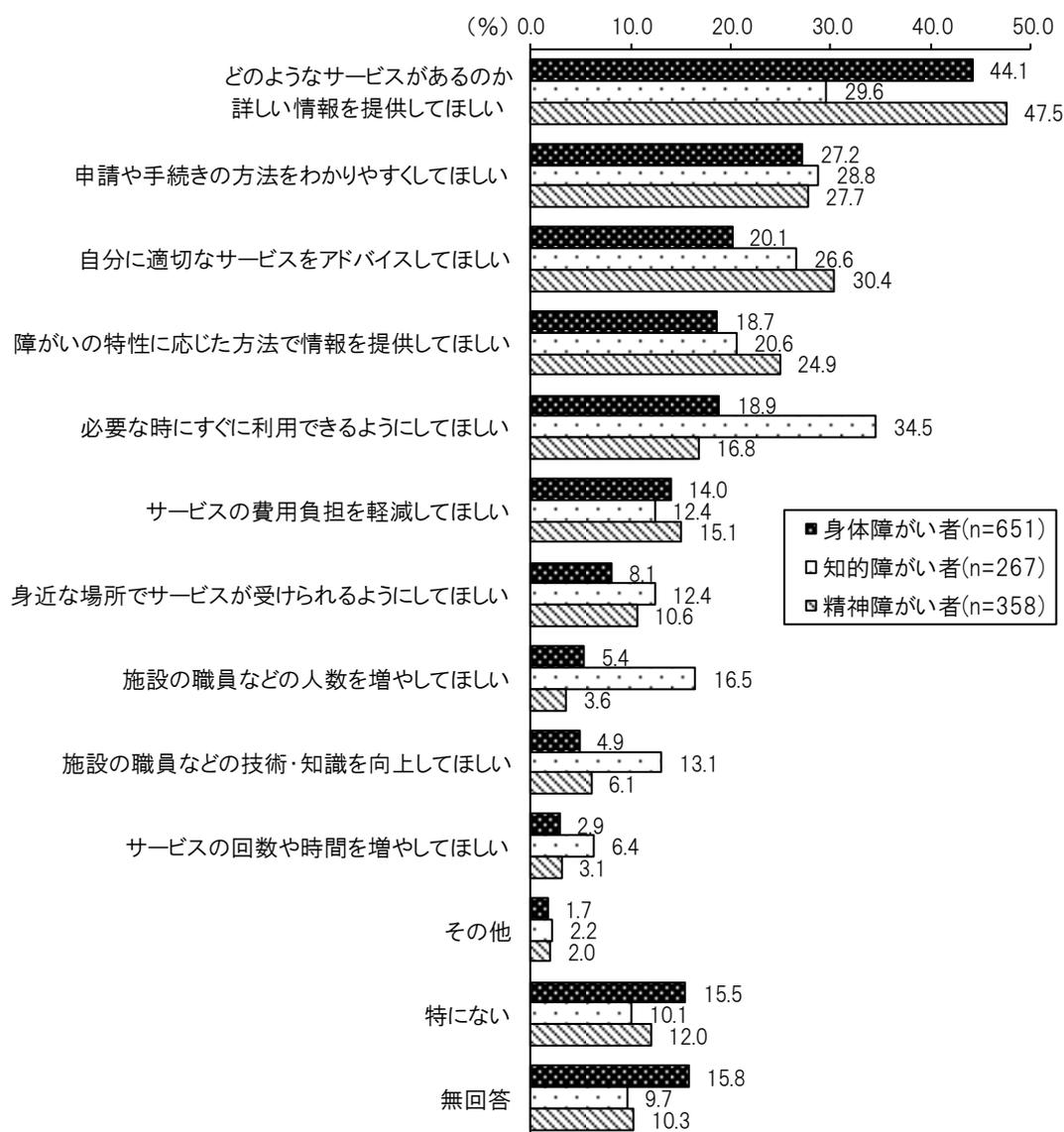
5 サービスを利用しやすくするために必要なこと

問 36 今後、障がい福祉サービスを利用しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

サービスを利用しやすくするために必要なことについては、「どのようなサービスがあるのか詳しい情報を提供してほしい」の割合が41.9%と最も高く、次いで「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」(27.9%)、「自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい」(24.0%)、「障がいの特性に応じた方法で情報を提供してほしい」(20.7%)、「必要な時にすぐに利用できるようにしてほしい」(20.3%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者や精神障がい者で「どのようなサービスがあるのか詳しい情報を提供してほしい」、知的障がい者で「必要な時にすぐ利用できるようにしてほしい」「施設の職員などの人数を増やしてほしい」「施設の職員などの技術・知識を向上してほしい」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



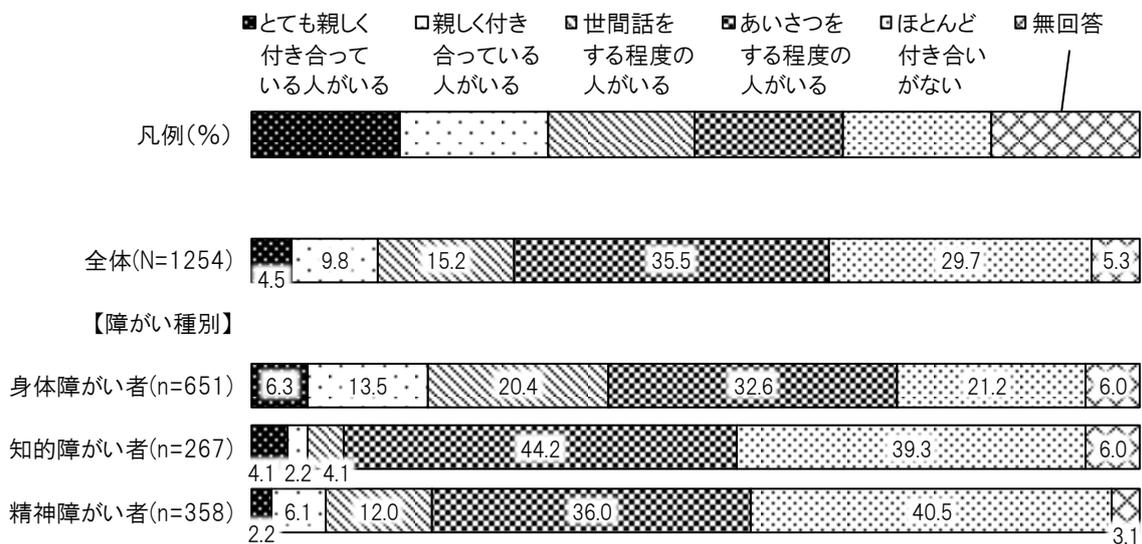
【6】地域での暮らしについて

1 地域の人との付き合い程度

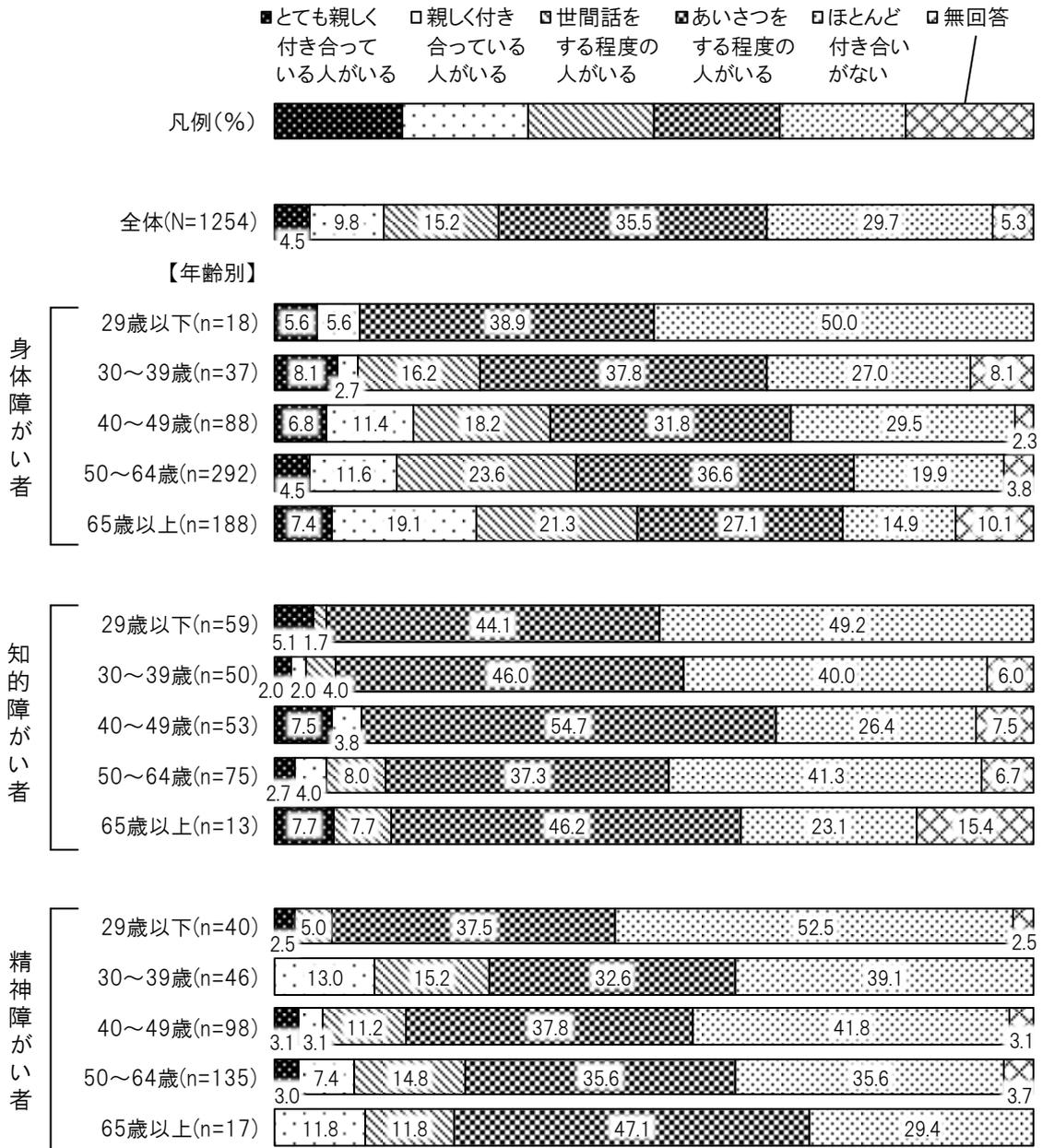
問 37 あなたの、近所の人や地域の人との付き合いはどの程度ですか。(○は1つだけ)

地域の人との付き合い程度については、「とても親しく付き合っている人がいる」が4.5%、「親しく付き合っている人がいる」が9.8%で、合計14.3%が『親しく付き合っている人がいる』と回答している。一方、約3割(29.7%)が「ほとんど付き合いがない」と回答しており、「あいさつをする程度の人がある」は35.5%となっている。

障がい種別では、身体障がい者で「親しく付き合っている人がいる」「世間話をする程度の人がある」、知的障がい者や精神障がい者で「ほとんど付き合いがない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



年齢別でみると、身体障がい者では年齢が上がるほど、付き合いの程度が親しくなる傾向がみられ、いずれの障がいにおいても 29 歳以下で「ほとんど付き合いがない」の割合が高くなっている。

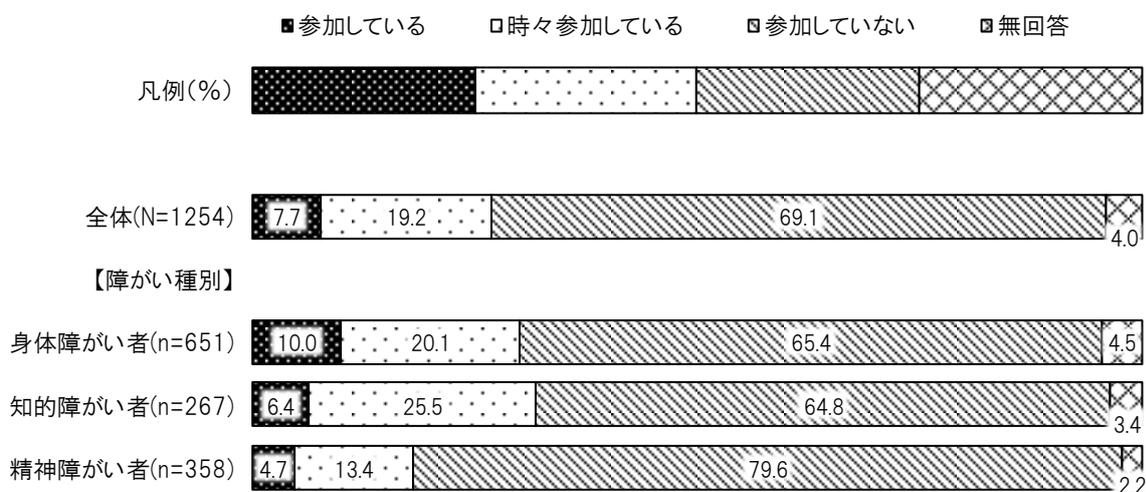


2 地域の行事やイベントへの参加状況

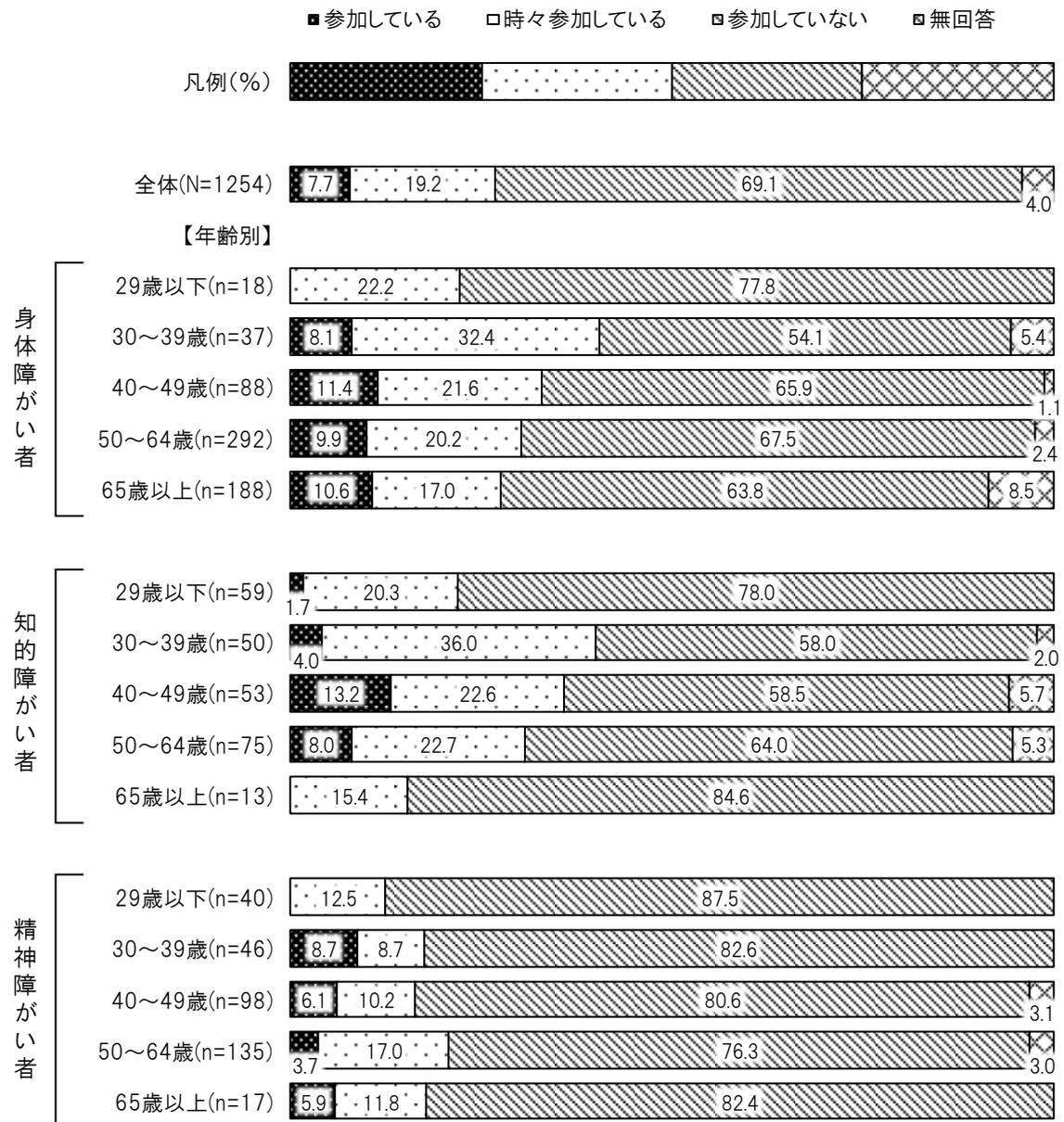
問 38 あなたは、地域の祭りや運動会など、行事やイベントに参加していますか。
(○は1つだけ)

地域の行事やイベントへの参加状況については、「参加している」が 7.7%、「時々参加している」が 19.2%で、合計 26.9%が『参加している』と回答している。一方、約 7割 (69.1%) が「参加していない」と回答している。

障がい種別では、精神障がい者で「参加していない」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。



年齢別では、身体障がい者や知的障がい者の30～39歳で『参加している（合計）』の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

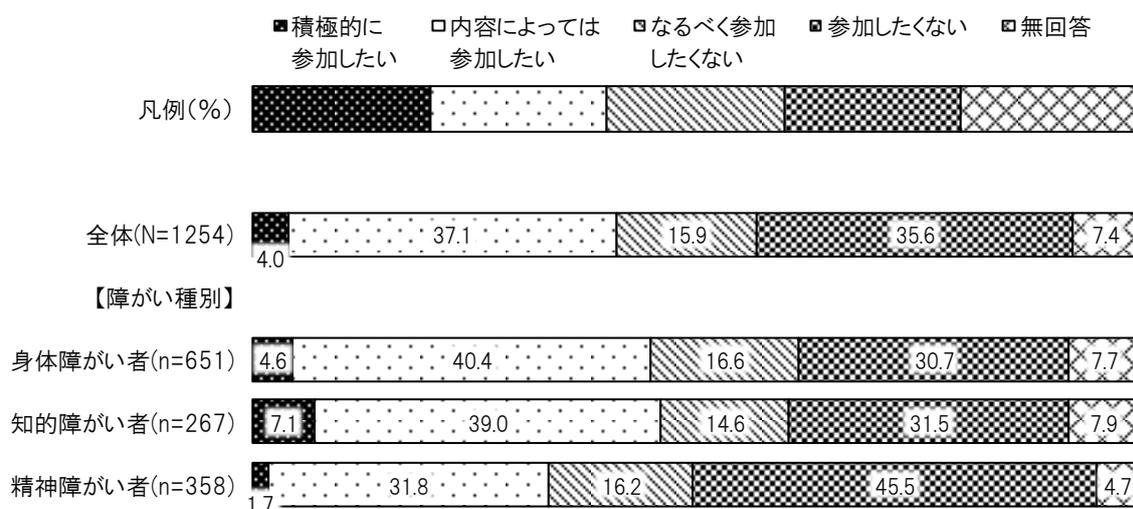


3 地域活動への参加意向

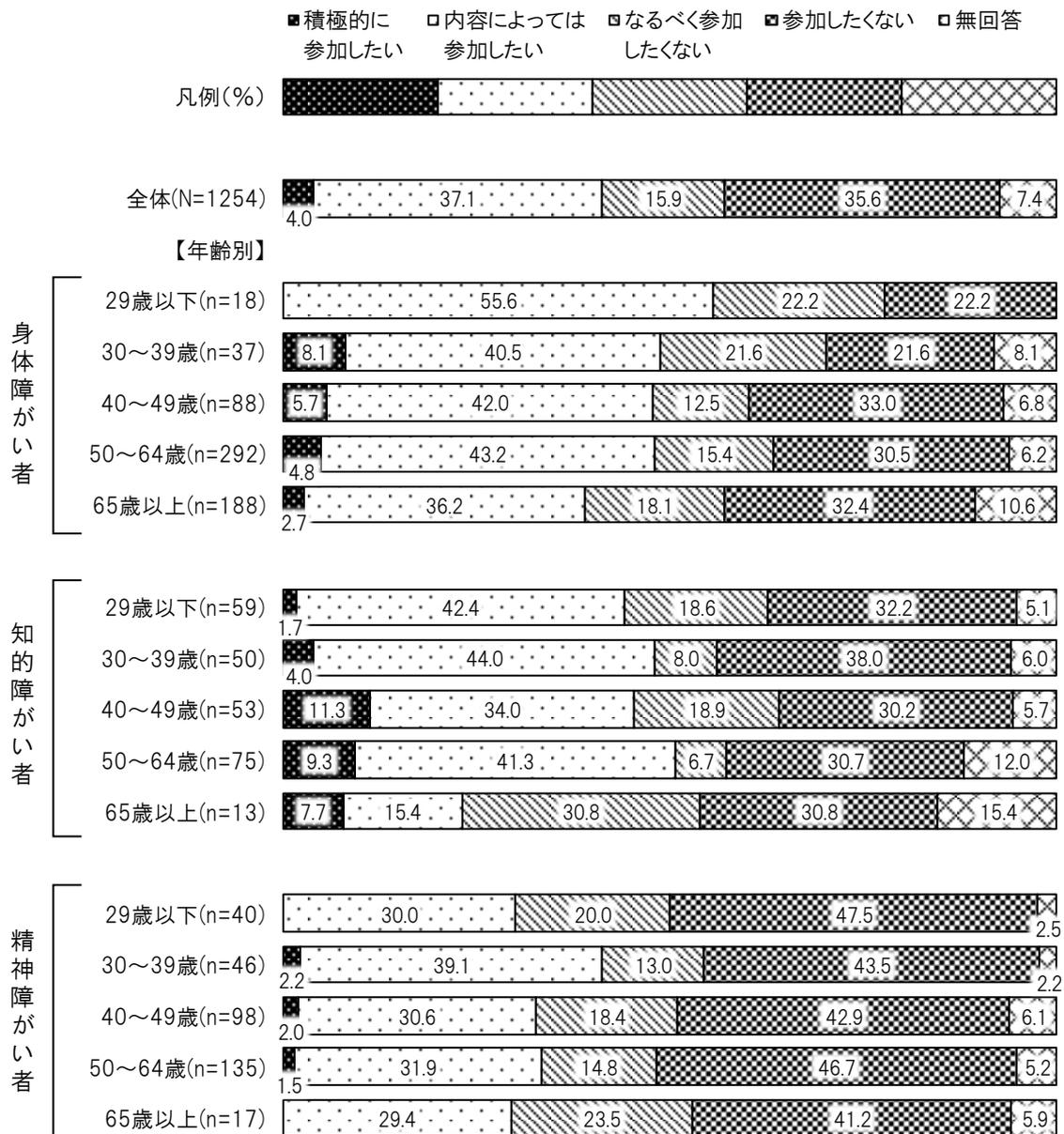
問 39 あなたは今後、地域の活動に参加したいですか。（○は1つだけ）

地域活動への参加意向については、「積極的に参加したい」が4.0%、「内容によっては参加したい」が37.1%で、合計41.1%が『参加したい』と回答している。一方、「なるべく参加したくない」(15.9%)、「参加したくない」(35.6%)の合計は51.5%であった。

障がい種別では、精神障がい者で「参加したくない」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。



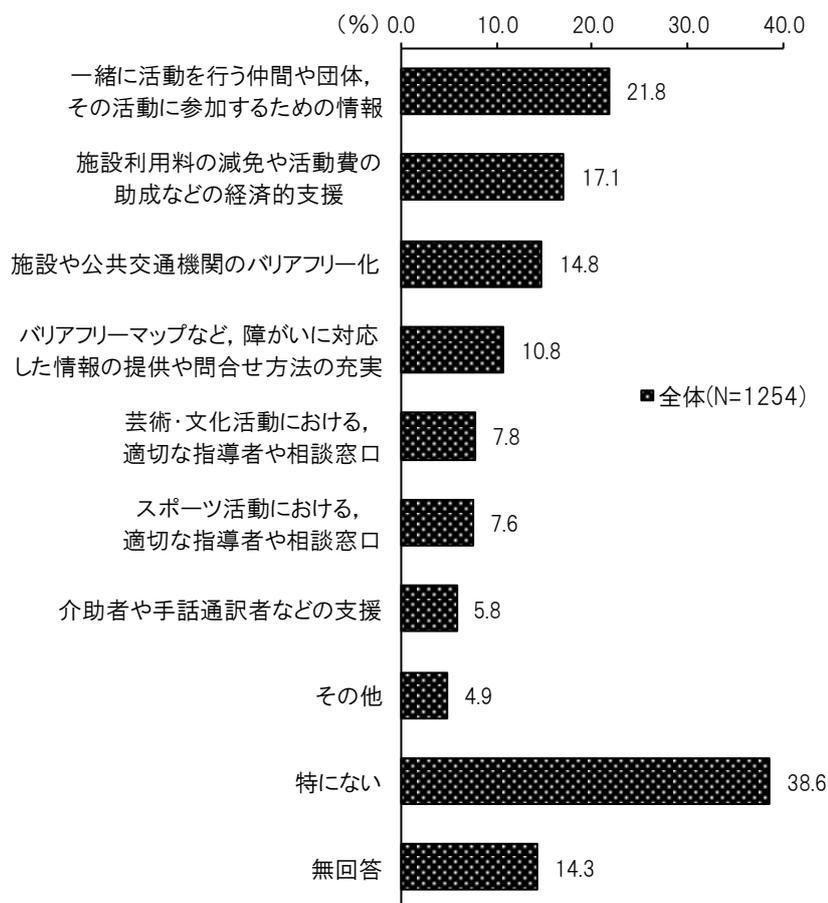
年齢別では、精神障がい者の30～39歳で「内容によっては参加したい」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。身体障がい者や知的障がい者の「積極的に参加したい」「内容によっては参加したい」の割合は、年齢層が上がるにつれて低くなる傾向がある。



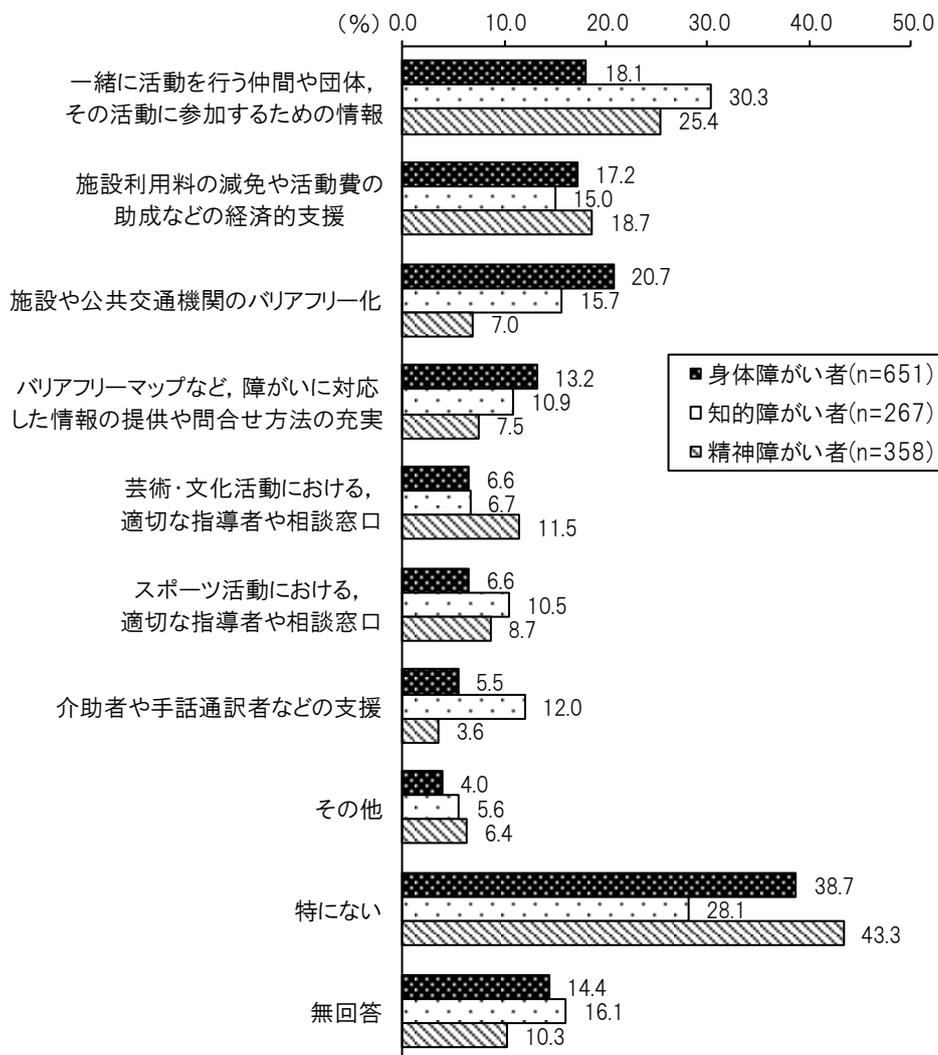
4 地域活動に参加しやすくするために必要なこと

問 40 あなたが、地域の活動にもっと参加しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なものを3つまでに○）

地域活動に参加しやすくするために必要なことについては、「一緒に活動を行う仲間や団体、その活動に参加するための情報」の割合が21.8%と最も高く、次いで「施設利用料の減免や活動費の助成などの経済的支援」(17.1%)、「施設や公共交通機関のバリアフリー化」(14.8%)、「バリアフリーマップなど、障がいに対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(10.8%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「施設や公共交通機関のバリアフリー化」、知的障がい者で「一緒に活動を行う仲間や団体、その活動に参加するための情報」「介助者や手話通訳者などの支援」、精神障がい者で「芸術・文化活動における、適切な指導者や相談窓口」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



5 他の障がい者の悩みなどを聞く取組への参加意向

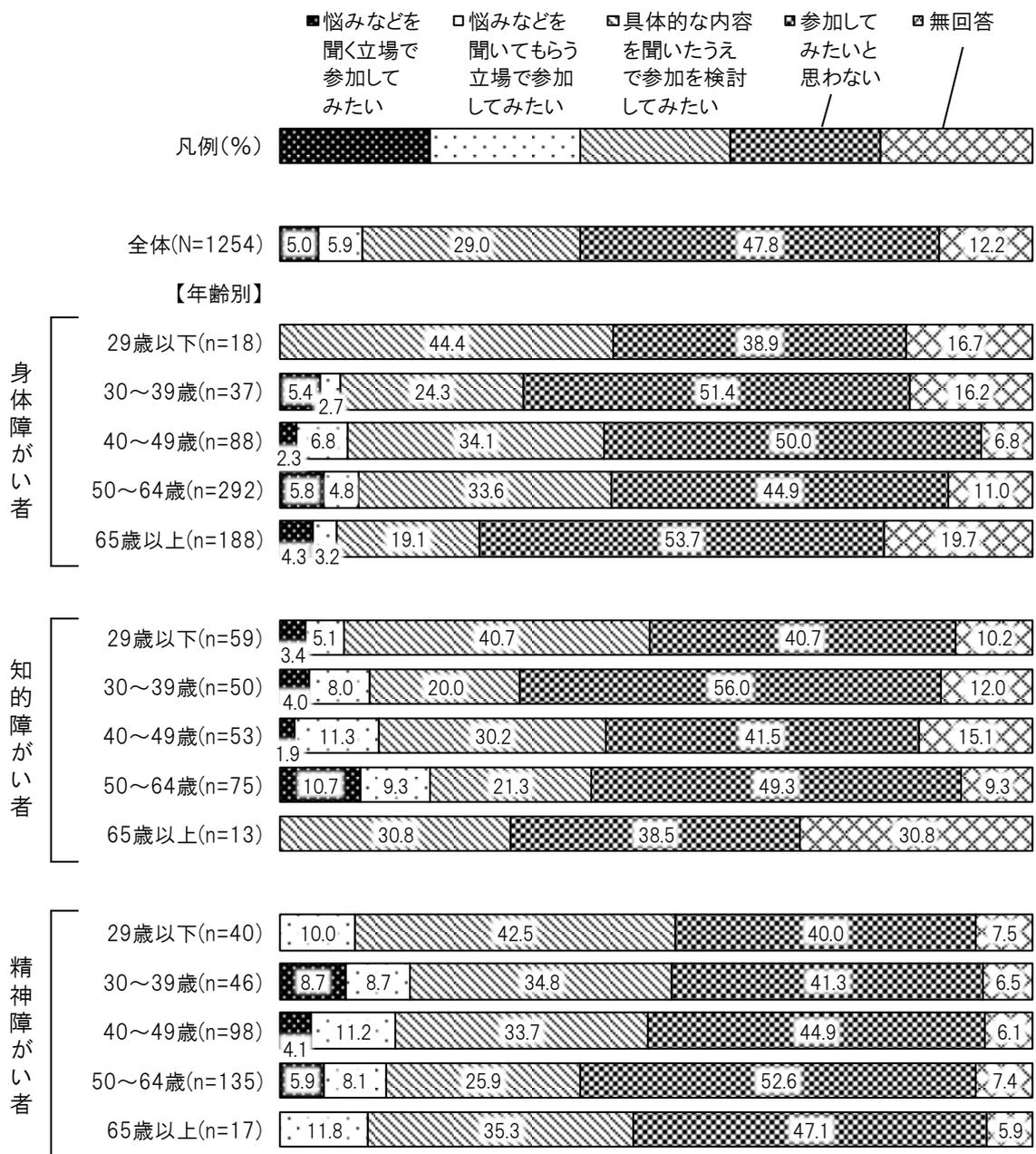
問 41 本市では、障がいのある人が自らの体験に基づいて、同じ仲間である他の障がいのある人の悩みなどを聞くという取組を推進しています。あなたは、この取組に参加してみたいと思いますか。（○は1つだけ）

他の障がい者の悩みなどを聞く取組への参加意向については、「悩みなどを聞く立場で参加してみたい」の割合が5.0%、「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」が5.9%、「具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい」が29.0%で、合計約4割（39.9%）となっている。一方、約半数（47.8%）は「参加してみたいと思わない」と回答している。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。



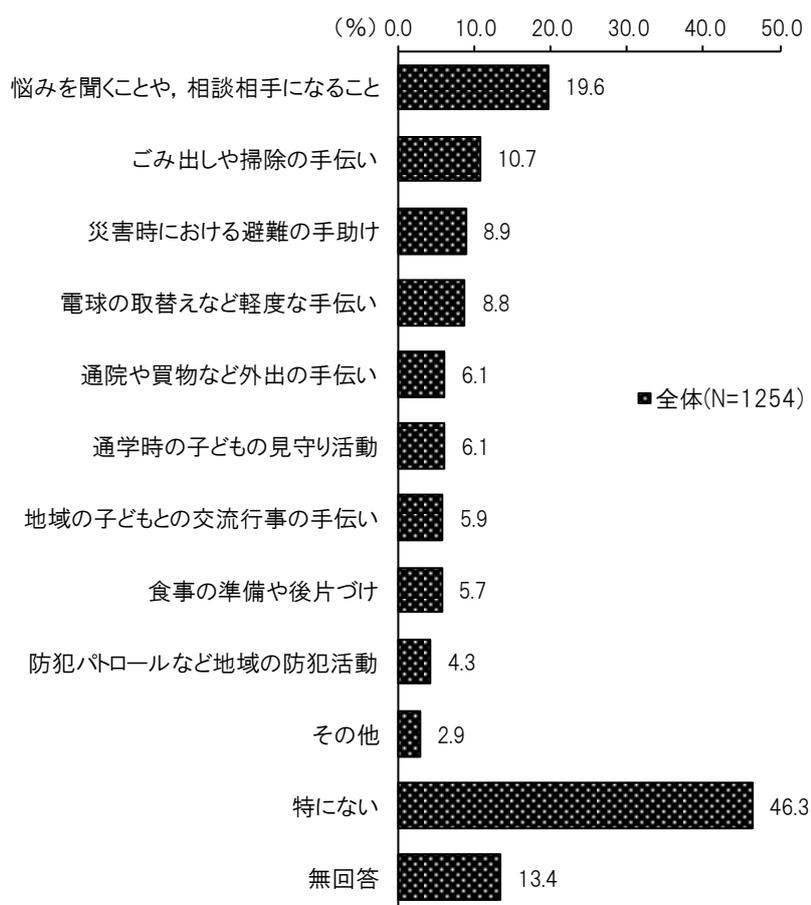
年齢別では、知的障がい者の50～64歳や精神障がい者の30～39歳で「悩みなどを聞く立場で参加してみたい」の割合がほかの年齢層に比べてやや高くなっている。



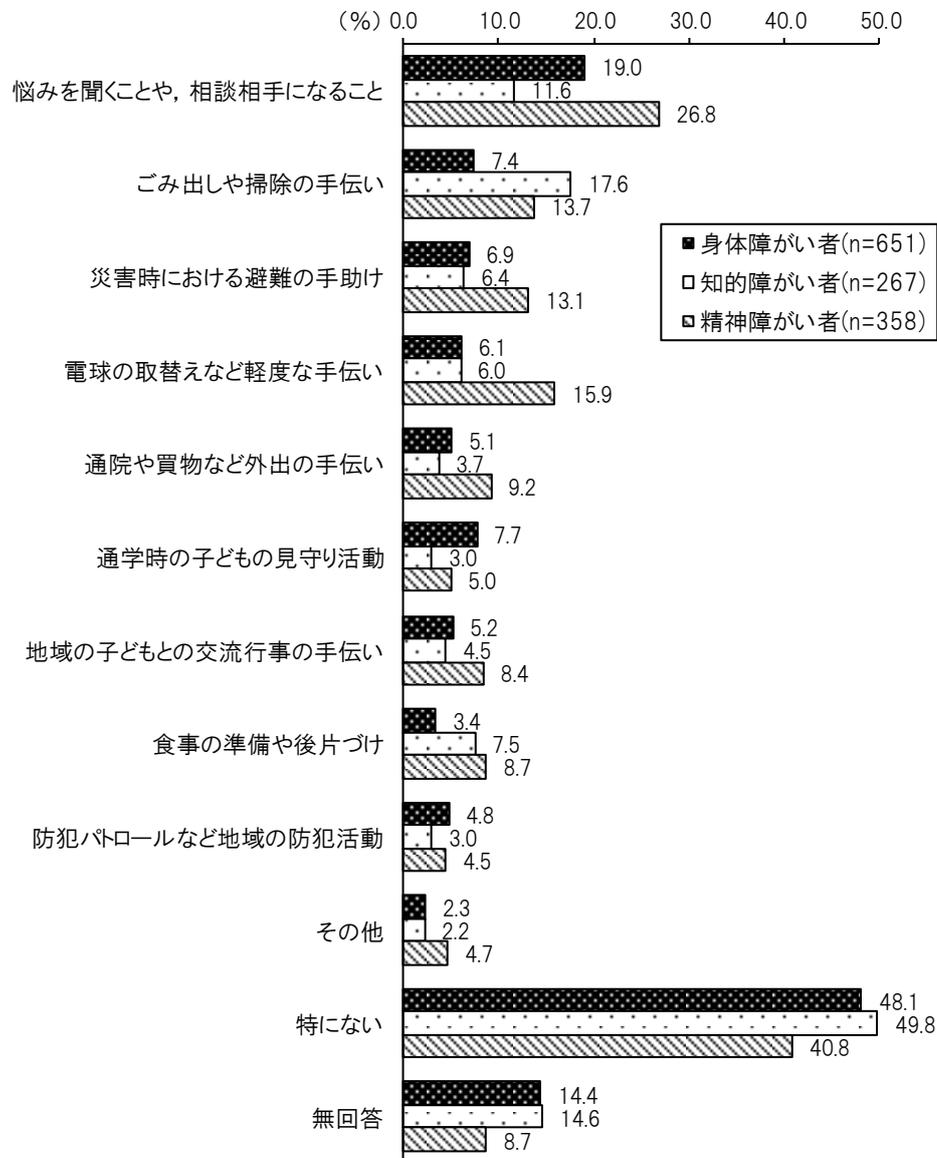
6 他の障がい者のために手助けできること

問 42 他の障がいのある人のために、あなたが手助けできそうな活動や、協力できそうな活動はありますか。（あてはまるものすべてに○）

他の障がい者のために手助けできることについては、「悩みを聞くことや、相談相手になること」の割合が19.6%と最も高く、次いで「ごみ出しや掃除の手伝い」(10.7%)、「災害時における避難の手助け」(8.9%)、「電球の取替えなど軽度な手伝い」(8.8%)の順となっている。一方、「特にない」は46.3%となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「ごみ出しや掃除の手伝い」、精神障がい者で「悩みを聞くことや、相談相手になること」「災害時における避難の手助け」「電球の取替えなど軽度な手伝い」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



【7】障がいに対する理解について

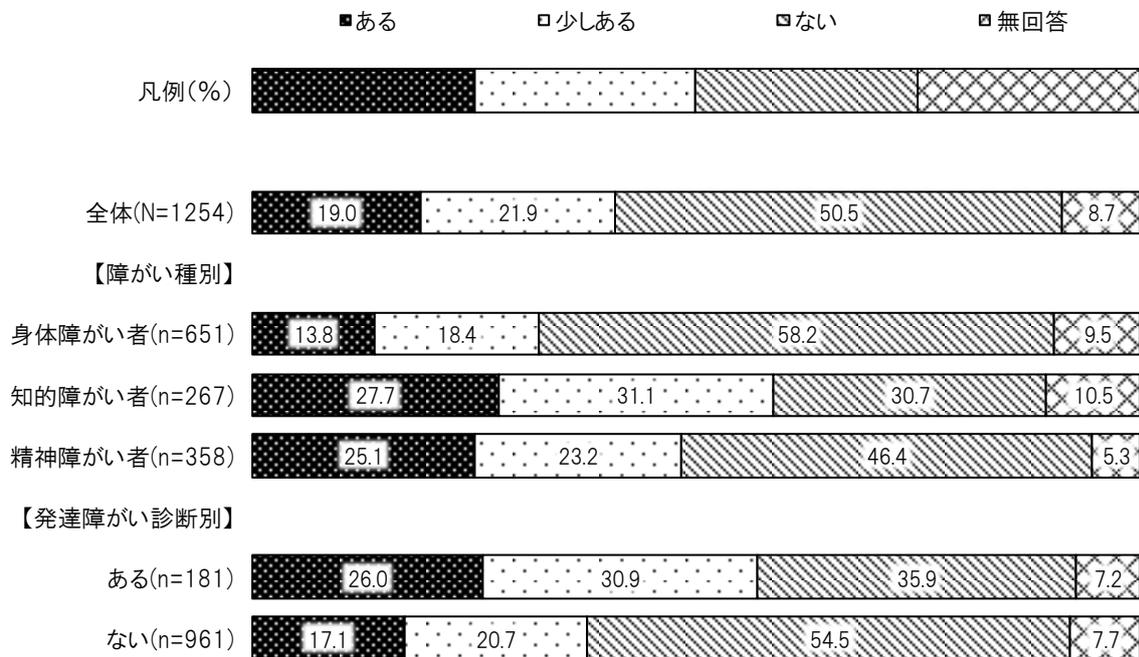
1 障がいを理由とする差別を受けた経験

問 43 あなたは、障がいがあることで差別を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

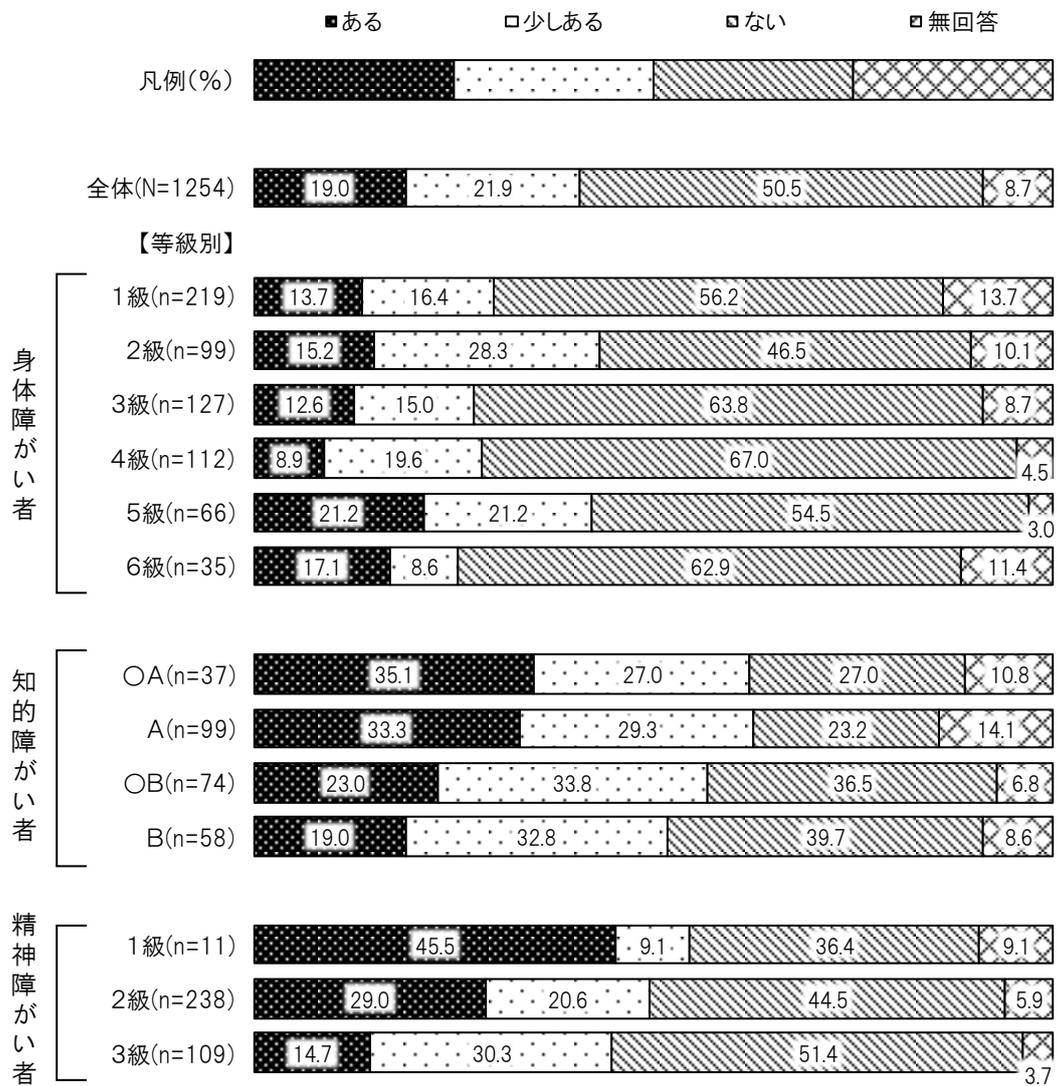
障がいを理由とする差別を受けた経験については、「ある」の割合が19.0%、「少しある」が21.9%で、合計約4割(40.9%)が『ある』と回答している。また、「ない」は50.5%であった。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で『ある(合計)』の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、『ある(合計)』の割合が高くなっている。



等級別でみると、知的障がい者や精神障がい者では、等級が上がるほど「ある」の割合が増える傾向にある。



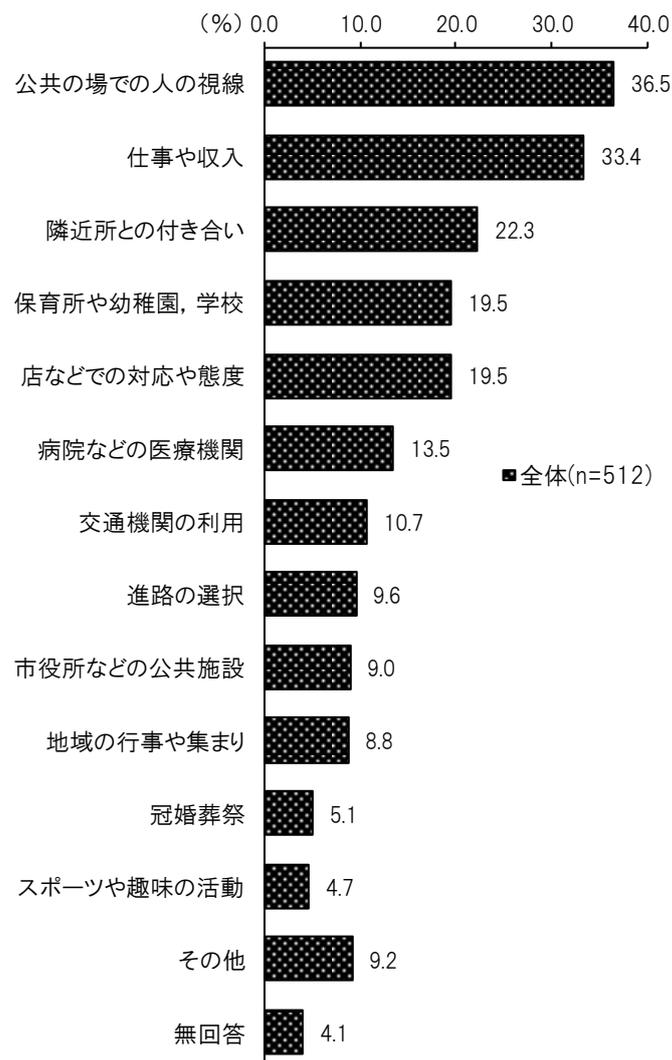
2 差別を受けた場面

【問 43 で差別を受けたことが「ある」「少しある」を選んだ方について】

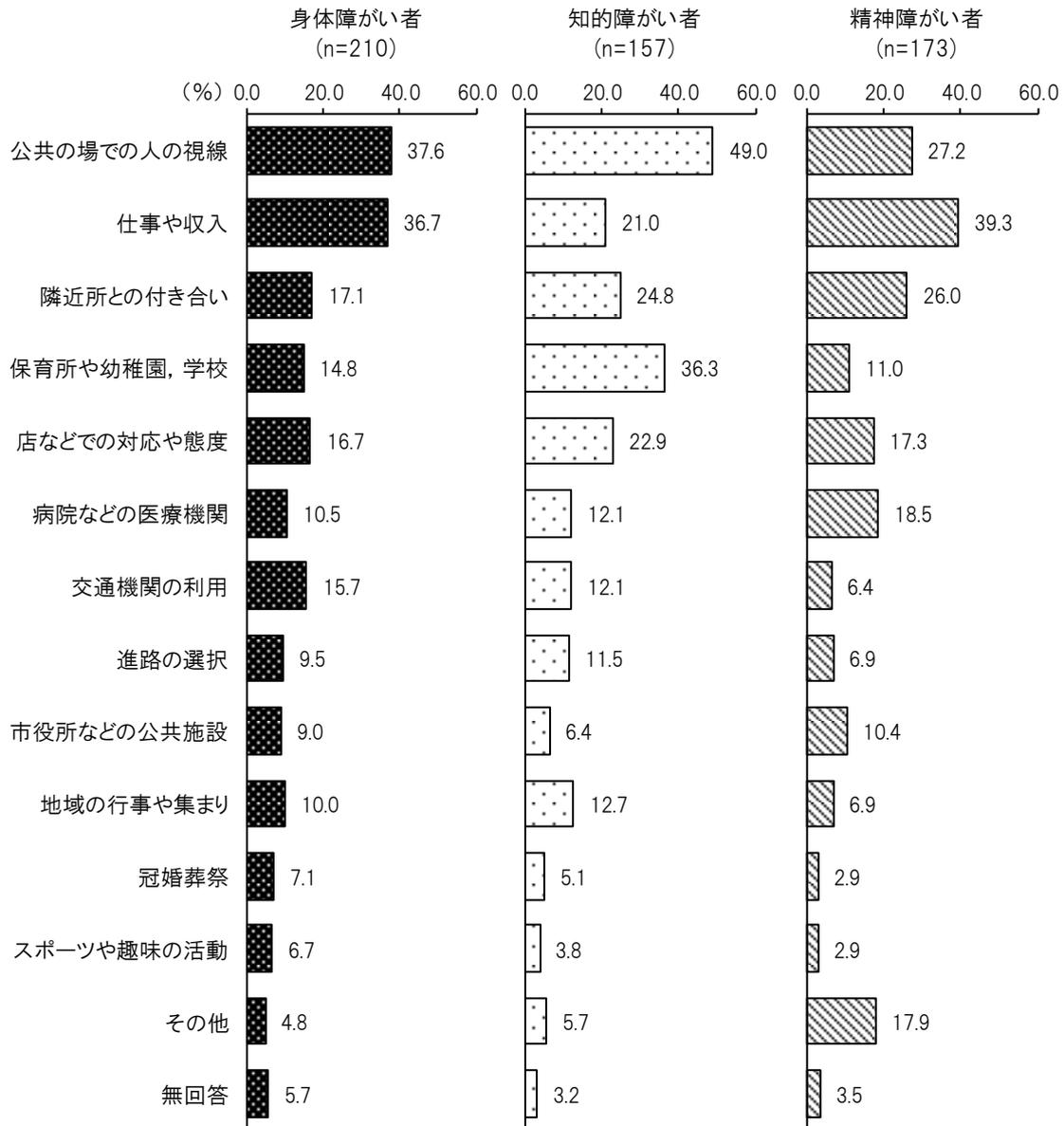
問 44 あなたは、どのような場面で、差別を受けましたか。

(あてはまるものすべてに○)

差別を受けた場面については、「公共の場での人の視線」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「仕事や収入」(33.4%)、「隣近所との付き合い」(22.3%)、「保育所や幼稚園、学校」「店などでの対応や態度」(各 19.5%) の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「公共の場での人の視線」「保育所や幼稚園，学校」「店などでの対応や態度」，精神障がい者で「病院などの医療機関」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

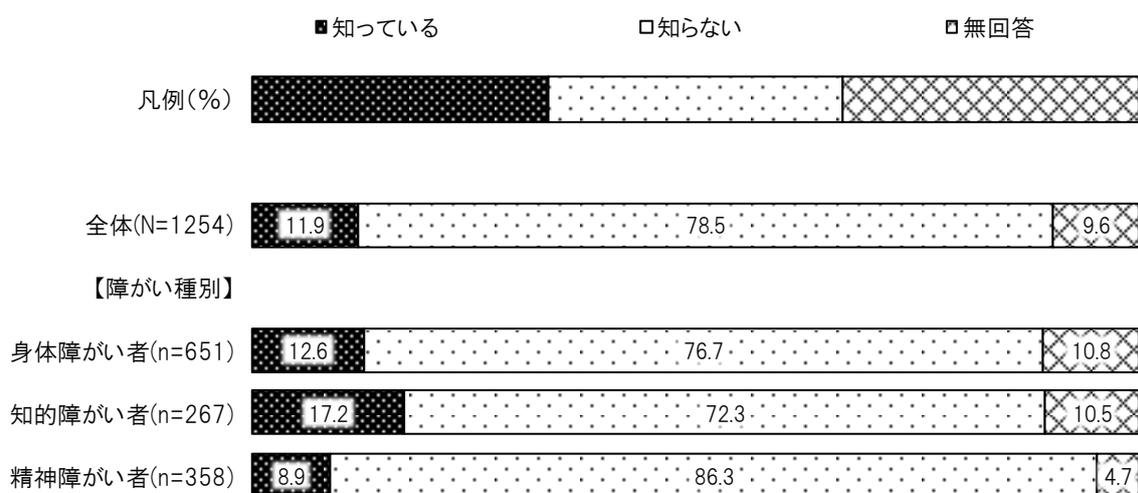


3 差別を受けた場合の相談先

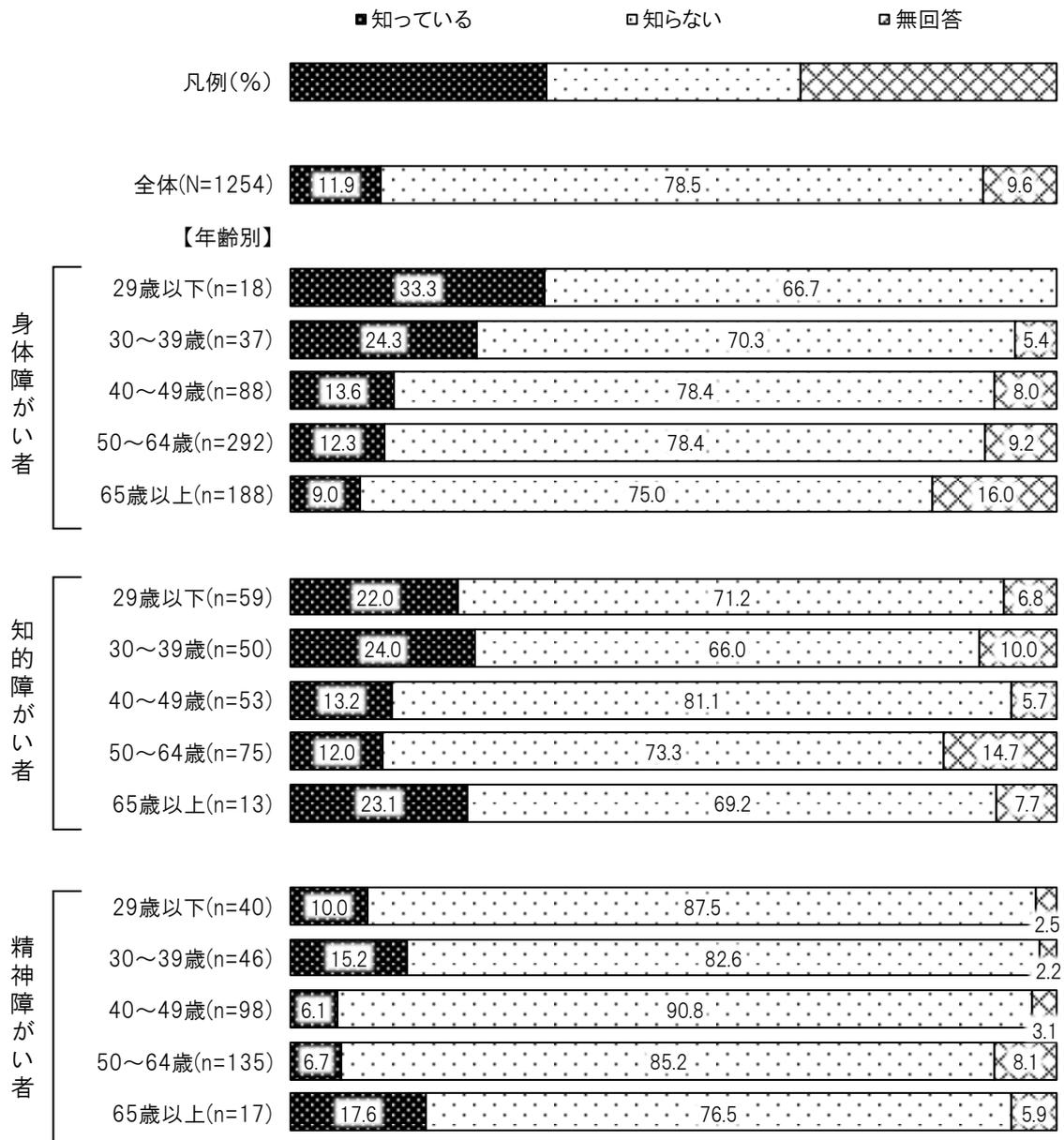
問 45 あなたは、障がいを経由とした差別を受けた場合の相談先を知っていますか。
(○は1つだけ)

差別を受けた場合の相談先については、「知っている」の割合が11.9%、「知らない」が78.5%となっている。

障がい種別では、精神障がい者はほかの障がいに比べ「知らない」の割合が高くなっている。



年齢別でみると、身体障がい者では若い年齢層ほど「知っている」の割合が増える傾向にある。

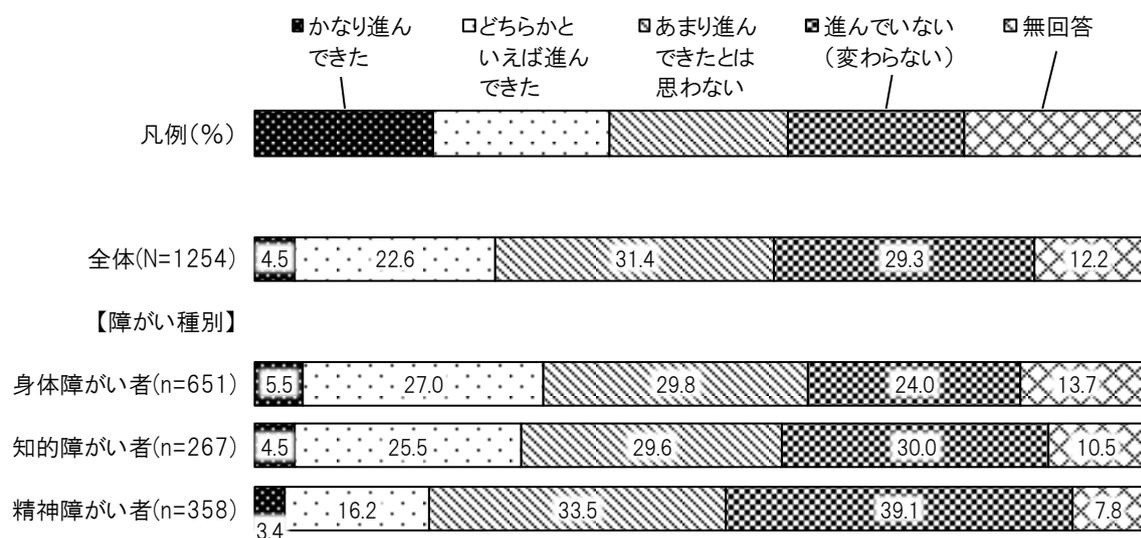


4 障がい者に対する地域の人々の理解について

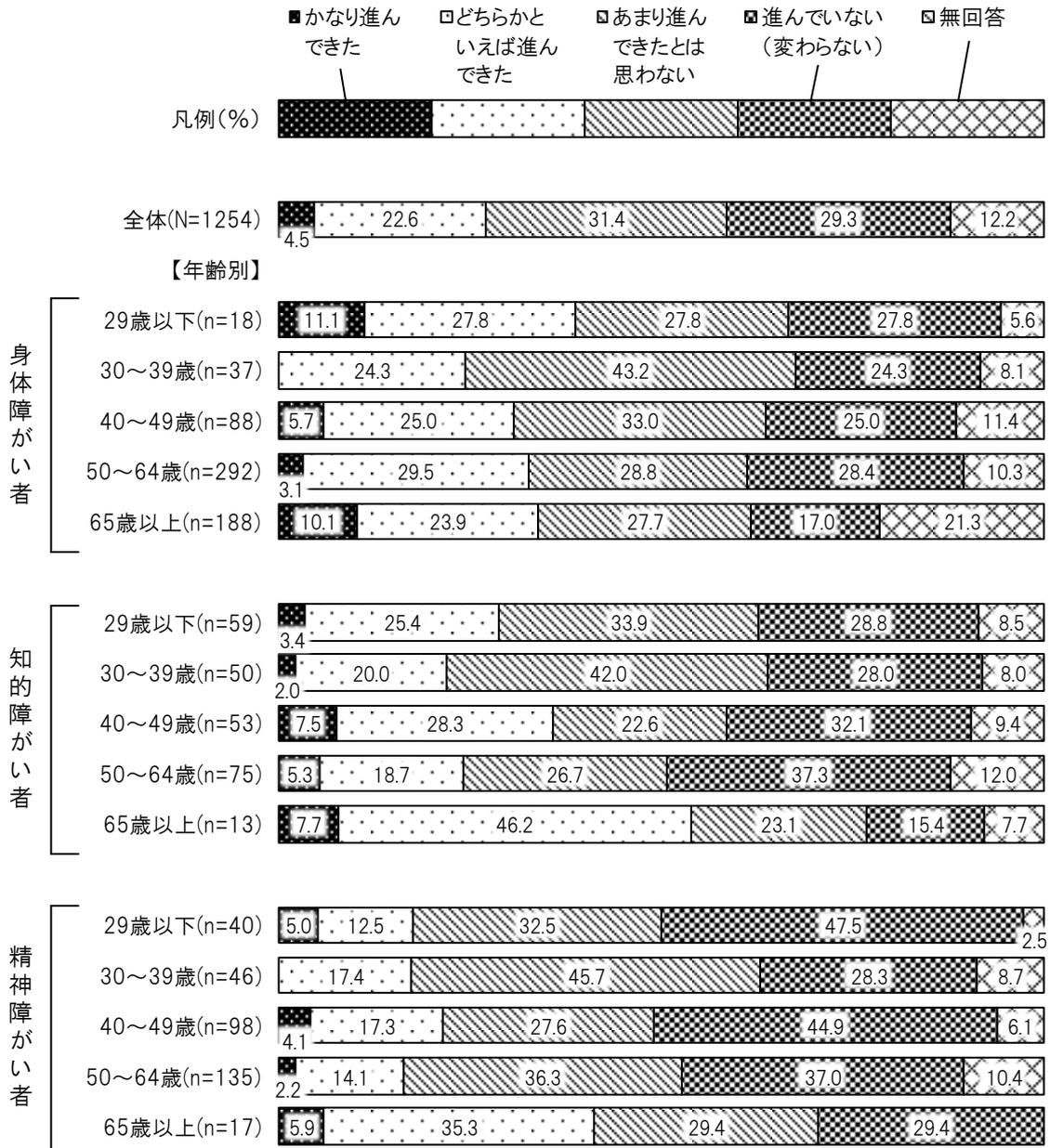
問 46 あなたは、障がいのある人に対する、地域の人々の理解は進んできたと思いますか。
(○は1つだけ)

障がい者に対する地域の人々の理解については、「かなり進んできた」が 4.5%、「どちらかといえば進んできた」が 22.6%で、合計 27.1%が『進んできた』と回答している。一方、「あまり進んできたとは思わない」(31.4%)、「進んでいない(変わらない)」(29.3%)の合計は 60.7%であった。

障がい種別では、精神障がい者はほかの障がいに比べ『進んでいない(合計)』の割合が高くなっている。



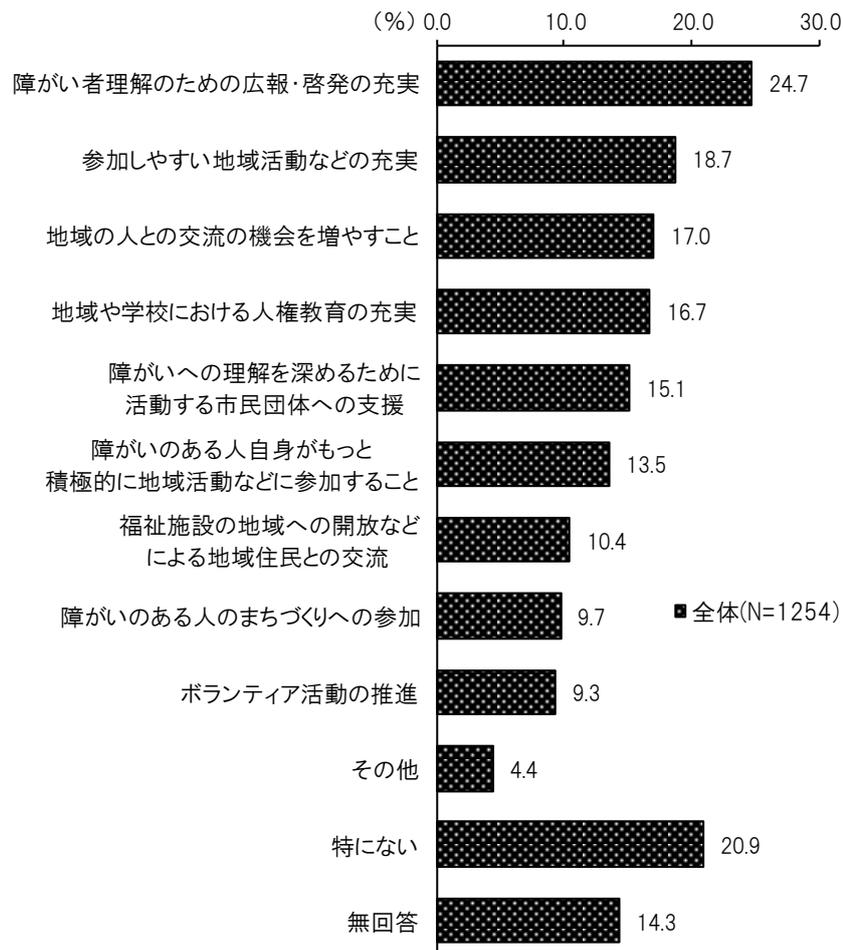
年齢別では、知的障がい者や精神障がい者の65歳以上で「どちらかといえば進んできた」の割合がほかの年齢層に比べて高く、いずれの障がいにおいても30～39歳で「あまり進んできたとは思わない」の割合が高くなっている。



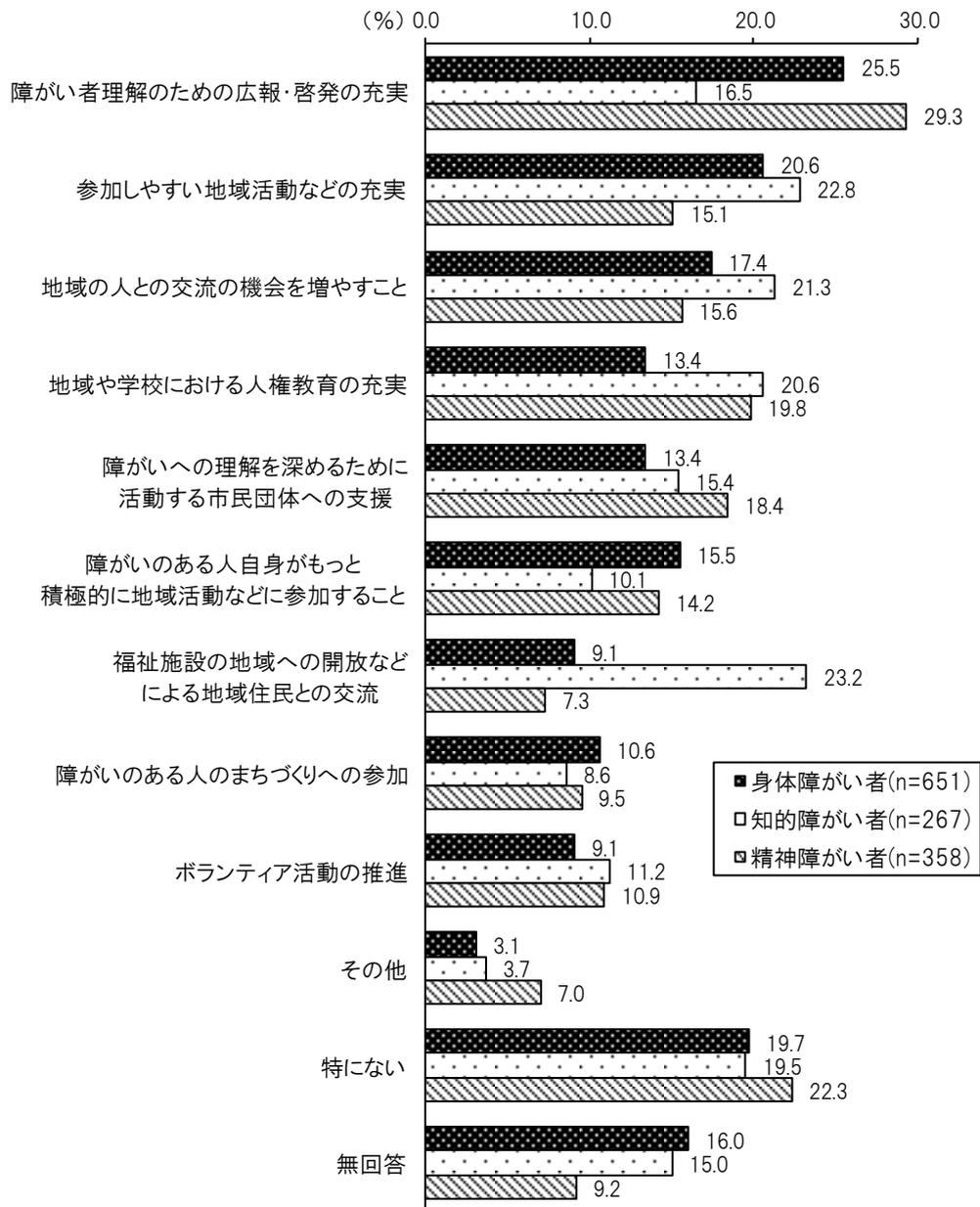
5 障がい者に対する理解を深めるために必要な取組

問 47 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深め、共に地域で支え合って生活していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

障がい者に対する理解を深めるために必要な取組については、「障がい者理解のための広報・啓発の充実」の割合が24.7%と最も高く、次いで「参加しやすい地域活動などの充実」(18.7%)、「地域の人との交流の機会を増やすこと」(17.0%)、「地域や学校における人権教育の充実」(16.7%)、「障がいへの理解を深めるために活動する市民団体への支援」(15.1%)の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「地域の人との交流の機会を増やすこと」「福祉施設の地域への開放などによる地域住民との交流」、精神障がい者で「障がい者理解のための広報・啓発の充実」などの割合がほかの障がいに比べて高くなっている。



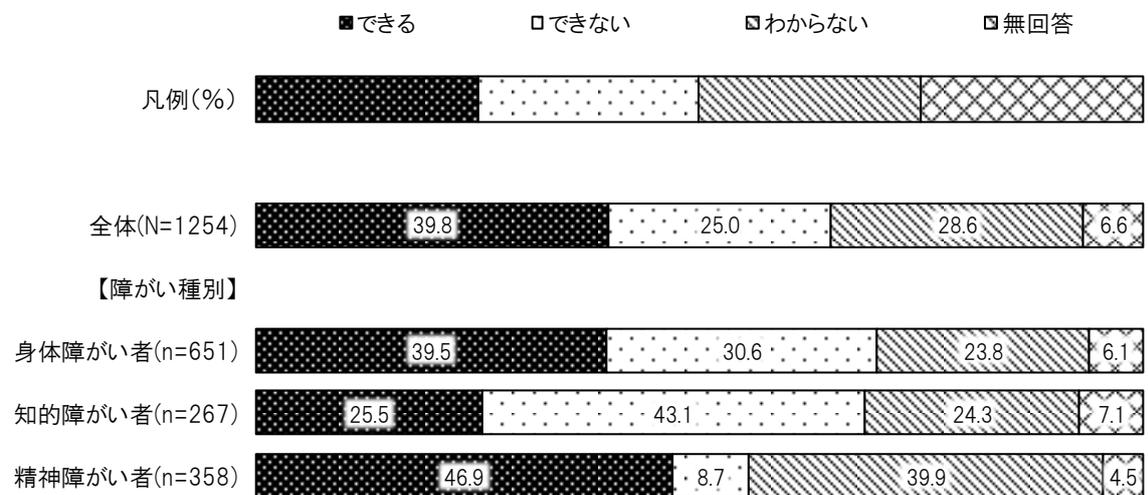
【8】災害時の対応について

1 災害時に自力で避難すること

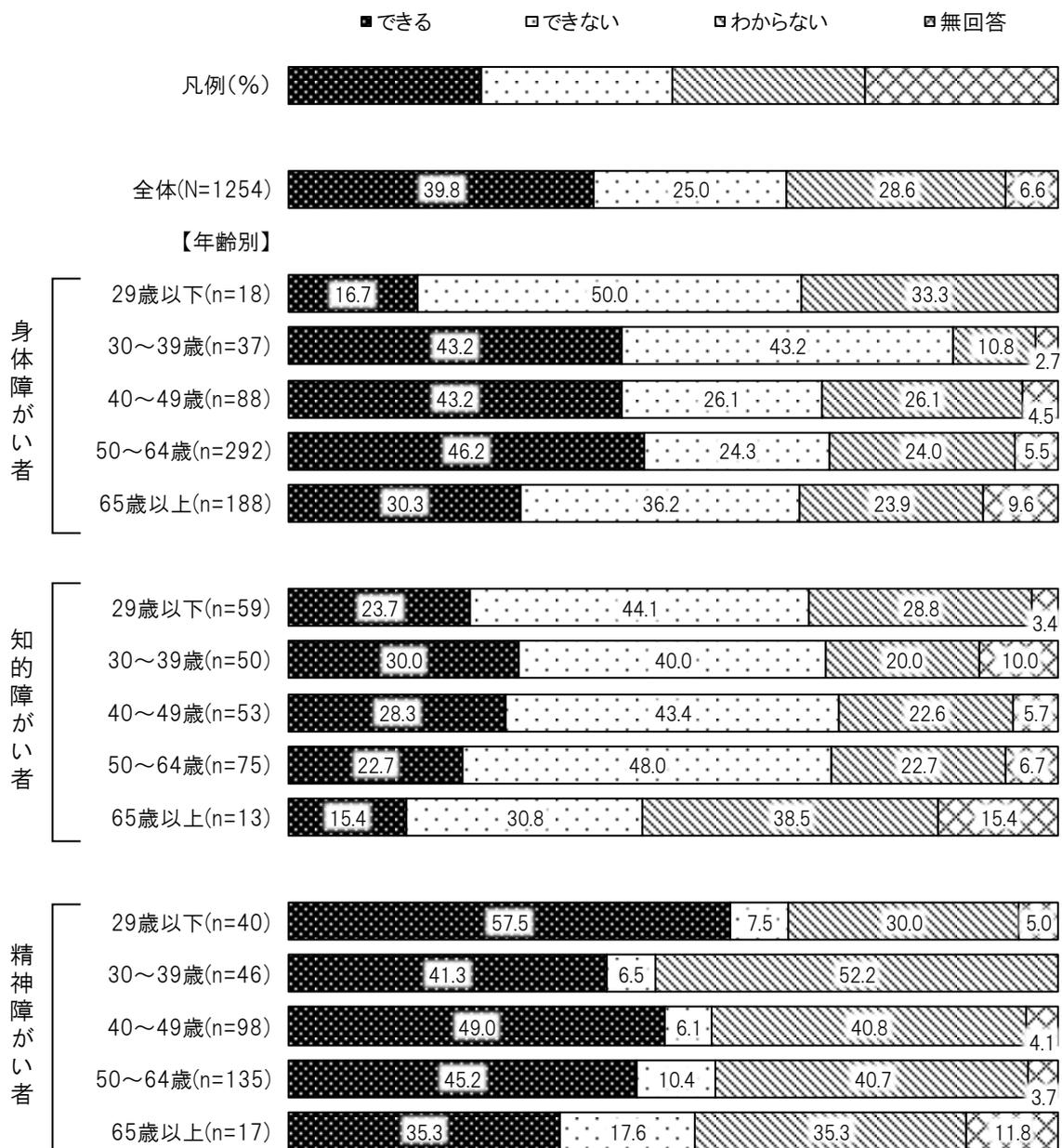
問 48 あなたは、風水害や火事・地震などの災害時に自力で避難できますか。
 (○は1つだけ)

災害時に自力で避難することについては、「できる」の割合が39.8%、「できない」が25.0%、「わからない」が28.6%となっている。

障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「できない」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。



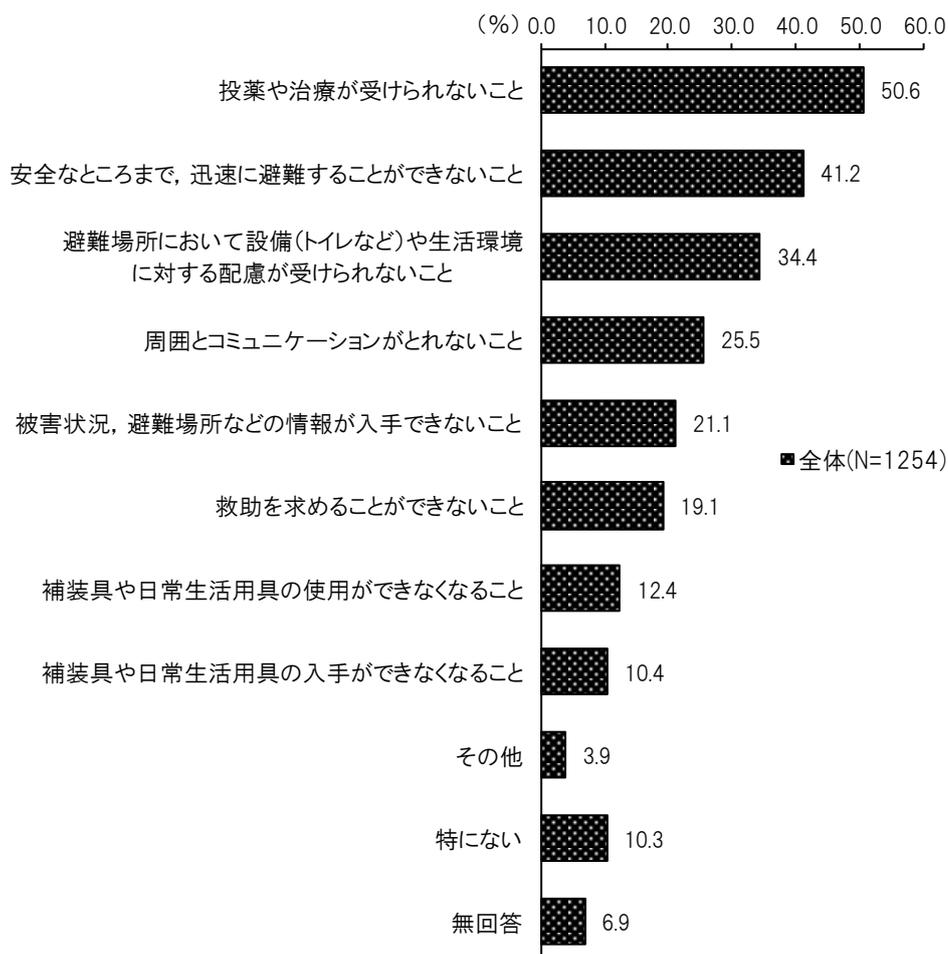
年齢別では、身体障がい者の39歳以下で「できない」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。



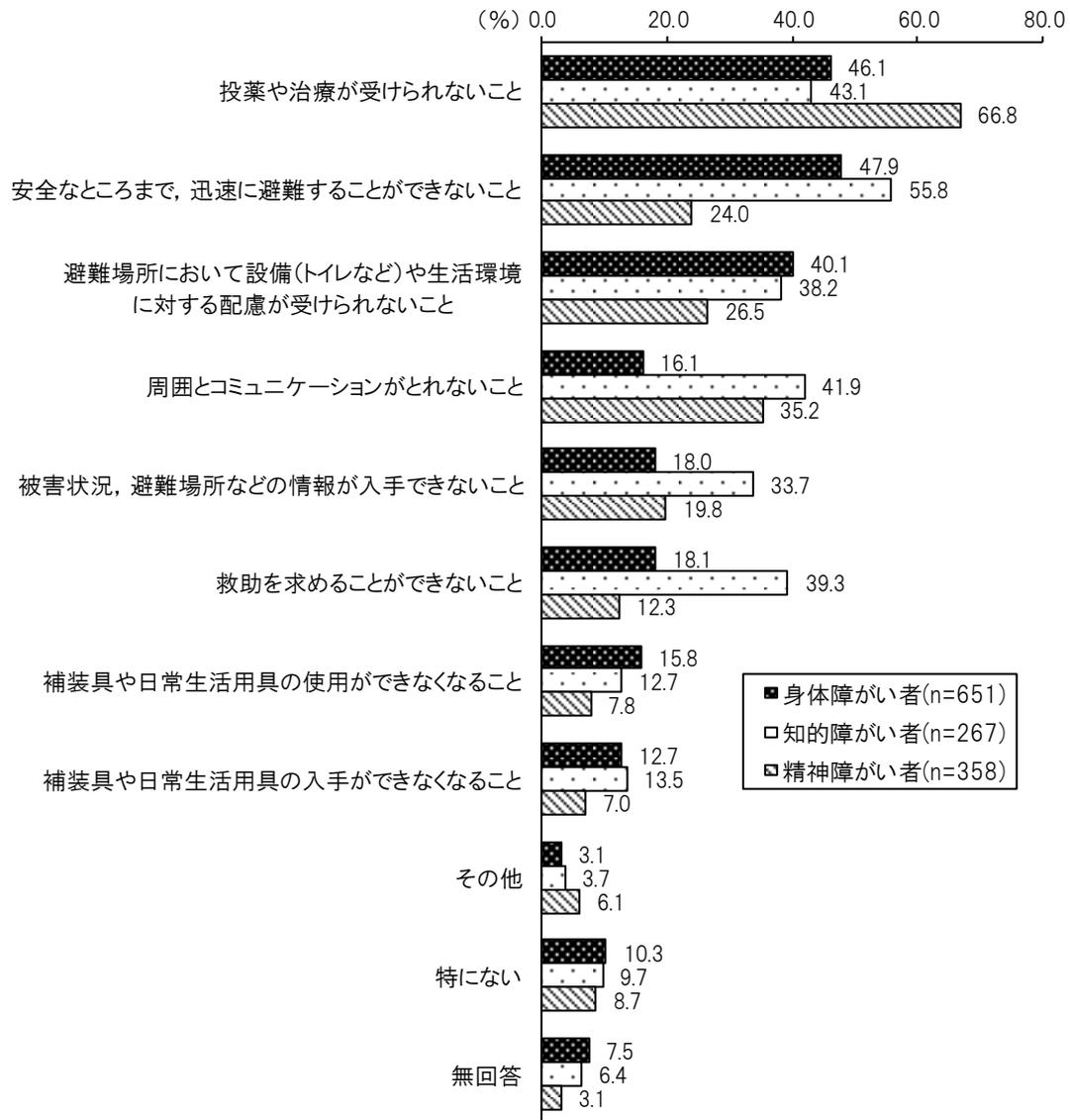
2 災害時に困ること

問 49 風水害や火事・地震などの災害時に困ると思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることについては、「投薬や治療が受けられないこと」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「安全なところまで、迅速に避難することができないこと」(41.2%)、「避難場所において設備(トイレなど)や生活環境に対する配慮が受けられないこと」(34.4%)、「周囲とコミュニケーションがとれないこと」(25.5%)、「被害状況、避難場所などの情報が入手できないこと」(21.1%)の順となっている。



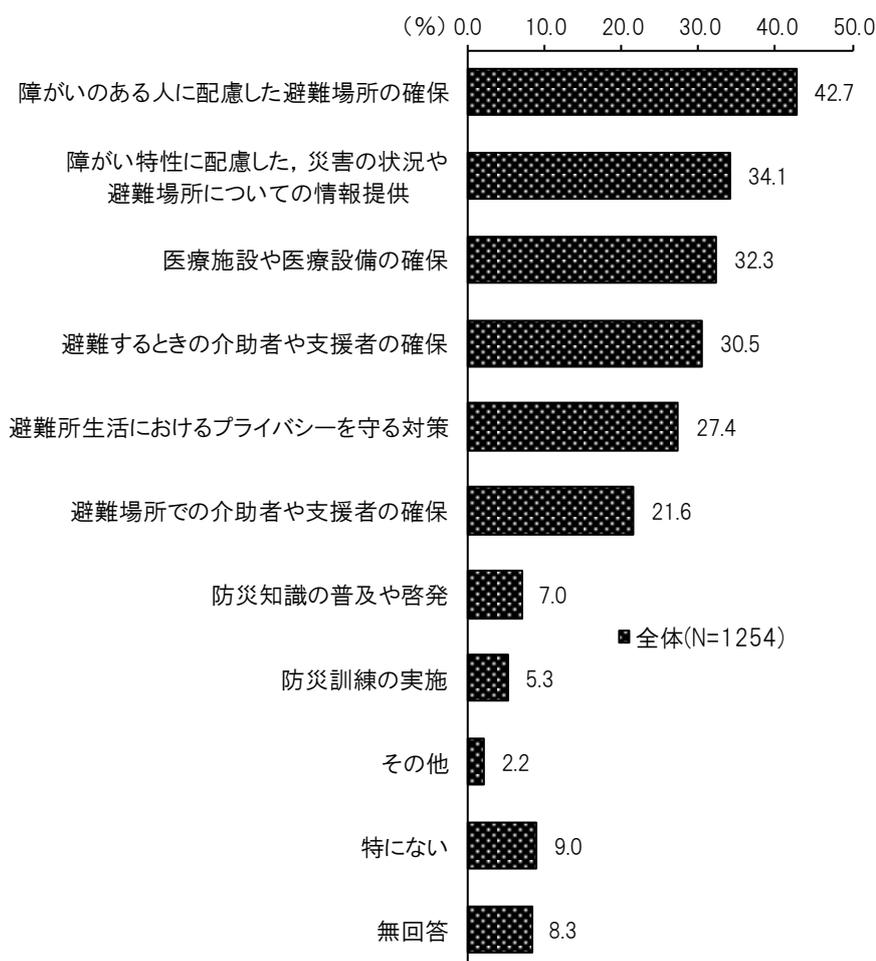
障がい種別では、知的障がい者で「被害状況、避難場所などの情報が入手できないこと」「救助を求めることができないこと」、精神障がい者で「投薬や治療が受けられないこと」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。



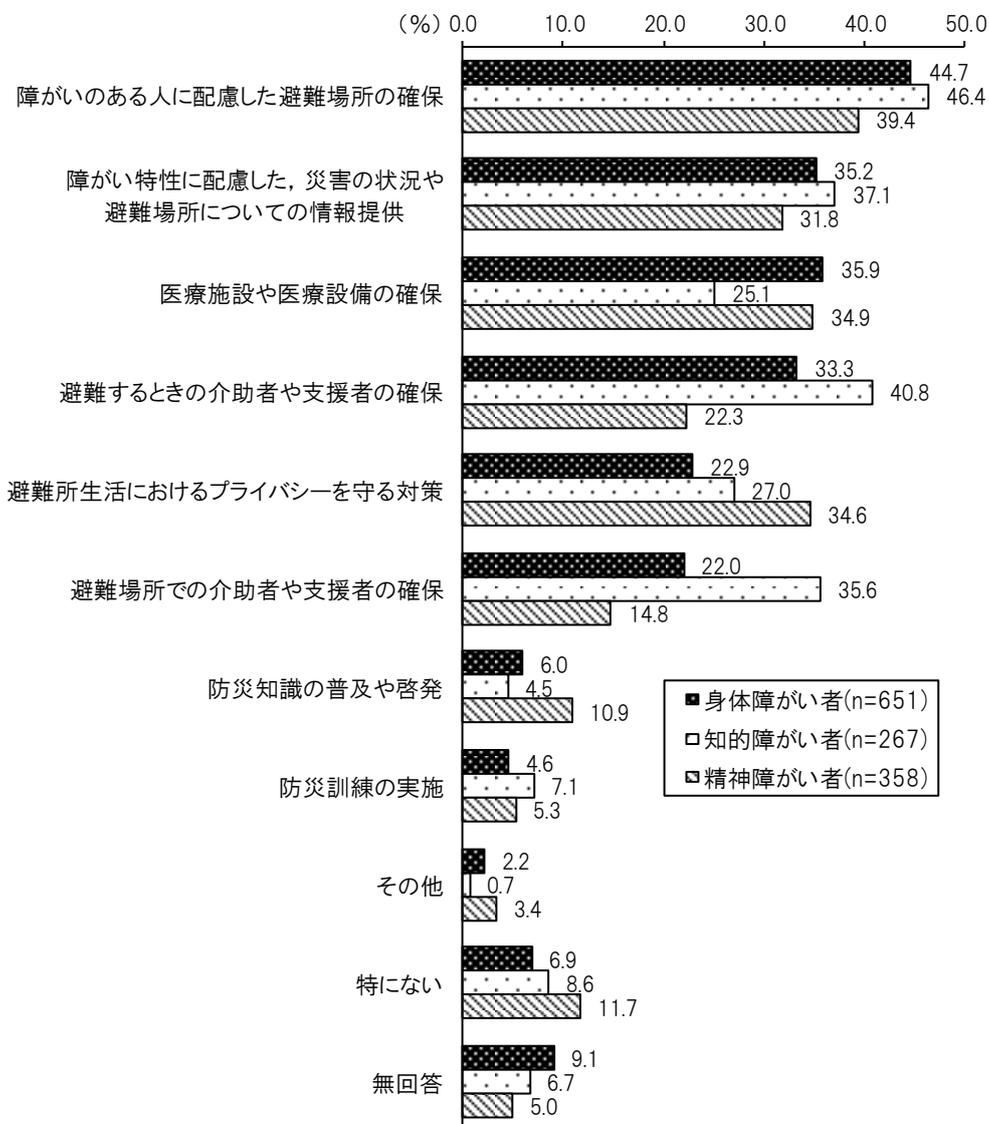
3 災害時の備えとして必要な対策

問 50 風水害や火事・地震などの災害時の備えとして、どのような対策が必要だと思いますか。（主なものを3つまでに○）

災害時の備えとして必要な対策については、「障がいのある人に配慮した避難場所の確保」の割合が42.7%と最も高く、次いで「障がい特性に配慮した、災害の状況や避難場所についての情報提供」（34.1%）、「医療施設や医療設備の確保」（32.3%）、「避難するときの介助者や支援者の確保」（30.5%）、「避難所生活におけるプライバシーを守る対策」（27.4%）の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「避難するときの介助者や支援者の確保」「避難場所での介助者や支援者の確保」、精神障がい者で「避難所生活におけるプライバシーを守る対策」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

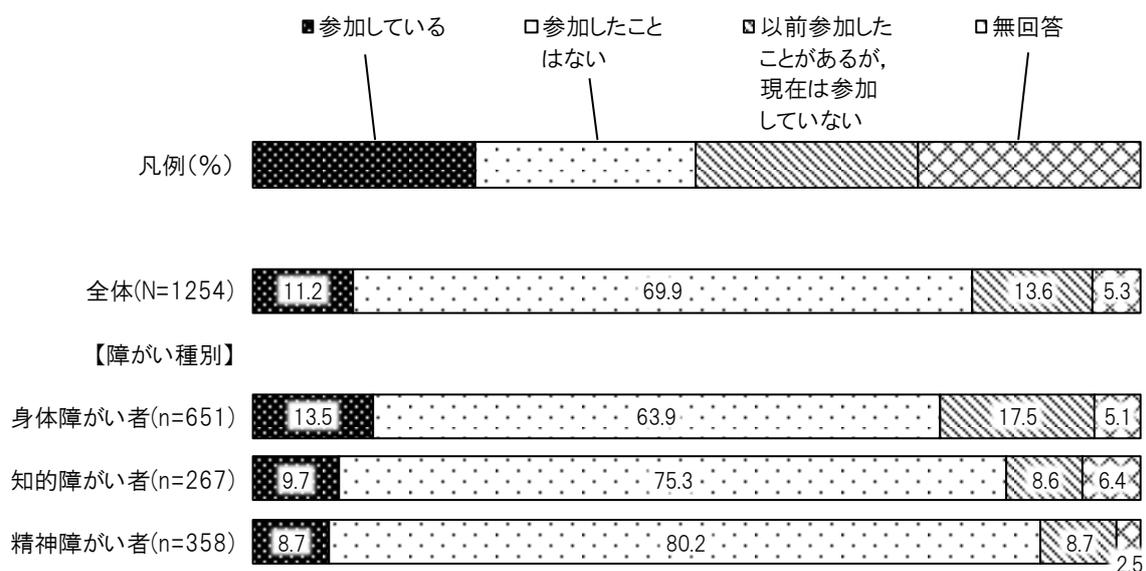


4 防災訓練への参加状況

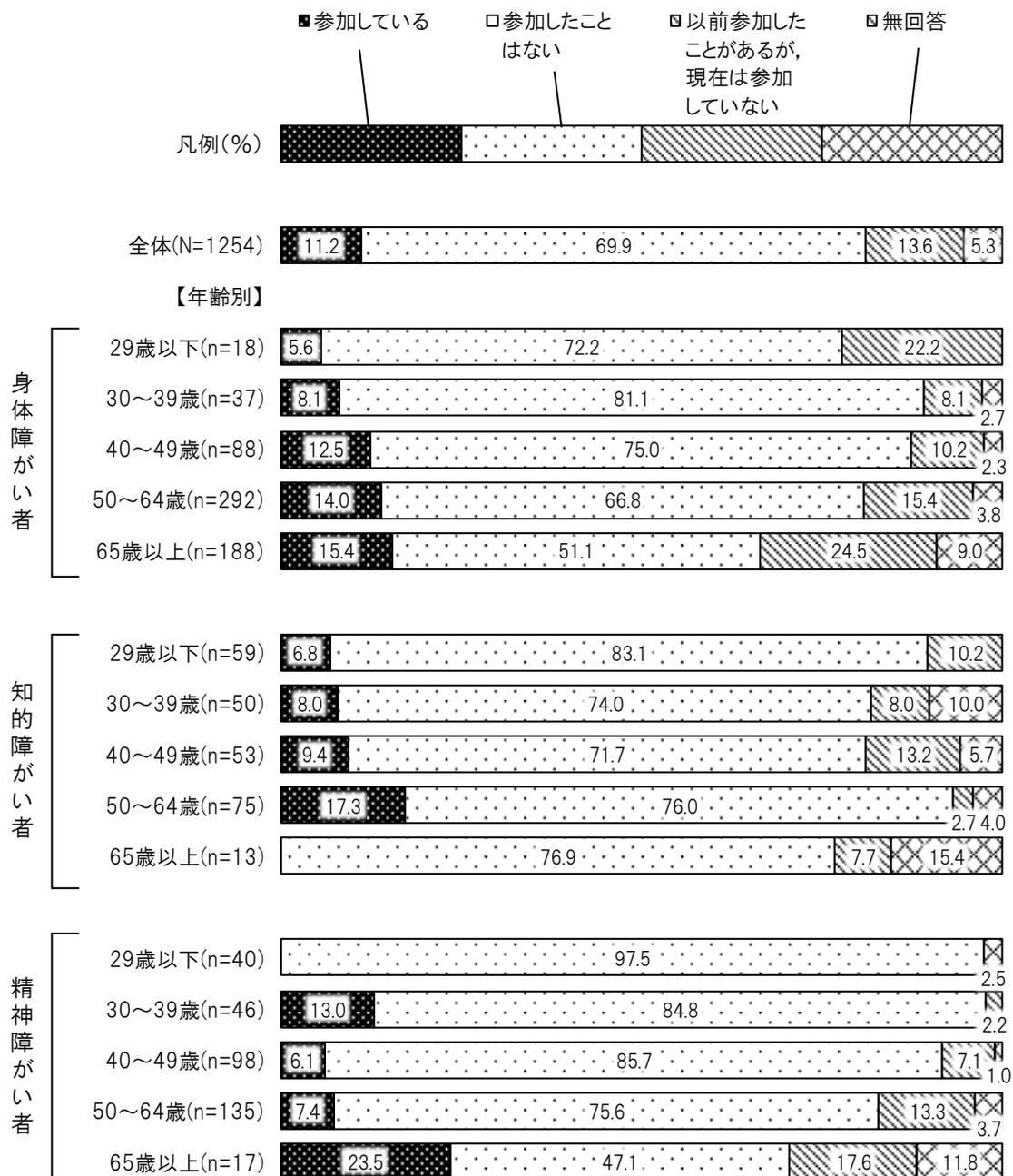
問 51 あなたは、地域で行われる防災訓練に参加していますか。（○は1つだけ）

防災訓練への参加状況については、「参加している」が 11.2%、「以前参加したことがあるが、現在は参加していない」が 13.6%、合計で 24.8%となっている。一方、約7割（69.9%）は「参加したことはない」と回答している。

障がい種別では、身体障がい者で「参加している」「以前参加したことがあるが、現在は参加していない」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。



年齢別では、知的障がい者の50～64歳や精神障がい者の65歳以上で「参加している」、身体障がい者の29歳以下や65歳以上、精神障がい者の65歳以上で「以前参加したことがあるが、現在は参加していない」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

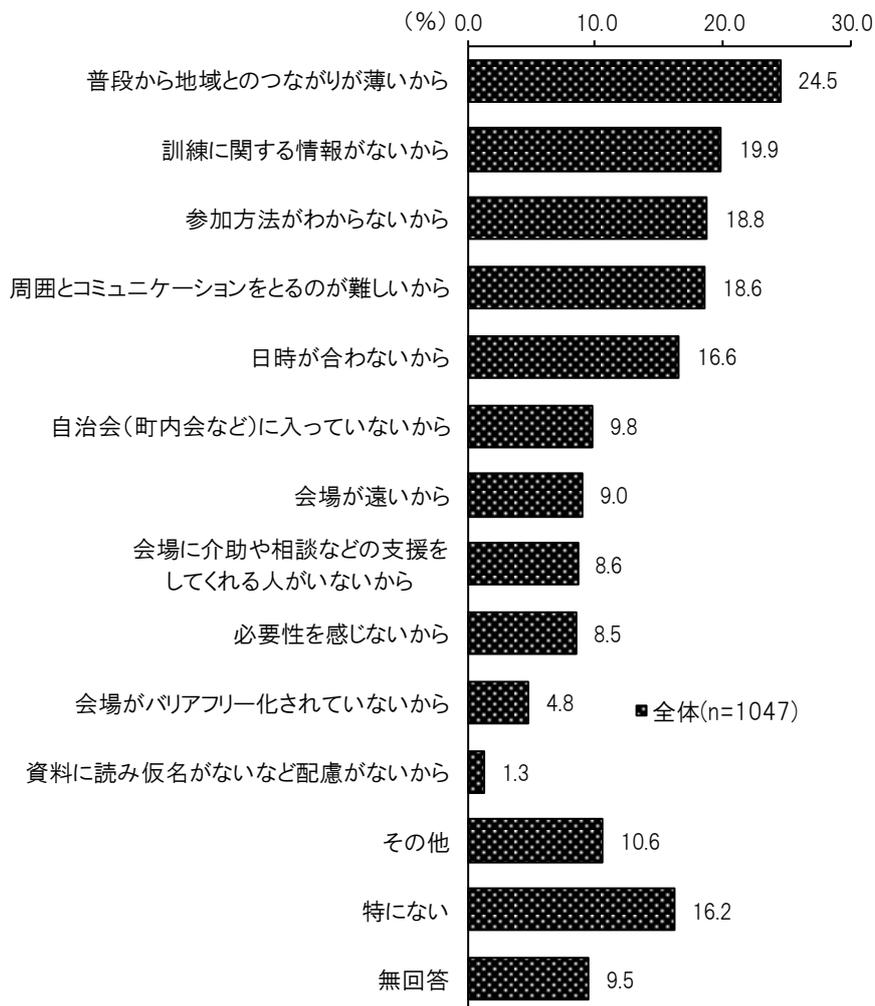


5 防災訓練に参加していない理由

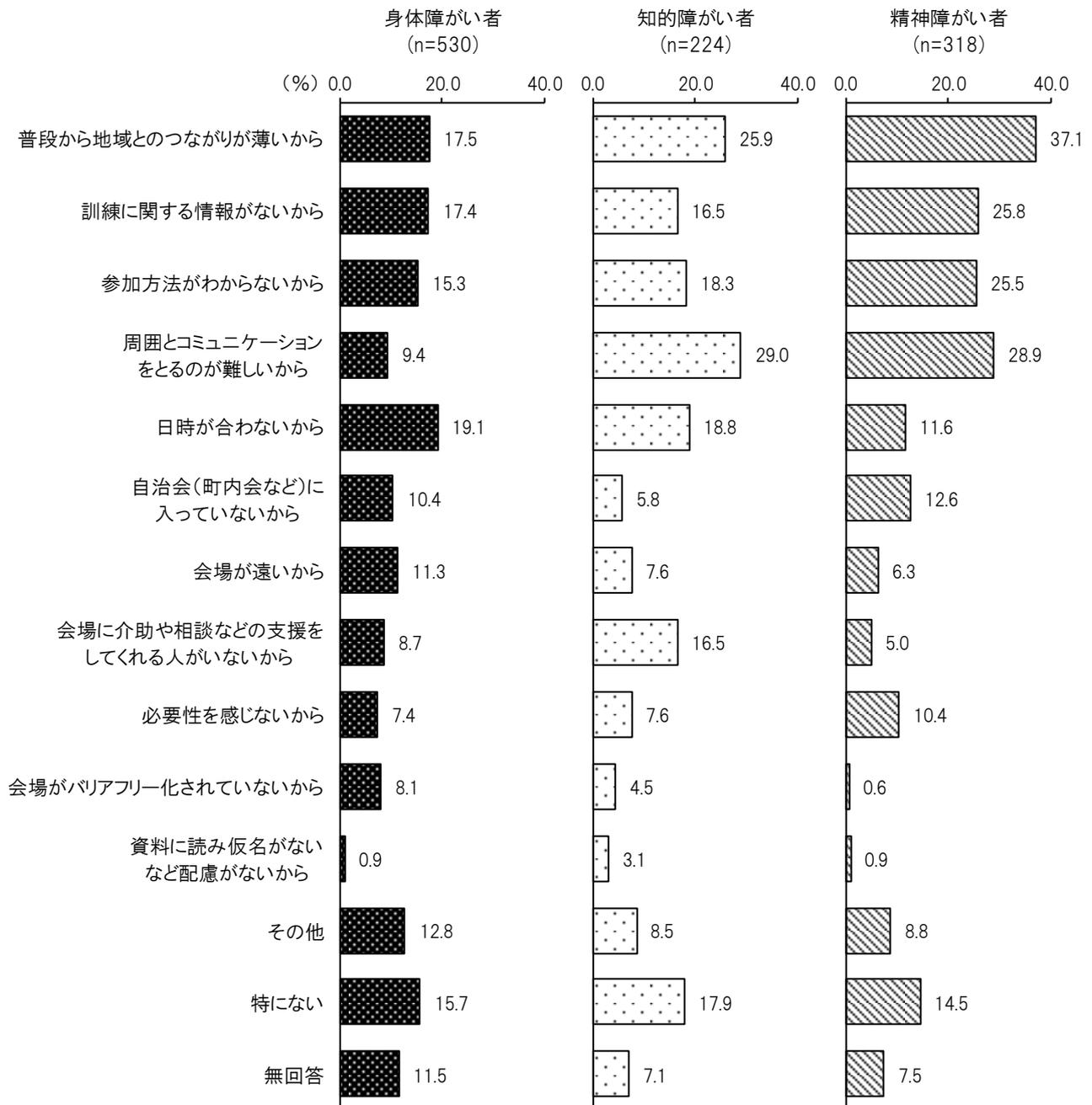
【問 51 で地域で行われる防災訓練に「参加したことはない」「以前参加したことがあるが、現在は参加していない」を選んだ方について】

問 52 現在、防災訓練に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

防災訓練に参加していない理由については、「普段から地域とのつながりが薄いから」の割合が 24.5%と最も高く、次いで「訓練に関する情報がないから」(19.9%)、「参加方法がわからないから」(18.8%)、「周囲とコミュニケーションをとるのが難しいから」(18.6%)、「日時が合わないから」(16.6%) の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「会場に介助や相談などの支援をしてくれる人がいないから」、精神障がい者で「普段から地域とのつながりが薄いから」「訓練に関する情報がないから」「参加方法がわからないから」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

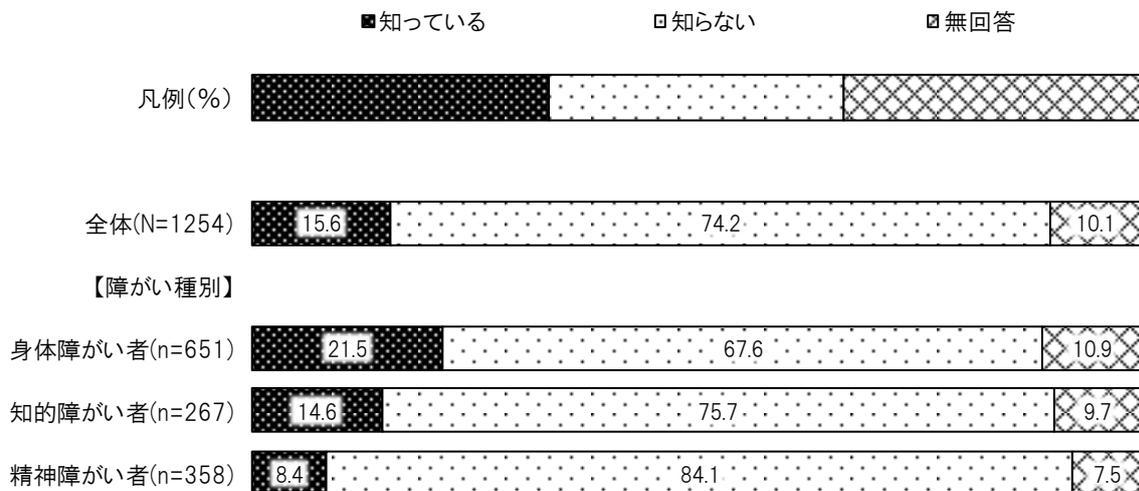


6 避難行動要支援者避難支援制度の認知状況

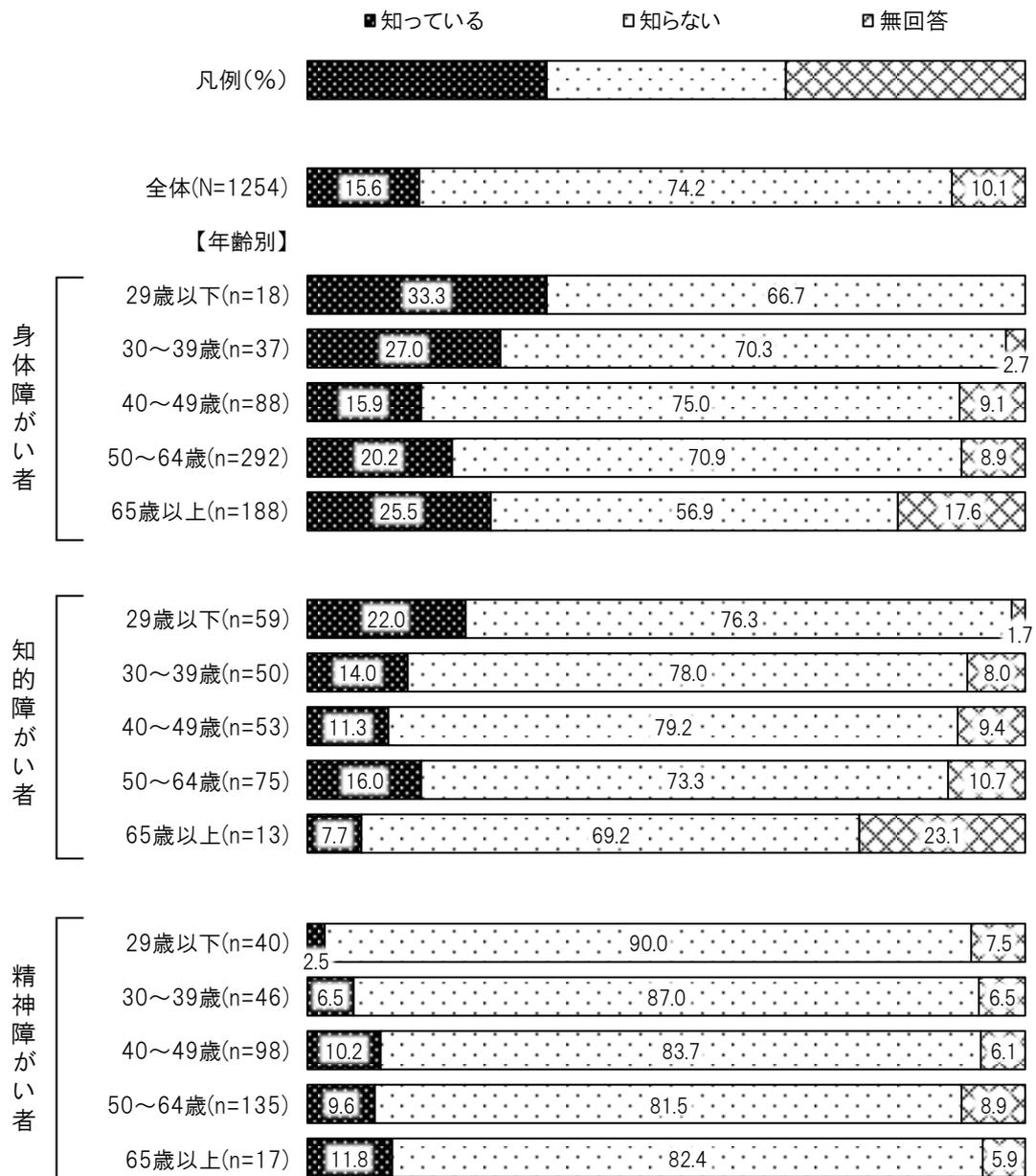
問 53 あなたは、風水害や火事・地震などの災害時に、自力で避難することができない高齢者や障がい者などを、住民相互の助け合いで避難を支援する「避難行動要支援者避難支援制度」を知っていますか。（○は1つだけ）

避難行動要支援者避難支援制度の認知状況については、「知っている」の割合が15.6%、「知らない」が74.2%となっている。

障がい種別では、身体障がい者はほかの障がいに比べ「知っている」の割合が高くなっている。



年齢別では、身体障がい者や知的障がい者の 29 歳以下で「知っている」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。



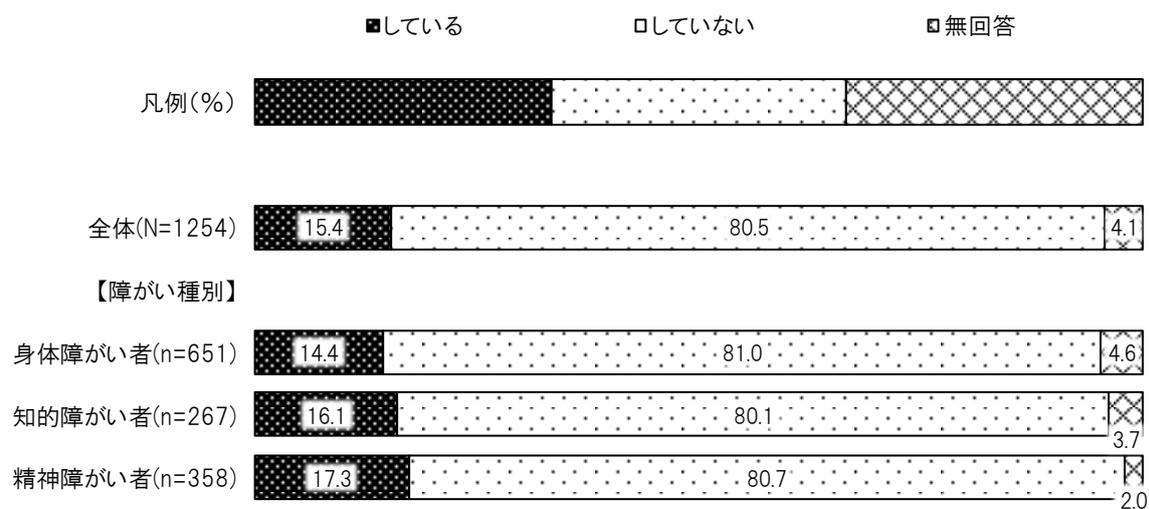
【9】スポーツ活動について

1 スポーツをすること

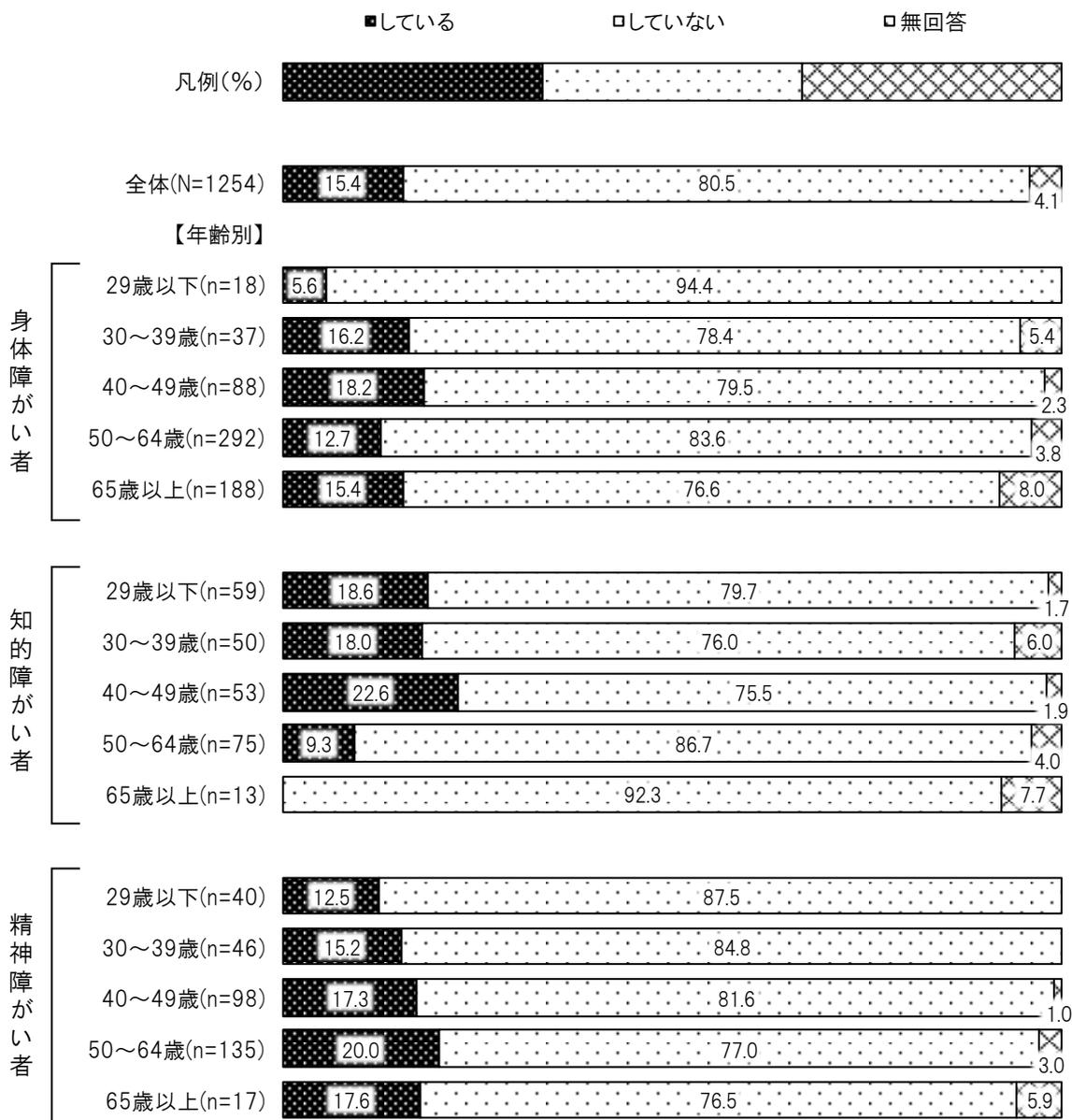
問 54 あなたはふだん、スポーツをしていますか。（○は1つだけ）

スポーツをすることについては、「している」の割合が15.4%、「していない」が80.5%となっている。

障がい種別では、大きな差はみられない。



年齢別では、知的障がい者の49歳以下で「している」の割合が50歳以上の年齢層に比べて高く、身体障がい者の29歳以下や知的障がい者の50歳以上で「していない」の割合が高くなっている。



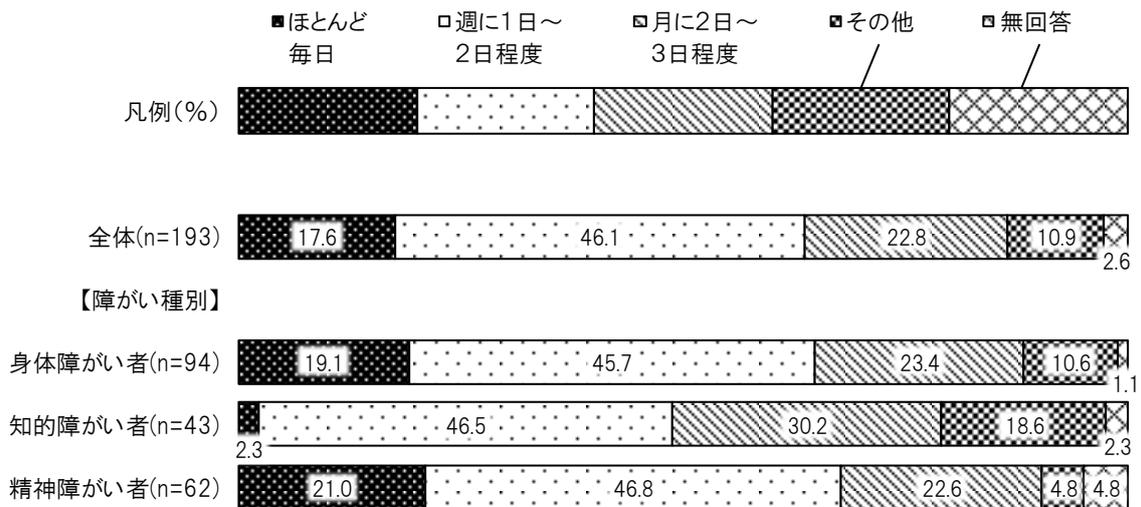
2 スポーツをする頻度

【問 54 でふだんスポーツを「している」を選んだ方について】

問 55 どのくらいの頻度でスポーツをしていますか。(○は1つだけ)

スポーツをする頻度については、「週に1日～2日程度」の割合が46.1%と最も高く、次いで「月に2日～3日程度」が22.8%、「ほとんど毎日」が17.6%となっている。

障がい種別でみると、知的障がい者では「月に2日～3日程度」の割合がほかの障がいに比べて高く、「ほとんど毎日」の割合が低くなっている。



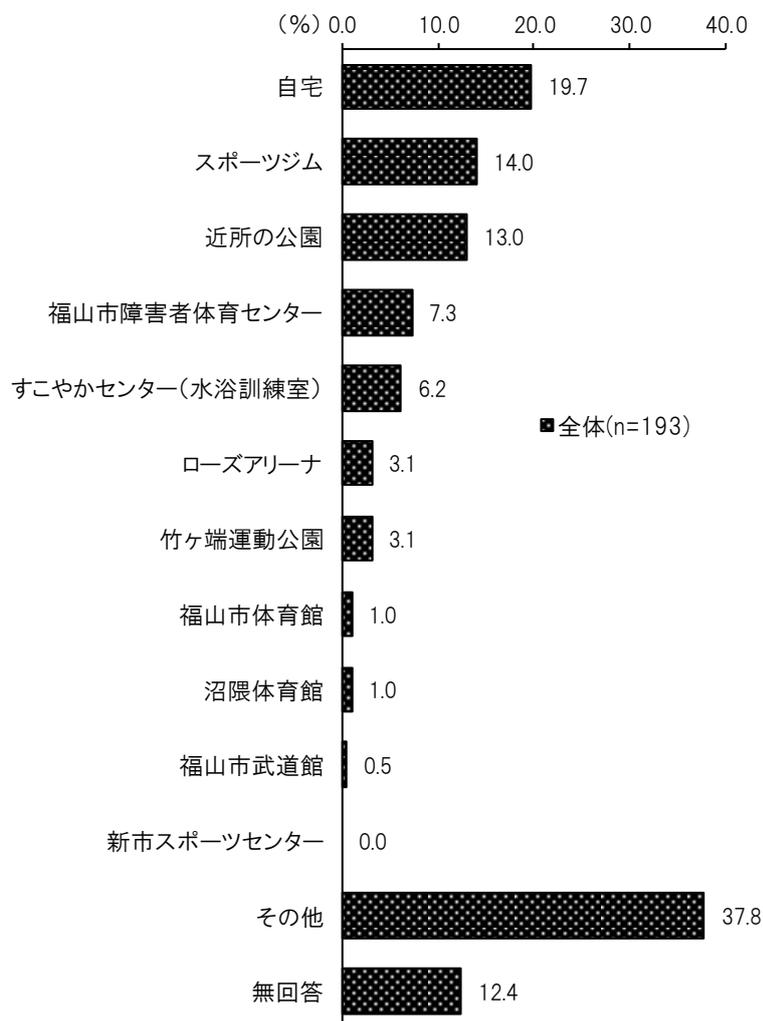
3 スポーツをする場所

【問 54 でふだんスポーツを「している」を選んだ方について】

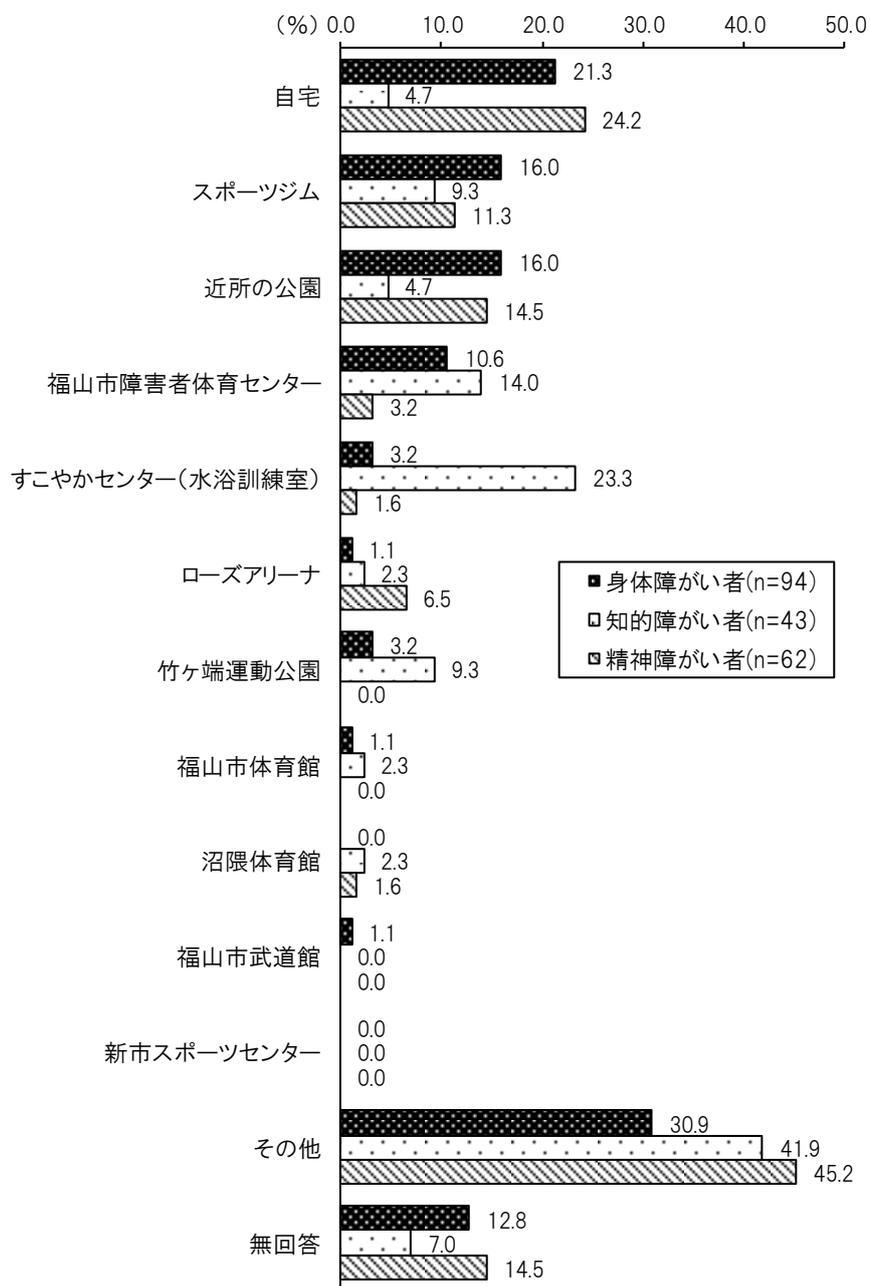
問 56 どこでスポーツをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

スポーツをする場所については、「自宅」の割合が 19.7%と最も高く、次いで「スポーツジム」(14.0%)、「近所の公園」(13.0%)、「福山市障害者体育センター」(7.3%)、「すこやかセンター(水浴訓練室)」(6.2%)の順となっている。

また「その他」では、「自宅周辺」「ゴルフ練習場」「デイサービスの施設」などの意見がみられた。



障がい種別では、身体障がい者で「スポーツジム」、知的障がい者で「すこやかセンター（水浴訓練室）」「竹ヶ端運動公園」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



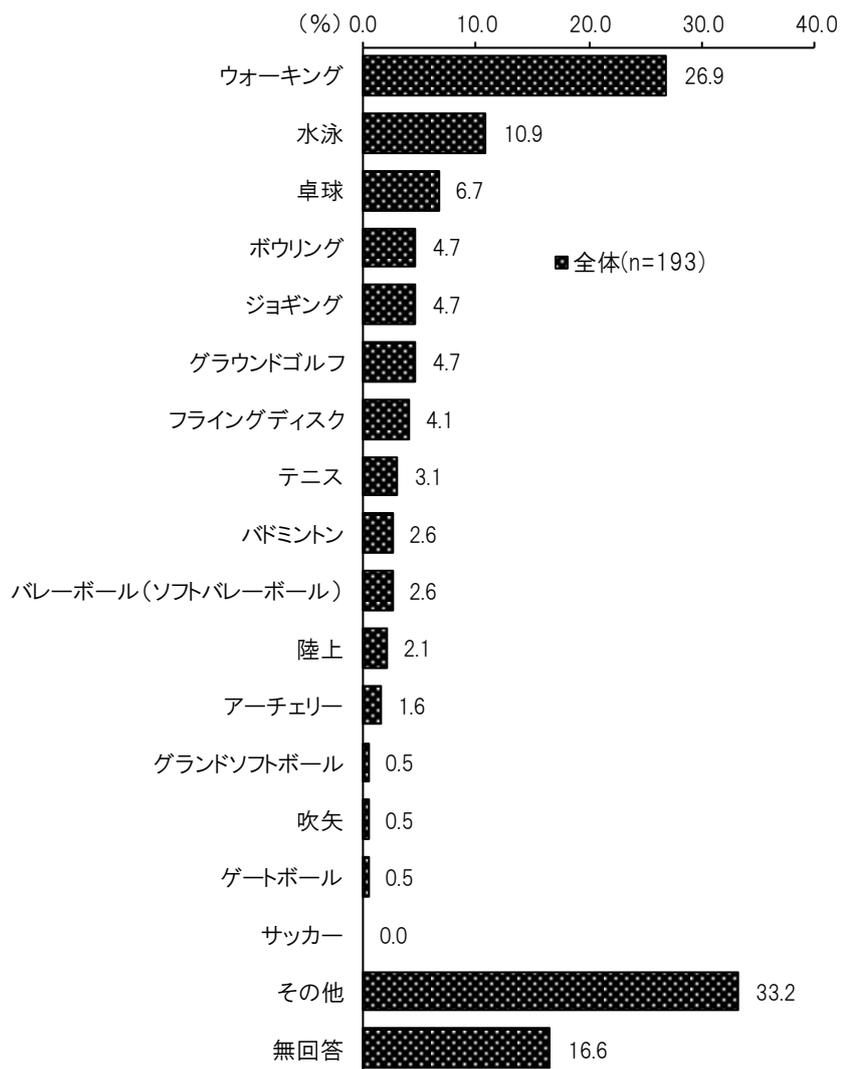
4 スポーツの種類

【問 54 でふだんスポーツを「している」を選んだ方について】

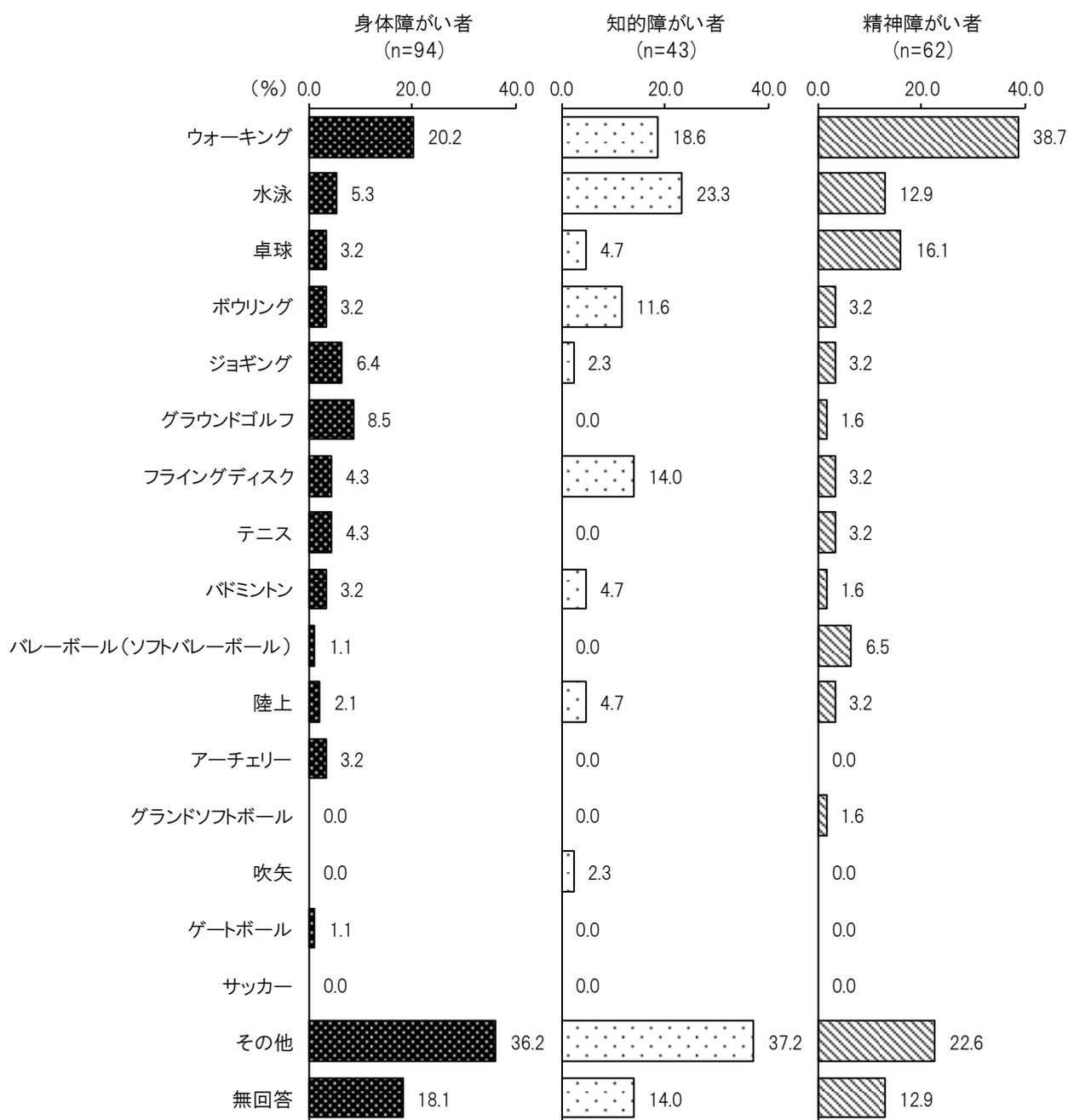
問 57 どのようなスポーツをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

スポーツの種類については、「ウォーキング」の割合が 26.9%と最も高く、次いで「水泳」(10.9%)、「卓球」(6.7%) の順となっている。

また「その他」では、「筋トレ」「サイクリング」「ゴルフ」などの意見がみられた。



障がい種別では、身体障がい者で「グラウンドゴルフ」、知的障がい者で「水泳」「ボウリング」「フライングディスク」、精神障がい者で「ウォーキング」「卓球」「バレーボール（ソフトバレーボール）」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

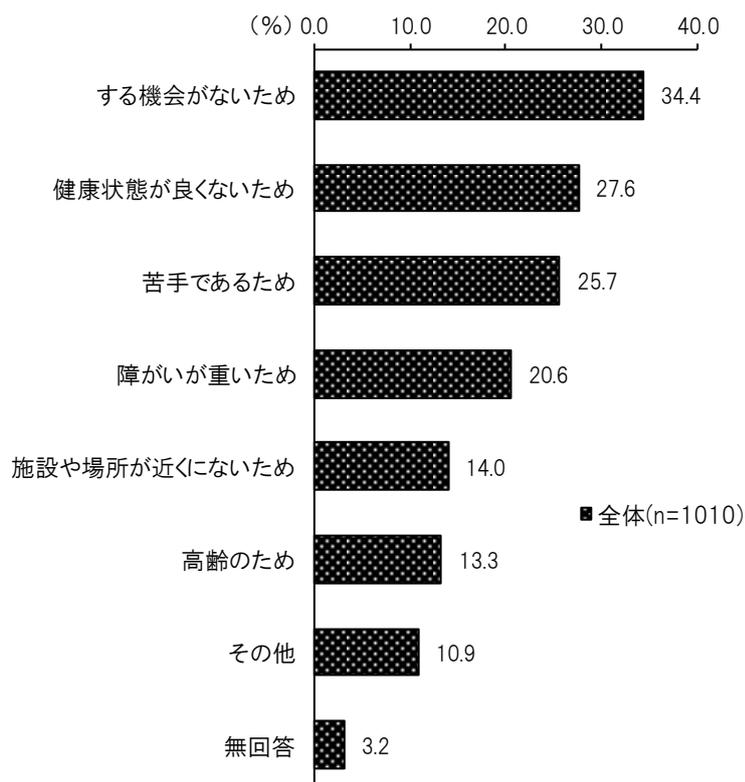


5 スポーツをしていない理由

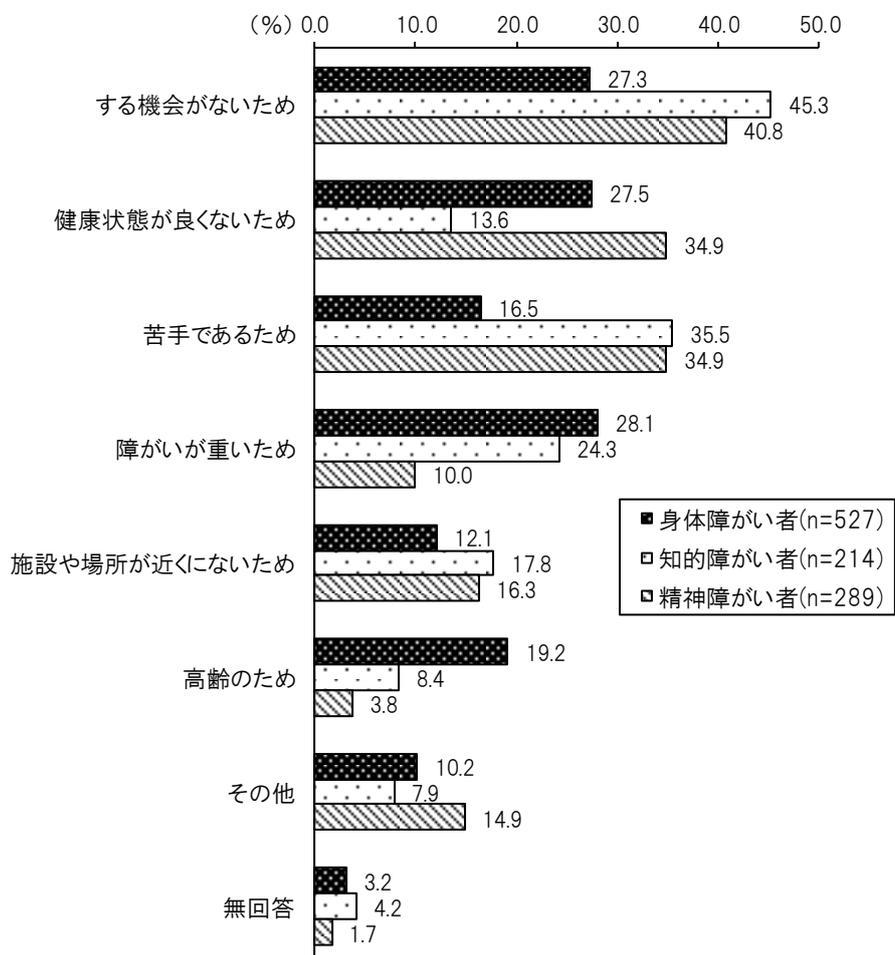
【問 54 でふだんスポーツを「していない」を選んだ方について】

問 58 スポーツをしていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

スポーツをしていない理由については、「する機会がないため」の割合が 34.4%と最も高く、次いで「健康状態が良くないため」(27.6%)、「苦手であるため」(25.7%)、「障がいがあるため」(20.6%)、「施設や場所が近くにないため」(14.0%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「高齢のため」、知的障がい者で「する機会がないため」、精神障がい者で「健康状態が良くないため」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

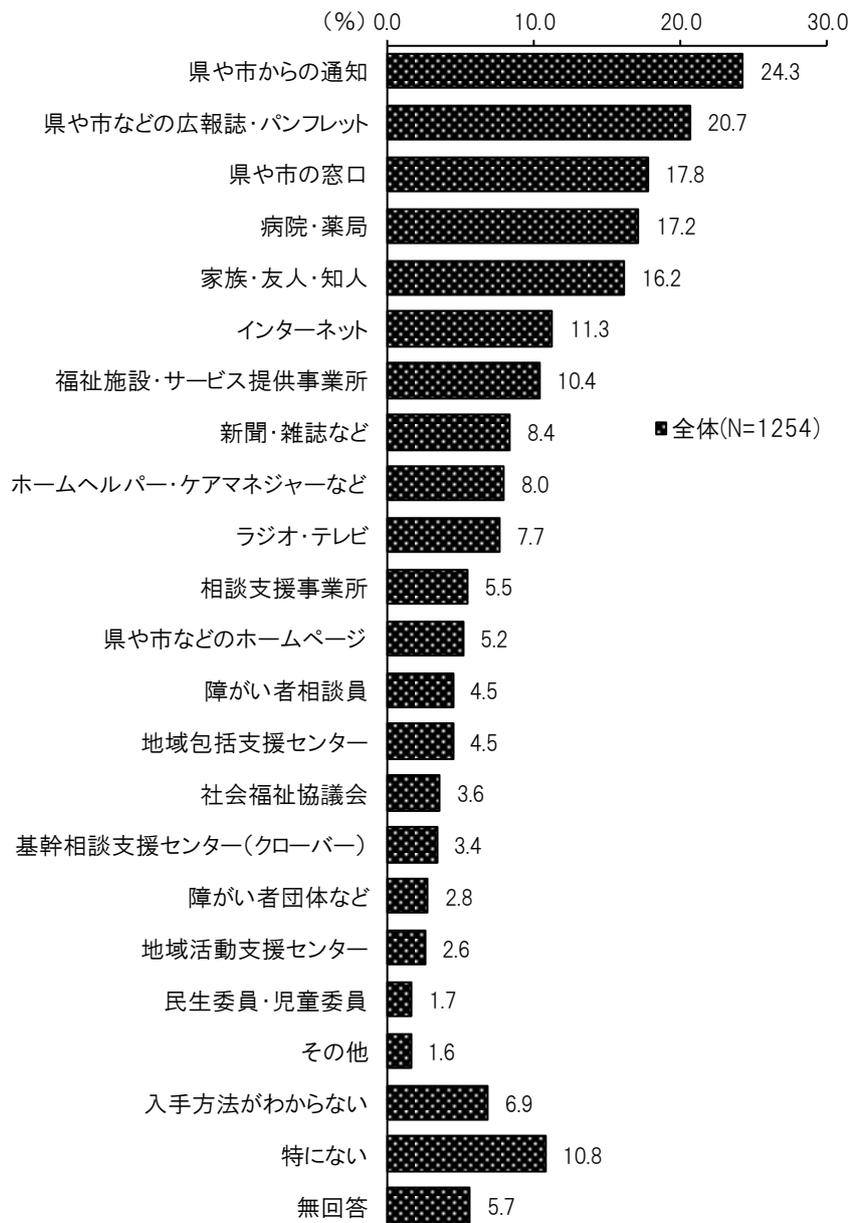


【10】行政の福祉施策などについて

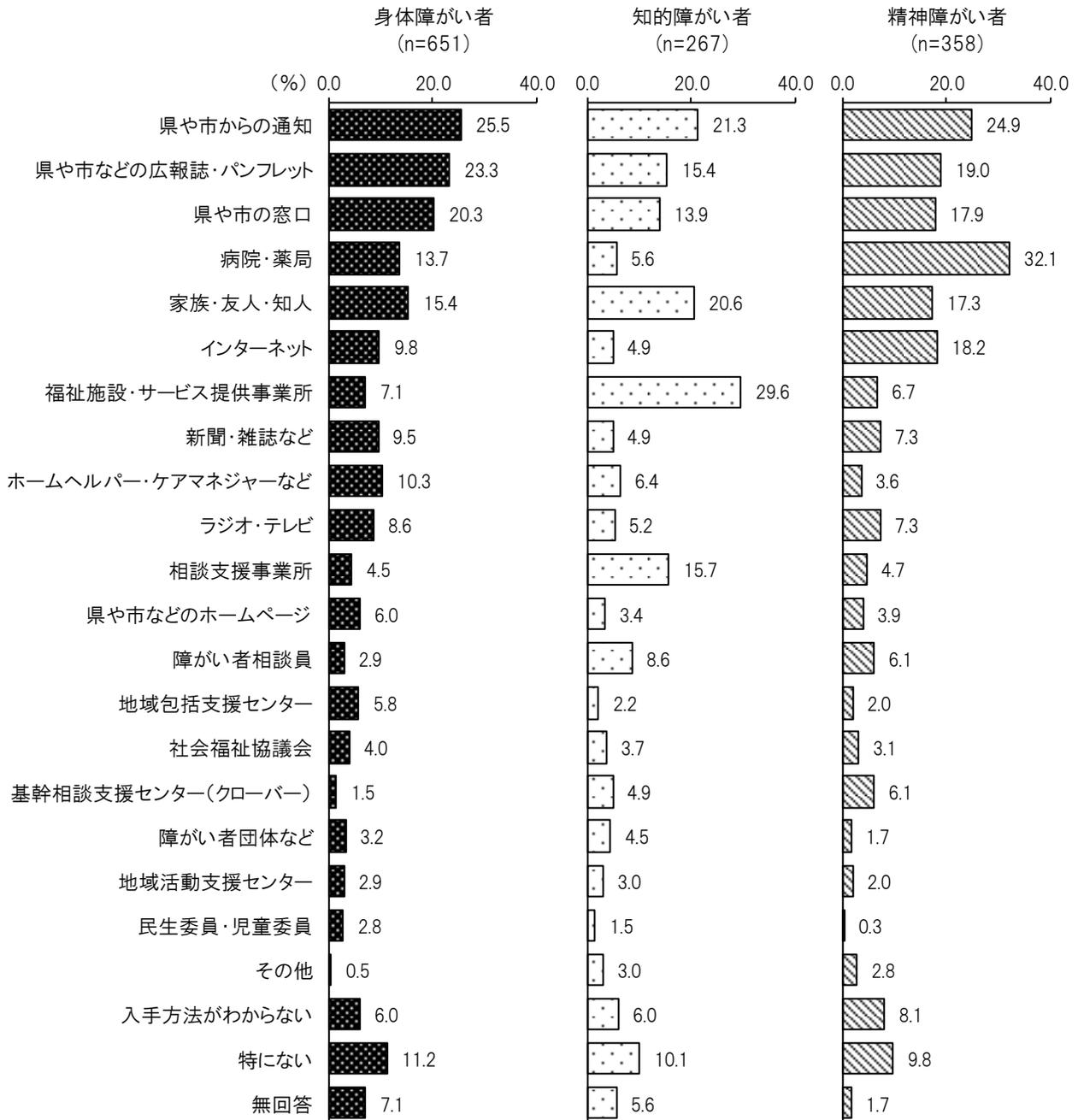
1 福祉情報の入手経路

問 59 あなたは、障がいのある人の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。
 (あてはまるものすべてに○)

福祉情報の入手経路については、「県や市からの通知」の割合が 24.3%と最も高く、次いで「県や市などの広報誌・パンフレット」(20.7%)、「県や市の窓口」(17.8%)、「病院・薬局」(17.2%)、「家族・友人・知人」(16.2%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「県や市などの広報誌・パンフレット」、知的障がい者で「福祉施設・サービス提供事業所」「相談支援事業所」、精神障がい者で「病院・薬局」「インターネット」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



年齢別では、身体障がい者の29歳以下で「障がい者相談員」、知的障がい者の30～39歳で「福祉施設・サービス提供事業所」、精神障がい者の29歳以下で「県や市の窓口」、精神障がい者の39歳以下で「インターネット」「基幹相談支援センター（クローバー）」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	県や市からの通知	県や市などの広報誌・パンフレット	県や市の窓口	病院・薬局	家族・友人・知人	インターネット	福祉施設・サービス提供事業所	新聞・雑誌など	ホームヘルパー・ケアマネジャーなど	ラジオ・テレビ	相談支援事業所
全体(N=1254)	24.3	20.7	17.8	17.2	16.2	11.3	10.4	8.4	8.0	7.7	5.5
【身体障がい者】											
29歳以下(n=18)	16.7	16.7	22.2	0.0	38.9	11.1	22.2	0.0	5.6	0.0	22.2
30～39歳(n=37)	16.2	21.6	5.4	10.8	18.9	16.2	16.2	2.7	2.7	8.1	13.5
40～49歳(n=88)	21.6	20.5	28.4	8.0	12.5	18.2	5.7	10.2	3.4	6.8	5.7
50～64歳(n=292)	25.0	22.9	24.0	15.8	13.4	12.0	6.2	9.6	8.6	7.9	3.8
65歳以上(n=188)	30.3	27.1	13.3	15.4	17.0	1.6	6.4	11.2	18.6	12.2	1.6
【知的障がい者】											
29歳以下(n=59)	23.7	11.9	18.6	5.1	39.0	11.9	18.6	5.1	10.2	3.4	15.3
30～39歳(n=50)	30.0	24.0	18.0	12.0	24.0	6.0	42.0	10.0	6.0	8.0	14.0
40～49歳(n=53)	26.4	17.0	17.0	3.8	17.0	1.9	30.2	5.7	3.8	5.7	13.2
50～64歳(n=75)	16.0	16.0	9.3	5.3	8.0	2.7	34.7	2.7	5.3	4.0	21.3
65歳以上(n=13)	7.7	7.7	7.7	0.0	23.1	0.0	23.1	0.0	7.7	15.4	7.7
【精神障がい者】											
29歳以下(n=40)	15.0	10.0	35.0	15.0	17.5	30.0	7.5	7.5	0.0	5.0	7.5
30～39歳(n=46)	13.0	30.4	15.2	32.6	23.9	37.0	4.3	4.3	0.0	6.5	2.2
40～49歳(n=98)	32.7	20.4	12.2	36.7	18.4	20.4	9.2	11.2	2.0	9.2	6.1
50～64歳(n=135)	28.1	19.3	15.6	31.9	15.6	9.6	6.7	5.9	5.2	8.1	5.2
65歳以上(n=17)	11.8	17.6	29.4	29.4	5.9	5.9	5.9	5.9	17.6	5.9	0.0

→続く

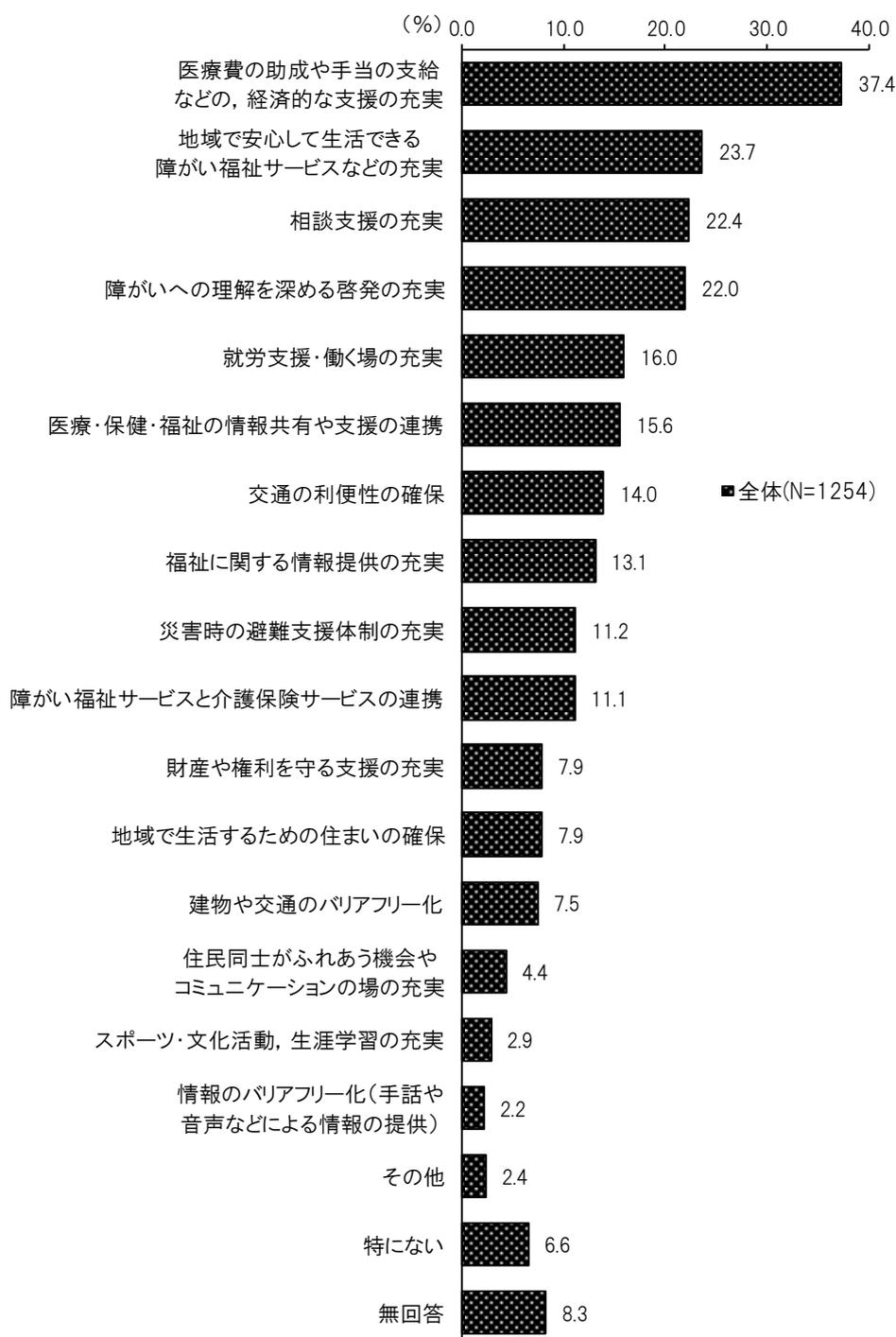
→続き

単位 (%)	県や市などのホームページ	障がい者相談員	地域包括支援センター	社会福祉協議会	基幹相談支援センター (クローバー)	障がい者団体など	地域活動支援センター	民生委員・児童委員	その他	入手方法がわからない	特にない
全体(N=1254)	5.2	4.5	4.5	3.6	3.4	2.8	2.6	1.7	1.6	6.9	10.8
【身体障がい者】											
29歳以下(n=18)	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	5.6
30～39歳(n=37)	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	2.7	10.8
40～49歳(n=88)	9.1	2.3	1.1	3.4	3.4	6.8	3.4	0.0	0.0	6.8	10.2
50～64歳(n=292)	7.2	3.8	4.1	4.5	2.1	2.1	1.4	1.0	0.7	7.5	12.3
65歳以上(n=188)	3.2	0.5	12.2	4.3	0.0	4.3	4.8	6.9	0.0	3.7	9.6
【知的障がい者】											
29歳以下(n=59)	5.1	15.3	1.7	0.0	3.4	6.8	1.7	0.0	5.1	10.2	0.0
30～39歳(n=50)	8.0	4.0	4.0	2.0	4.0	2.0	8.0	2.0	2.0	4.0	10.0
40～49歳(n=53)	1.9	5.7	3.8	3.8	9.4	5.7	3.8	0.0	1.9	5.7	7.5
50～64歳(n=75)	1.3	9.3	1.3	5.3	5.3	2.7	0.0	2.7	4.0	4.0	14.7
65歳以上(n=13)	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0	15.4	15.4
【精神障がい者】											
29歳以下(n=40)	10.0	7.5	0.0	0.0	22.5	7.5	2.5	0.0	7.5	5.0	10.0
30～39歳(n=46)	2.2	13.0	0.0	2.2	15.2	0.0	4.3	0.0	2.2	4.3	8.7
40～49歳(n=98)	3.1	8.2	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	0.0	4.1	8.2	7.1
50～64歳(n=135)	4.4	3.0	3.0	5.9	2.2	1.5	2.2	0.7	1.5	11.9	8.9
65歳以上(n=17)	0.0	0.0	11.8	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8

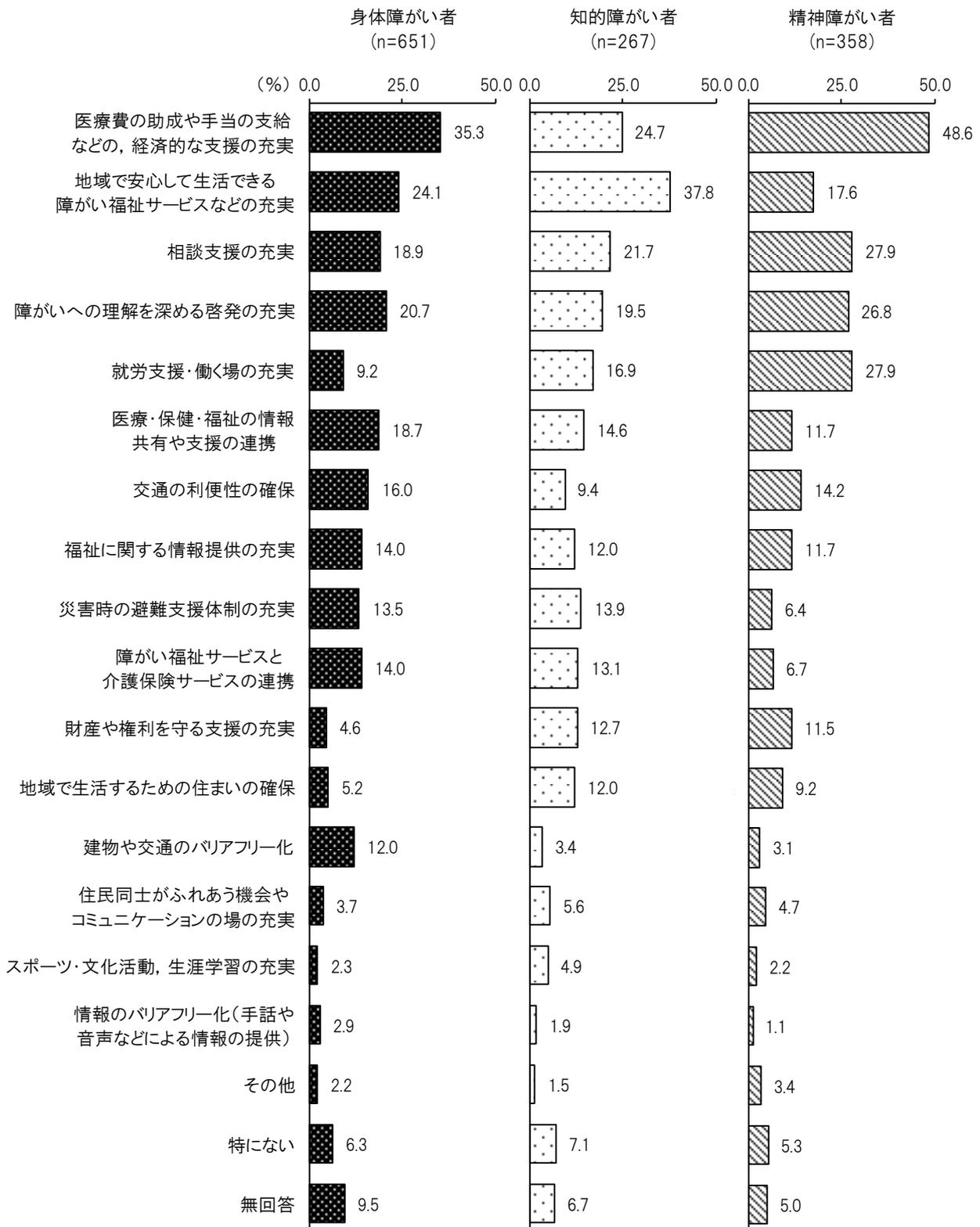
2 障がい者が安心して暮らすために重要と思う施策

問 60 障がいのある人が地域で安心して暮らしていくための施策について、あなたにとって重要だと思うことは、次のどれですか。（主なもの3つまでに○）

障がい者が安心して暮らすために重要と思う施策については、「医療費の助成や手当の支給などの、経済的な支援の充実」の割合が37.4%と最も高く、次いで「地域で安心して生活できる障がい福祉サービスなどの充実」(23.7%)、「相談支援の充実」(22.4%)、「障がいへの理解を深める啓発の充実」(22.0%)、「就労支援・働く場の充実」(16.0%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「建物や交通のバリアフリー化」、知的障がい者で「地域で安心して生活できる障がい福祉サービスなどの充実」、精神障がい者で「医療費の助成や手当の支給などの、経済的な支援の充実」「就労支援・働く場の充実」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



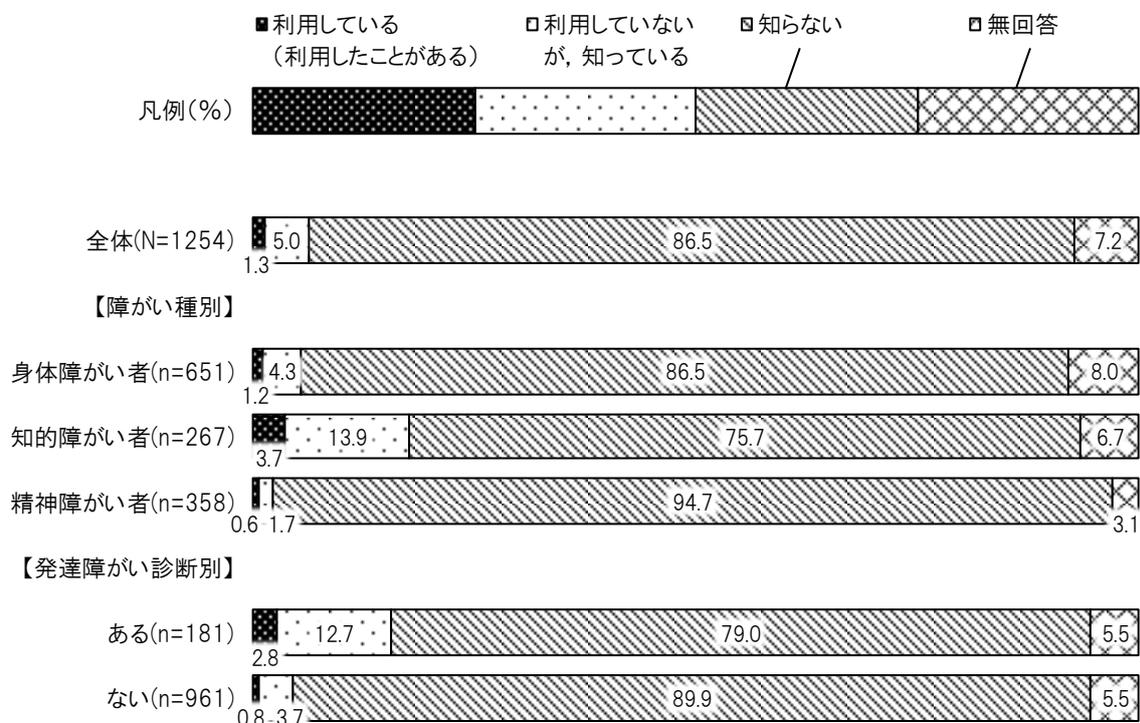
3 サポートファイル結愛の利用状況

問 61 障がいのある人の生育歴やケアの仕方を、乳幼児期から成人期に至るまで継続して記録整理できる「サポートファイル結愛」を利用していますか。(○は1つだけ)

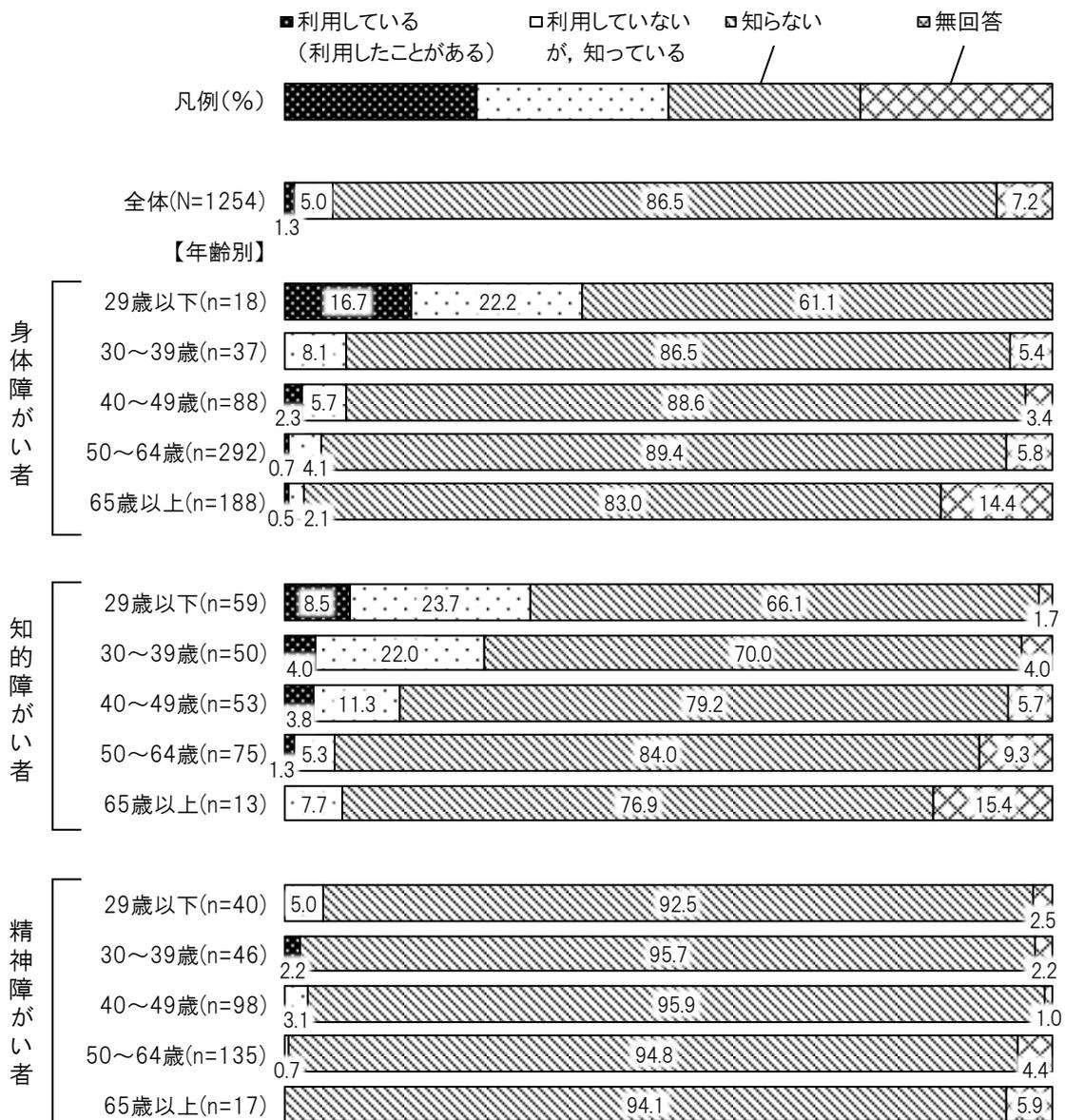
サポートファイル結愛の利用状況については、「利用している(利用したことがある)」が1.3%、「利用していないが、知っている」が5.0%で、合計6.3%の認知率となっている。一方、「知らない」は86.5%となっている。

障がい種別では、知的障がい者で「利用していないが、知っている」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「利用していないが、知っている」の割合が高くなっている。



年齢別では、身体障がい者の29歳以下で「利用している（利用したことがある）」「利用していないが、知っている」の割合がほかの年齢層に比べて高く、知的障がい者ではおおむね若い年齢層ほど「利用していないが、知っている」の割合が増える傾向にある。



4 サポートファイル結愛の今後の利用意向

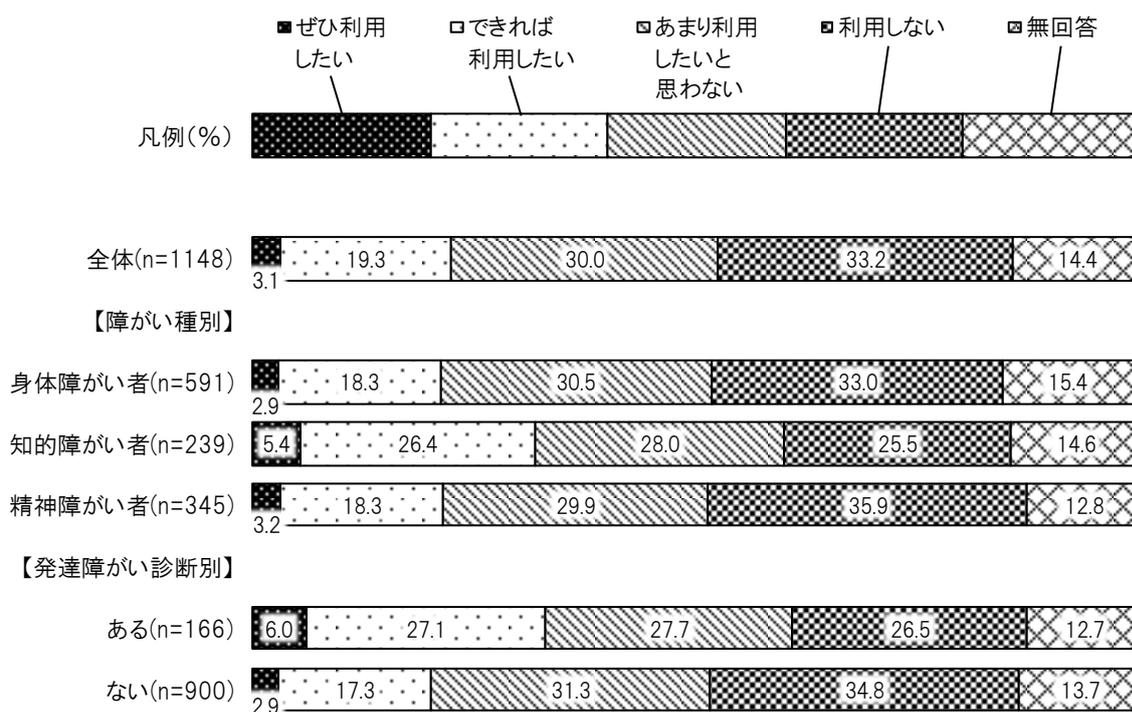
【問 61 でサポートファイル結愛を「利用していないが、知っている」「知らない」を選んだ方について】

問 62 あなたは、今後、「サポートファイル結愛」を利用したいと思いますか。
(○は1つだけ)

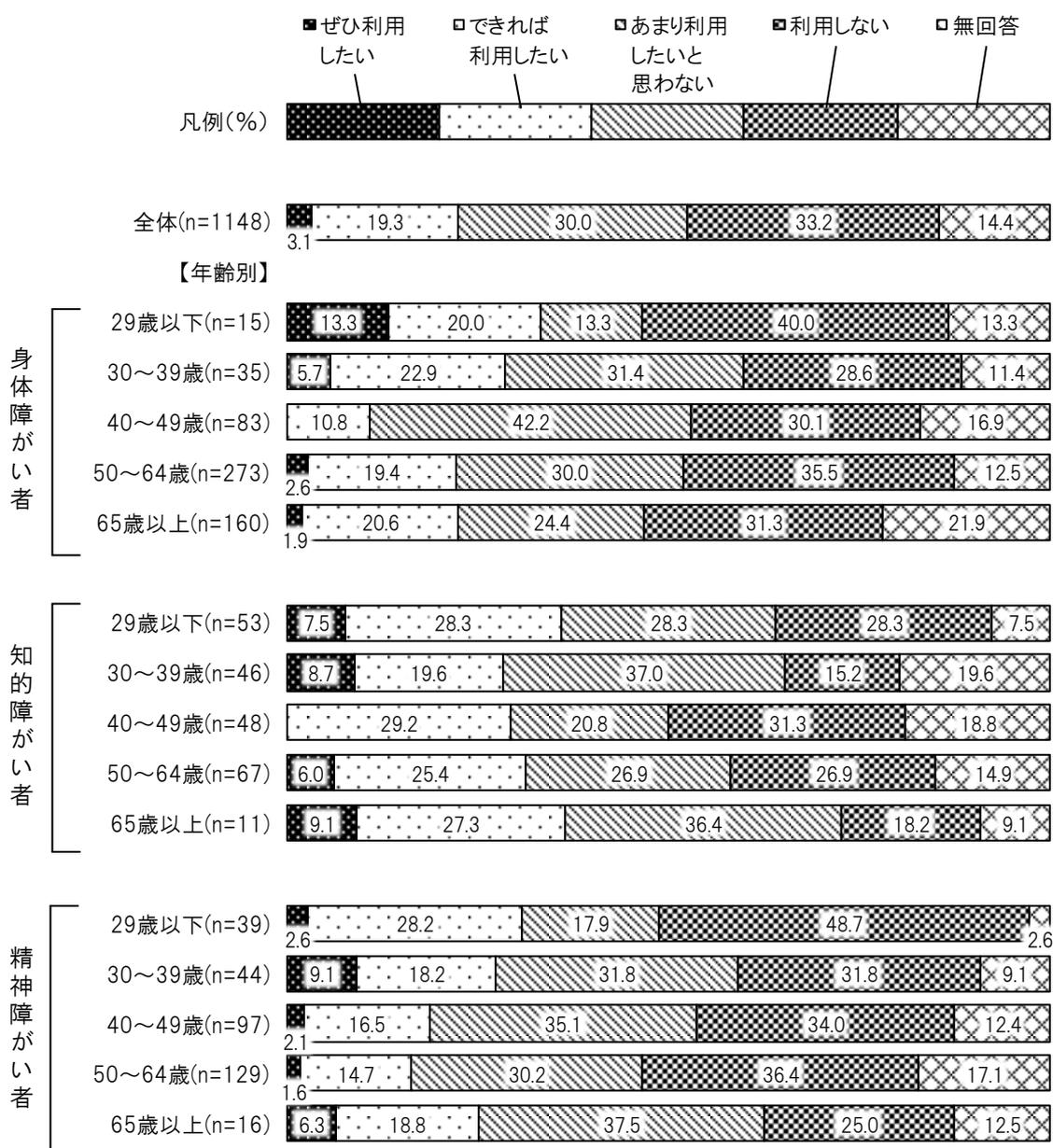
サポートファイル結愛の今後の利用意向については、「ぜひ利用したい」が3.1%、「できれば利用したい」が19.3%で、合計22.4%が『利用したい』と回答している。一方、「あまり利用したいと思わない」(30.0%)、「利用しない」(33.2%)の合計は63.2%であった。

障がい種別では、知的障がい者は『利用したい(合計)』の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断がある人では『利用したい(合計)』の割合が、診断がない人を大きく上回っている。



年齢別では、身体障がい者や精神障がい者の39歳以下や知的障がい者の29歳以下で『利用したい（合計）』の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。

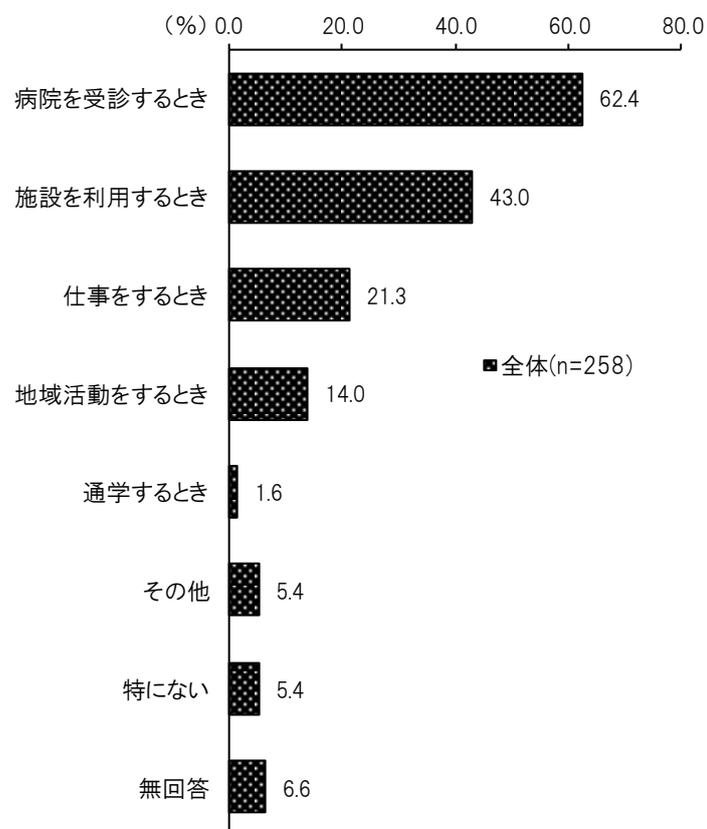


5 サポートファイル結愛の利用場面

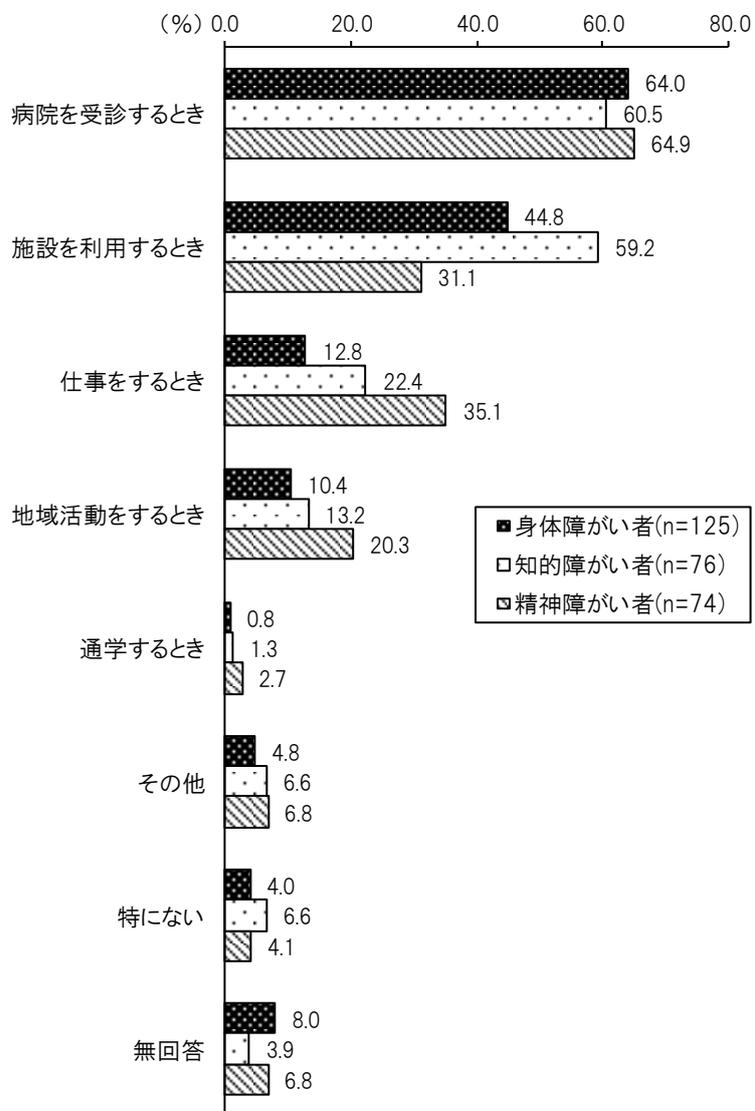
【問 62 でサポートファイル結愛を「ぜひ利用したい」「できれば利用したい」を選んだ方について】

問 63 あなたは、「サポートファイル結愛」をどのようなときに利用したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

サポートファイル結愛の利用場面については、「病院を受診するとき」の割合が 62.4%と最も高く、次いで「施設を利用するとき」(43.0%)、「仕事をするとき」(21.3%)、「地域活動をするとき」(14.0%)の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「施設を利用するとき」、精神障がい者で「仕事をするとき」「地域活動をするとき」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



Ⅱ-3 資料 調査票

ふくやまし ふくし かん ちょうさ 福山市 福祉に関するアンケート調査

【ご協力のお願い】

ひごろ ふくやまし ふくしきょうせい りかい きょうりょく
日頃より、福山市の福祉行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

げんざい ふくやまし しょう ふくししきく いっそうすす ふくやまししょう
現在、福山市では、障がい福祉施策をより一層進めていくために、「福山市障がい
しゃほけんふくしそごうけいかくおよ ふくやまししょう ふくしけいかく さくてい と く
者保健福祉総合計画及び福山市障がい福祉計画」の策定に取り組んでいます。

ちょうさ けいかく さくてい しな い す しょう しゃてちょう も かた
この調査は、計画を策定するにあたり、市内にお住まいの障がい者手帳をお持ちの方
たいしょう にちじょうせいかつ ようす ふくし サービスなど たい いけん うかが けいかく
を対象に、日常生活の様子や福祉サービスなどに対するご意見をお伺いし、計画の
きそしりょう
基礎資料とするものです。

ちょうさひょう しんたいしょう しゃてちょう りょういくてちょう せいしんしょう しゃほけんふくし
このアンケート調査票は、身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉
てちょう も かた がつ にちげんざい むさく い ちゅうしゅつ かた おく
手帳のいずれかをお持ちの方(11月1日現在)から無作為に抽出した方にお送りし、
かいとう ねが
回答をお願いしています。

ちょうさ むきめい こた かいとうけっか ほんちょうさ もくてき しょう
この調査は無記名でお答えいただき、回答結果は本調査の目的のみに使用しますの
で、お答えいただいた方が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。
こた かいとうないよう あき
調査の目的をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

ねん れいわがねん がつ
2019年(令和元年)12月

ふく やま し
福 山 市

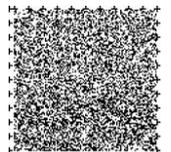
ちょうさ かん といあわ さき 【調査に関する問合せ先】

ふくやましほけんふくしきょくふくしぶしょう ふくし か
福山市保健福祉局福祉部障がい福祉課

〒720-8501 ふくやましひがしきくらまち ばん ごう
福山市東桜町3番5号

でんわ
電話 (084) 928-1062 ファクス (084) 928-1730

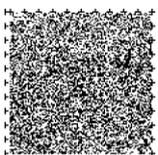
この調査票は、**2020年(令和2年)1月6日(月曜日)**までに、同封の返信用
ふうとう い なまえ か へんそう きって ひつよう
封筒に入れて、名前を書かずに返送してください(切手は必要ありません)。



【ご記入にあたってのお願い】

- 1 この調査票に直接お書きください。
- 2 ご本人が直接お答えいただくことが難しい場合には、ご家族や介助者などが、ご本人のお考えをお聴きのうえ、または、ご意向を尊重してお答えください。
市役所の職員が出向き、直接聞き取りをさせていただくことも可能です。希望される方は、福山市障がい福祉課までご連絡ください。
- 3 2019年（令和元年）11月1日現在の内容をお答えください。
- 4 答えたくない質問には、無理にお答えいただく必要はありません。

※この調査票では、郵送された宛名の方を「あなた」と書いていますので、あなたの状況やご意見をお答えください。



1 あなたのことについておたずねします

問1 このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。（○は1つだけ）

- 1 本人（この調査票が郵送された宛名の方）
- 2 本人の家族
- 3 家族以外の介助者

問2 あなたの年齢をお答えください。

_____歳（2019年（令和元年）11月1日現在）

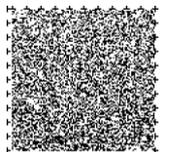
問3 あなたが住んでいる小学校区をお答えください。（○は1つだけ）

※小学校区の名前はあいうえお順に並んでいます。

1	あかさか 赤坂	17	かすが 春日	33	せんだ 千田	49	の と はら 能登原	65	みちのうえ 道上
2	あけほの 曙	18	かすみ 霞	34	たかしま 高島	50	の の はま 野々浜	66	みどりがおか 緑丘
3	あさひ 旭	19	かな え 金江	35	たけひろ 竹尋	51	はっとり 服部	67	みなみ 南
4	あさひがおか 旭丘	20	かむら 神村	36	たじめ 多治米	52	ひがし 東	68	みの 御野
5	あびき 網引	21	かち 加茂	37	ちとせ 千年	53	ひがしむら 東村	69	みのしま 箕島
6	ありま 有磨	22	かわぐち 川口	38	ちゅうじょう 中条	54	ひかり 光	70	みのみ 水呑
7	いすみ 泉	23	かわぐちひがし 川口東	39	つねいし 常石	55	ひきの 引野	71	みゆき 御幸
8	いせがおか 伊勢丘	24	かななべ 神辺	40	つねかねまる 常金丸	56	ひさまつだい 久松台	72	みょうおうだい 明王台
9	いまづ 今津	25	くまの 熊野	41	つのごう 津之郷	57	ひよしだい 日吉台	73	むべやま 宜山
10	うちうら 内浦	26	ざおう 蔵王	42	つぼう 坪生	58	ひろせ 広瀬	74	やないづ 柳津
11	うつみ 内海	27	さくらがおか 桜丘	43	てしろ 手城	59	ふかつ 深津	75	やまて 山手
12	えきや 駅家	28	さんな 山南	44	とて 戸手	60	ふくそう 福相	76	やまの 山野
13	えきやにし 駅家西	29	じゅとく 樹徳	45	とも 鞆	61	ふじえ 藤江	77	ゆだ 湯田
14	えきやひがし 駅家東	30	しんいち 新市	46	ながはま 長浜	62	ほんごう 本郷		
15	おおたにだい 大谷台	31	しんがい 新涯	47	にし 西	63	まくやま 幕山		
16	おおつの 大津野	32	せと 瀬戸	48	にしふかつ 西深津	64	まつなが 松永		

※わからない場合は、町名をお書きください。

（福山市 _____ 町 _____ 丁目）



問4 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1 身体障がい者手帳1級	7 療育手帳 (A)
2 身体障がい者手帳2級	8 療育手帳 A
3 身体障がい者手帳3級	9 療育手帳 (B)
4 身体障がい者手帳4級	10 療育手帳 B
5 身体障がい者手帳5級	11 精神障がい者保健福祉手帳1級
6 身体障がい者手帳6級	12 精神障がい者保健福祉手帳2級
	13 精神障がい者保健福祉手帳3級

【問4で「1～6」を選んだ方におたずねします。それ以外の方は問6へお進みください】

問5 あなたは身体障がい者手帳をお持ちですが、主な障がいをお答えください。(○は1つだけ)

1 視覚障がい	5 肢体不自由 (下肢)
2 聴覚障がい	6 肢体不自由 (体幹)
3 音声・言語・そしゃく機能障がい	7 内部障がい (1～6以外)
4 肢体不自由 (上肢)	

問6 あなたは医師から難病と診断を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

1 ある	2 ない
------	------

問7 あなたは医師から発達障がいと診断を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

1 ある	2 ない
------	------

問8 あなたは医師から高次脳機能障がいと診断を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

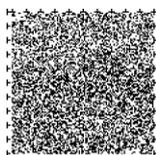
1 ある	2 ない
------	------

問9 あなたは自立支援医療(精神通院)受給者証を持っていますか。(○は1つだけ)

1 持っている	2 持っていない
---------	----------

問10 あなたは介護保険制度の要支援・要介護認定を受けていますか。(○は1つだけ)

1 受けている	2 受けていない
---------	----------



2

す まい や 暮 ら し について お た ず ね し ま す

とい 問 1 1 あなたは現在、どのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

- 1 自宅 (アパートなどを含む) で暮らしている
- 2 グループホームで暮らしている
- 3 福祉施設 (障がい者支援施設) で暮らしている
- 4 福祉施設 (高齢者支援施設) で暮らしている
- 5 病院に入院している
- 6 その他 ()

→ とい 問 1 4 へ お すす み くだ さ い

【問 1 1 で 「1 ~ 2」 を え ら べ た 方 に お た ず ね し ま す】

とい 問 1 2 あなたの主な介助者は、どなたですか。(○は1つだけ)

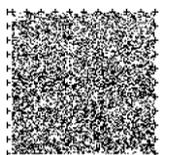
- 1 父または母
- 2 配偶者 (夫または妻)
- 3 子ども
- 4 きょうだい
- 5 親せき
- 6 友人・知人
- 7 福祉施設の職員・ホームヘルパー
- 8 介助は必要ない
- 9 その他 ()

→ とい 問 1 4 へ お すす み くだ さ い

【問 1 2 で 「1 ~ 6」 を え ら べ た 方 に お た ず ね し ま す】

とい 問 1 3 介助者の年齢、健康状態についてお答えください。(○は1つずつ)

① 介助者の年齢	1 29歳以下	3 40歳代	5 60歳代
	2 30歳代	4 50歳代	6 70歳以上
② 介助者の健康状態	1 健康である	2 健康に不安がある	

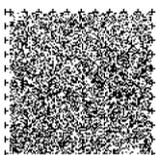


とい 問 1 4 今^{こんご}後^ご、あなたはどのように暮^くらしたいと思^{おも}いますか。(○は1つだけ)^{まる}

- 1 今^{いま}のままでよい
- 2 アパートなどで一人^{ひとりぐ}暮らしをしたい
- 3 家族^{かぞく}と一緒^{いっしょ}に暮^くらしたい
- 4 グループホームで暮^くらしたい
- 5 福祉^{ふくし}施設^{しせつ} (障^{しょう}がい者^{しや}支援^{しえん}施設^{しせつ}) で暮^くらしたい
- 6 福祉^{ふくし}施設^{しせつ} (高^{こう}齢^{れい}者^{しや}支援^{しえん}施設^{しせつ}) で暮^くらしたい
- 7 その他 ()

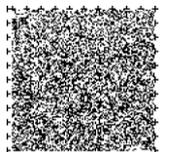
とい 問 1 5 今^{こんご}後^ご、あなたは、地^ち域^{いき}で安^{あん}心^{しん}して暮^くらすために、ど^どのよう^{よう}な支^し援^{えん}が必^{ひつ}要^{よう}ですか。^{まる}
(主^{おも}なもの3つまでに○)

- 1 障^{しょう}がいのある人^{ひと}に適^{てき}した住^すまいの確^{かく}保^ほ
- 2 必要^{ひつよう}な在^{ざい}宅^{たく}サ^さービ^びスが適^{てき}切^{せつ}に利^り用^{よう}できること
- 3 生^{せい}活^{かつ}訓^{くん}練^{れん}等^{とう}の充^{じゅう}実^{じつ}
- 4 経^{けい}済^{ざい}的^{てき}な負^ふ担^{たん}の軽^{けい}減^{げん}
- 5 相^{そう}談^{だん}支^し援^{えん}の充^{じゅう}実^{じつ}
- 6 地^ち域^{いき}住^{じゅう}民^{みん}等^{とう}の理^り解^{かい}
- 7 コミュニケーションについて^{しえん}の支^し援^{えん}
- 8 緊^{きん}急^{きゅう}時^じに一^{いち}時^{じてき}的^{てき}に過^すごせる場^ば所^{しょ}の確^{かく}保^ほ
- 9 在^{ざい}宅^{たく}で医^い療^{りょう}ケ^かアなど^{てきせつ}が適^{てき}切^{せつ}に受^うけられること
- 10 その他 ()
- 11 特^{とく}にない



とい 問16 あなたが相談したいことは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 体調のこと
- 2 家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと
- 3 介助者の健康や体力のこと
- 4 支援してくれる人のこと
- 5 生活費や収入のこと
- 6 介助・介護のこと
- 7 老後のこと
- 8 家事(炊事・掃除・洗濯)のこと
- 9 育児のこと
- 10 住まいのこと
- 11 外出・移動のこと
- 12 就学・進学・教育のこと
- 13 仕事・就職のこと
- 14 差別に関すること
- 15 余暇・スポーツ活動のこと
- 16 緊急時・災害時のこと
- 17 結婚のこと
- 18 その他()
- 19 特にない



問17 あなたが相談するときに望むことは何ですか。(主なもの3つまでに○)

- 1 身近な地域で相談できること
- 2 1か所ですべての相談ができること
- 3 どんな相談にも対応できること
- 4 障がい特性に応じて専門の相談ができること
- 5 障がいのある人やその家族など、同じ立場の人に相談ができること
- 6 24時間365日、緊急時などいつでも相談できること
- 7 自宅や病院、施設を訪問してくれること
- 8 電話・ファクス・電子メールでの相談ができること
- 9 年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること
- 10 相談員の質を向上させること
- 11 その他 ()
- 12 特になし

問18 あなたは、基幹相談支援センター(クローバー)*を利用したことがありますか。(○は1つだけ)

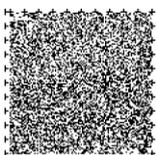
- 1 利用したことがある
- 2 利用したことはないが、知っている
- 3 知らない

*基幹相談支援センター(クローバー)では、障がいの種別などを問わず、障がいのある人の日常生活や社会生活を支援し、地域で安心して生活できるよう総合相談や専門の相談員による相談を行っています。

問19 あなたは、権利擁護支援センター*を利用したことがありますか。(○は1つだけ)

- 1 利用したことがある
- 2 利用したことはないが、知っている
- 3 知らない

*権利擁護支援センターでは、成年後見制度の相談や普及啓発などを行っています。また、一人での物事を決めることが不安な人に、福祉制度の利用手続きやお金の管理のお手伝いなども行っています。



とい
問20 あなたは地域活動支援センター※を利用したことがありますか。(○は1つだけ)

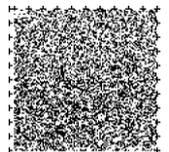
- 1 利用したことがある → 問22へお進みください
- 2 利用したことはないが、知っている
- 3 知らない

※地域活動支援センターでは、創作的活動または生産活動の機会を提供をはじめ、社会との交流の促進に関する事業、生活の質の向上のための訓練、講座または研修の実施など、障がい種別を問わず、日常生活や社会生活を支援する活動を行っています。(市内には現在、ひだまり、とまり木、福山市視覚障害者地域活動支援センター、福山市聴覚障害者地域活動支援センターの4か所があります。)

【問20で「2～3」を選んだ方におたずねします】

とい
問21 あなたは、地域活動支援センターが、どのような場所であれば利用してみたいですか。
(主なもの3つまでに○)

- 1 日常生活での困りごとが相談できる場所
- 2 手づくりの工芸品などを作ったり販売したりできる場所
- 3 参加しやすいスポーツやレクリエーション活動などができる場所
- 4 地域の人と一緒に、お祭りなどのイベントに取り組める場所
- 5 仲間と一緒にいろいろなグループ活動などができる場所
- 6 パソコンの練習などができる場所
- 7 公園の掃除など、地域でボランティア活動などができる場所
- 8 その他 ()
- 9 利用したいと思わない



4

 しゅうろう
 就労についておたずねします

 とい
 問 2 2 あなたは、^{げんざいはたら}現在働いていますか。(〇は1つだけ)

- 1 ^{はたら}働いている
- 2 ^{はたら}働いていない(またはできない) → とい 問 3 0 へお進みください

【問 2 2 で「1」を選んだ方におたずねします】

 とい
 問 2 3 あなたが^{げんざい}現在の^{しごと}仕事に^つ就いてからの^{きかん}期間をお答えください。(〇は1つだけ)

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|-------------------------|
| 1 | ^{ねんみまん} 1年未満 | 4 | ^{ねん} 5年～ ^{ねんみまん} 10年未満 | 7 | ^{ねんいじょう} 20年以上 |
| 2 | ^{ねん} 1年～ ^{ねんみまん} 3年未満 | 5 | ^{ねん} 10年～ ^{ねんみまん} 15年未満 | | |
| 3 | ^{ねん} 3年～ ^{ねんみまん} 5年未満 | 6 | ^{ねん} 15年～ ^{ねんみまん} 20年未満 | | |

【問 2 2 で「1」を選んだ方におたずねします】

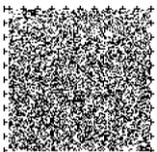
 とい
 問 2 4 あなたの1か月の^{げつ}給料(工賃)は^{きゅうりょう}平均^{こうちん}いくらですか。(〇は1つだけ)

- | | | | |
|---|---|----|---|
| 1 | ^{せんえんみまん} 5千円未満 | 7 | ^{まんえん} 7万円～ ^{まんえんみまん} 9万円未満 |
| 2 | ^{せんえん} 5千円～ ^{まんえんみまん} 1万円未満 | 8 | ^{まんえん} 9万円～ ^{まんえんみまん} 11万円未満 |
| 3 | ^{まんえん} 1万円～ ^{まんえんみまん} 2万円未満 | 9 | ^{まんえん} 11万円～ ^{まんえんみまん} 15万円未満 |
| 4 | ^{まんえん} 2万円～ ^{まんえんみまん} 3万円未満 | 10 | ^{まんえん} 15万円～ ^{まんえんみまん} 20万円未満 |
| 5 | ^{まんえん} 3万円～ ^{まんえんみまん} 5万円未満 | 11 | ^{まんえん} 20万円～ ^{まんえんみまん} 30万円未満 |
| 6 | ^{まんえん} 5万円～ ^{まんえんみまん} 7万円未満 | 12 | ^{まんえんいじょう} 30万円以上 |

【問 2 2 で「1」を選んだ方におたずねします】

 とい
 問 2 5 あなたは^{こんご}今後も、^{げんざい}現在の^{しごと}仕事を^{つづ}続けたいと思^{おも}いますか。(〇は1つだけ)

- 1 ^{おも}思う
- 2 ^{おも}思わない



【問22で「1」を選んだ方におたずねします】

問26 障がいがあっても働きやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。
(主なものを3つまでに○)

- 1 通勤手段が確保されていること
- 2 職場におけるバリアフリーなどの配慮があること
- 3 短時間勤務や勤務日数配慮など障がいに応じた働き方ができること
- 4 働きながら通院できること
- 5 職場で差別がないこと
- 6 職場に障がいのある人が使いやすい設備や機器が整っていること
- 7 障がいのある仲間と一緒に働けること
- 8 職場に介助や相談などの支援をしてくれる人がいること
- 9 障がいのある人が就労できる場所が増えること
- 10 就労に向けての相談の場が充実していること
- 11 専門的な技術を身につける職業訓練が充実していること
- 12 在宅勤務が拡充すること
- 13 その他 ()
- 14 特にない

【問22で「1」を選んだ方におたずねします】

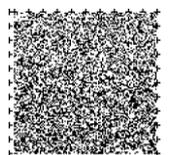
問27 あなたは、どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

- 1 正社員・正職員として働いている
 - 2 パート・アルバイトなどの非常勤職員・派遣職員として働いている
 - 3 自宅で働いている(自営業など)
 - 4 福祉施設・作業所などで働いている(給料・工賃をもらっている)
- 問32へお進みください

【問27で「4」を選んだ方におたずねします】

問28 あなたは、一般就労(一般企業などで働く)をしたいと思いますか。(○は1つだけ)

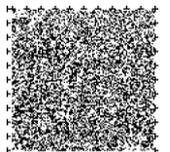
- 1 思う
- 2 思わない → 問32へお進みください



【問22で「2」を選んだ方におたずねします】

問31 あなたの、今後の就労の希望についてお答えください。(○は1つだけ)

- 1 正社員・正職員として働きたい
- 2 パート・アルバイトなどの非常勤職員・派遣職員として働きたい
- 3 自宅で働きたい(自営業など)
- 4 福祉施設・作業所などで働きたい
- 5 その他()
- 6 働くことは考えていない



5

障がい福祉サービスなどについておたずねします

問32 あなたは、現在、問33の1～19に書いてある障がい福祉サービスなどを利用していますか。(〇は1つだけ)

- 1 支給決定を受けており、利用している
- 2 支給決定を受けているが、利用していない
- 3 支給決定を受けていない → 問35へお進みください

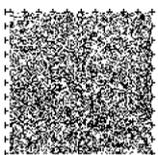
【問32で「1～2」を選んだ方におたずねします】

問33 あなたが支給決定を受けているサービスについておたずねします。

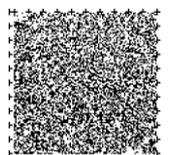
- ①現在、支給決定を受けているサービスをすべてお答えください。(あてはまるものすべてに〇)
- ②上記①で支給決定を受けているサービスについて、それぞれの利用状況をお答えください。(〇は1つだけ)

※受給者証の交付を受けている方は、その記載内容を参考にしてください。

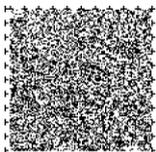
障がい福祉サービスなどの種類	①	②利用状況			
	サービスに〇印↓ 受けている 現在、支給決定を	1 利用できていない	2 どちらかといえば 利用できていない	3 どちらかといえば 利用できている	4 十分に利用できている
<p>1 居宅介護（ホームヘルプ）</p> <p>ホームヘルパーが、自宅を訪問して、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、生活等に関する助言などを行うサービスです。</p>	1	1	2	3	4



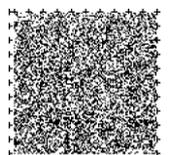
しょう ふうし しゅるい 障がい福祉サービスなどの種類	①	②利用状況			
	サー ビスに ○印 ↓ 受 け て い る 現 在、 支 給 決 定 を	1 利用 できて いない	2 利用 できて いない ど ち ら か と い え ば	3 利用 できて いる ど ち ら か と い え ば	4 十分 に利用 できて いる
2 重度訪問介護 じゅうど しょう つね かいご ひつよう ひと 重度の障がいがあり、常に介護が必要な人 に、自宅で入浴、排せつ、食事などの介助 や外出時の移動の補助を行うサービスで す。	2	1	2	3	4
3 同行援護 しかくしょう いどう いちじる こんなん 視覚障がいにより移動が著しく困難な ひと がいしゅつ ひつよう じょうほう ていきょう いどう 人に、外出に必要な情報の提供や移動 の援護などを行うサービスです。	3	1	2	3	4
4 行動援護 ちてきしょう せいしんしょう こうどう 知的障がいや精神障がいにより行動が こんなん つね かいご ひつよう ひと こうどう 困難で常に介護が必要な人に、行動すると き必要な介助や外出時の移動の補助など を行うサービスです。	4	1	2	3	4
5 重度障がい者等包括支援 つね かいご ひつよう ひと かいご ひつよう ていど 常に介護が必要な人で、介護の必要の程度 が著しく高い人に、居宅介護（ホームヘ ルプ）などのサービスを包括的に提供する サービスです。	5	1	2	3	4
6 短期入所（ショートステイ） かいご ひと びょうき とし しょう 介護する人が病気の時などに、障がいのあ る人が施設に短期間入所し、入浴、排せ つ、食事の介護などを行うサービスです。	6	1	2	3	4



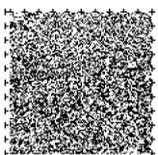
	①	②利用状況			
	サービスに○印↓ 受けている 現在、支給決定を	1 利用できていない	2 どちらかといえば 利用できていない	3 どちらかといえば 利用できている	4 十分に利用できている
障がい福祉サービスなどの種類					
7 生活介護 常に介護が必要な人に、施設で入浴、排せつ、食事の介護や創作的活動などの機会を提供するサービスです。	7	1	2	3	4
8 療養介護 医療が必要で、常に介護を必要とする人に、主に昼間に病院などにおいて機能訓練、療養上の管理、看護などを提供するサービスです。	8	1	2	3	4
9 自立訓練(機能訓練, 生活訓練, 宿泊型自立訓練) 自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定の期間、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練を行うサービスです。	9	1	2	3	4
10 就労移行支援 一般就労したい人に、一定の期間、就労に必要な知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	10	1	2	3	4



	①	②利用状況			
	サービスに○印↓ 受けている 現在、支給決定を	1 利用できていない	2 どちらかといえば 利用できていない	3 どちらかといえば 利用できている	4 十分に利用できている
障がい福祉サービスなどの種類					
11 就労継続支援（A型） 一般就労が困難な人が、働く場として事業所と雇用契約を結び、就労の機会や生産活動などの機会を提供し、知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	11	1	2	3	4
12 就労継続支援（B型） 一般就労が困難な人に、事業所と雇用契約を結ばずに、就労の機会や生産活動などの機会を提供し、知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	12	1	2	3	4
13 自立生活援助 障がい者施設などを利用していただけ、ひとり暮らしを希望する人に、必要な情報の提供や助言、支援を行うサービスです。	13	1	2	3	4
14 就労定着支援 就労移行支援などを利用して一般就労した人に対して、日常生活や働くうえで困っていることについて、その問題の解決に必要な指導や助言などを行うサービスです。	14	1	2	3	4



	①	②利用状況			
		1 利用できていない	2 どちらかといえば 利用できていない	3 どちらかといえば 利用できている	4 十分に利用でき ている
<p>しょう ふうし しゅるい 障がい福祉サービスなどの種類</p>	<p>① 現在、支給決定を 受けている サービスに○印 ↓</p>				
<p>15 <u>共同生活援助（グループホーム）</u> <small>きょうどうせいかつえんじょ</small> <small>やかん きゅうじつ きょうどうせいかつ おこな</small> 夜間や休日に、共同生活を行う住居 <small>そうだん にちじょうせいかつじょう えんじょ おこな</small> で、相談や日常生活上の援助などを行 うサービスです。</p>	15	1	2	3	4
<p>16 <u>施設入所支援</u> <small>しせつにゆうしよしえん</small> <small>しゅ やかん しせつ にゆうしよ ひと たい</small> 主として夜間に、施設に入所する人に対 <small>にゆうよく はい しょくじ かいご しえん</small> し、入浴、排せつ、食事の介護などの支援 <small>おこな</small> を行うサービスです。</p>	16	1	2	3	4
<p>17 <u>計画相談支援</u> <small>けいかくそうだんしえん</small> <small>しょう ふうし どう りよう ひと</small> 障がい福祉サービス等を利用する人に、 <small>りようかいしじ こうしん へんこう まえ</small> サービスの利用開始時や更新・変更の前に <small>りようけいかくあん さくせい ていきてき</small> 利用計画案を作成するとともに、定期的に <small>りようじょうきょう けんしやう</small> 利用状況を検証し、また、サービス <small>ていきやうじぎやうしや れんらくちやうせい おこな</small> 提供事業者との連絡調整を行うサービ スです。</p>	17	1	2	3	4
<p>18 <u>移動支援</u> <small>いどうしえん</small> <small>ひとり いどう</small> 一人で移動することが困難な人に、自立し <small>にちじょうせいかつ しゃかいさんか しえん おこな</small> た日常生活や社会参加のための支援を行 うサービスです。</p>	18	1	2	3	4



障がい福祉サービスなどの種類	①	②利用状況			
	サービスに○印↓ 受けている 現在、支給決定を	1 利用できていない	2 どちらかといえば 利用できていない	3 どちらかといえば 利用できている	4 十分に利用できている
19 日中一時支援 日中において、介護者の休息や不在の時に、見守りと日中活動の場を提供するサービスです。	19	1	2	3	4

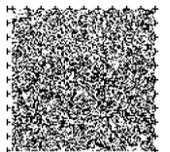
いずれか1つでも「1」または「2」を選んだ方は問34へお進みください

【問33②でいずれか1つでも「1」または「2」を選んだ方におたずねします】

問34 利用できていないサービスについて、その理由をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 定員がいっぱいなどの理由で事業所に断られたから
- 2 自分の障がい特性に合っていないから
- 3 利用手続きに時間がかかりすぎるなど、大変だから
- 4 家の近くに事業所がないから
- 5 利用料の負担が大きすぎるから
- 6 サービスの内容がよくわからないから
- 7 サービスの質が悪いから
- 8 利用できる回数や時間が希望に合っていないから
- 9 支給決定を受けたが、現在は利用の必要がないから
- 10 その他 ()



問35 あなたが、今後新たに利用したいサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

※65歳以上の方は、介護保険サービスが優先となるため、「6 短期入所」「7 生活介護」「9 自立訓練（機能訓練）」「10 就労移行支援」「11 就労継続支援（A型）」「16 施設入所支援」「17 計画相談支援」は選べません。

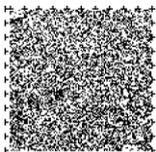
「1 居宅介護」については、要介護の認定を受けている方は選べません。

「15 共同生活援助」については、あなたの状態によっては、利用できない場合があります。

1 居宅介護（ホームヘルプ）	11 就労継続支援（A型）
2 重度訪問介護	12 就労継続支援（B型）
3 同行援護	13 自立生活援助
4 行動援護	14 就労定着支援
5 重度障がい者等包括支援	15 共同生活援助（グループホーム）
6 短期入所（ショートステイ）	16 施設入所支援
7 生活介護	17 計画相談支援
8 療養介護	18 移動支援
9 自立訓練（機能訓練，生活訓練， 宿泊型自立訓練）	19 日中一時支援
10 就労移行支援	20 特にない

問36 今後、障がい福祉サービスを利用しやすくするために、どのようなことが必要だと思えますか。（主なもの3つまでに○）

1 どのようなサービスがあるのか詳しい情報を提供してほしい
2 申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい
3 障がいの特性に応じた方法で情報を提供してほしい
4 自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい
5 必要な時にすぐに利用できるようにしてほしい
6 サービスの回数や時間を増やしてほしい
7 身近な場所でサービスが受けられるようにしてほしい
8 施設の職員などの技術・知識を向上してほしい
9 施設の職員などの人数を増やしてほしい
10 サービスの費用負担を軽減してほしい
11 その他（ ）
12 特にない



6

ちいき く
地域での暮らしについておたずねします

とい 問37 あなたの、^{きんじよ}近所の人や^{ちいき}地域の人との^{つきあ}付き合いはどの^{ていど}程度ですか。(○は1つだけ)

- 1 とても^{した}親しく^{つきあ}付き合っている^{ひと}人がいる
- 2 ^{した}親しく^{つきあ}付き合っている^{ひと}人がいる
- 3 ^{せけんばなし}世間話をする^{ていど}程度の人^{ひと}がいる
- 4 ^{あいさつ}あいさつをする^{ていど}程度の人^{ひと}がいる
- 5 ほとんど^{つきあ}付き合いがない

とい 問38 あなたは、^{ちいき}地域の^{まつ}祭りや^{うんどうかい}運動会など、^{ぎやうじ}行事や^{さんか}イベントに^{さんか}参加していますか。(○は1つだけ)

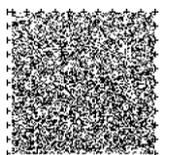
- 1 ^{さんか}参加している
- 2 ^{ときどきさんか}時々参加している
- 3 ^{さんか}参加していない

とい 問39 あなたは^{こんご}今後、^{ちいき}地域の^{かつどう}活動に^{さんか}参加したいですか。(○は1つだけ)

- 1 ^{せつきよくてき}積極的に^{さんか}参加したい
- 2 ^{ないよう}内容によっては^{さんか}参加したい
- 3 ^{さんか}なるべく参加したくない
- 4 ^{さんか}参加したくない

とい 問40 あなたが、^{ちいき}地域の^{かつどう}活動にもっと^{さんか}参加しやすくなるためには、^{ひつよう}どのようなことが^{おも}必要だと思
いますか。(主なもの3つまでに○)

- 1 ^{しせつ}施設や^{こうきょうこうつうきかん}公共交通機関の^かバリアフリー化
- 2 ^{しせつりようりよう}施設利用料の^{げんめん}減免や^{かつどうひ}活動費の^{じよせい}助成などの^{けいざいてきしえん}経済的支援
- 3 ^{しょう}バリアフリーマップなど、^{たいおう}障がいに対応した^{じょうほう}情報の^{ていきよう}提供や^{といあわ}問合せ方法の^{ほうほう}充実
- 4 ^{かいじょしゃ}介助者や^{しゅわつうやくしや}手話通訳者などの^{しえん}支援
- 5 ^{いっしょ}一緒に^{かつどう}活動を行^{おこな}う^{なかも}仲間や^{だんたい}団体、^{かつどう}その活動に^{さんか}参加するための^{じょうほう}情報
- 6 ^{かつどう}スポーツ活動における、^{てきせつ}適切な^{しどうしや}指導者や^{そうだんまどぐち}相談窓口
- 7 ^{げいじゆつ}芸術・^{ぶんかかつどう}文化活動における、^{てきせつ}適切な^{しどうしや}指導者や^{そうだんまどぐち}相談窓口
- 8 その他 ()
- 9 ^{とく}特にない

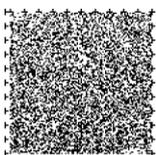


問41 本市では、障がいのある人が自らの体験に基づいて、同じ仲間である他の障がいのある人の悩みなどを聞くという取組を推進しています。あなたは、この取組に参加してみたいと思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 悩みなどを聞く立場で参加してみたい
- 2 悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい
- 3 具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい
- 4 参加してみたいと思わない

問42 他の障がいのある人のために、あなたが手助けできそうな活動や、協力できそうな活動はありますか。(あてはまるものすべてに〇)

- 1 悩みを聞くことや、相談相手になること
- 2 災害時における避難の手助け
- 3 通院や買物など外出の手伝い
- 4 ごみ出しや掃除の手伝い
- 5 電球の取替えなど軽度な手伝い
- 6 食事の準備や後片づけ
- 7 地域の子どもとの交流行事の手伝い
- 8 通学時の子どもの見守り活動
- 9 防犯パトロールなど地域の防犯活動
- 10 その他 ()
- 11 特にない



7

障がいに対する理解についておたずねします

問43 あなたは、障がいがあることで差別を受けたことがありますか。(〇は1つだけ)

- 1 ある
- 2 少しある
- 3 ない → 問45へお進みください

【問43で「1～2」を選んだ方におたずねします】

問44 あなたは、どのような場面で、差別を受けましたか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 仕事や収入 | 8 公共の場での人の視線 |
| 2 保育所や幼稚園、学校 | 9 店などでの対応や態度 |
| 3 進路の選択 | 10 市役所などの公共施設 |
| 4 隣近所との付き合い | 11 交通機関の利用 |
| 5 冠婚葬祭 | 12 病院などの医療機関 |
| 6 スポーツや趣味の活動 | 13 その他() |
| 7 地域の行事や集まり | |

問45 あなたは、障がいを理由とした差別を受けた場合の相談先を知っていますか。

(〇は1つだけ)

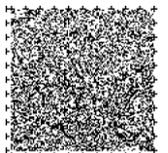
※ 障がいを理由とする差別を受けたときは、まず市役所のそれぞれの課の窓口にご相談ください。解決ができない場合でも、その内容に応じた相談窓口を紹介します。

- 1 知っている
- 2 知らない

問46 あなたは、障がいのある人に対する、地域の人の理解は進んできたと思いますか。

(〇は1つだけ)

- 1 かなり進んできた
- 2 どちらかといえば進んできた
- 3 あまり進んできたとは思わない
- 4 進んでいない(変わらない)



とい 問47 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深め、共に地域で支え合って生活していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。(主なもの3つまでに○)

- 1 障がい者理解のための広報・啓発の充実
- 2 地域の人との交流の機会を増やすこと
- 3 障がいのある人自身もっと積極的に地域活動などに参加すること
- 4 ボランティア活動の推進
- 5 地域や学校における人権教育の充実
- 6 参加しやすい地域活動などの充実
- 7 福祉施設の地域への開放などによる地域住民との交流
- 8 障がいのある人のまちづくりへの参加
- 9 障がいへの理解を深めるために活動する市民団体への支援
- 10 その他 ()
- 11 特になし

8 災害時の対応についておたずねします

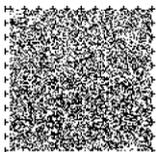
とい 問48 あなたは、風水害や火事・地震などの災害時に自力で避難できますか。(○は1つだけ)

- 1 できる 2 できない 3 わからない

とい 問49 風水害や火事・地震などの災害時に困ると思うことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 投薬や治療が受けられないこと
- 2 補装具や日常生活用具の使用ができなくなる
- 3 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる
- 4 救助を求めることができない
- 5 安全なところまで、迅速に避難することができない
- 6 被害状況、避難場所などの情報が入手できない
- 7 周囲とコミュニケーションがとれない
- 8 避難場所において設備(トイレなど)や生活環境に対する配慮が受けられない
- 9 その他 ()
- 10 特になし

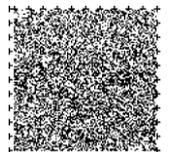


とい 問50 風水害や火事・地震などの災害時の備えとして、どのような対策が必要だと思いませんか。
おも (主なものを3つまでに○)

- 1 障がい特性に配慮した、災害の状況や避難場所についての情報提供
- 2 避難するときの介助者や支援者の確保
- 3 障がいのある人に配慮した避難場所の確保
- 4 避難場所での介助者や支援者の確保
- 5 避難所生活におけるプライバシーを守る対策
- 6 医療施設や医療設備の確保
- 7 防災知識の普及や啓発
- 8 防災訓練の実施
- 9 その他 ()
- 10 特になし

とい 問51 あなたは、地域で行われる防災訓練に参加していますか。(○は1つだけ)

- 1 参加している → とい 問53 へお進みください
- 2 参加したことはない
- 3 以前参加したことがあるが、現在は参加していない



【問54で「1」を選んだ方におたずねします】

問56 どこでスポーツをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|------------|----|-----------------|
| 1 | ローズアリーナ | 7 | 福山市障害者体育センター |
| 2 | 福山市体育館 | 8 | すこやかセンター(水浴訓練室) |
| 3 | 福山市武道館 | 9 | スポーツジム |
| 4 | 新市スポーツセンター | 10 | 自宅 |
| 5 | 沼隈体育館 | 11 | 近所の公園 |
| 6 | 竹ヶ端運動公園 | 12 | その他() |

【問54で「1」を選んだ方におたずねします】

問57 どのようなスポーツをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|-------------|----|-------------------|
| 1 | 陸上 | 10 | テニス |
| 2 | ボウリング | 11 | ジョギング |
| 3 | アーチェリー | 12 | ウォーキング |
| 4 | 水泳 | 13 | グラウンドゴルフ |
| 5 | 卓球 | 14 | ゲートボール |
| 6 | フライングディスク | 15 | サッカー |
| 7 | グラウンドソフトボール | 16 | バレーボール(ソフトバレーボール) |
| 8 | 吹矢 | 17 | その他() |
| 9 | バドミントン | | |

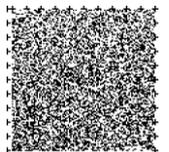


次は問59へお進みください

【問54で「2」を選んだ方におたずねします】

問58 スポーツをしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

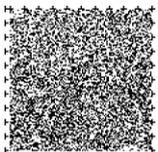
- | | | | |
|---|-------------|---|---------------|
| 1 | する機会がないため | 5 | 障がいがあるため |
| 2 | 苦手であるため | 6 | 施設や場所が近くにないため |
| 3 | 健康状態が良くないため | 7 | その他() |
| 4 | 高齢のため | | |



とい 問59 あなたは、障しょうがいのある人ひとの福祉ふくしに関する情報かんじょうほうを、どこから入手にゅうしゅしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 けん し まどぐち
県や市の窓口 | 12 ちいきかつどうしえん
地域活動支援センター |
| 2 けん し つうち
県や市からの通知 | 13 しょう しゃだんたい
障がい者団体など |
| 3 しゃかいふくしきょうぎかい
社会福祉協議会 | 14 かぞく ゆうじん ちじん
家族・友人・知人 |
| 4 きかんそうだんしえん
基幹相談支援センター（クローバー） | 15 けん し こうほうし
県や市などの広報誌・パンフレット |
| 5 そうだんしえんじぎょうしょ
相談支援事業所 | 16 けん し
県や市などのホームページ |
| 6 ふくししせつ ていきょうじぎょうしょ
福祉施設・サービス提供事業所 | 17 ラジオ・テレビ |
| 7 びょういん やっきょく
病院・薬局 | 18 しんぶん ざっし
新聞・雑誌など |
| 8 ホームヘルパー・ケアマネジャーなど | 19 インターネット |
| 9 しょう しゃそうだんいん
障がい者相談員 | 20 その他（) |
| 10 みるせいいいん じどういいん
民生委員・児童委員 | 21 にゅうしゅほうほう
入手方法がわからない |
| 11 ちいきほうかつしえん
地域包括支援センター | 22 とく
特にない |



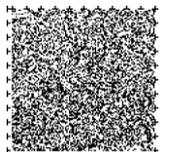
とい しょう ひと ちいき あんしん く しやく
問60 障がいのある人が地域で安心して暮らしていくための施策について、あなたにとって
 じゅうよう おも つぎ おも まる
重要だと思**う**ことは、**次**のどれですか。(主なもの3つまでに○)

- 1 しょう 障がいへの理解を深める啓発の充実
- 2 そうだんしえん 相談支援の充実
- 3 さいざん けんり まも しえん 財産や権利を守る支援の充実
- 4 ちいき あんしん せいかつ しょう 地域で安心して生活できる障がい福祉サービスなどの充実
- 5 いりょうひ じょせい てあて しきゅう けいざいてき しえん 医療費の助成や手当の支給などの、経済的な支援の充実
- 6 さいがいじ ひなんしえんたいせい 災害時の避難支援体制の充実
- 7 ちいき せいかつ す 地域で生活するための住まいの確保
- 8 いりょう ほけん ふくし じょうほうきょうゆう しえん れんけい 医療・保健・福祉の情報共有や支援の連携
- 9 しょう 障がい福祉サービスと介護保険サービスの連携
- 10 しゅうろうしえん はたら ば 就業支援・働く場の充実
- 11 スポーツ・文化活動、生涯学習の充実
- 12 こうつう りべんせい かくほ 交通の利便性の確保
- 13 たてもの こうつう か 建物や交通のバリアフリー化
- 14 じょうほう 情報のバリアフリー化(手話や音声などによる情報の提供)
- 15 じゅうみんどうし きかい ば 住民同士がふれあう機会やコミュニケーションの場の充実
- 16 ふくし かん じょうほうていきょう 福祉に関する情報提供の充実
- 17 その他()
- 18 特にない

とい しょう ひと せいいくれき しかた にゅうようじき せいじんき いた けいぞく きろく
問61 障がいのある人の生育歴やケアの仕方を、乳幼児期から成人期に至るまで継続して記録
 せいり せいり ゆい りよう まる
整理できる「サポートファイル **結愛**※」を利用して**います**か。(○は1つだけ)

- 1 利用している(利用したことがある) → とい すす 問64へお進みください
- 2 利用していないが、知っている
- 3 知らない

※「サポートファイル **結愛**※」は、本市の窓口で利用希望者に配布しています。



【問61で「2～3」を選んだ方におたずねします】

問62 あなたは、今後、「サポートファイル 結愛」を利用したいと思いますか。（○は1つだけ）

1 ぜひ利用したい

2 できれば利用したい

3 あまり利用したいと思わない

4 利用しない

→ 問64へお進みください

【問62で「1～2」を選んだ方におたずねします】

問63 あなたは、「サポートファイル 結愛」をどのようなときに利用したいと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

1 病院を受診するとき

5 地域活動をするとき

2 施設を利用するとき

6 その他（ ）

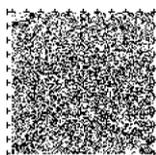
3 通学するとき

7 特にない

4 仕事をするとき

問64 福山市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

～ご協力ありがとうございました～



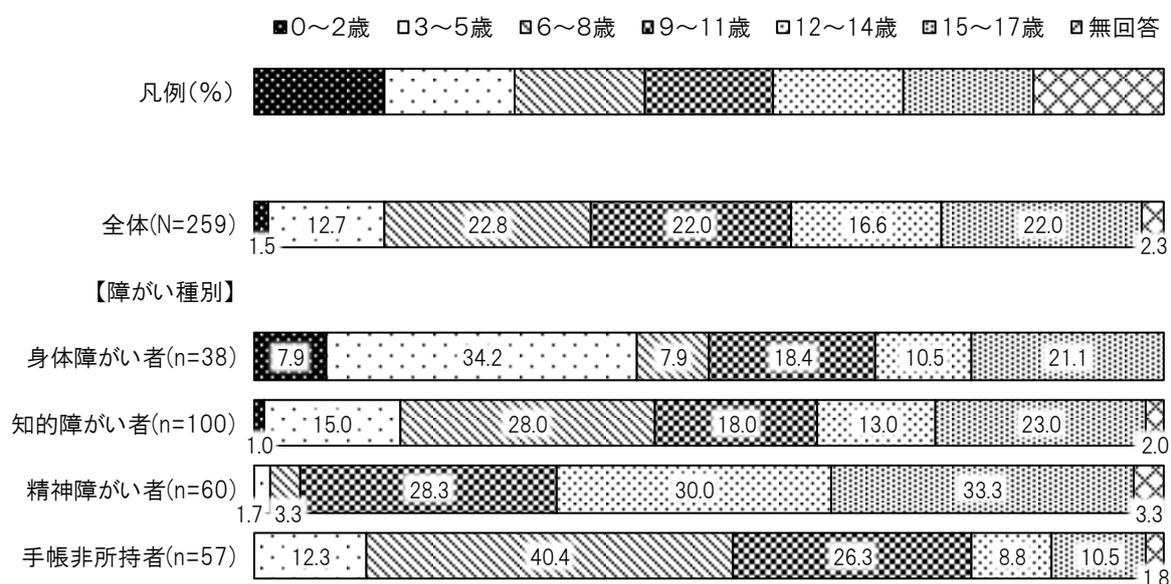
Ⅲ 調査結果（18歳未満）

Ⅲ-1 回答者の属性

1 年齢別構成

年齢別構成では、「6～8歳」が22.8%と最も高く、ほぼ並んで「9～11歳」「15～17歳」が22.0%で続いている。

障がい種別では、身体障がい者で「3～5歳」、知的障がい者や手帳非所持者で「6～8歳」、精神障がい者で「12～14歳」「15～17歳」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。



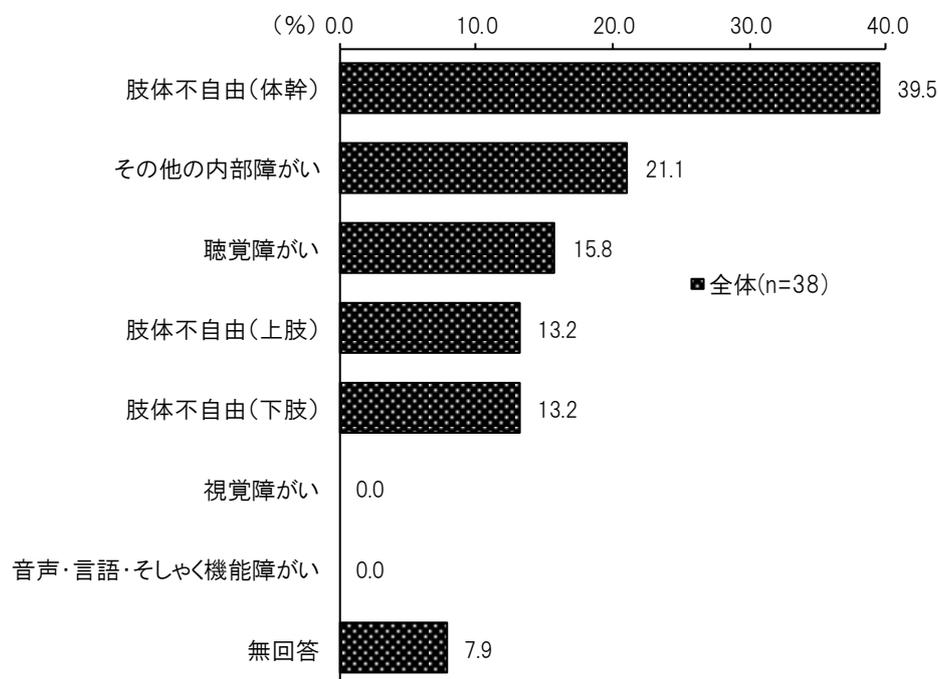
Ⅲ-2 調査結果

【1】障がいの状況について

1 障がいの種類（身体障がい者）

問5 お子さんは身体障がい者手帳をお持ちですが、主たる障がいをお答えください。
(○は1つだけ)

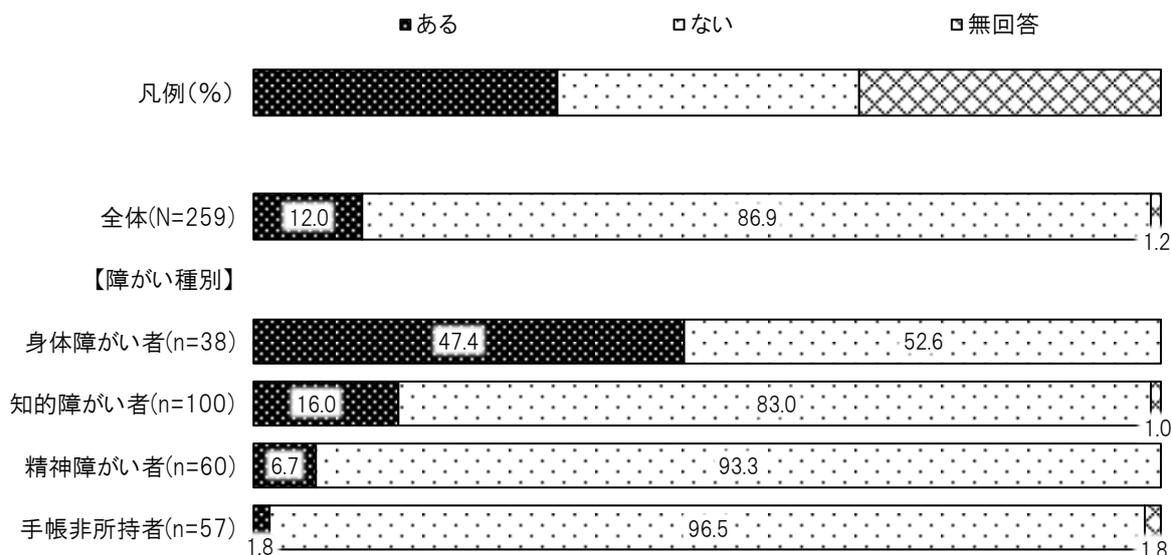
障がいの種類（身体障がい者）については、「肢体不自由（体幹）」の割合が39.5%と最も高く、次いで「その他の内部障がい」（21.1%）、「聴覚障がい」（15.8%）、「肢体不自由（上肢）」「肢体不自由（下肢）」（各13.2%）の順となっている。



2 難病の診断の有無

問6 お子さんは医師から難病（小児慢性特定疾病）と診断を受けたことがありますか。（○は1つだけ）

難病の診断の有無については、診断を受けたことが「ある」が12.0%となっている。障がい種別では、身体障がい者で「ある」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

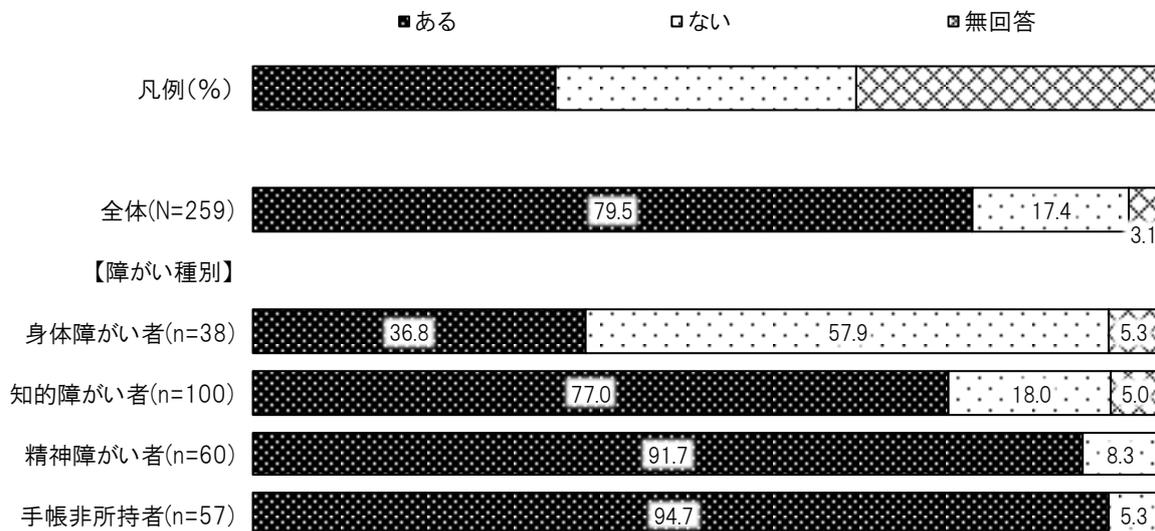


3 発達障がいの診断の有無

問7 お子さんは医師から発達障がいと診断を受けたことがありますか。（○は1つだけ）

発達障がいの診断の有無については、診断を受けたことが「ある」が79.5%となっている。

障がい種別では、精神障がい者や手帳非所持者の9割以上、知的障がい者の8割近くが、発達障がいと診断されている。

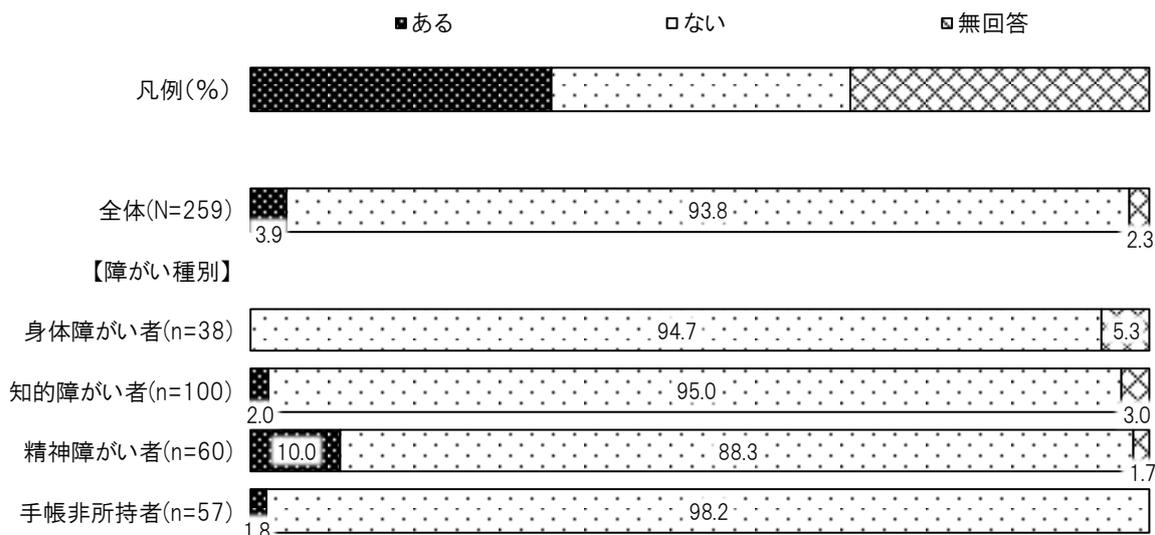


4 高次脳機能障がいの診断の有無

問8 お子さんは医師から高次脳機能障がいと診断を受けたことがありますか。
(○は1つだけ)

高次脳機能障がいの診断の有無については、診断を受けたことが「ある」が3.9%となっている。

障がい種別では、精神障がい者で「ある」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

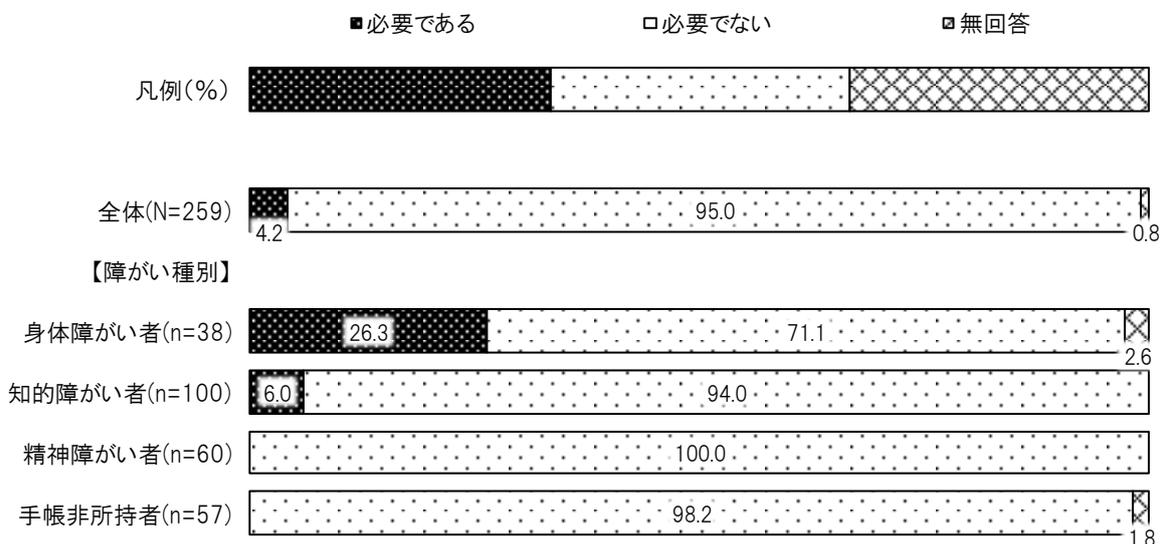


5 医療的ケアの有無

問9 お子さんは、医療的ケア（人工呼吸器の使用，たんの吸引や経管栄養などを行うこと）が必要ですか。（○は1つだけ）

医療的ケアの有無については、「必要である」が4.2%となっている。

障がい種別では、身体障がい者で「必要である」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

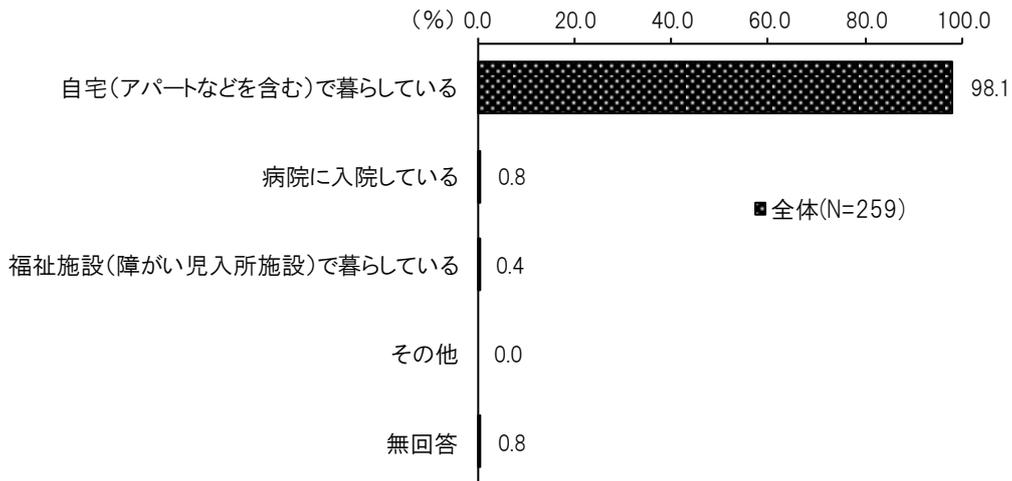


【2】現在の暮らしについて

1 現在の生活の場

問 10 お子さんは現在、どのように暮らしていますか。（○は1つだけ）

現在の生活の場は、「自宅（アパートなどを含む）で暮らしている」が大半を占めている。

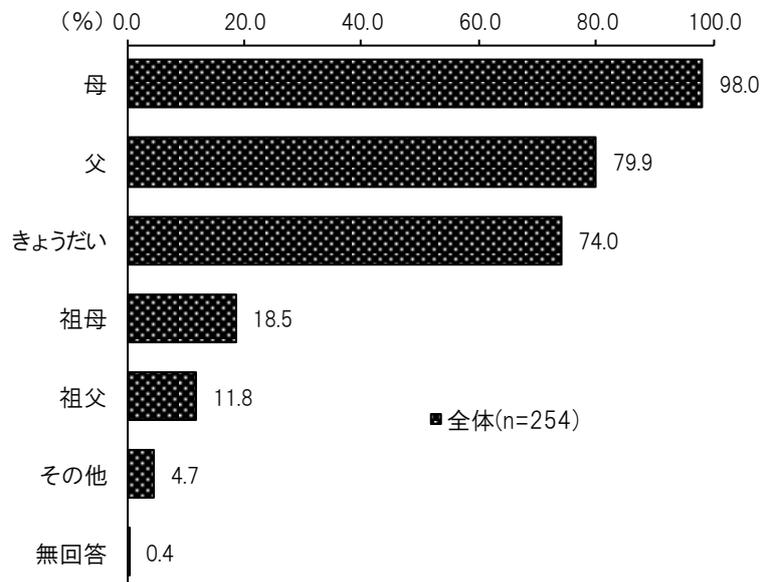


2 同居家族

【問 10 で「自宅（アパートなどを含む）で暮らしている」を選んだ方について】

問 11 現在、お子さんが一緒に暮らしている人は誰ですか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

同居家族は、「母」が98.0%と最も高く、次いで「父」(79.9%)、「きょうだい」(74.0%)、「祖母」(18.5%)の順となっている。



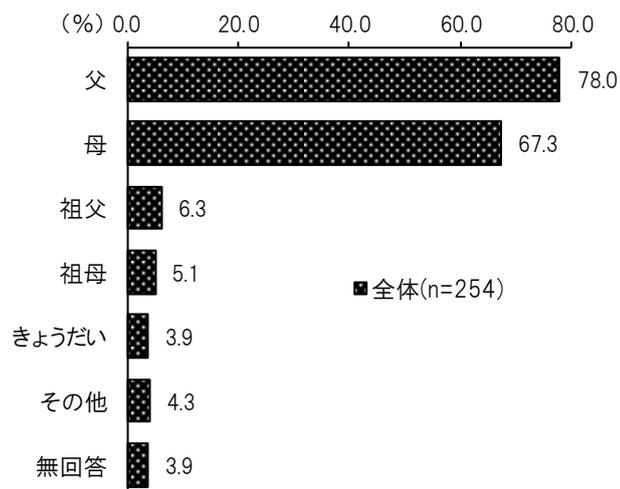
3 家族の中で働いている人

【問 10 で「自宅（アパートなどを含む）で暮らしている」を選んだ方について】

問 12 お子さんと同居の家族の方で、働いている人は誰ですか。

（あてはまるものすべてに○）

家族の中で働いている人については、「父」が 78.0%と最も高く、次いで「母」(67.3%)となっている。

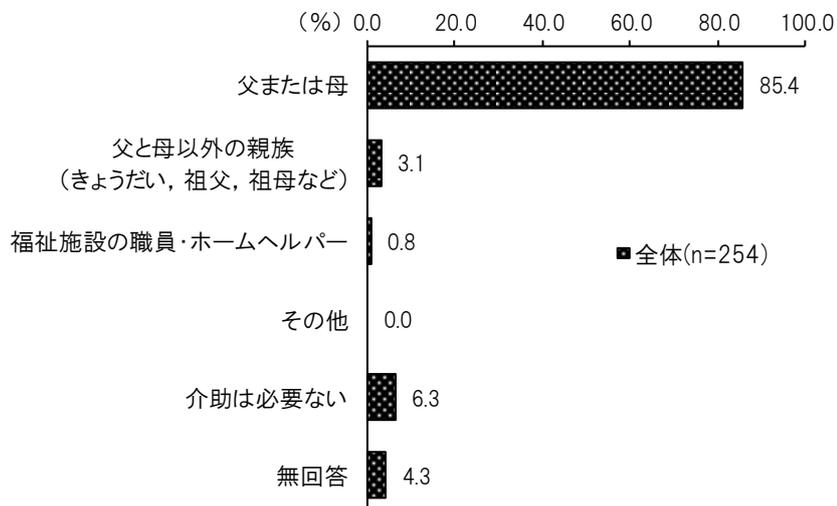


4 主な介助者

【問 10 で「自宅（アパートなどを含む）で暮らしている」を選んだ方について】

問 13 お子さんの主な介助者は、どなたですか。お子さんからみた続柄でお答えください。（○は1つだけ）

主な介助者については、「父または母」が大半（85.4%）を占めており、「父と母以外の親族（きょうだい、祖父、祖母など）」が 3.1%、「介助は必要ない」が 6.3%となっている。



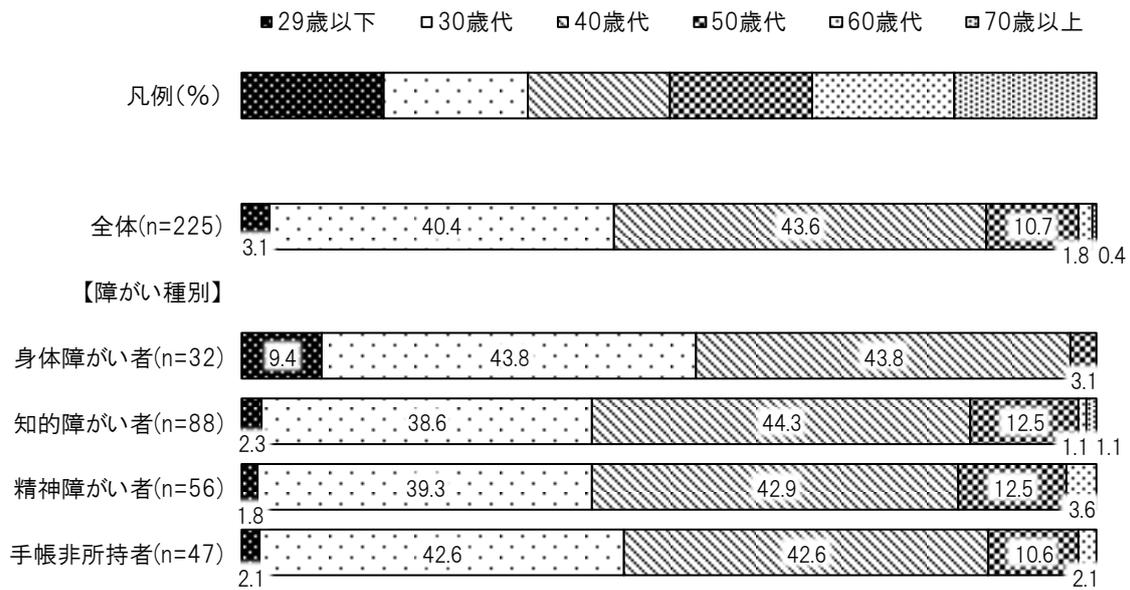
5 介助者の年齢

【問 13 で主な介助者が「父または母，父と母以外の親族」を選んだ方について】

問 14 主な介助者の年齢をお答えください。（○は1つだけ）

介助者の年齢は、「40歳代」が43.6%と最も高く、次いで「30歳代」（40.4%）、「50歳代」（10.7%）が続く。40歳代以下で全体の約9割（87.1%）を占めている。

障がい種別では、身体障がい者はほかの障がいに比べ「29歳以下」の割合が高くなっている。

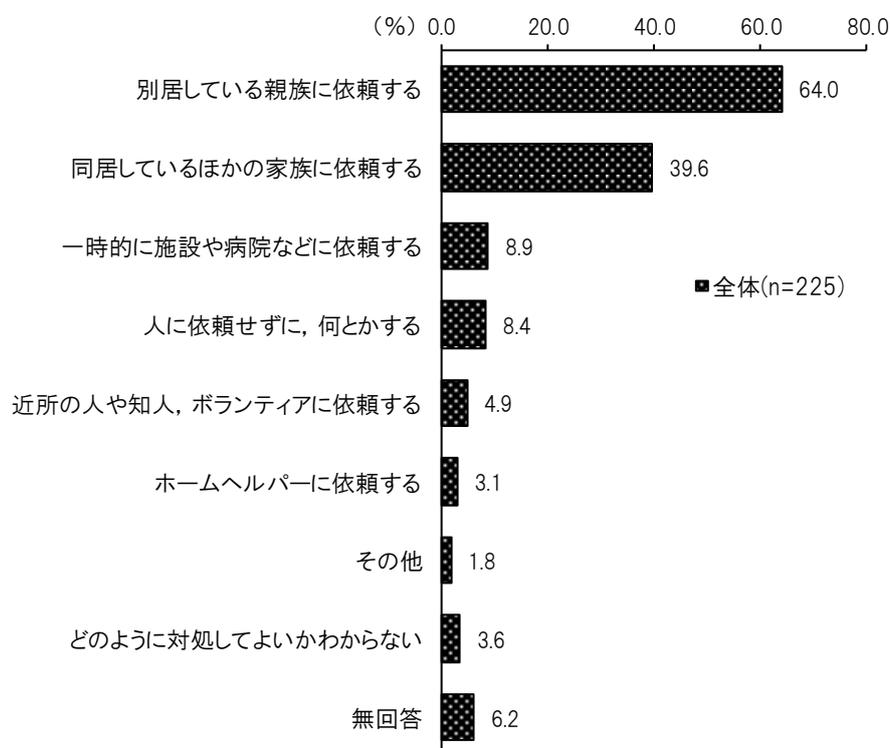


6 介助ができなくなった場合の対処について

【問 13 で主な介助者が「父または母，父と母以外の親族」を選んだ方について】

問 15 お子さんの主な介助者が，急な用事や急病，不慮の事故などのために一時的に介助ができなくなった場合，どのように対処することになっていますか。
(あてはまるものすべてに○)

介助ができなくなった場合の対処については，「別居している親族に依頼する」の割合が 64.0%と最も高く，次いで「同居しているほかの家族に依頼する」(39.6%)，「一時的に施設や病院などに依頼する」(8.9%)，「人に依頼せずに，何とかする」(8.4%) の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「近所の人や知人、ボランティアに依頼する」「ホームヘルパーに依頼する」、知的障がい者で「同居しているほかの家族に依頼する」「一時的に施設や病院などに依頼する」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

年齢別でみると、3～8歳で「別居している親族に依頼する」、9～14歳で「同居しているほかの家族に依頼する」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	別居している親族に依頼する	同居しているほかの家族に依頼する	一時的に施設や病院などに依頼する	人に依頼せずに、何とかする	近所の人や知人、ボランティアに依頼する	ホームヘルパーに依頼する	その他	かわからない対処してよい
全体(n=225)	64.0	39.6	8.9	8.4	4.9	3.1	1.8	3.6
【障がい種別】								
身体障がい者(n=32)	68.8	34.4	6.3	3.1	12.5	15.6	3.1	6.3
知的障がい者(n=88)	58.0	48.9	17.0	5.7	4.5	4.5	1.1	1.1
精神障がい者(n=56)	62.5	32.1	8.9	10.7	3.6	1.8	1.8	5.4
手帳非所持者(n=47)	70.2	36.2	0.0	10.6	4.3	0.0	2.1	4.3
【年齢別】								
0～2歳(n=4)	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
3～5歳(n=28)	78.6	35.7	3.6	7.1	10.7	7.1	0.0	3.6
6～8歳(n=55)	80.0	36.4	5.5	9.1	1.8	0.0	0.0	3.6
9～11歳(n=47)	59.6	44.7	17.0	4.3	8.5	0.0	8.5	4.3
12～14歳(n=40)	57.5	45.0	10.0	7.5	5.0	0.0	0.0	7.5
15～17歳(n=47)	46.8	36.2	8.5	12.8	2.1	8.5	0.0	0.0

注1:表中の「網掛け」は、各クロス集計(障がい種別や年齢別など)において最も高い割合を示している。
(例/障がい種別の場合、各障がいを比べて最も高い層に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)
但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。
また「無回答」は表記から省略している。(本報告書においては、以下同様)
注2:年齢別の「0～2歳」は、件数(n)が少ないため参考値として参照。

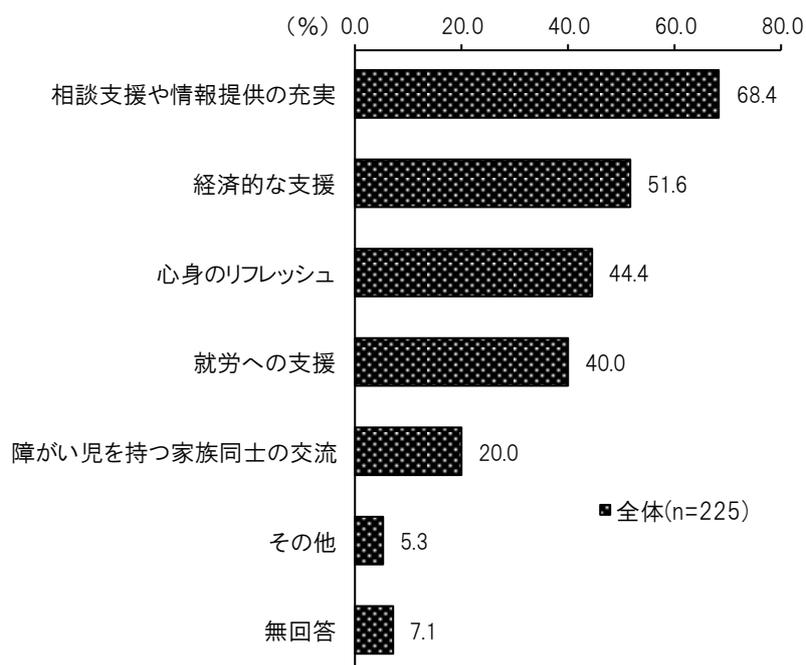
7 介助者に必要な支援

【問 13 で主な介助者が「父または母，父と母以外の親族」を選んだ方について】

問 16 お子さんの主な介助者が，必要としている支援は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

介助者に必要な支援については，「相談支援や情報提供の充実」の割合が 68.4%と最も高く，次いで「経済的な支援」(51.6%)，「心身のリフレッシュ」(44.4%)，「就労への支援」(40.0%)，「障がい児を持つ家族同士の交流」(20.0%)の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「就労への支援」、精神障がい者で「経済的な支援」、手帳非所持者で「相談支援や情報提供の充実」「心身のリフレッシュ」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「相談支援や情報提供の充実」「心身のリフレッシュ」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。

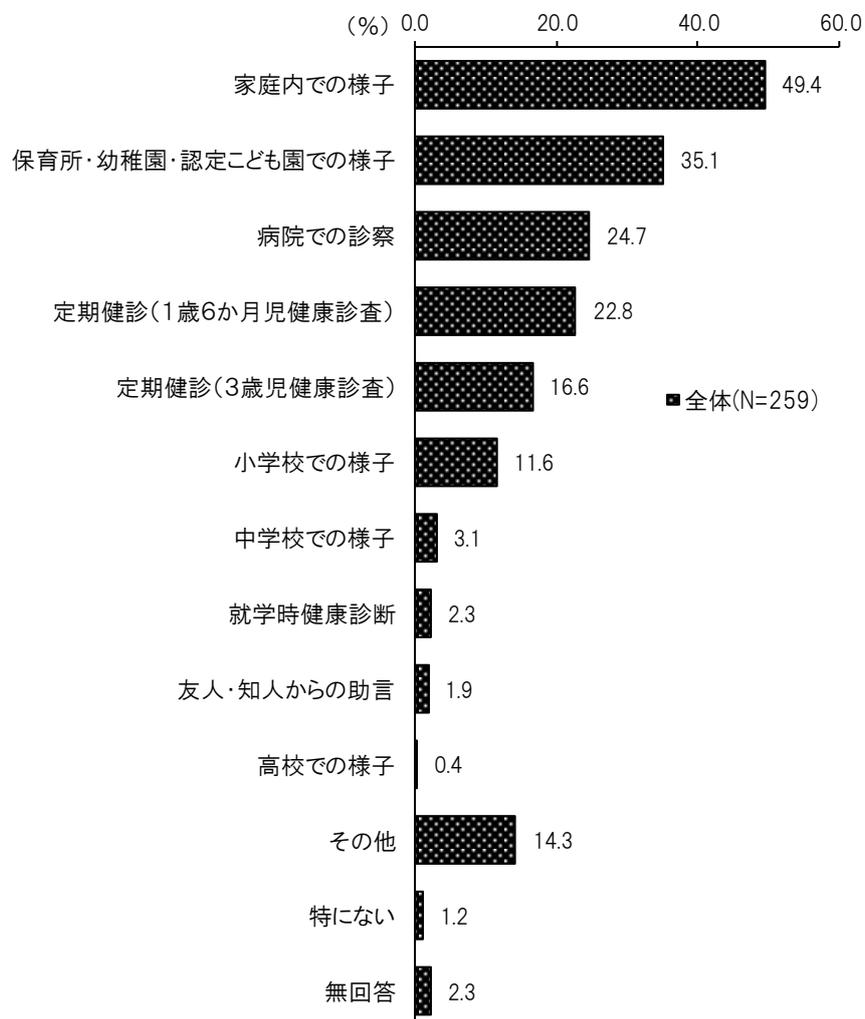
単位(%)	相談支援や情報提供の充実	経済的な支援	心身のリフレッシュ	就労への支援	障がい児を持つ家族同士の交流	その他
全体(n=225)	68.4	51.6	44.4	40.0	20.0	5.3
【障がい種別】						
身体障がい者(n=32)	53.1	56.3	37.5	43.8	25.0	3.1
知的障がい者(n=88)	68.2	53.4	46.6	50.0	18.2	3.4
精神障がい者(n=56)	60.7	67.9	41.1	32.1	16.1	5.4
手帳非所持者(n=47)	76.6	34.0	53.2	29.8	25.5	8.5
【発達障がい診断別】						
ある(n=180)	71.7	50.6	47.8	40.6	21.1	5.0
ない(n=38)	55.3	50.0	26.3	31.6	13.2	5.3

【3】相談について

1 障がいに気付いたきっかけ

問 17 お子さんの発達の不安や障がいに気付いたきっかけは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

障がいに気付いたきっかけについては、「家庭内での様子」の割合が49.4%と最も高く、次いで「保育所・幼稚園・認定こども園での様子」(35.1%)、「病院での診察」(24.7%)、「定期健診(1歳6か月児健康診査)」(22.8%)、「定期健診(3歳児健康診査)」(16.6%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「病院での診察」、知的障がい者で「定期健診（1歳6か月児健康診査）」、精神障がい者で「小学校での様子」「中学校での様子」、精神障がい者や手帳非所持者で「保育所・幼稚園・認定こども園での様子」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「家庭内での様子」「保育所・幼稚園・認定こども園での様子」などの割合が、診断がない人を大きく上回っている。

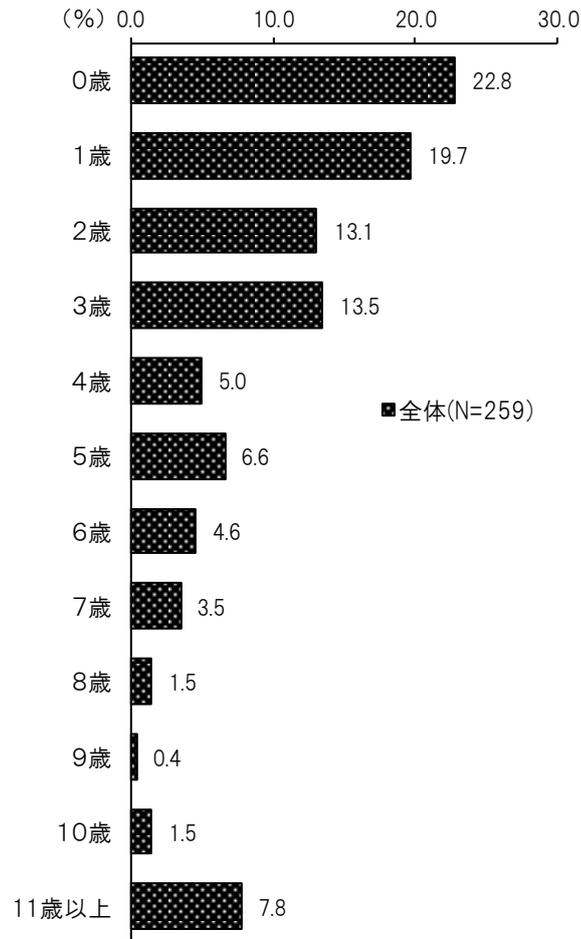
障がい認知年齢別では、0歳の時に気付いた人は「病院での診察」の割合がほかの年齢を大きく上回っており、1歳では「定期健診（1歳6か月児健康診査）」、3歳では「保育所・幼稚園・認定こども園での様子」「定期健診（3歳児健康診査）」、4歳以上では「小学校での様子」「中学校での様子」の割合がそれぞれほかの年齢に比べて高くなっている。

単位 (%)	家庭内での様子	保育所・幼稚園・認定こども園での様子	病院での診察	定期健診（1歳6か月児健康診査）	定期健診（3歳児健康診査）	小学校での様子	中学校での様子	就学時健康診断	友人・知人からの助言	高校での様子	その他	特になし
全体(N=259)	49.4	35.1	24.7	22.8	16.6	11.6	3.1	2.3	1.9	0.4	14.3	1.2
【障がい種別】												
身体障がい者(n=38)	31.6	0.0	47.4	5.3	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.5	2.6
知的障がい者(n=100)	47.0	28.0	32.0	36.0	21.0	4.0	1.0	2.0	0.0	1.0	15.0	0.0
精神障がい者(n=60)	56.7	46.7	16.7	11.7	15.0	25.0	10.0	5.0	3.3	0.0	15.0	0.0
手帳非所持者(n=57)	54.4	49.1	12.3	14.0	19.3	14.0	1.8	1.8	3.5	0.0	5.3	1.8
【発達障がい診断別】												
ある(n=206)	54.9	40.8	19.9	26.7	19.4	12.6	2.9	2.4	1.9	0.0	10.7	0.0
ない(n=45)	22.2	11.1	44.4	6.7	2.2	8.9	4.4	2.2	2.2	2.2	26.7	6.7
【障がい認知年齢別】												
0歳(n=59)	35.6	3.4	50.8	11.9	5.1	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	35.6	1.7
1歳(n=51)	74.5	17.6	25.5	66.7	19.6	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0
2歳(n=34)	67.6	52.9	5.9	38.2	23.5	5.9	0.0	2.9	5.9	0.0	5.9	0.0
3歳(n=35)	51.4	77.1	11.4	11.4	48.6	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0
4歳以上(n=70)	37.1	48.6	18.6	0.0	7.1	32.9	11.4	5.7	4.3	1.4	11.4	0.0

2 障がい気付いた年齢

問 18 お子さんの発達の不安や障がいに気付いたのは、お子さんが何歳のときですか。

障がいに気付いた年齢については、「0歳」の割合が22.8%と最も高く、次いで「1歳」(19.7%)、「3歳」(13.5%)、「2歳」(13.1%)の順となっている。「0～1歳(合計)」で全体の約4割(42.5%)、「0～3歳(合計)」で全体の約7割(69.1%)を占めている。



障がい種別では、身体障がい者で「0歳」、知的障がい者で「1歳」「2歳」、手帳非所持者で「3歳」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

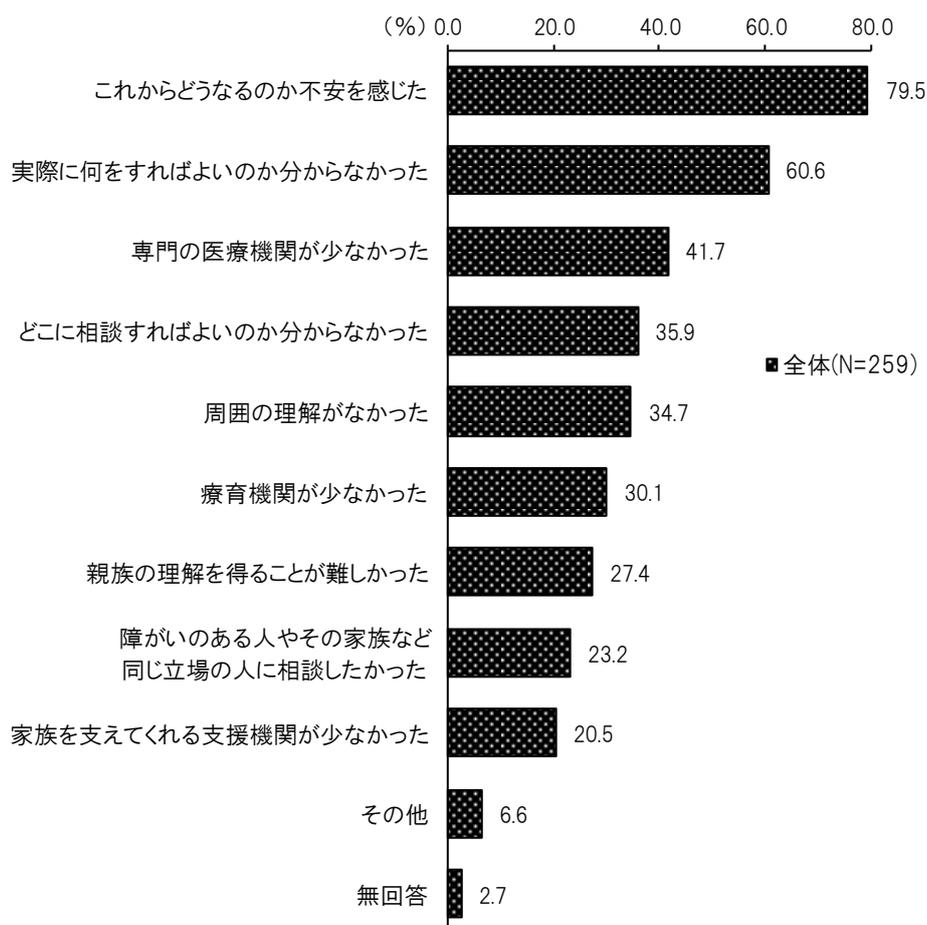
発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「1歳」「2歳」「3歳」の割合が高くなっている。

単位 (%)	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳以上
全体(N=259)	22.8	19.7	13.1	13.5	5.0	6.6	4.6	3.5	1.5	0.4	1.5	7.8
【障がい種別】												
身体障がい者(n=38)	76.3	5.3	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1
知的障がい者(n=100)	29.0	29.0	18.0	12.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	3.0
精神障がい者(n=60)	8.3	16.7	11.7	11.7	8.3	10.0	8.3	5.0	5.0	0.0	1.7	13.4
手帳非所持者(n=57)	7.0	15.8	10.5	21.1	12.3	8.8	10.5	7.0	1.8	0.0	0.0	5.4
【発達障がい診断別】												
ある(n=206)	16.0	22.3	16.0	16.0	5.3	7.8	5.3	3.9	1.5	0.0	1.5	4.5
ない(n=45)	51.1	6.7	2.2	2.2	4.4	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	19.9

3 障がい気付いてから悩んだこと

問 19 お子さんの発達の不安や障がいに気付いてから、悩んだことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

障がいに気付いてから悩んだことについては、「これからどうなるのか不安を感じた」の割合が79.5%と最も高く、次いで「実際に何をすればよいのか分からなかった」(60.6%)、「専門の医療機関が少なかった」(41.7%)、「どこに相談すればよいのか分からなかった」(35.9%)、「周囲の理解がなかった」(34.7%)の順となっている。



障がい種別では、精神障がい者で割合の高い項目が多くみられ、特に「実際に何をすればよいのか分からなかった」「周囲の理解がなかった」「親族の理解を得ることが難しかった」などの割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断がある人では「専門の医療機関が少なかった」「周囲の理解がなかった」などの割合が、診断がない人を大きく上回っている。

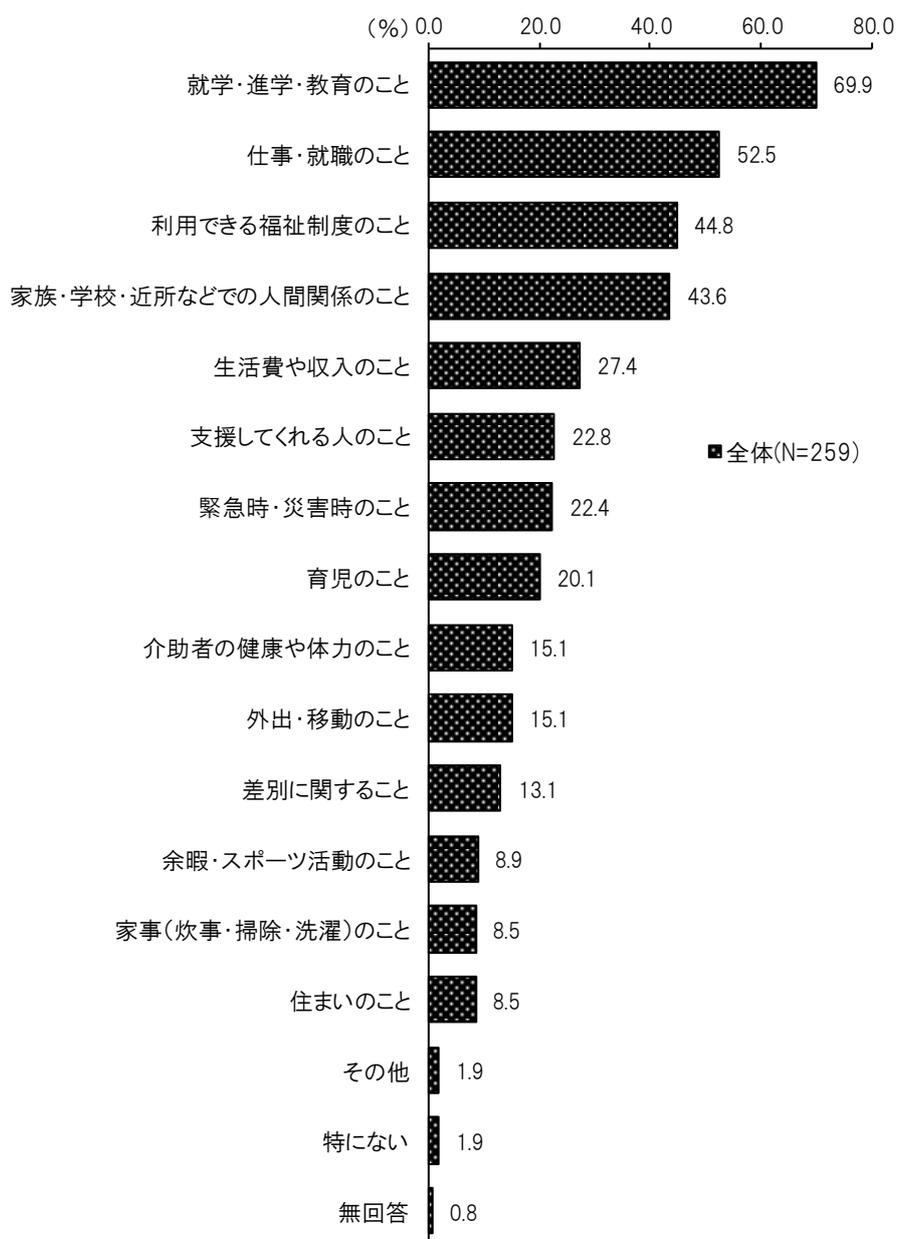
障がい認知年齢別では、1歳で「これからどうなるのか不安を感じた」「実際に何をすればよいのか分からなかった」、2歳で「家族を支えてくれる支援機関が少なかった」、1～2歳で「周囲の理解がなかった」「療育機関が少なかった」などの割合がそれぞれほかの年齢に比べて高くなっている。

単位 (%)	をこ 感じ たら どう なる のか 不安	分実 から に何 かを すれ ばよ いのか	た専 門の 医療 機関 が少 なかつ	分ど から に相 談す れば よい のか	周 囲の 理解 がな かつ	療 育機 関が 少な かつ	し親 族の 理解 を得 ること が難	たな かど が同 じの 立場 の人 やそ の相 談家 族	関家 族を 支え てく れる 支援 機	そ 他
全体(N=259)	79.5	60.6	41.7	35.9	34.7	30.1	27.4	23.2	20.5	6.6
【障がい種別】										
身体障がい者(n=38)	71.1	55.3	26.3	36.8	21.1	21.1	15.8	21.1	10.5	7.9
知的障がい者(n=100)	77.0	61.0	39.0	36.0	27.0	28.0	16.0	23.0	15.0	4.0
精神障がい者(n=60)	81.7	71.7	51.7	40.0	58.3	36.7	41.7	21.7	31.7	6.7
手帳非所持者(n=57)	80.7	52.6	47.4	33.3	26.3	31.6	31.6	26.3	24.6	8.8
【発達障がい診断別】										
ある(n=206)	81.1	62.6	46.1	36.9	39.3	31.6	30.1	24.8	21.8	6.3
ない(n=45)	71.1	46.7	20.0	28.9	13.3	20.0	17.8	11.1	11.1	6.7
【障がい認知年齢別】										
0歳(n=59)	79.7	64.4	35.6	42.4	23.7	33.9	13.6	27.1	18.6	5.1
1歳(n=51)	92.2	74.5	51.0	27.5	47.1	39.2	29.4	27.5	21.6	9.8
2歳(n=34)	79.4	55.9	50.0	38.2	44.1	41.2	38.2	20.6	29.4	0.0
3歳(n=35)	80.0	48.6	42.9	28.6	25.7	22.9	25.7	17.1	17.1	2.9
4歳以上(n=70)	75.7	61.4	38.6	41.4	37.1	21.4	34.3	22.9	20.0	10.0

4 相談したいこと

問 20 お子さんのことで、相談したいのは、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

相談したいことについては、「就学・進学・教育のこと」の割合が 69.9%と最も高く、次いで「仕事・就職のこと」(52.5%)、「利用できる福祉制度のこと」(44.8%)、「家族・学校・近所などでの人間関係のこと」(43.6%)、「生活費や収入のこと」(27.4%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「利用できる福祉制度のこと」、精神障がい者で「仕事・就職のこと」、精神障がい者や手帳非所持者で「就学・進学・教育のこと」「家族・学校・近所などでの人間関係のこと」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「就学・進学・教育のこと」「家族・学校・近所などでの人間関係のこと」などの割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	就学・進学・教育のこと	仕事・就職のこと	利用できる福祉制度のこと	家族・学校・近所などでの人間関係のこと	生活費や収入のこと	支援してくれる人のこと	緊急時・災害時のこと	育児のこと	介助者の健康や体力のこと	外出・移動のこと	差別に関すること	余暇・スポーツ活動のこと	家事（炊事・掃除・洗濯）のこと	住まいのこと	特にない
全体(N=259)	69.9	52.5	44.8	43.6	27.4	22.8	22.4	20.1	15.1	15.1	13.1	8.9	8.5	8.5	1.9
【障がい種別】															
身体障がい者(n=38)	60.5	52.6	52.6	18.4	34.2	23.7	23.7	15.8	18.4	23.7	13.2	2.6	10.5	5.3	7.9
知的障がい者(n=100)	56.0	47.0	56.0	30.0	29.0	29.0	28.0	24.0	23.0	22.0	11.0	8.0	9.0	12.0	0.0
精神障がい者(n=60)	83.3	66.7	36.7	58.3	31.7	21.7	26.7	15.0	13.3	18.3	18.3	10.0	8.3	8.3	0.0
手帳非所持者(n=57)	84.2	45.6	35.1	57.9	15.8	19.3	10.5	21.1	8.8	1.8	7.0	12.3	5.3	3.5	0.0
【発達障がい診断別】															
ある(n=206)	72.8	55.3	45.6	48.1	27.2	24.3	23.3	21.8	16.0	14.6	13.6	9.2	7.8	9.2	0.0
ない(n=45)	57.8	44.4	37.8	26.7	26.7	13.3	20.0	15.6	8.9	17.8	8.9	6.7	11.1	4.4	8.9

注:「その他」は表記から省略している。

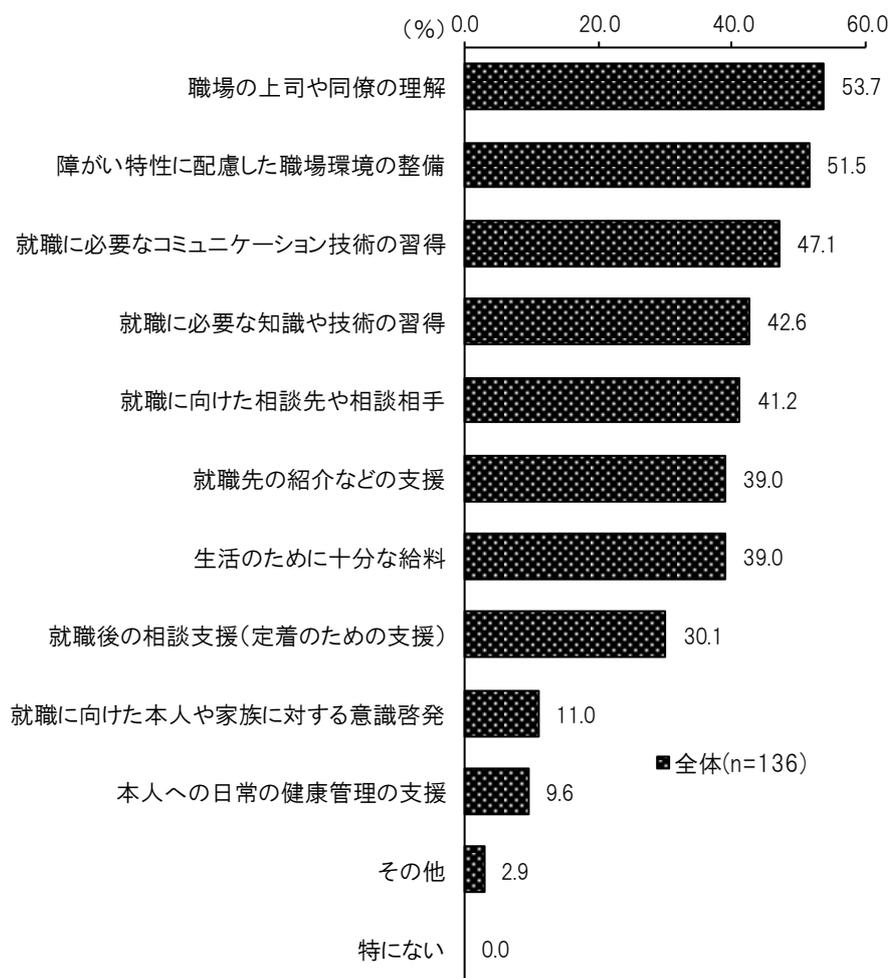
5 子どもが就労するために重要だと思うこと

【問 20 で「仕事・就職のこと」を選んだ方について】

問 21 お子さんが、将来、仕事に就くために重要だと思うことは何ですか。

(主なもの3つまでに○)

子どもが就労するために重要だと思うことについては、「職場の上司や同僚の理解」の割合が53.7%と最も高く、次いで「障がい特性に配慮した職場環境の整備」(51.5%)、「就職に必要なコミュニケーション技術の習得」(47.1%)、「就職に必要な知識や技術の習得」(42.6%)、「就職に向けた相談先や相談相手」(41.2%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「障がい特性に配慮した職場環境の整備」「就職先の紹介などの支援」、精神障がい者で「就職に必要なコミュニケーション技術の習得」「就職に向けた相談先や相談相手」「就職に向けた本人や家族に対する意識啓発」、手帳非所持者で「職場の上司や同僚の理解」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

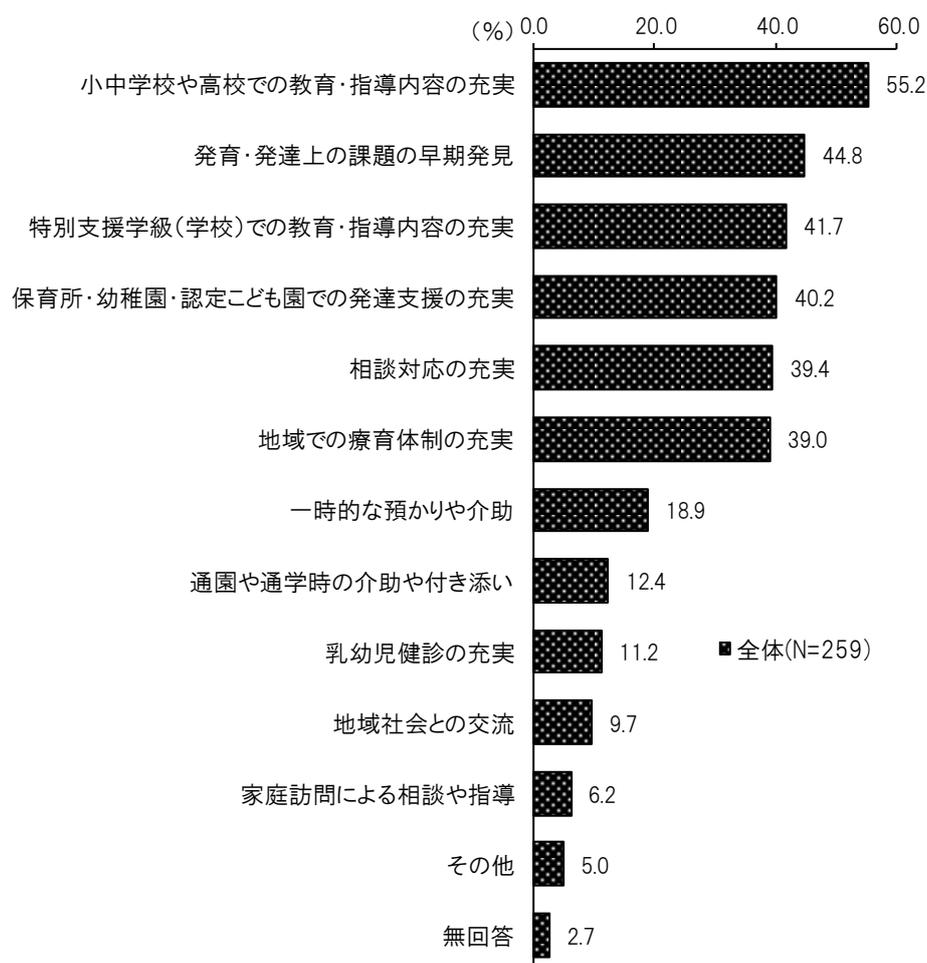
発達障がいの診断がある人では「就職に必要なコミュニケーション技術の習得」「就職に向けた相談先や相談相手」「就職後の相談支援（定着のための支援）」などの割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	職場の上司や同僚の理解	障がい特性に配慮した職場環境の整備	就職に必要なコミュニケーション技術の習得	就職に必要な知識や技術の習得	就職に向けた相談先や相談相手	就職先の紹介などの支援	生活のために十分な給料	就職後の相談支援（定着のための支援）	就職に向けた本人や家族に対する意識啓発	本人への日常の健康管理の支援	その他	特にない
全体(n=136)	53.7	51.5	47.1	42.6	41.2	39.0	39.0	30.1	11.0	9.6	2.9	0.0
【障がい種別】												
身体障がい者(n=20)	60.0	60.0	15.0	40.0	45.0	60.0	40.0	20.0	5.0	5.0	5.0	0.0
知的障がい者(n=47)	34.0	53.2	36.2	46.8	29.8	31.9	42.6	29.8	2.1	8.5	2.1	0.0
精神障がい者(n=40)	60.0	45.0	65.0	42.5	52.5	42.5	37.5	32.5	22.5	17.5	0.0	0.0
手帳非所持者(n=26)	69.2	50.0	46.2	30.8	38.5	34.6	42.3	30.8	11.5	7.7	11.5	0.0
【発達障がい診断別】												
ある(n=114)	49.1	50.9	52.6	43.0	43.9	36.8	40.4	33.3	12.3	11.4	2.6	0.0
ない(n=20)	85.0	55.0	10.0	35.0	25.0	55.0	35.0	15.0	5.0	0.0	5.0	0.0

6 発達上の支援が必要な子どものために必要なこと

問 22 発育・発達上の支援が必要な子どものために、どのようなことが必要だと思いますか。（主なものを3つまでに○）

発達上の支援が必要な子どものために必要なことについては、「小中学校や高校での教育・指導内容の充実」の割合が55.2%と最も高く、次いで「発育・発達上の課題の早期発見」（44.8%）、「特別支援学級（学校）での教育・指導内容の充実」（41.7%）、「保育所・幼稚園・認定こども園での発達支援の充実」（40.2%）、「相談対応の充実」（39.4%）の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「一時的な預かりや介助」、手帳非所持者で「小中学校や高校での教育・指導内容の充実」、身体障がい者や精神障がい者で「保育所・幼稚園・認定こども園での発達支援の充実」、精神障がい者や手帳非所持者で「相談対応の充実」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「小中学校や高校での教育・指導内容の充実」「特別支援学級（学校）での教育・指導内容の充実」「相談対応の充実」などの割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	小中学校や高校での教育・指導内容の充実	見・発育・発達上の課題の早期発	育・特別支援学級（学校）での教育・指導内容の充実	園・保育所・幼稚園・認定こども園での発達支援の充実	相談対応の充実	地域での療育体制の充実	一時的な預かりや介助	い・通園や通学時の介助や付き添	乳幼児健診の充実	地域社会との交流	家庭訪問による相談や指導	その他
全体(N=259)	55.2	44.8	41.7	40.2	39.4	39.0	18.9	12.4	11.2	9.7	6.2	5.0
【障がい種別】												
身体障がい者(n=38)	39.5	39.5	28.9	44.7	28.9	47.4	18.4	13.2	10.5	10.5	5.3	5.3
知的障がい者(n=100)	42.0	49.0	46.0	32.0	36.0	44.0	26.0	14.0	11.0	11.0	4.0	1.0
精神障がい者(n=60)	60.0	45.0	43.3	43.3	48.3	26.7	20.0	11.7	10.0	11.7	11.7	8.3
手帳非所持者(n=57)	73.7	42.1	42.1	38.6	43.9	45.6	12.3	12.3	10.5	7.0	5.3	7.0
【発達障がい診断別】												
ある(n=206)	61.2	47.6	45.6	37.9	41.3	36.9	19.9	12.6	12.1	9.2	5.3	5.3
ない(n=45)	31.1	37.8	26.7	53.3	26.7	46.7	15.6	11.1	8.9	11.1	8.9	2.2

7 基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況

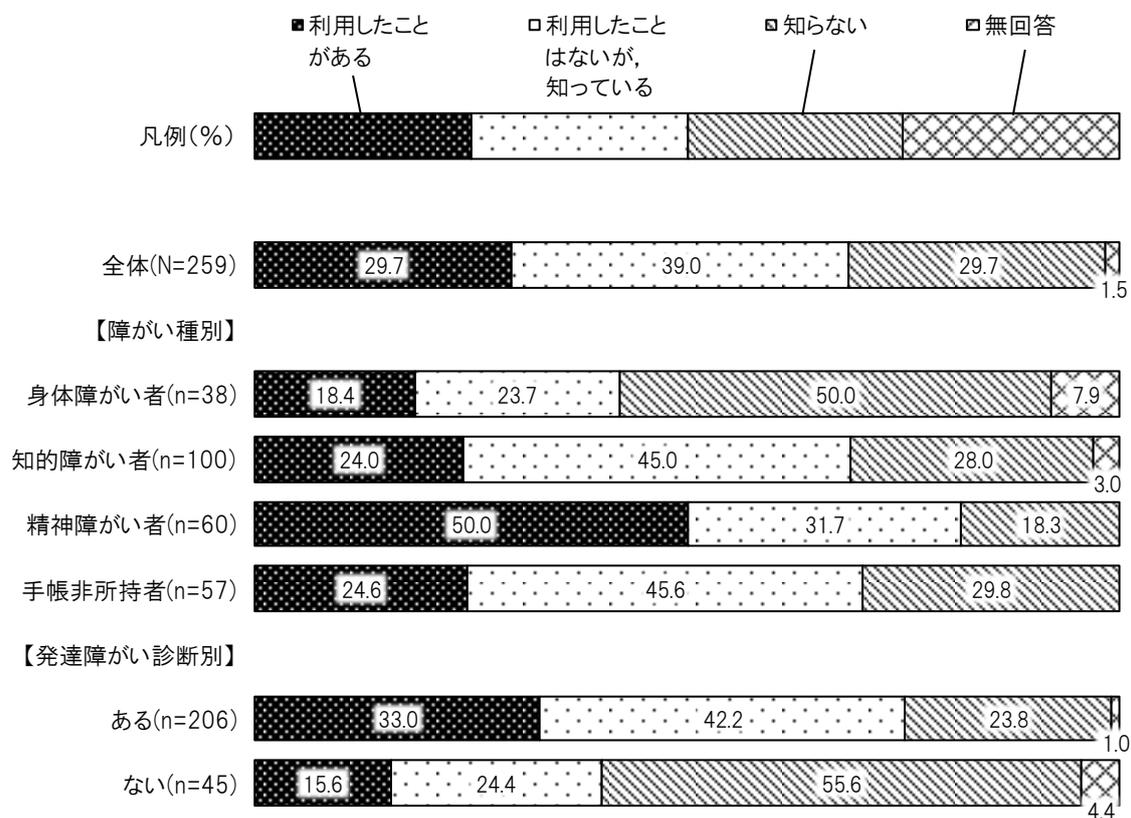
問 23 あなたは、基幹相談支援センター（クローバー）※を利用したことがありますか。
（○は1つだけ）

※基幹相談支援センター（クローバー）では、障がいの種別などを問わず、障がいのある人の日常生活や社会生活を支援し、地域で安心して生活できるよう総合相談や専門の相談員による相談を行っています。

基幹相談支援センター（クローバー）の利用状況については、「利用したことがある」が29.7%、「利用したことはないが、知っている」が39.0%で、合計約7割（68.7%）の認知率となっている。一方、約3割（29.7%）は「知らない」と回答している。

障がい種別では、精神障がい者の半数が「利用したことがある」と回答しているが、身体障がい者の半数は「知らない」と回答している。

発達障がいの診断がある人は7割以上の認知率となっており、診断がない人を大きく上回っている。



8 こども発達支援センターの利用状況

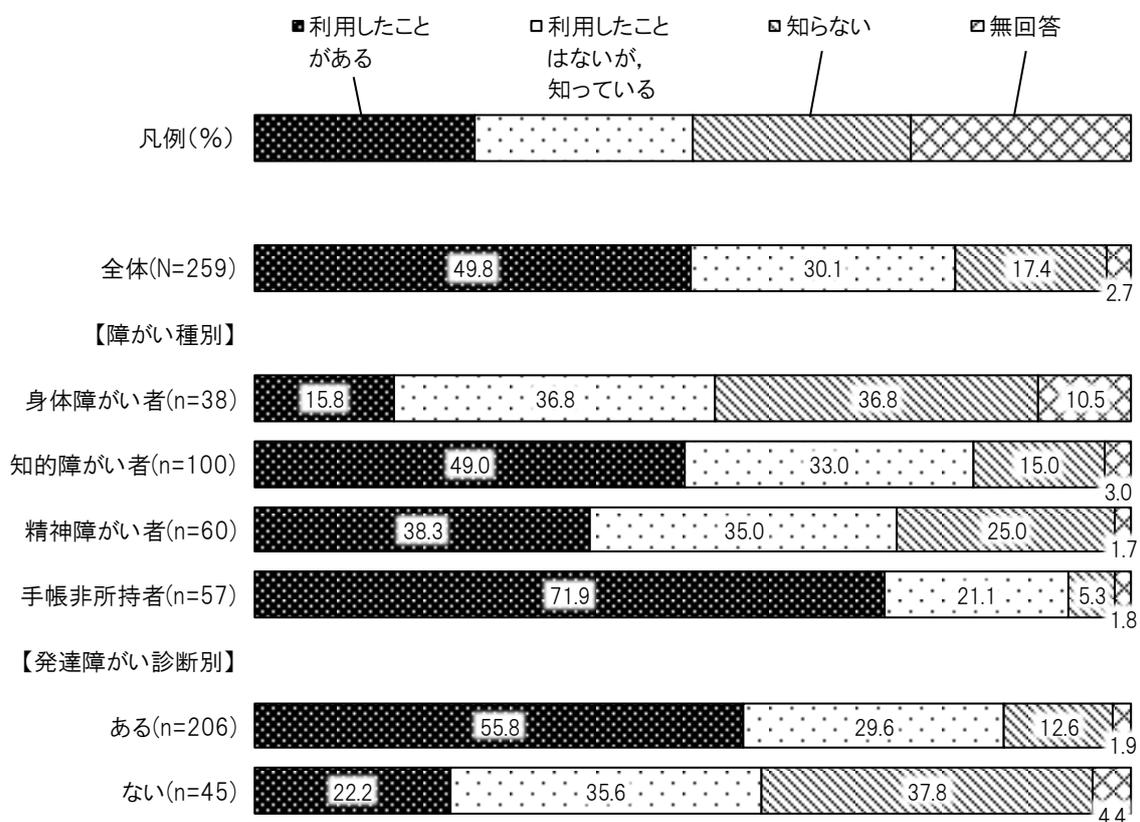
問 24 こども発達支援センター※を利用したことがありますか。(○は1つだけ)

※こども発達支援センターでは、就学前の発達が気になるお子さんとその保護者に対し、相談や診察、訓練などの医療的支援を行っています。

こども発達支援センターの利用状況については、「利用したことがある」が49.8%、「利用したことはないが、知っている」が30.1%で、合計約8割(79.9%)の認知率となっている。一方、「知らない」は17.4%となっている。

障がい種別では、手帳非所持者の約7割が「利用したことがある」と回答しているが、身体障がい者はほかの障がいに比べ「知らない」の割合が高くなっている。

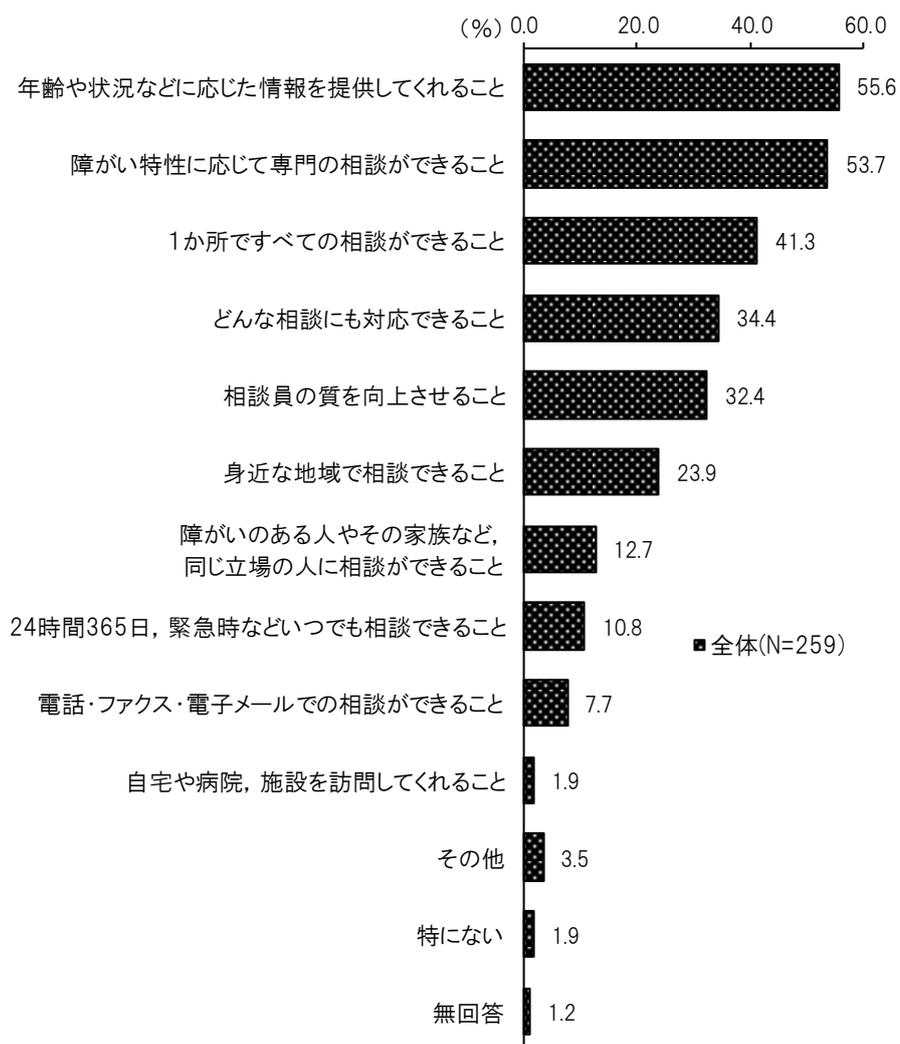
発達障がいの診断がある人では、半数以上が「利用したことがある」と回答しており、診断がない人を大きく上回っている。



9 相談先に望むこと

問 25 あなたが相談するときに望むことは何ですか。（主なもの3つまでに○）

相談先に望むことについては、「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」の割合が 55.6%と最も高く、次いで「障がい特性に応じて専門の相談ができること」（53.7%）、「1か所ですべての相談ができること」（41.3%）、「どんな相談にも対応できること」（34.4%）、「相談員の質を向上させること」（32.4%）の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「1か所ですべての相談ができること」、知的障がい者や精神障がい者で「どんな相談にも対応できること」、手帳非所持者で「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」「身近な地域で相談できること」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

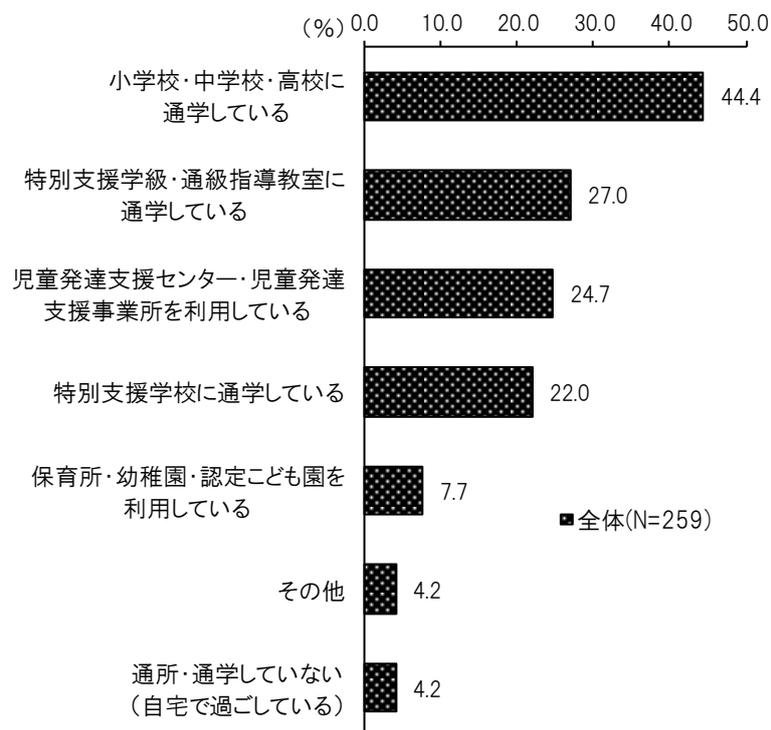
単位(%)	年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること	障がい特性に応じて専門の相談ができること	1か所ですべての相談ができること	どんな相談にも対応できること	相談員の質を向上させること	身近な地域で相談できること	障がいのある人やその家族など、同じ立場の人に相談ができること	24時間365日、緊急時などいつでも相談できること	電話・ファクス・電子メールでの相談ができること	自宅や病院、施設を訪問してくれること	その他	特になし
全体(N=259)	55.6	53.7	41.3	34.4	32.4	23.9	12.7	10.8	7.7	1.9	3.5	1.9
【障がい種別】												
身体障がい者(n=38)	55.3	47.4	26.3	28.9	31.6	23.7	13.2	18.4	10.5	2.6	0.0	2.6
知的障がい者(n=100)	52.0	51.0	49.0	39.0	36.0	24.0	12.0	11.0	4.0	0.0	3.0	1.0
精神障がい者(n=60)	50.0	58.3	40.0	36.7	23.3	23.3	18.3	16.7	11.7	5.0	5.0	3.3
手帳非所持者(n=57)	68.4	56.1	38.6	26.3	35.1	31.6	10.5	5.3	5.3	1.8	5.3	0.0

【4】日中の過ごし方について

1 通所・通学先

問 26 お子さんの通所・通学先はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

通所・通学先については、「小学校・中学校・高校に通学している」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「特別支援学級・通級指導教室に通学している」(27.0%)、「児童発達支援センター・児童発達支援事業所を利用している」(24.7%)、「特別支援学校に通学している」(22.0%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「保育所・幼稚園・認定こども園を利用している」、知的障がい者で「特別支援学校に通学している」、精神障がい者や手帳非所持者で「小学校・中学校・高校に通学している」「特別支援学級・通級指導教室に通学している」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

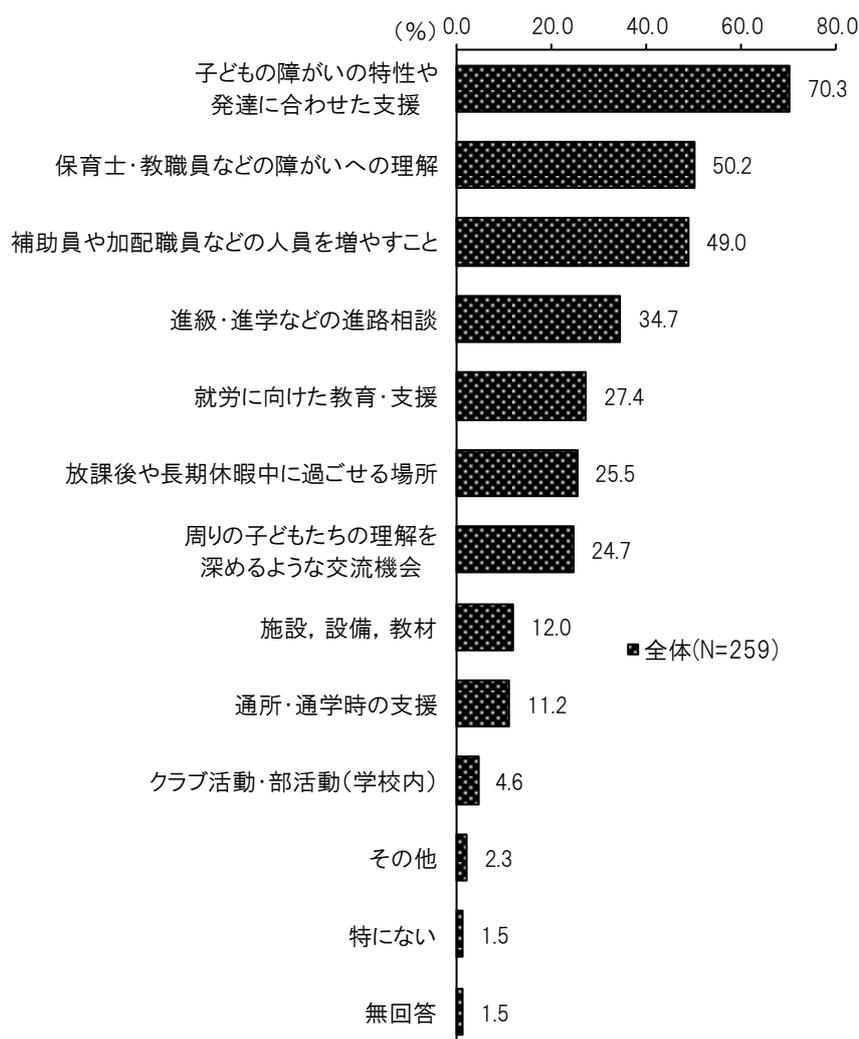
発達障がいの診断がある人では「小学校・中学校・高校に通学している」「特別支援学級・通級指導教室に通学している」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	小学校・中学校・高校に通学している	特別支援学級・通級指導教室に通学している	児童発達支援事業所・児童発達支援センター・児童発達支援施設を利用している	特別支援学校に通学している	保育所・幼稚園・認定こども園を利用している	その他	通所・通学していない（自宅で過ごす）
全体(N=259)	44.4	27.0	24.7	22.0	7.7	4.2	4.2
【障がい種別】							
身体障がい者(n=38)	26.3	5.3	26.3	26.3	18.4	5.3	7.9
知的障がい者(n=100)	21.0	15.0	30.0	46.0	6.0	2.0	0.0
精神障がい者(n=60)	66.7	45.0	13.3	1.7	0.0	10.0	8.3
手帳非所持者(n=57)	64.9	42.1	28.1	0.0	8.8	1.8	3.5
【発達障がい診断別】							
ある(n=206)	48.5	32.0	25.2	20.9	6.3	4.4	2.4
ない(n=45)	28.9	8.9	22.2	22.2	13.3	4.4	13.3

2 通所・通学先で充実してほしいこと

問 27 保育所・幼稚園・認定こども園・学校や療育機関について、どのようなことを充実してほしいと思いますか。（主なもの3つまでに○）

通所・通学先で充実してほしいことについては、「子どもの障がいの特性や発達に合わせた支援」の割合が70.3%と最も高く、次いで「保育士・教職員などの障がいへの理解」(50.2%)、「補助員や加配職員などの人員を増やすこと」(49.0%)、「進級・進学などの進路相談」(34.7%)、「就労に向けた教育・支援」(27.4%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「周りの子どもたちの理解を深めるような交流機会」、精神障がい者で「就労に向けた教育・支援」、精神障がい者や手帳非所持者で「進級・進学などの進路相談」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「子どもの障がいの特性や発達に合わせた支援」「補助員や加配職員などの人員を増やすこと」「放課後や長期休暇中に過ごせる場所」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。

通所・通学先別にみると、特別支援学級等で「進級・進学などの進路相談」、保育所・幼稚園等で「保育士・教職員などの障がいへの理解」「補助員や加配職員などの人員を増やすこと」、児童発達支援センター等で「子どもの障がいの特性や発達に合わせた支援」の割合がそれぞれほかの層に比べて高くなっている。

単位 (%)	子どもに合わせた支援	保育士・教職員などの障がいへの理解	補助員や加配職員などの人員を増やすこと	進級・進学などの進路相談	就労に向けた教育・支援	放課後や長期休暇中に過ごせる場所	深めるような交流機会	周りの子どもたちの理解を	施設、設備、教材	通所・通学時の支援	内) クラブ活動・部活動(学校)	特にな
全体(N=259)	70.3	50.2	49.0	34.7	27.4	25.5	24.7	12.0	11.2	4.6	1.5	
【障がい種別】												
身体障がい者(n=38)	71.1	50.0	55.3	23.7	21.1	26.3	36.8	18.4	13.2	7.9	2.6	
知的障がい者(n=100)	75.0	48.0	48.0	24.0	25.0	32.0	29.0	16.0	14.0	3.0	1.0	
精神障がい者(n=60)	66.7	50.0	51.7	48.3	46.7	18.3	15.0	13.3	11.7	3.3	0.0	
手帳非所持者(n=57)	75.4	50.9	47.4	42.1	17.5	28.1	24.6	5.3	10.5	5.3	0.0	
【発達障がい診断別】												
ある(n=206)	72.8	50.5	51.0	35.4	27.7	27.7	24.3	10.2	11.7	3.9	0.5	
ない(n=45)	60.0	53.3	40.0	35.6	28.9	17.8	26.7	17.8	8.9	8.9	6.7	
【通所・通学先別】												
小中学校・高校(n=115)	69.6	51.3	46.1	40.9	35.7	20.0	25.2	13.0	9.6	6.1	0.9	
特別支援学校(n=57)	71.9	36.8	42.1	15.8	33.3	35.1	24.6	15.8	14.0	5.3	3.5	
特別支援学級等(n=70)	67.1	50.0	54.3	50.0	25.7	18.6	27.1	12.9	7.1	0.0	0.0	
保育所・幼稚園等(n=20)	70.0	65.0	70.0	20.0	5.0	35.0	40.0	10.0	10.0	5.0	5.0	
児童発達支援センター等(n=64)	79.7	54.7	57.8	34.4	15.6	29.7	21.9	7.8	10.9	3.1	0.0	

注:「その他」は表記から省略している。

【5】障がい児福祉サービスなどについて

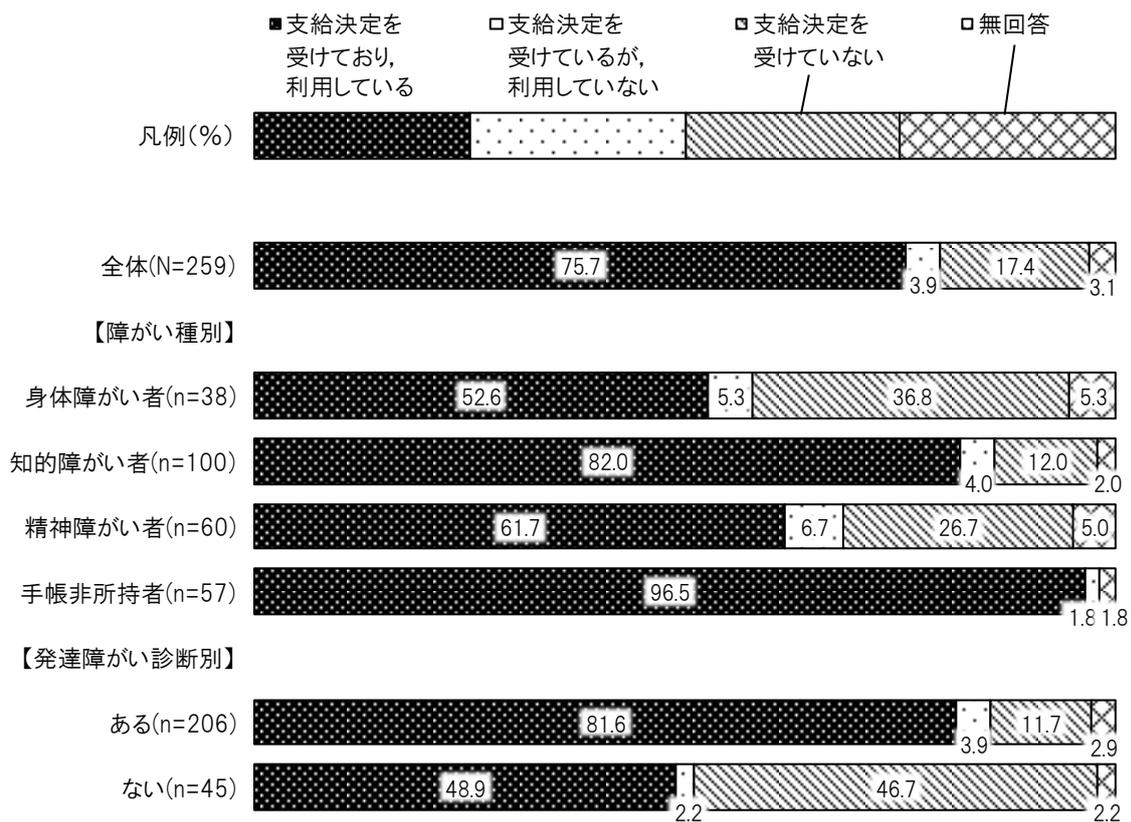
1 障がい児福祉サービスなどの利用の有無

問 28 お子さんは、現在、問 29 の 1～15 に書いてある障がい児福祉サービスなどを利用していますか。（○は1つだけ）

障がい児福祉サービスなどの利用の有無については、「支給決定を受けており、利用している」の割合が 75.7%、「支給決定を受けているが、利用していない」が 3.9%で、合計約 8 割（79.6%）が「支給決定を受けている」と回答している。一方、「支給決定を受けていない」は 17.4%となっている。

障がい種別では、知的障がい者や手帳非所持者で「支給決定を受けており、利用している」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断がある人の約 8 割が「支給決定を受けており、利用している」と回答しており、診断がない人を大きく上回っている。



2 障がい児福祉サービスなどの利用状況

【問 28 で「支給決定を受けている」を選んだ方について】

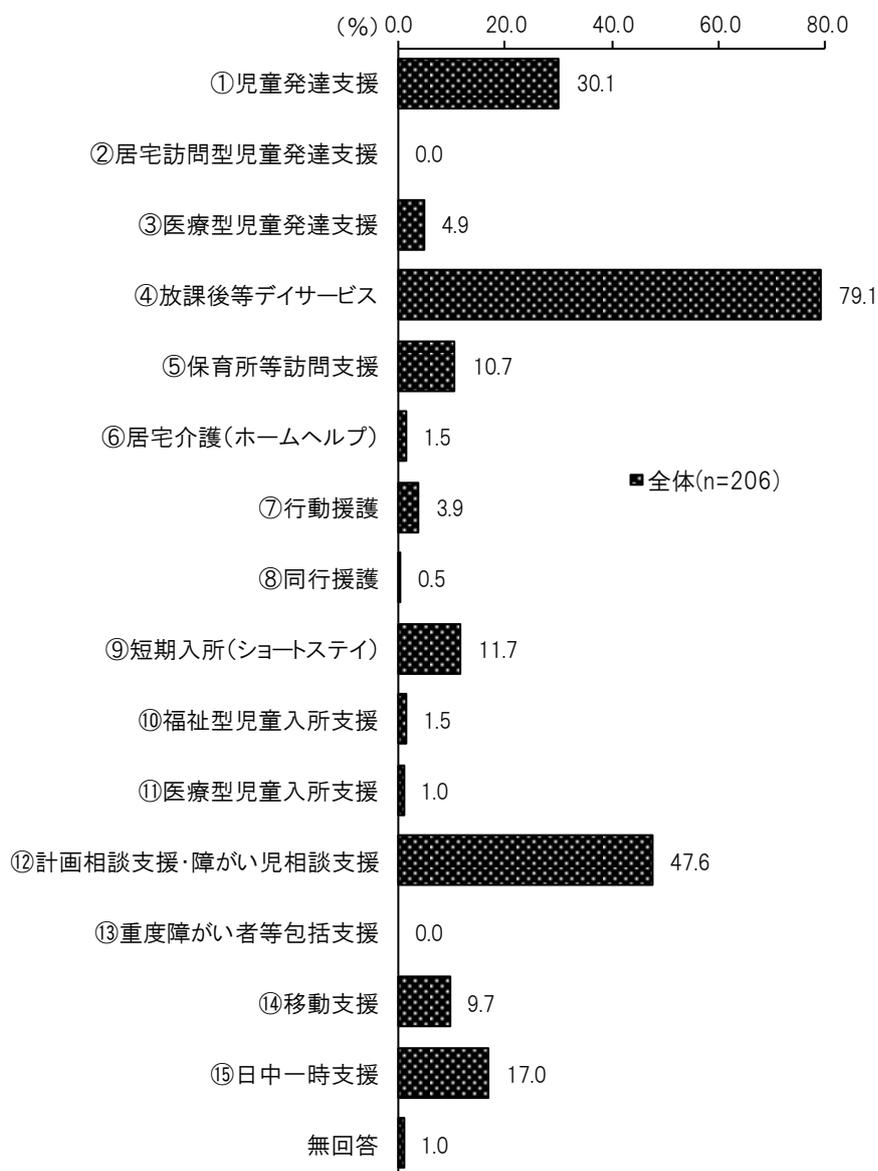
問 29 お子さんが受給しているサービスについておたずねします。

①現在、お子さんが支給決定を受けているサービスをすべてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

②上記①でお子さんが支給決定を受けているサービスについて、それぞれの利用状況をお答えください。(○は1つだけ)

①支給決定を受けているサービス

支給決定を受けているサービスについては、「④放課後等デイサービス」の割合が 79.1%と最も高く、次いで「⑫計画相談支援・障がい児相談支援」(47.6%)、「①児童発達支援」(30.1%)、「⑮日中一時支援」(17.0%)の順となっている。



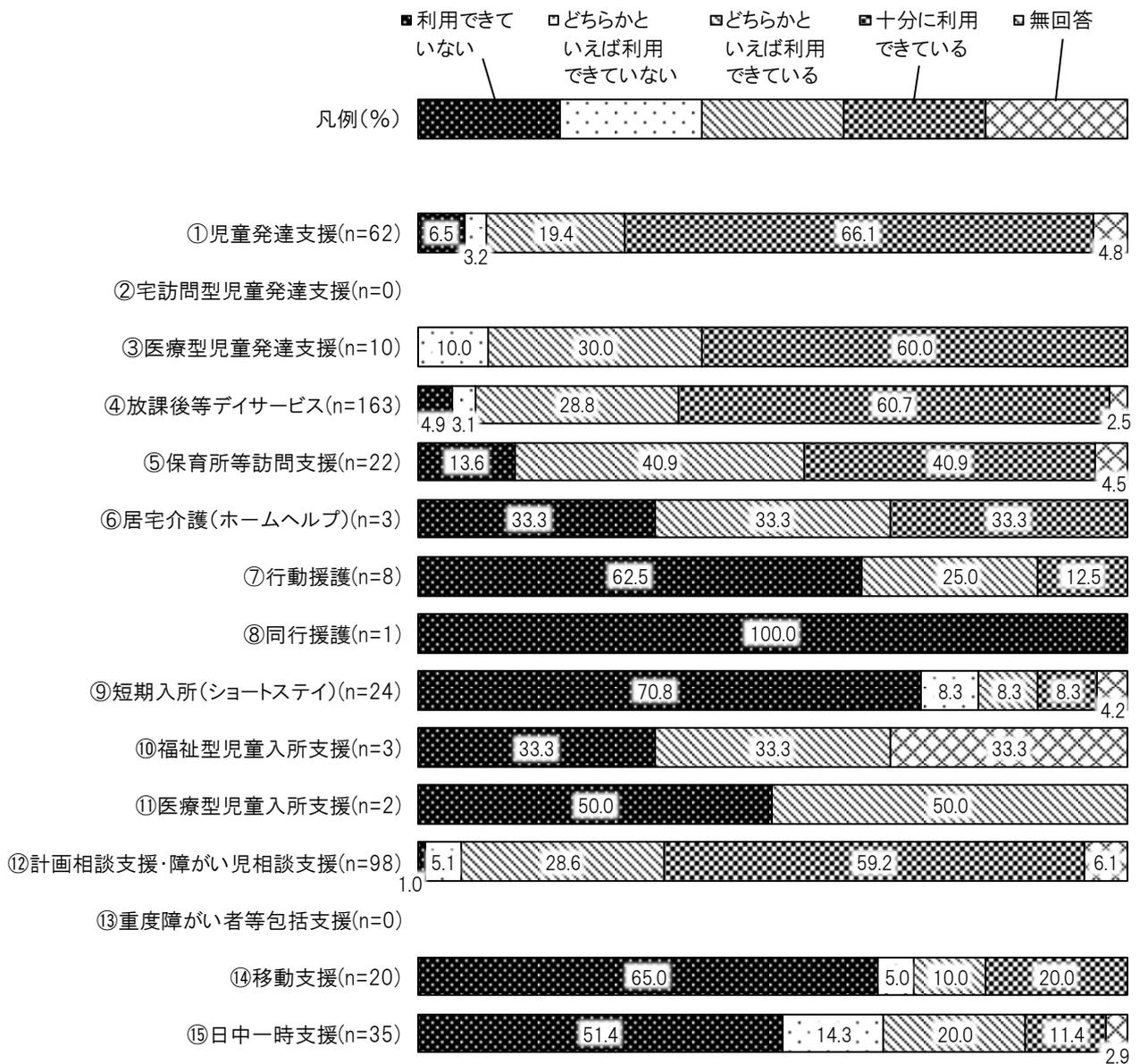
障がい種別では、身体障がい者で「①児童発達支援」「③医療型児童発達支援」、身体障がい者や知的障がい者で「⑮日中一時支援」、精神障がい者や手帳非所持者で「④放課後等デイサービス」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「④放課後等デイサービス」「⑫計画相談支援・障がい児相談支援」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	①児童発達支援	②居宅訪問型児童発達支援	③医療型児童発達支援	④放課後等デイサービス	⑤保育所等訪問支援	⑥居宅介護（ホームヘルプ）	⑦行動援護	⑧同行援護	⑨短期入所（ショートステイ）	⑩福祉型児童入所支援	⑪医療型児童入所支援	⑫計画相談支援・障がい児相談支援	⑬重度障がい者等包括支援	⑭移動支援	⑮日中一時支援
全体(n=206)	30.1	0.0	4.9	79.1	10.7	1.5	3.9	0.5	11.7	1.5	1.0	47.6	0.0	9.7	17.0
【障がい種別】															
身体障がい者(n=22)	40.9	0.0	22.7	50.0	9.1	9.1	9.1	4.5	18.2	4.5	9.1	45.5	0.0	18.2	27.3
知的障がい者(n=86)	34.9	0.0	5.8	72.1	3.5	3.5	8.1	1.2	20.9	3.5	2.3	51.2	0.0	11.6	34.9
精神障がい者(n=41)	22.0	0.0	4.9	90.2	17.1	0.0	2.4	0.0	12.2	0.0	0.0	53.7	0.0	17.1	2.4
手帳非所持者(n=56)	26.8	0.0	1.8	87.5	16.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.3	0.0	3.6	3.6
【発達障がい診断別】															
ある(n=176)	27.8	0.0	4.0	83.0	10.2	0.6	4.0	0.0	12.5	1.1	0.0	52.3	0.0	9.1	17.0
ない(n=23)	43.5	0.0	8.7	52.2	17.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	8.7	17.4	0.0	17.4	17.4

②サービスの利用状況

サービスの利用状況について「利用できていない」割合をみると、「⑨短期入所（ショートステイ）」（70.8%）、「⑭移動支援」（65.0%）、「⑮日中一時支援」（51.4%）などで高くなっている。



注: 件数(n=)が10未満の項目については、参考値として参照。

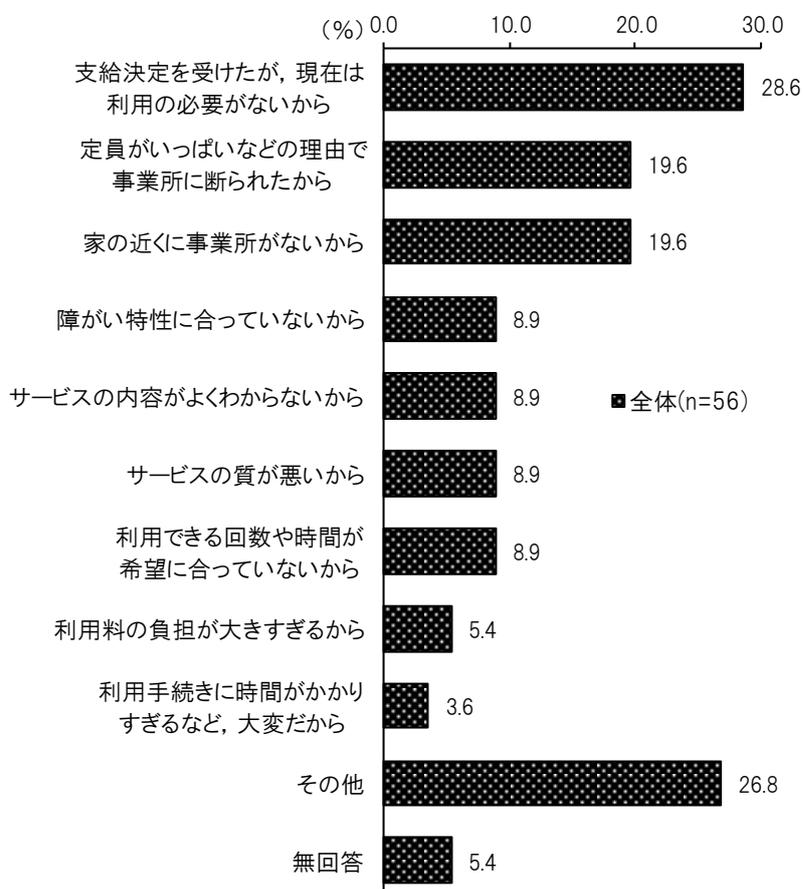
3 サービスを利用できていない理由

【問 29②でいずれか1つでも「利用できていない」「どちらかといえば利用できていない」を選んだ方について】

問 30 お子さんが利用できていないサービスについて、その理由をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

サービスを利用できていない理由については、「支給決定を受けたが、現在は利用の必要がないから」の割合が28.6%と最も高く、次いで「定員がいっぱいなどの理由で事業所に断られたから」「家の近くに事業所がないから」(各19.6%)の順となっている。

また「その他」では、「本人が拒否している」「医療的な視点でのフォローが不十分」などの意見がみられた。



障がい種別では、知的障がい者で「支給決定を受けたが、現在は利用の必要がないから」「定員がいっぱいなどの理由で事業所に断られたから」などの割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

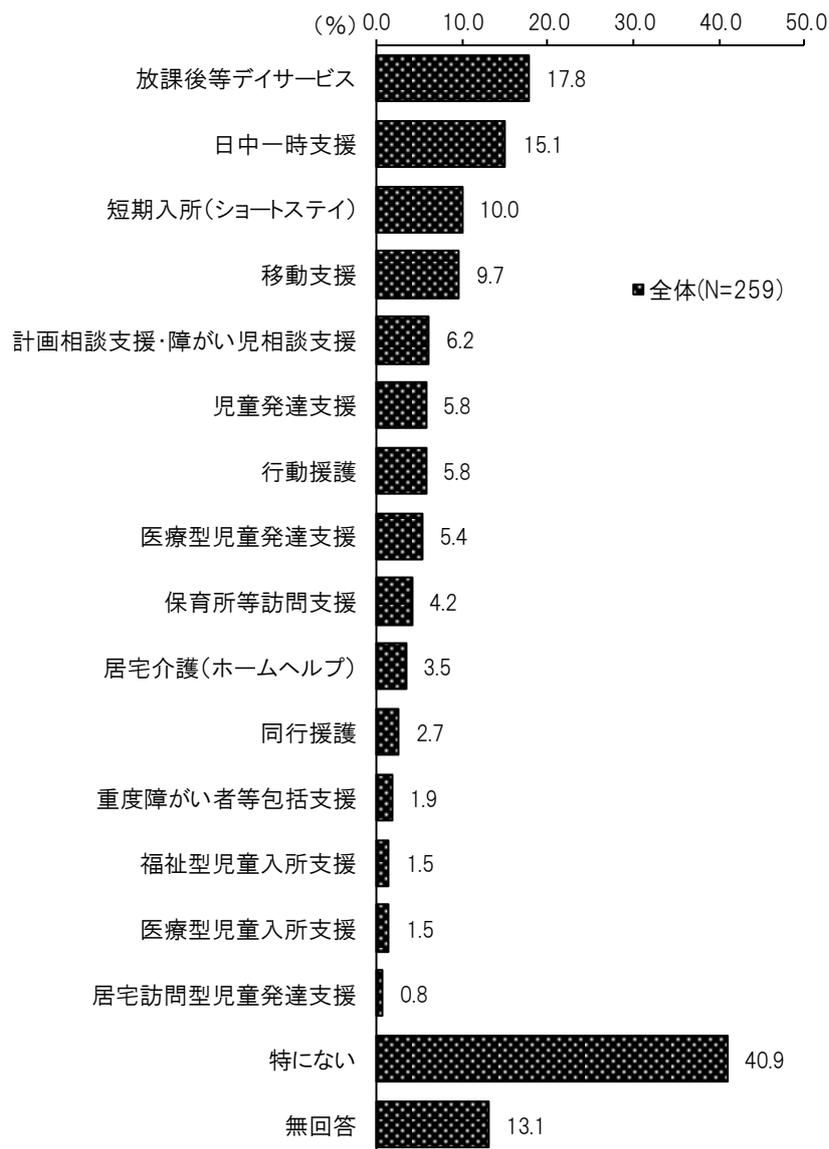
単位 (%)	支給決定を受けたが、現在は利用の必要がないから	定員がいっぱいなどの理由で事業所に断られたから	家の近くに事業所がないから	障がい特性に合っていないから	サービスの内容がよくわからないから	サービスの質が悪いから	利用できる回数や時間が希望に合っていないから	利用料の負担が大きすぎるから	利用手続きに時間がかかりすぎるなど、大変だから	その他
全体(n=56)	28.6	19.6	19.6	8.9	8.9	8.9	8.9	5.4	3.6	26.8
【障がい種別】										
身体障がい者(n=10)	10.0	10.0	30.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0
知的障がい者(n=29)	37.9	24.1	31.0	3.4	6.9	10.3	10.3	3.4	3.4	13.8
精神障がい者(n=13)	15.4	15.4	7.7	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	46.2
手帳非所持者(n=9)	22.2	22.2	0.0	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	55.6

注：手帳非所持者については、件数(n)が少ないため参考値として参照。

4 今後新たに利用したいサービス

問 31 お子さんが、今後新たに利用したいサービスはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

今後新たに利用したいサービスについては、「放課後等デイサービス」の割合が 17.8%と最も高く、次いで「日中一時支援」(15.1%)、「短期入所(ショートステイ)」(10.0%)、「移動支援」(9.7%)の順となっている。一方、「特にない」は約4割(40.9%)みられた。



障がい種別では、知的障がい者で「短期入所（ショートステイ）」「移動支援」「行動援護」、精神障がい者や手帳非所持者で「特にない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「日中一時支援」の割合が高くなっている。

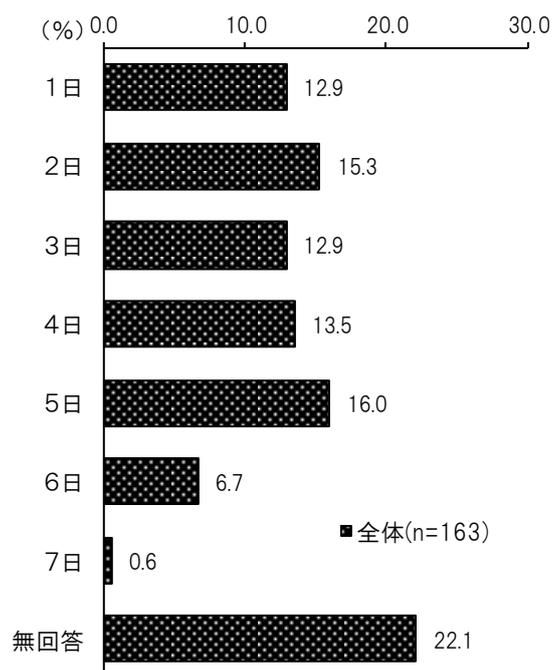
単位(%)	放課後等デイサービス	日中一時支援	短期入所（ショートステイ）	移動支援	計画相談支援・障がい児相談支援	児童発達支援	行動援護	医療型児童発達支援	保育所等訪問支援	居宅介護（ホームヘルプ）	同行援護	重度障がい者等包括支援	福祉型児童入所支援	医療型児童入所支援	居宅訪問型児童発達支援	特にない
全体(N=259)	17.8	15.1	10.0	9.7	6.2	5.8	5.8	5.4	4.2	3.5	2.7	1.9	1.5	1.5	0.8	40.9
【障がい種別】																
身体障がい者(n=38)	21.1	10.5	10.5	7.9	10.5	0.0	5.3	7.9	5.3	10.5	5.3	10.5	2.6	7.9	2.6	28.9
知的障がい者(n=100)	20.0	22.0	23.0	16.0	6.0	5.0	12.0	7.0	4.0	6.0	5.0	4.0	1.0	2.0	1.0	29.0
精神障がい者(n=60)	8.3	20.0	3.3	10.0	6.7	6.7	5.0	5.0	0.0	3.3	0.0	0.0	3.3	1.7	1.7	48.3
手帳非所持者(n=57)	21.1	8.8	0.0	1.8	5.3	5.3	0.0	3.5	8.8	3.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	50.9
【発達障がい診断別】																
ある(n=206)	17.5	15.5	9.2	9.2	5.8	5.8	6.3	5.3	3.9	2.9	2.4	1.5	1.9	1.0	1.0	41.7
ない(n=45)	20.0	8.9	8.9	11.1	8.9	2.2	2.2	4.4	6.7	6.7	4.4	4.4	0.0	4.4	0.0	42.2

5 放課後等デイサービスの利用状況及び利用意向

【問 29①で「放課後等デイサービスの支給決定を受けている」を選んだ方について】
問 32 「放課後等デイサービス」を①週に何日くらい利用していますか。また、②今後、
利用日数を増やしたい（または減らしたい）と思いますか。（○は1つだけ）

①利用日数

利用日数については、「5日」の割合が16.0%と最も高く、次いで「2日」(15.3%)、「4日」(13.5%)の順となっており、平均は3.4日である。

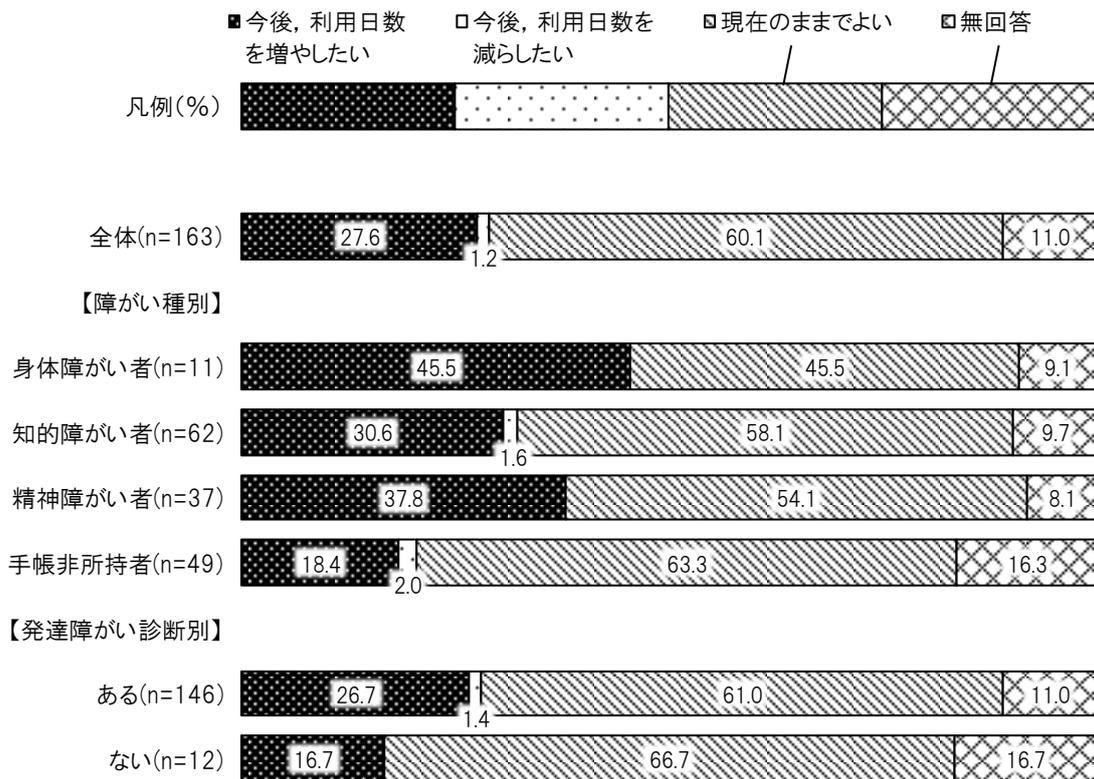


②今後の希望

今後の希望については、「現在のままでよい」の割合が60.1%と最も高く、次いで「今後、利用日数を増やしたい」が27.6%、「今後、利用日数を減らしたい」が1.2%となっている。

障がい種別では、身体障がい者や精神障がい者で「今後、利用日数を増やしたい」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

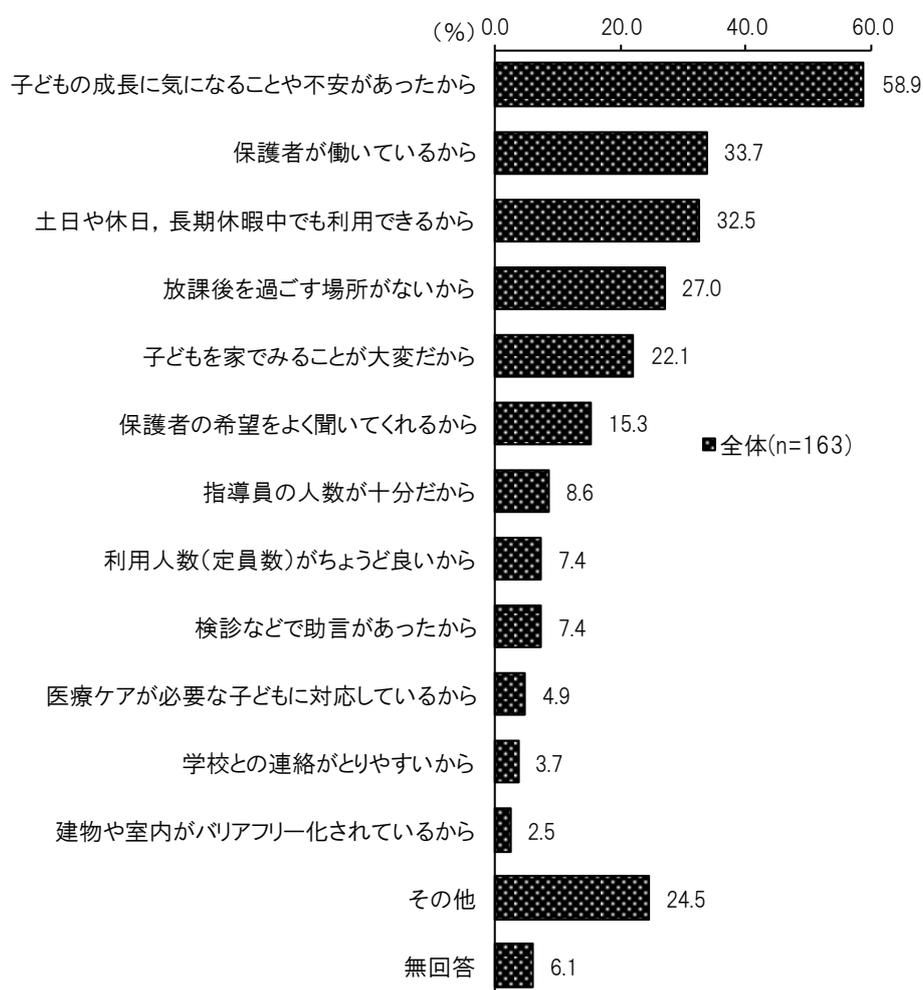
発達障がいの診断がある人では「今後、利用日数を増やしたい」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。



6 放課後等デイサービスを利用している理由

【問 29①で「放課後等デイサービスの支給決定を受けている」を選んだ方について】
問 33 現在「放課後等デイサービス」を利用している主な理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

放課後等デイサービスを利用している理由については、「子どもの成長に気になることや不安があったから」の割合が 58.9%と最も高く、次いで「保護者が働いているから」(33.7%)、「土日や休日、長期休暇中でも利用できるから」(32.5%)、「放課後を過ごす場所がないから」(27.0%)、「子どもを家でみるのが大変だから」(22.1%)の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「保護者が働いているから」「土日や休日、長期休暇中でも利用できるから」、身体障がい者や知的障がい者で「放課後を過ごす場所がないから」「子どもを家でみることが大変だから」、精神障がい者や手帳非所持者で「子どもの成長に気になることや不安があったから」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「子どもの成長に気になることや不安があったから」「保護者が働いているから」「子どもを家でみることが大変だから」などの割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	子どもの成長に気になることや不安があったから	保護者が働いているから	土日や休日、長期休暇中でも利用できるから	放課後を過ごす場所がないから	子どもを家でみることが大変だから	保護者の希望をよく聞いてくれるから	指導員の人数が十分だから	利用人数（定員数）がちようど良いから	検診などで助言があったから	医療ケアが必要な子どもに対応しているから	学校との連絡がとりやすいから	建物や室内がバリアフリー化されているから	その他
全体(n=163)	58.9	33.7	32.5	27.0	22.1	15.3	8.6	7.4	7.4	4.9	3.7	2.5	24.5
【障がい種別】													
身体障がい者(n=11)	27.3	27.3	36.4	45.5	27.3	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	9.1	27.3
知的障がい者(n=62)	38.7	40.3	43.5	41.9	30.6	9.7	1.6	0.0	4.8	1.6	6.5	1.6	14.5
精神障がい者(n=37)	70.3	32.4	29.7	21.6	18.9	24.3	10.8	13.5	10.8	2.7	2.7	2.7	32.4
手帳非所持者(n=49)	73.5	28.6	20.4	12.2	14.3	18.4	14.3	10.2	10.2	10.2	2.0	4.1	28.6
【発達障がい診断別】													
ある(n=146)	61.6	34.9	33.6	28.1	23.3	16.4	8.9	7.5	7.5	4.1	4.1	2.7	25.3
ない(n=12)	41.7	16.7	25.0	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3

7 放課後等デイサービスの支給決定を受けていない理由

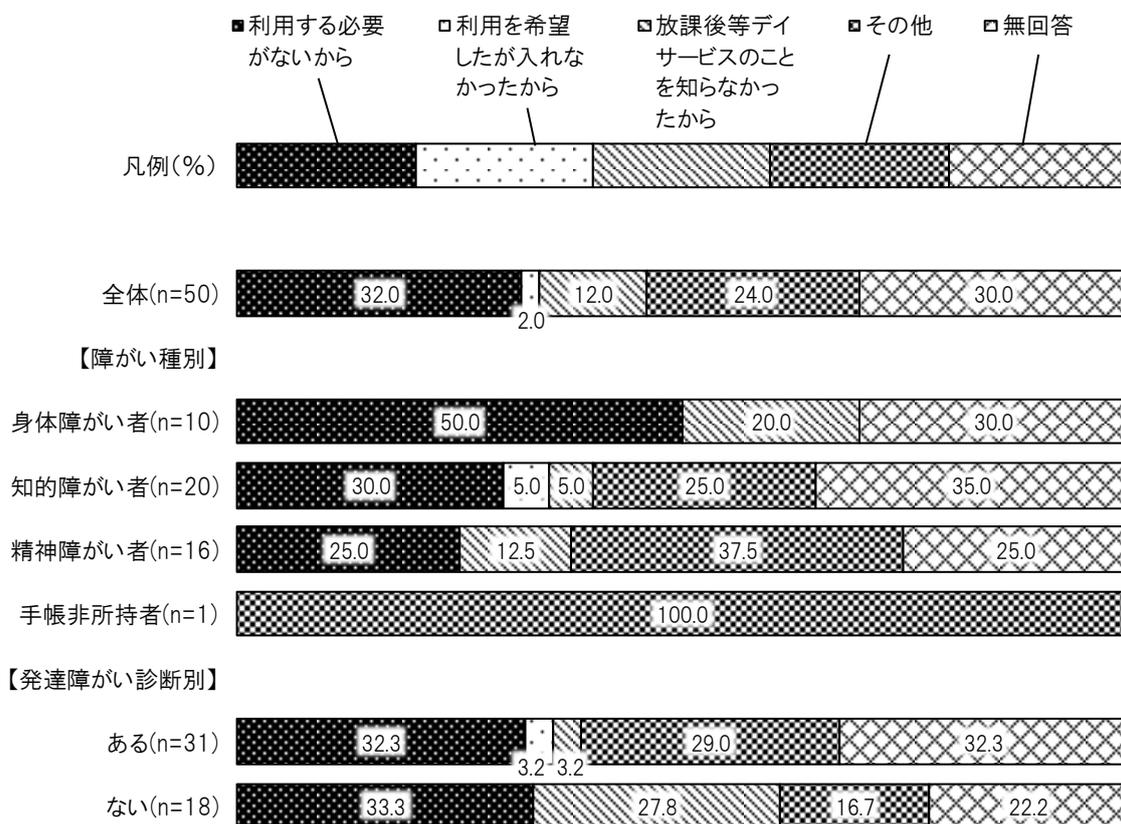
【放課後等デイサービスの支給決定を受けていない方について】

問 34 現在「放課後等デイサービス」の支給決定を受けていない主な理由は何ですか。
(○は1つだけ)

放課後等デイサービスの支給決定を受けていない理由については、「利用する必要がないから」の割合が32.0%と最も高く、次いで「放課後等デイサービスのことを知らなかったから」が12.0%、「利用を希望したが入れなかったから」が2.0%となっている。また「その他」では、「これから利用したい」「子どもが嫌がる」などの意見がみられた。

障がい種別では、身体障がい者はほかの障がいに比べ「利用する必要がないから」の割合が高くなっている。

発達障がいの診断がない人では「放課後等デイサービスのことを知らなかったから」の割合が、診断がある人を大きく上回っている。



注1:手帳非所持者については、件数(n=)が少ないため参考値として参照。

注2:回答割合は、6~18歳を対象として集計した数値。

8 放課後等デイサービスの今後の利用意向

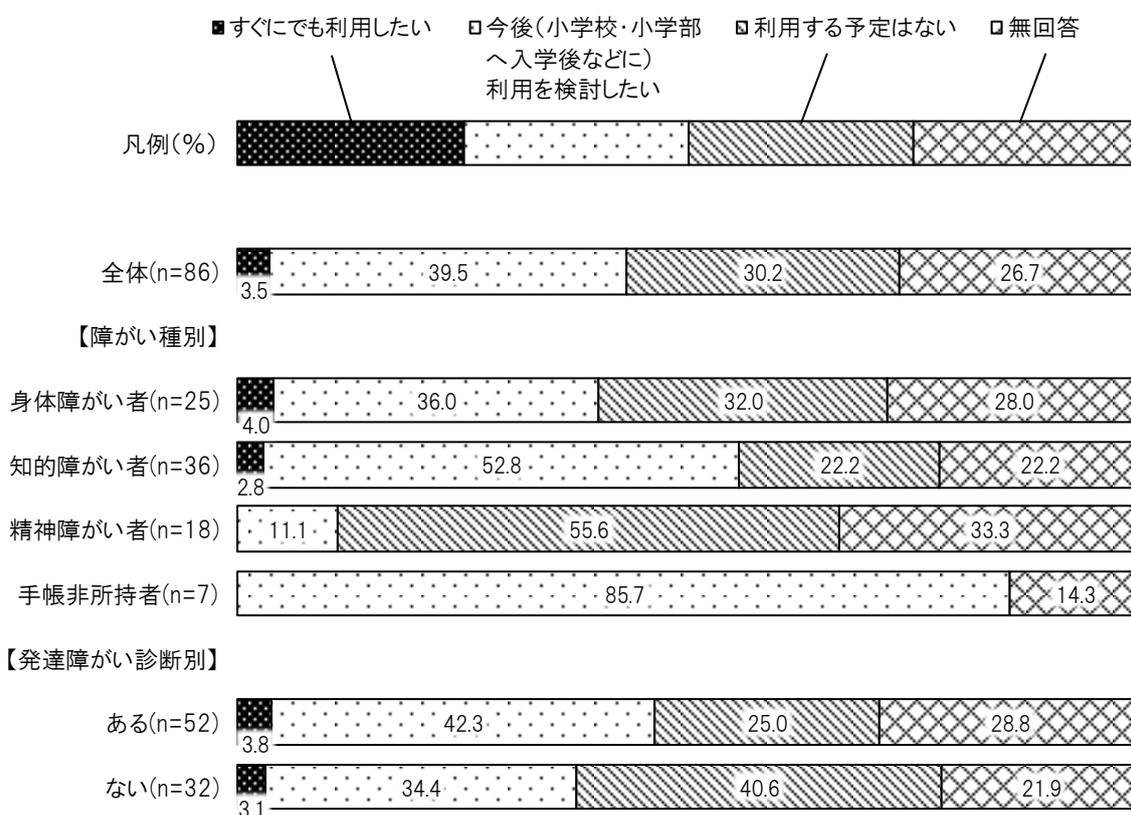
【放課後等デイサービスの支給決定を受けていない方について】

問 35 今後、「放課後等デイサービス」を利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

放課後等デイサービスの今後の利用意向については、「すぐにでも利用したい」の割合が3.5%、「今後(小学校・小学部へ入学後などに)利用を検討したい」が39.5%で、合計43.0%となっている。一方、約3割(30.2%)は「利用する予定はない」と回答している。

障がい種別では、身体障がい者や知的障がい者で「今後(小学校・小学部へ入学後などに)利用を検討したい」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「今後(小学校・小学部へ入学後などに)利用を検討したい」の割合が高くなっている。

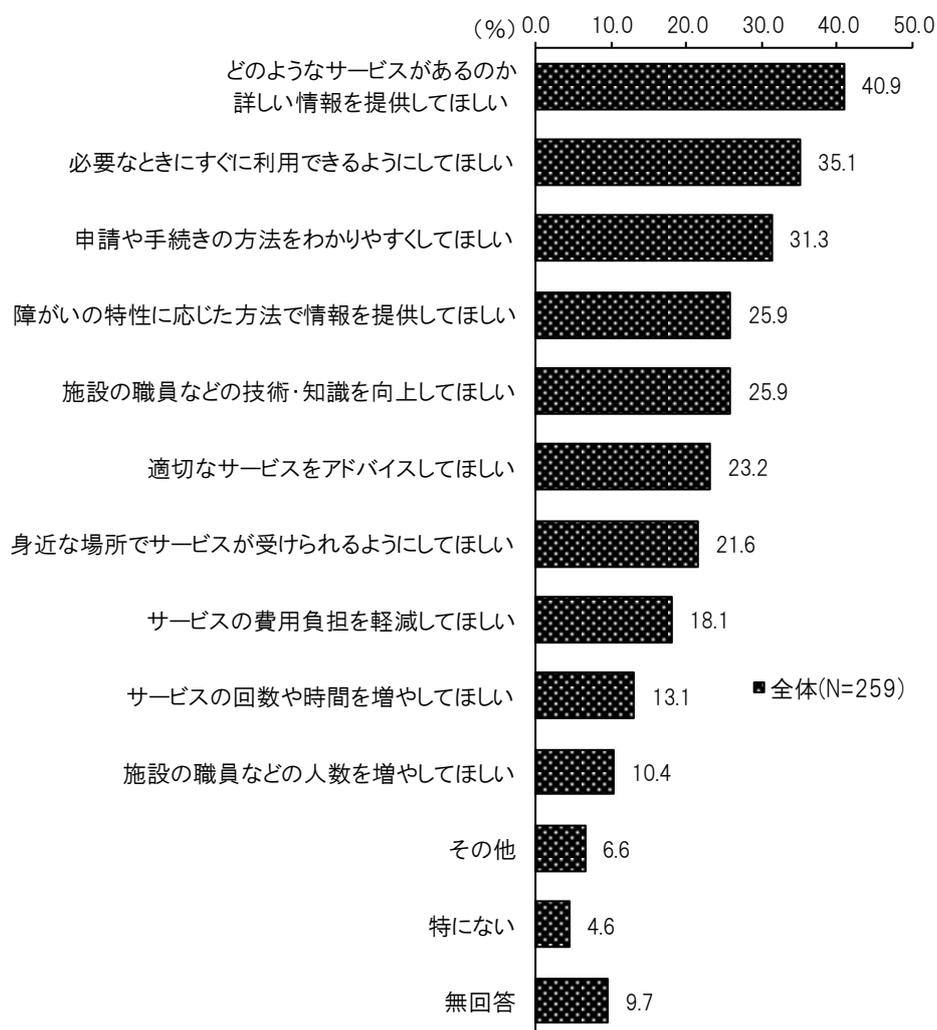


注:手帳非所持者については、件数(n=)が少ないため参考値として参照。

9 サービスを利用しやすくするために必要なこと

問 36 今後、サービスを利用しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

サービスを利用しやすくするために必要なことについては、「どのようなサービスがあるのか詳しい情報を提供してほしい」の割合が40.9%と最も高く、次いで「必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい」(35.1%)、「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」(31.3%)、「障がいの特性に応じた方法で情報を提供してほしい」「施設の職員などの技術・知識を向上してほしい」(各25.9%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「どのようなサービスがあるのか詳しい情報を提供してほしい」、知的障がい者で「必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい」、手帳非所持者で「サービスの回数や時間を増やしてほしい」などの割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「施設の職員などの技術・知識を向上してほしい」「適切なサービスをアドバイスしてほしい」「身近な場所でサービスが受けられるようにしてほしい」などの割合が高くなっている。

単位 (%)	しどのよう な情報を提 供してほし いか詳	う必要な とほきに すに利用 できるよ	く申請や 手続きの 方法をわ かりやす	を障がい の特性に 応じた方 法で情報	上施設の 職員など の技術・ 知識を向	ほ適切な サービス をアドバ イスして	る身近な 場所です サービス が受けら れ	しいサー ビスの費 用負担を 軽減して ほ	ほサービ スの回数 や時間を 増やして	ほ施設の 職員など の人数を 増やして	その他	特にな い
全体(N=259)	40.9	35.1	31.3	25.9	25.9	23.2	21.6	18.1	13.1	10.4	6.6	4.6
【障がい種別】												
身体障がい者(n=38)	57.9	26.3	34.2	34.2	23.7	23.7	21.1	10.5	10.5	5.3	2.6	5.3
知的障がい者(n=100)	34.0	45.0	30.0	16.0	26.0	21.0	19.0	19.0	15.0	11.0	2.0	5.0
精神障がい者(n=60)	38.3	30.0	38.3	31.7	25.0	28.3	26.7	18.3	6.7	11.7	11.7	6.7
手帳非所持者(n=57)	43.9	28.1	26.3	33.3	26.3	24.6	22.8	17.5	21.1	14.0	10.5	0.0
【発達障がい診断別】												
ある(n=206)	39.8	34.0	30.6	26.2	27.2	23.8	22.3	17.0	13.1	12.1	7.3	3.9
ない(n=45)	46.7	35.6	40.0	24.4	20.0	17.8	13.3	24.4	11.1	4.4	2.2	8.9

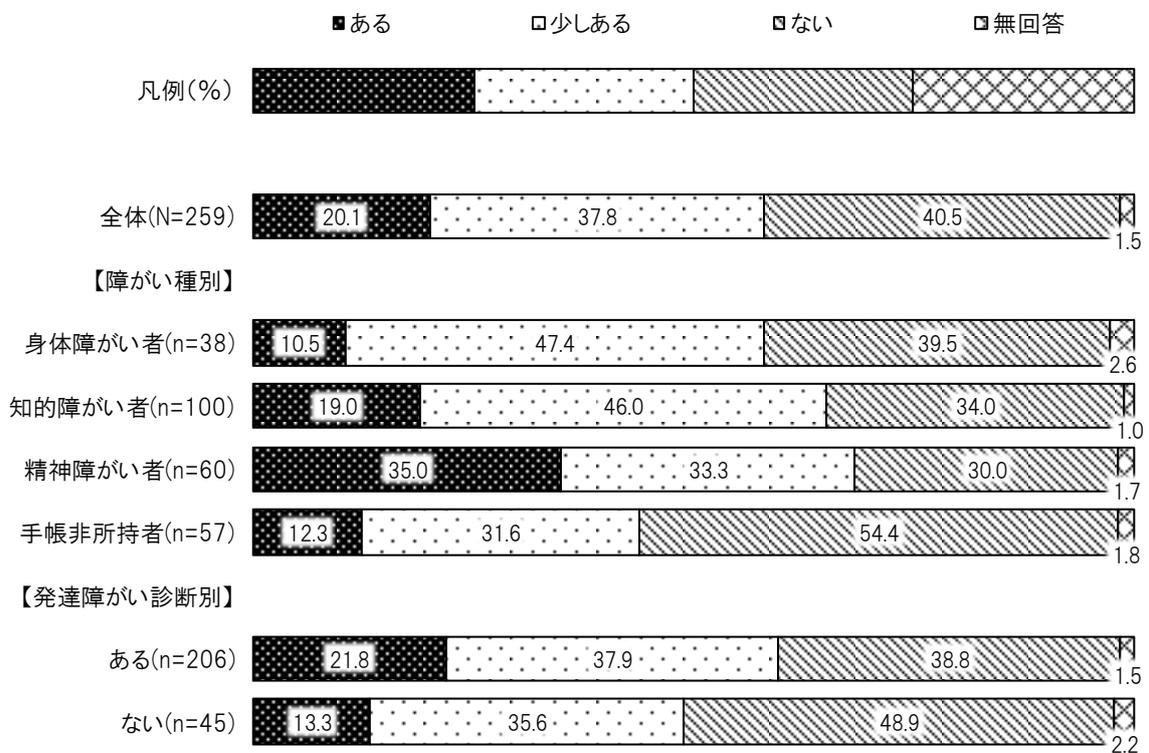
【6】障がいに対する理解について

1 障がいを理由とする差別を受けた経験

問 37 お子さんは、障がいがあることで差別を受けたことがありますか。
 (○は1つだけ)

障がいを理由とする差別を受けた経験については、「ある」の割合が20.1%、「少しある」が37.8%で、合計約6割(57.9%)が『ある』と回答している。また、「ない」は40.5%であった。

障がい種別では、精神障がい者で「ある」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「ある」の割合が高くなっている。



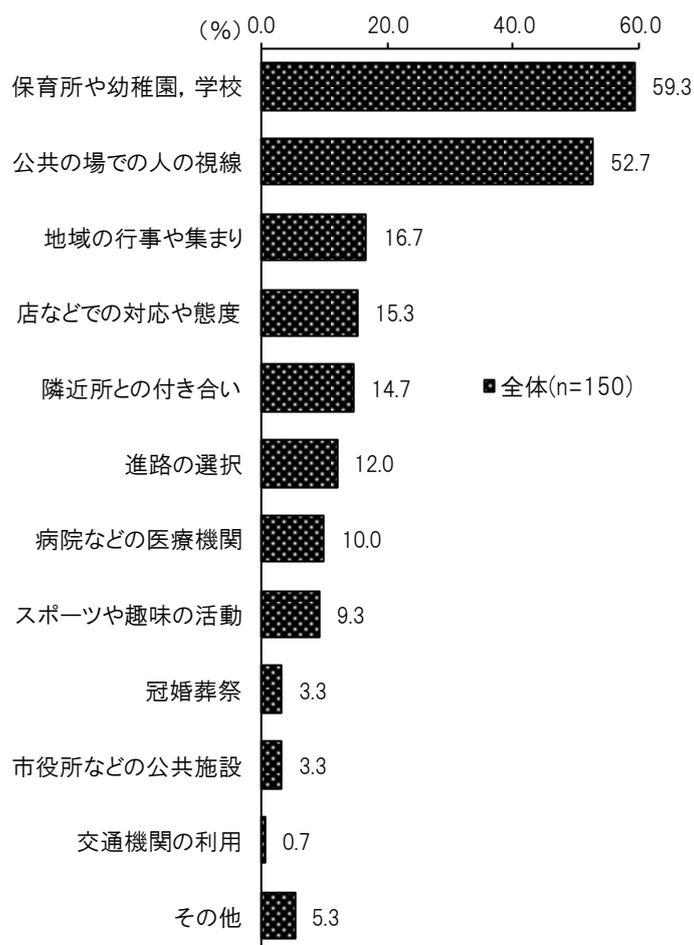
2 差別を受けた場面

【問 37 で差別を受けたことが「ある」「少しある」を選んだ方について】

問 38 お子さんは、どのような場面で、差別を受けましたか。

(あてはまるものすべてに○)

差別を受けた場面については、「保育所や幼稚園、学校」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「公共の場での人の視線」(52.7%)、「地域の行事や集まり」(16.7%)、「店などでの対応や態度」(15.3%)、「隣近所との付き合い」(14.7%)の順となっている。



障がい種別では、知的障がい者で「店などでの対応や態度」、身体障がい者や知的障がい者で「公共の場での人の視線」、精神障がい者や手帳非所持者で「保育所や幼稚園、学校」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「地域の行事や集まり」などの割合が高くなっている。

単位 (%)	保育所や幼稚園、学校	公共の場での人の視線	地域の行事や集まり	店などでの対応や態度	隣近所との付き合い	進路の選択	病院などの医療機関	スポーツや趣味の活動	冠婚葬祭	市役所などの公共施設	交通機関の利用
全体(n=150)	59.3	52.7	16.7	15.3	14.7	12.0	10.0	9.3	3.3	3.3	0.7
【障がい種別】											
身体障がい者(n=22)	45.5	68.2	13.6	13.6	4.5	13.6	13.6	18.2	4.5	4.5	0.0
知的障がい者(n=65)	40.0	72.3	18.5	23.1	12.3	13.8	9.2	3.1	6.2	1.5	0.0
精神障がい者(n=41)	80.5	31.7	24.4	7.3	19.5	9.8	9.8	9.8	2.4	7.3	0.0
手帳非所持者(n=25)	68.0	40.0	4.0	12.0	16.0	12.0	8.0	16.0	0.0	0.0	4.0
【発達障がい診断別】											
ある(n=123)	59.3	52.0	18.7	15.4	15.4	11.4	10.6	8.1	3.3	3.3	0.8
ない(n=22)	63.6	50.0	4.5	9.1	9.1	13.6	4.5	18.2	0.0	4.5	0.0

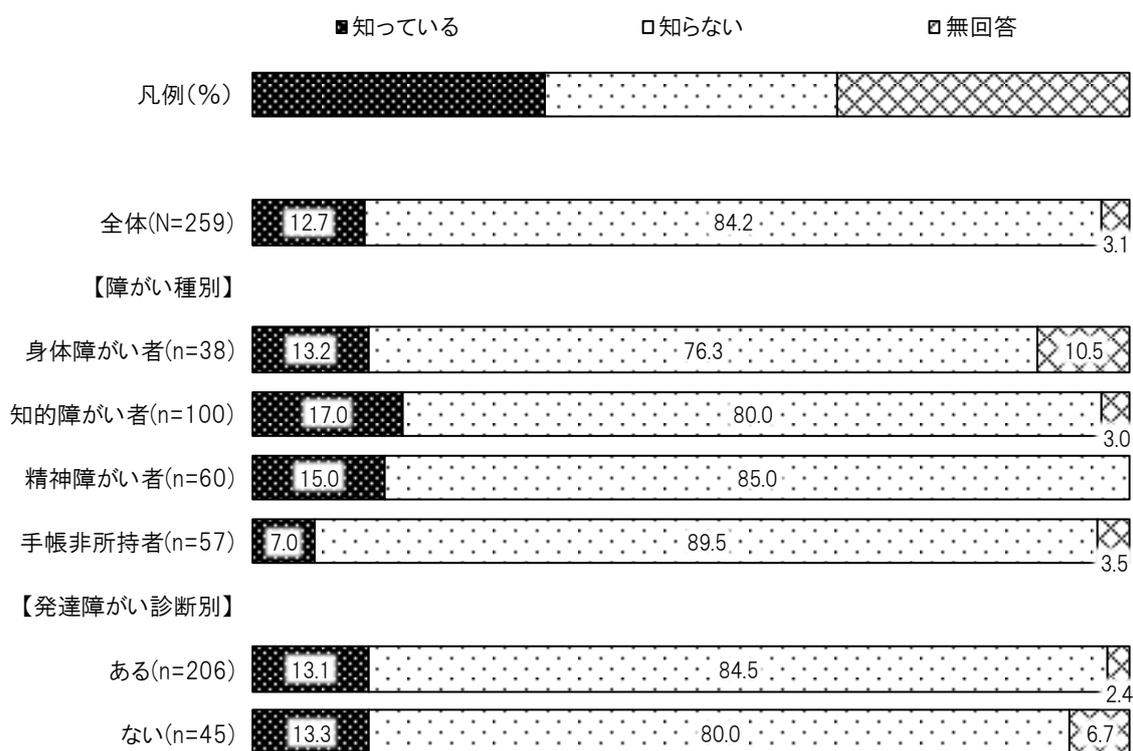
3 差別を受けた場合の相談先

問 39 あなたは、障がい理由とした差別を受けた場合の相談先を知っていますか。
(○は1つだけ)

差別を受けた場合の相談先については、「知っている」の割合が12.7%、「知らない」が84.2%となっている。

障がい種別では、手帳非所持者はほかの障がいに比べ「知らない」の割合がやや高くなっている。

発達障がい診断別では、大きな差はみられない。



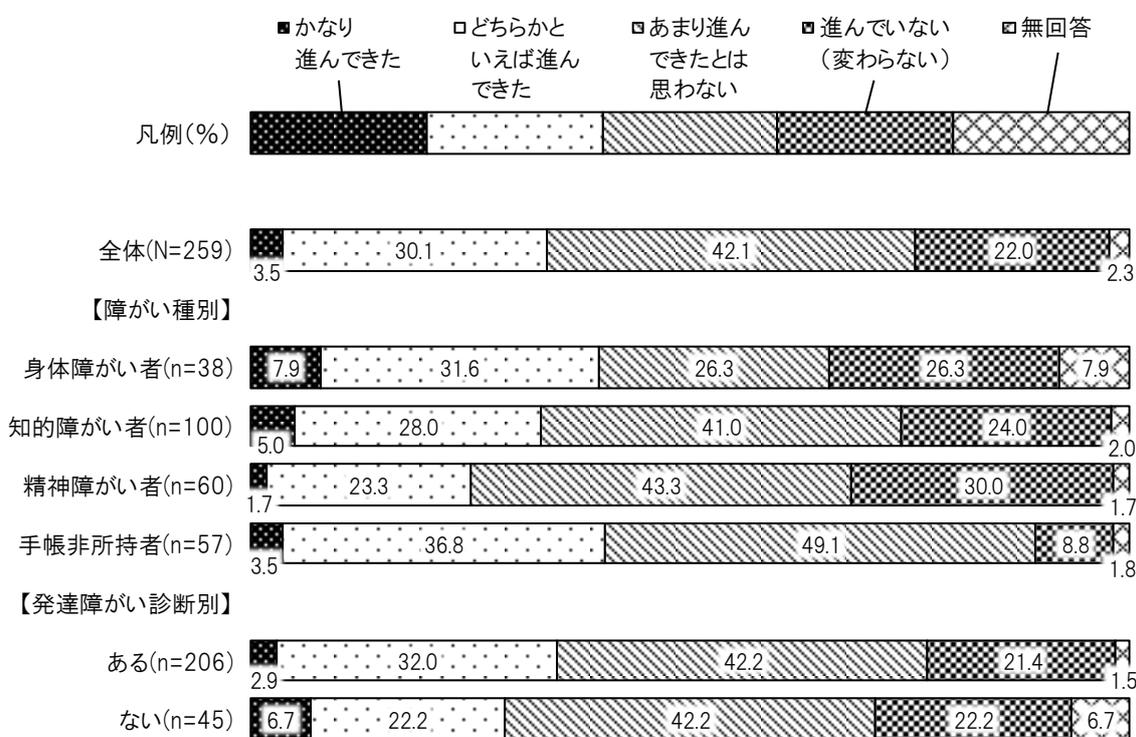
4 障がい者に対する地域の人々の理解について

問 40 障がいのある人に対する、地域の人々の理解は進んできたと思いますか。
(○は1つだけ)

障がい者に対する地域の人々の理解については、「かなり進んできた」が 3.5%、「どちらかといえば進んできた」が 30.1%で、合計 33.6%が『進んできた』と回答している。一方、「あまり進んできたとは思わない」(42.1%)、「進んでいない(変わらない)」(22.0%)の合計は 64.1%であった。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で『進んでいない(合計)』の割合がほかの障がいを上回っている。

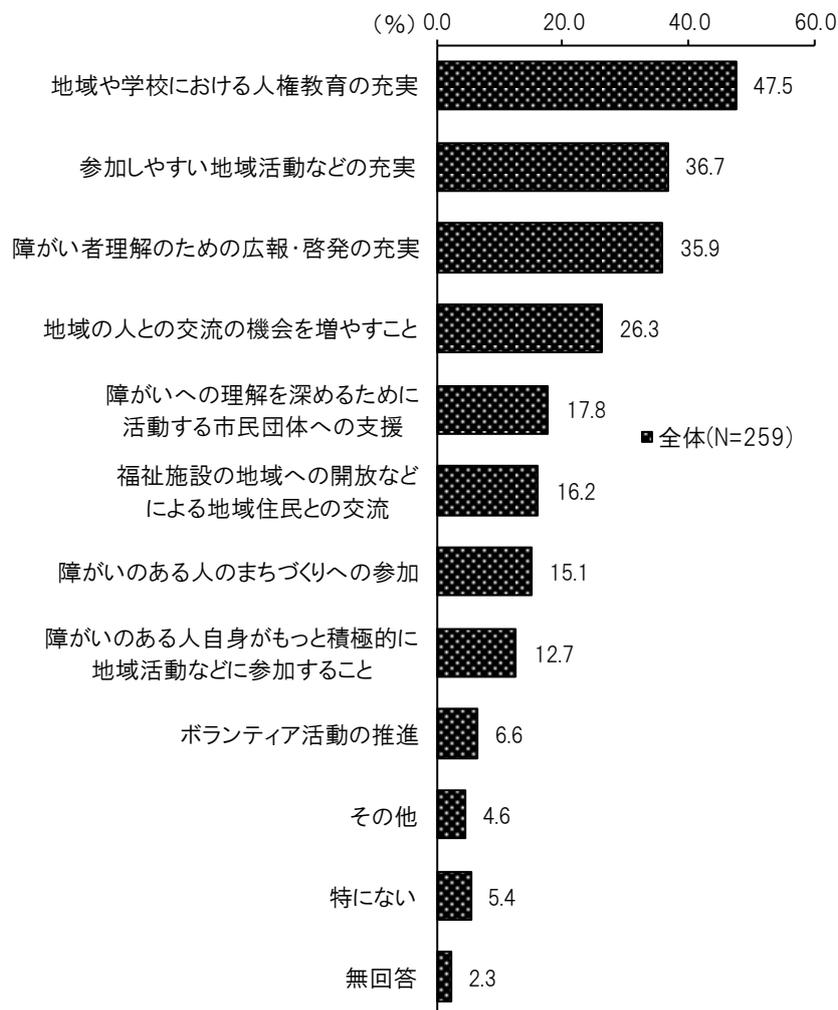
発達障がいの診断がある人では「どちらかといえば進んできた」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。



5 障がい者に対する理解を深めるために必要な取組

問 41 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深め、共に地域で支え合って生活していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

障がい者に対する理解を深めるために必要な取組については、「地域や学校における人権教育の充実」の割合が47.5%と最も高く、次いで「参加しやすい地域活動などの充実」(36.7%)、「障がい者理解のための広報・啓発の充実」(35.9%)、「地域の人との交流の機会を増やすこと」(26.3%)、「障がいへの理解を深めるために活動する市民団体への支援」(17.8%)の順となっている。



障がい種別では、手帳非所持者で「地域や学校における人権教育の充実」「障がい者理解のための広報・啓発の充実」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

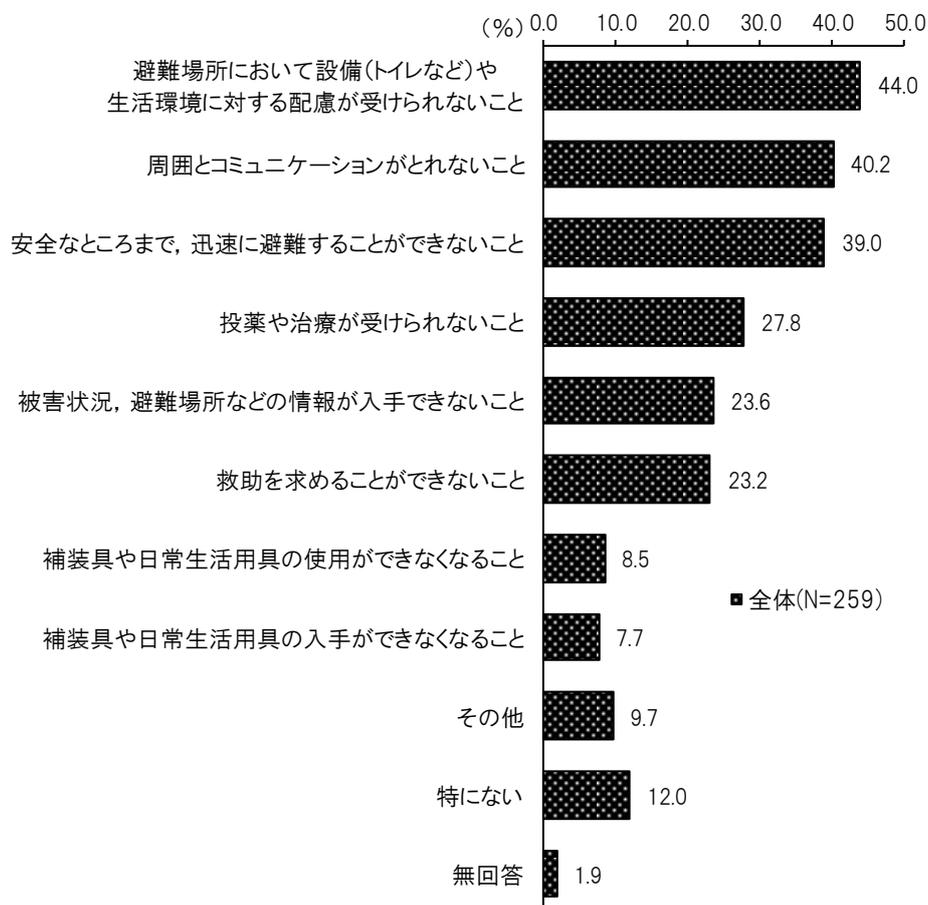
単位 (%)	実地域や学校における人権教育の充	参加しやすい地域活動などの充実	障がい者理解のための広報・啓発の充実	地域の人との交流の機会を増やすこと	障がいへの理解を深めるために活動する市民団体への支援	福祉施設住民との交流	障がいのある人のまちづくりへの参加	障がいの地域活動などに参加すること	ボランティア活動の推進	その他	特にな
全体(N=259)	47.5	36.7	35.9	26.3	17.8	16.2	15.1	12.7	6.6	4.6	5.4
【障がい種別】											
身体障がい者(n=38)	42.1	39.5	21.1	23.7	10.5	18.4	10.5	18.4	10.5	0.0	2.6
知的障がい者(n=100)	45.0	41.0	34.0	31.0	19.0	17.0	16.0	19.0	7.0	3.0	4.0
精神障がい者(n=60)	36.7	36.7	38.3	15.0	20.0	15.0	20.0	8.3	3.3	6.7	10.0
手帳非所持者(n=57)	61.4	31.6	47.4	31.6	19.3	19.3	8.8	8.8	1.8	8.8	3.5

【7】災害時の対応について

1 災害時に困ること

問 42 風水害や火事・地震などの災害時に困ると思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることについては、「避難場所において設備（トイレなど）や生活環境に対する配慮が受けられないこと」の割合が44.0%と最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションがとれないこと」（40.2%）、「安全なところまで、迅速に避難することができないこと」（39.0%）、「投薬や治療が受けられないこと」（27.8%）、「被害状況、避難場所などの情報が入手できないこと」（23.6%）の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「補装具や日常生活用具の使用ができなくなること」「補装具や日常生活用具の入手ができなくなること」、知的障がい者で「被害状況、避難場所などの情報が入手できないこと」「救助を求めることができないこと」、身体障がい者や精神障がい者で「投薬や治療が受けられないこと」、知的障がい者や精神障がい者で「周囲とコミュニケーションがとれないこと」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。

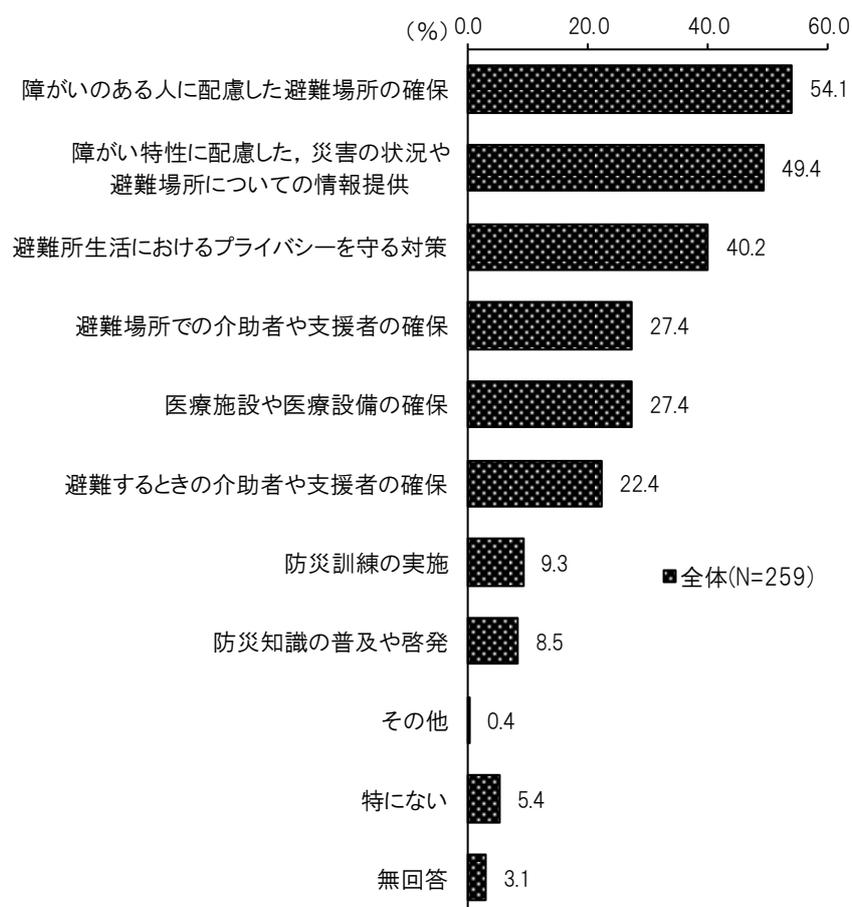
発達障がいの診断がある人では「周囲とコミュニケーションがとれないこと」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	が受けられないこと （避難場所や生活環境に設備が配慮されないこと）	周囲とコミュニケーションがとれないこと	安全なことができない、迅速に避難すること	投薬や治療が受けられないこと	被害状況、避難場所などの情報が入手できないこと	救助を求めることができないこと	補装具や日常生活用具の使用ができなくなること	補装具や日常生活用具の入手ができなくなること	その他	特になし
全体(N=259)	44.0	40.2	39.0	27.8	23.6	23.2	8.5	7.7	9.7	12.0
【障がい種別】										
身体障がい者(n=38)	50.0	21.1	44.7	42.1	15.8	15.8	34.2	28.9	5.3	13.2
知的障がい者(n=100)	51.0	49.0	48.0	24.0	30.0	35.0	6.0	4.0	12.0	3.0
精神障がい者(n=60)	35.0	53.3	38.3	48.3	20.0	21.7	6.7	5.0	16.7	5.0
手帳非所持者(n=57)	42.1	24.6	28.1	15.8	15.8	10.5	5.3	5.3	5.3	28.1
【発達障がい診断別】										
ある(n=206)	43.2	43.2	36.9	25.7	22.8	23.8	5.3	6.3	10.7	11.2
ない(n=45)	46.7	24.4	48.9	37.8	28.9	22.2	22.2	13.3	4.4	15.6

2 災害時の備えとして必要な対策

問 43 風水害や火事・地震などの災害時の備えとして、どのような対策が必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

災害時の備えとして必要な対策については、「障がいのある人に配慮した避難場所の確保」の割合が54.1%と最も高く、次いで「障がい特性に配慮した、災害の状況や避難場所についての情報提供」(49.4%)、「避難所生活におけるプライバシーを守る対策」(40.2%)、「避難場所での介助者や支援者の確保」「医療施設や医療設備の確保」(各27.4%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「医療施設や医療設備の確保」、身体障がい者や知的障がい者で「障がいのある人に配慮した避難場所の確保」「避難するときの介助者や支援者の確保」、精神障がい者や手帳非所持者で「避難所生活におけるプライバシーを守る対策」の割合がそれぞれほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断がある人では「避難所生活におけるプライバシーを守る対策」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	障がいのある人に配慮した避難場所の確保	障がい特性に配慮したい、災害情報の提供	避難所生活におけるプライバシーを守る対策	避難場所での介助者や支援者の確保	医療施設や医療設備の確保	避難するときの介助者や支援者の確保	防災訓練の実施	防災知識の普及や啓発	その他	特になし
全体(N=259)	54.1	49.4	40.2	27.4	27.4	22.4	9.3	8.5	0.4	5.4
【障がい種別】										
身体障がい者(n=38)	57.9	50.0	31.6	18.4	63.2	31.6	5.3	7.9	2.6	0.0
知的障がい者(n=100)	65.0	50.0	32.0	31.0	23.0	30.0	10.0	5.0	1.0	4.0
精神障がい者(n=60)	46.7	51.7	50.0	30.0	35.0	16.7	5.0	10.0	0.0	6.7
手帳非所持者(n=57)	45.6	50.9	45.6	24.6	15.8	17.5	12.3	8.8	0.0	7.0
【発達障がい診断別】										
ある(n=206)	53.4	50.0	43.2	27.7	21.8	22.3	8.3	8.7	0.0	5.3
ない(n=45)	53.3	44.4	28.9	24.4	57.8	22.2	13.3	6.7	2.2	4.4

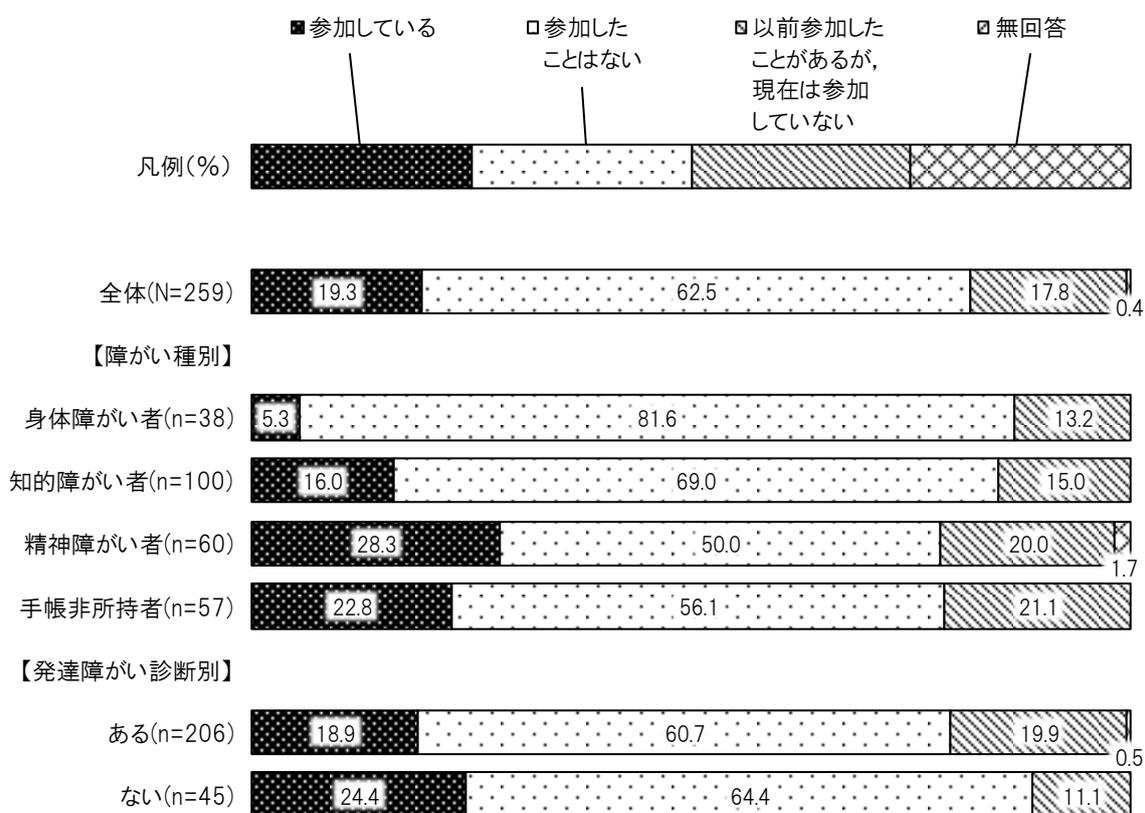
3 防災訓練への参加状況

問 44 あなたは、地域で行われる防災訓練に参加していますか。(○は1つだけ)

防災訓練への参加状況については、「参加している」が19.3%、「以前参加したことがあるが、現在は参加していない」が17.8%で、合計37.1%となっている。一方、約6割(62.5%)は「参加したことはない」と回答している。

障がい種別では、精神障がい者で「参加している」、身体障がい者で「参加したことはない」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「以前参加したことがあるが、現在は参加していない」の割合が高くなっている。

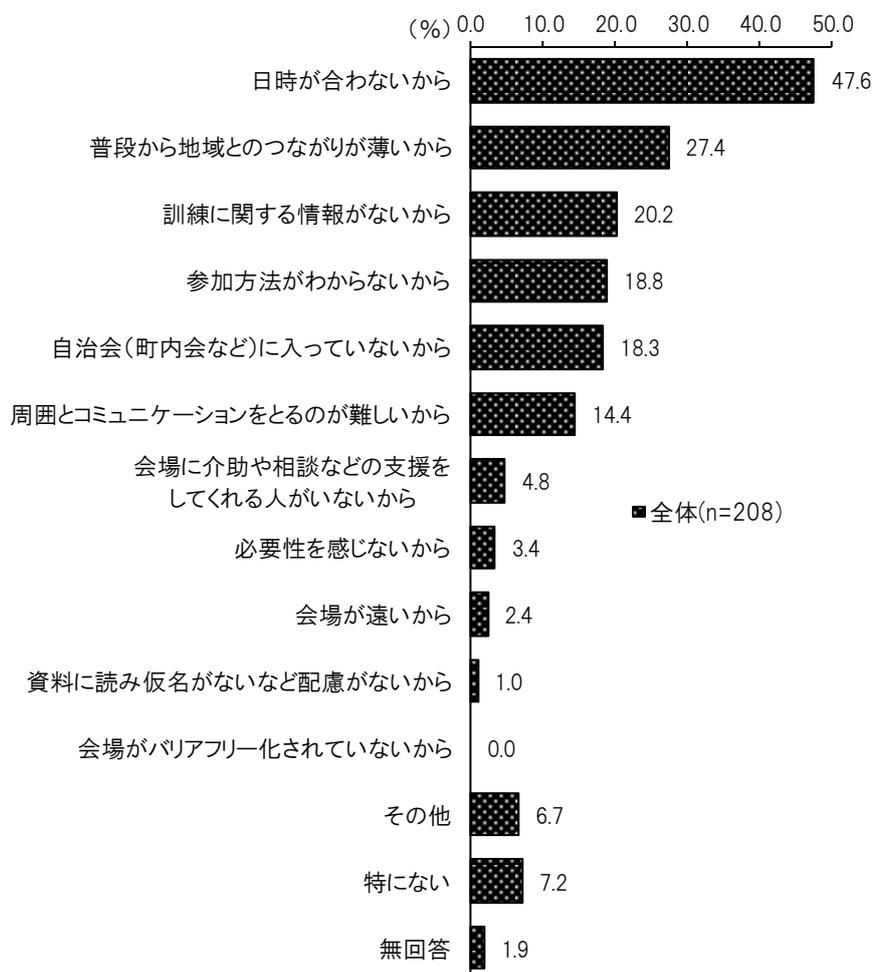


4 防災訓練に参加していない理由

【問 44 で地域で行われる防災訓練に「参加したことはない」「以前参加したことがあるが、現在は参加していない」を選んだ方について】

問 45 現在、防災訓練に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

防災訓練に参加していない理由については、「日時が合わないから」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「普段から地域とのつながりが薄いから」(27.4%)、「訓練に関する情報がないから」(20.2%)、「参加方法がわからないから」(18.8%)、「自治会(町内会など)に入っていないから」(18.3%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「訓練に関する情報がないから」、精神障がい者で「普段から地域とのつながりが薄いから」「周囲とコミュニケーションをとるのが難しいから」、手帳非所持者で「日時が合わないから」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「日時が合わないから」の割合が、診断がない人を大きく上回っている。

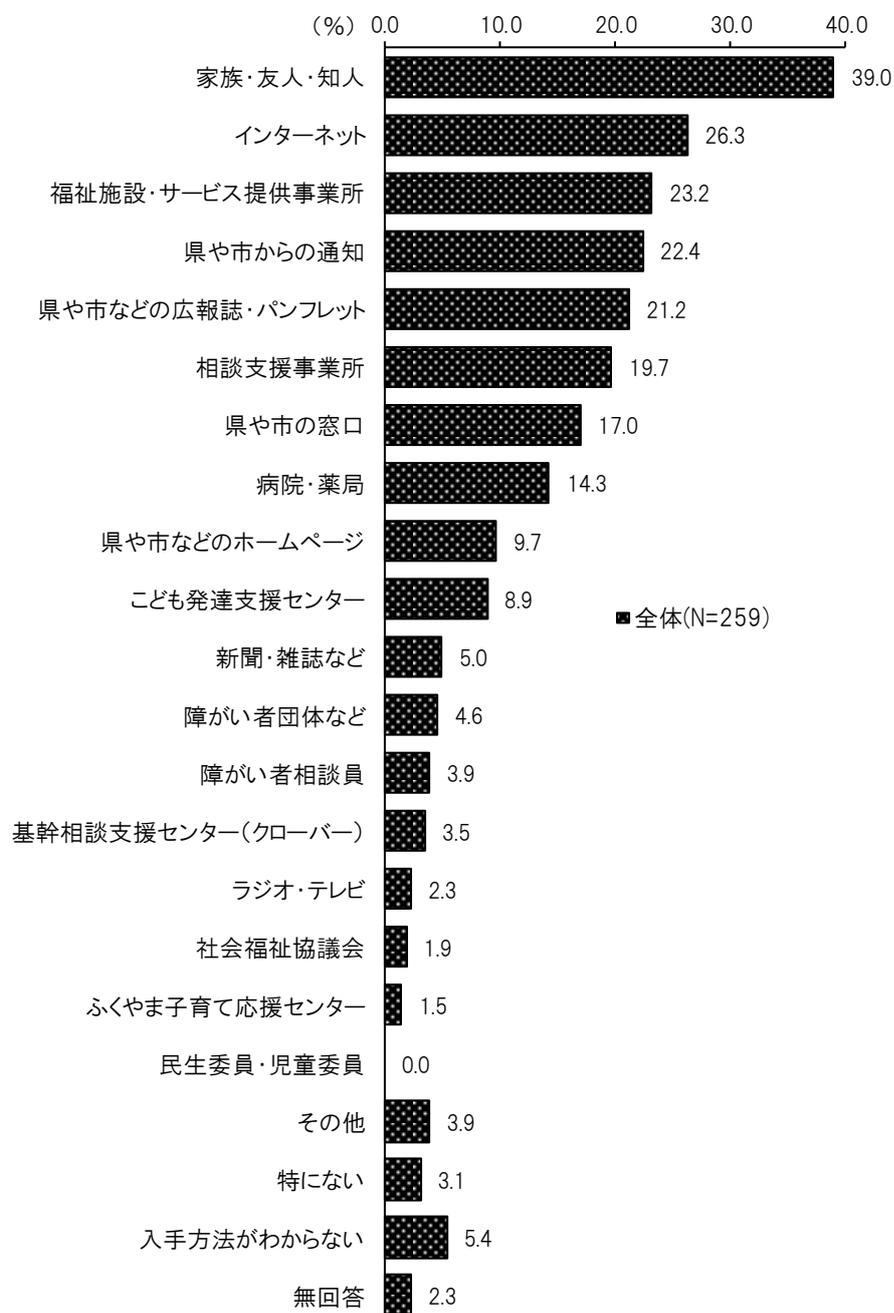
単位 (%)	日時が合わないから	普段から地域とのつながりが薄い	訓練に関する情報がないから	参加方法がわからないから	自治会（町内会など）に入っていないから	周囲とコミュニケーションをとるのが難しいから	会場に介助や相談などの支援をしてくれる人がいないから	必要性を感じないから	会場が遠いから	資料に読み仮名がないなど配慮がないから	その他	特になし
全体(n=208)	47.6	27.4	20.2	18.8	18.3	14.4	4.8	3.4	2.4	1.0	6.7	7.2
【障がい種別】												
身体障がい者(n=36)	38.9	30.6	27.8	19.4	11.1	0.0	2.8	2.8	2.8	0.0	5.6	5.6
知的障がい者(n=84)	47.6	23.8	17.9	20.2	19.0	19.0	6.0	3.6	2.4	1.2	6.0	6.0
精神障がい者(n=42)	42.9	40.5	21.4	19.0	19.0	26.2	9.5	4.8	4.8	2.4	7.1	9.5
手帳非所持者(n=44)	54.5	13.6	13.6	15.9	20.5	6.8	4.5	4.5	2.3	0.0	13.6	9.1
【発達障がい診断別】												
ある(n=166)	48.8	27.7	18.7	16.3	18.7	15.7	5.4	3.0	2.4	0.6	7.2	5.4
ない(n=34)	38.2	29.4	29.4	32.4	14.7	11.8	2.9	5.9	2.9	2.9	5.9	14.7

【8】行政の福祉施策などについて

1 福祉情報の入手経路

問 46 福祉に関する必要な情報を，どこから入手していますか。
 (あてはまるものすべてに○)

福祉情報の入手経路については、「家族・友人・知人」の割合が 39.0%と最も高く，次いで「インターネット」(26.3%)，「福祉施設・サービス提供事業所」(23.2%)，「県や市からの通知」(22.4%)，「県や市などの広報誌・パンフレット」(21.2%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者や精神障がい者で「インターネット」、知的障がい者や手帳非所持者で「家族・友人・知人」、精神障がい者で「県や市の窓口」「病院・薬局」、手帳非所持者で「福祉施設・サービス提供事業所」「こども発達支援センター」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

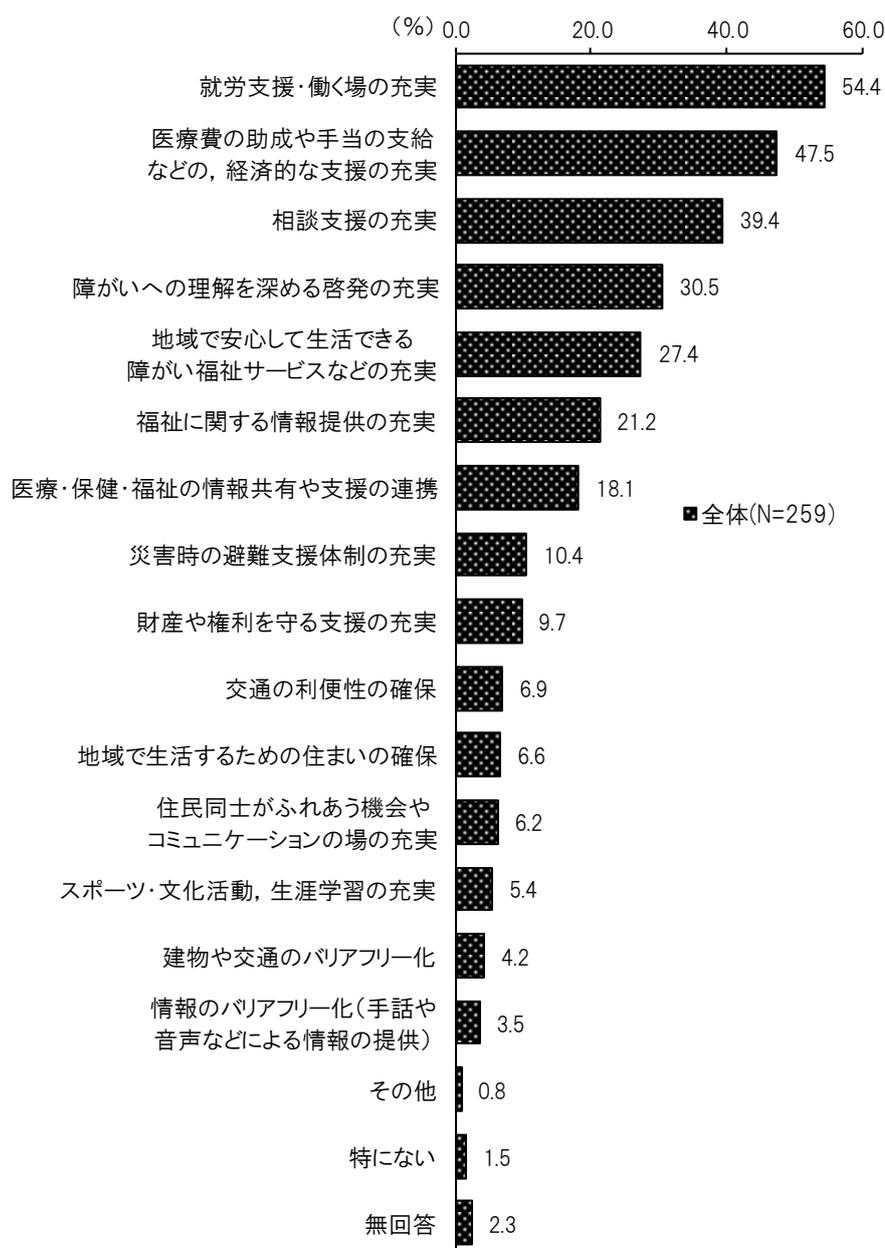
単位 (%)	家族・友人・知人	インターネット	福祉施設・サービス提供事業所	県や市からの通知	県や市などの広報誌・パンフレット	相談支援事業所	県や市の窓口	病院・薬局	県や市などのホームページ	こども発達支援センター
全体(N=259)	39.0	26.3	23.2	22.4	21.2	19.7	17.0	14.3	9.7	8.9
【障がい種別】										
身体障がい者(n=38)	31.6	34.2	13.2	23.7	23.7	18.4	21.1	21.1	15.8	2.6
知的障がい者(n=100)	52.0	20.0	19.0	21.0	16.0	23.0	13.0	6.0	6.0	8.0
精神障がい者(n=60)	25.0	33.3	25.0	25.0	23.3	18.3	26.7	31.7	11.7	3.3
手帳非所持者(n=57)	47.4	22.8	29.8	17.5	21.1	17.5	12.3	8.8	10.5	17.5

単位 (%)	新聞・雑誌など	障がい者団体など	障がい者相談員	基幹相談支援センター(クロバー)	ラジオ・テレビ	社会福祉協議会	ふくやま子育て応援センター	その他	特になし	入手方法がわからない
全体(N=259)	5.0	4.6	3.9	3.5	2.3	1.9	1.5	3.9	3.1	5.4
【障がい種別】										
身体障がい者(n=38)	5.3	5.3	10.5	0.0	5.3	2.6	5.3	5.3	0.0	7.9
知的障がい者(n=100)	7.0	7.0	8.0	2.0	2.0	3.0	1.0	2.0	5.0	5.0
精神障がい者(n=60)	5.0	3.3	3.3	11.7	3.3	3.3	0.0	3.3	3.3	5.0
手帳非所持者(n=57)	1.8	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	8.8	0.0	5.3

2 障がい者が安心して暮らすために重要と思う施策

問 47 障がいのある人が地域で安心して暮らしていくための施策について、お子さんにとって重要だと思うことは、次のどれですか。（主なもの3つまでに○）

障がい者が安心して暮らすために重要と思う施策については、「就労支援・働く場の充実」の割合が54.4%と最も高く、次いで「医療費の助成や手当の支給などの、経済的な支援の充実」(47.5%)、「相談支援の充実」(39.4%)、「障がいへの理解を深める啓発の充実」(30.5%)、「地域で安心して生活できる障がい福祉サービスなどの充実」(27.4%)の順となっている。



障がい種別では、身体障がい者で「医療費の助成や手当の支給などの、経済的な支援の充実」、知的障がい者で「地域で安心して生活できる障がい福祉サービスなどの充実」、精神障がい者で「就労支援・働く場の充実」、手帳非所持者で「相談支援の充実」「障がいへの理解を深める啓発の充実」の割合がそれぞれほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では「就労支援・働く場の充実」「相談支援の充実」などの割合が、診断がない人を大きく上回っている。

単位 (%)	就労支援・働く場の充実	医療費の助成や経済的な支援の充実	相談支援の充実	障がいへの理解を深める啓発の充実	地域で安心して生活できる障がい福祉サービスなどの充実	福祉に関する情報提供の充実	医療や保健の連携の充実	災害時の避難支援体制の充実	財産や権利を守る支援の充実
全体(N=259)	54.4	47.5	39.4	30.5	27.4	21.2	18.1	10.4	9.7
【障がい種別】									
身体障がい者(n=38)	44.7	78.9	42.1	23.7	21.1	23.7	18.4	15.8	5.3
知的障がい者(n=100)	54.0	44.0	33.0	24.0	37.0	14.0	18.0	14.0	9.0
精神障がい者(n=60)	60.0	58.3	36.7	23.3	26.7	21.7	16.7	10.0	11.7
手帳非所持者(n=57)	50.9	35.1	52.6	47.4	26.3	26.3	24.6	8.8	10.5
【発達障がい診断別】									
ある(n=206)	56.8	44.2	42.7	31.6	28.6	19.4	18.0	9.7	10.2
ない(n=45)	46.7	62.2	22.2	26.7	20.0	31.1	20.0	15.6	8.9

単位 (%)	交通の利便性の確保	地域での生活するための住まいの確保	住居コミュニティの充実	市民活動の充実	スポーツ・文化活動、生涯学習の充実	建物や交通のバリアフリー化	情報（情報提供）の充実	その他	特になし
全体(N=259)	6.9	6.6	6.2	5.4	4.2	3.5	0.8	1.5	
【障がい種別】									
身体障がい者(n=38)	13.2	7.9	0.0	7.9	10.5	7.9	0.0	0.0	
知的障がい者(n=100)	7.0	10.0	8.0	4.0	5.0	3.0	1.0	1.0	
精神障がい者(n=60)	10.0	6.7	3.3	1.7	3.3	5.0	0.0	1.7	
手帳非所持者(n=57)	1.8	1.8	7.0	7.0	0.0	0.0	1.8	0.0	
【発達障がい診断別】									
ある(n=206)	4.9	6.3	7.3	4.4	2.9	2.9	0.5	1.0	
ない(n=45)	15.6	6.7	2.2	11.1	8.9	6.7	2.2	2.2	

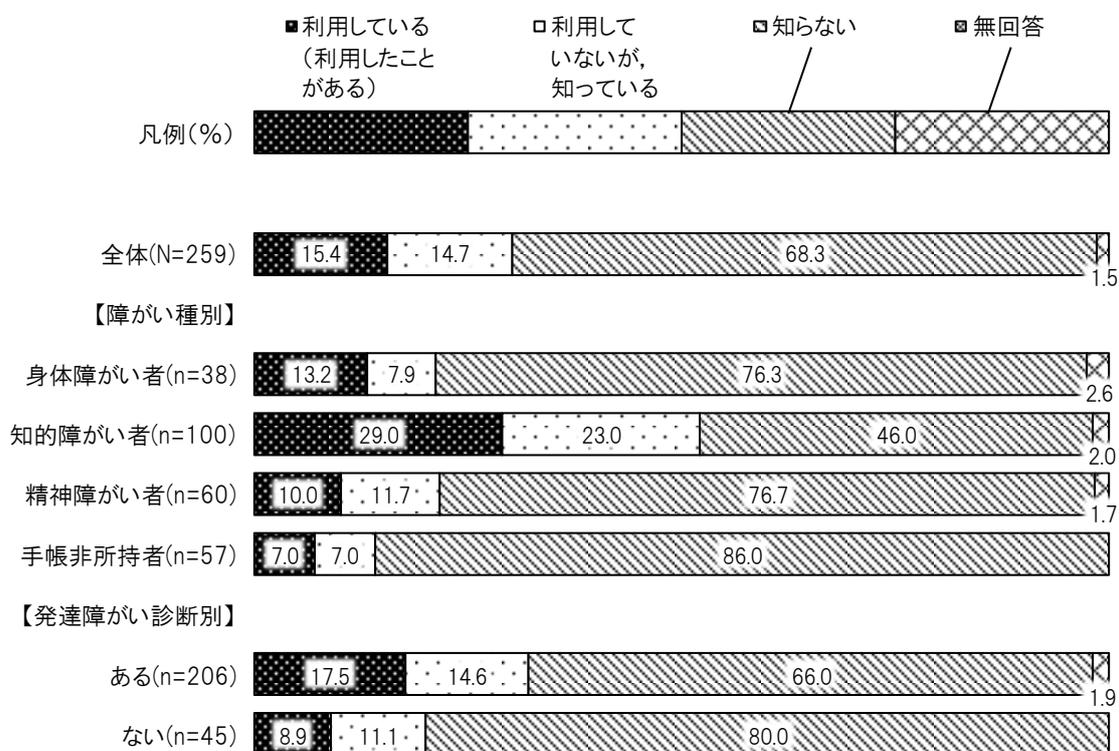
3 サポートファイル結愛の利用状況

問 48 障がいのある人の生育歴やケアの仕方を、乳幼児期から成人期に至るまで継続して記録整理できる「サポートファイル 結愛」を利用していますか。
(○は1つだけ)

サポートファイル結愛の利用状況については、「利用している（利用したことがある）」が15.4%、「利用していないが、知っている」が14.7%で、合計約3割（30.1%）の認知率となっている。一方、約7割（68.3%）は「知らない」と回答している。

障がい種別では、知的障がい者で「利用している（利用したことがある）」「利用していないが、知っている」の割合がほかの障がいを大きく上回っている。

発達障がいの診断がある人はない人に比べ、「利用している（利用したことがある）」の割合が高くなっている。

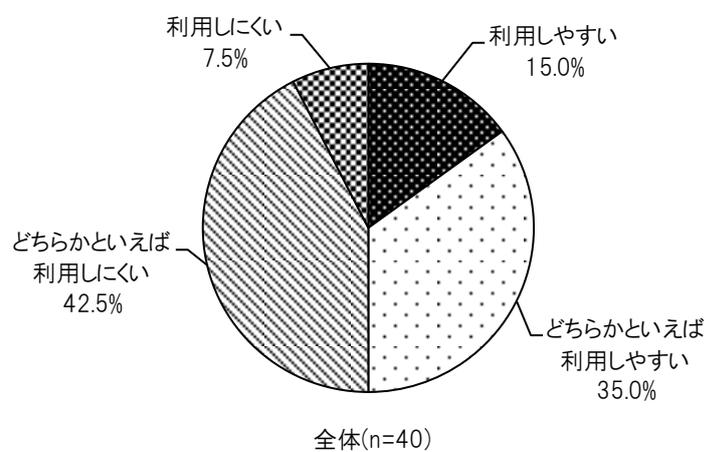


4 サポートファイル結愛の利用のしやすさ

【問 48 でサポートファイル結愛を「利用している（利用したことがある）」を選んだ方について】

問 49 「サポートファイル 結愛」は利用しやすいですか。（○は1つだけ）

サポートファイル結愛の利用のしやすさについては、「利用しやすい」が 15.0%、「どちらかといえば利用しやすい」が 35.0%で、合計 50.0%が『利用しやすい』と回答している。一方、「どちらかといえば利用しにくい」(42.5%)、「利用しにくい」(7.5%) の合計は 50.0%であった。



5 サポートファイル結愛の今後の利用意向

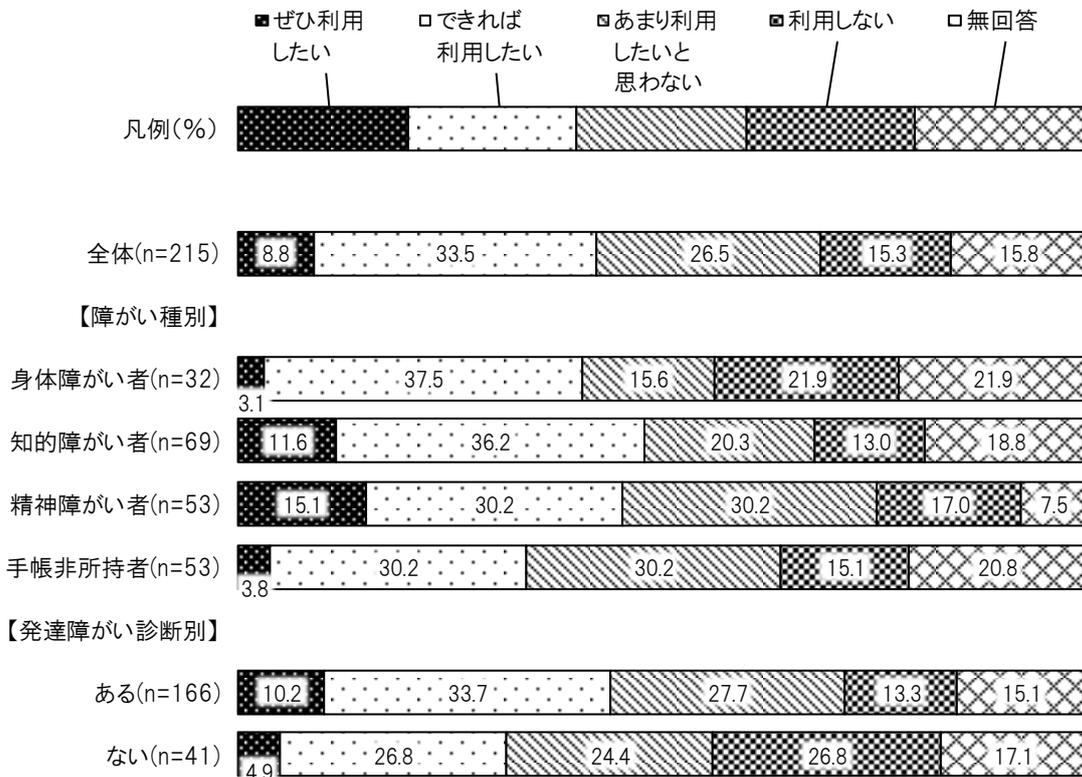
【問 48 でサポートファイル結愛を「利用していないが、知っている」「知らない」を選んだ方について】

問 50 あなたは、今後、「サポートファイル 結愛」を利用したいと思いますか。
(○は1つだけ)

サポートファイル結愛の今後の利用意向については、「ぜひ利用したい」が 8.8%、「できれば利用したい」が 33.5%で、合計 42.3%が『利用したい』と回答している。一方、「あまり利用したいと思わない」(26.5%)、「利用しない」(15.3%)の合計は 41.8%であった。

障がい種別では、知的障がい者や精神障がい者で「ぜひ利用したい」の割合がほかの障がいに比べて高くなっている。

発達障がいの診断がある人では『利用したい(合計)』の割合が、診断がない人を大きく上回っている。



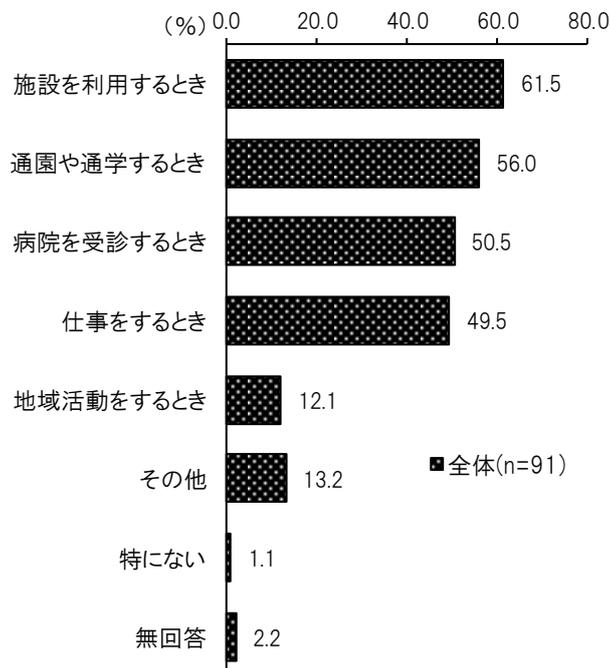
6 サポートファイル結愛の利用場面

【問 50 でサポートファイル結愛を「ぜひ利用したい」「できれば利用したい」を選んだ方について】

問 51 あなたは、「サポートファイル 結愛」をどのようなときに利用したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

サポートファイル結愛の利用場面については、「施設を利用するとき」の割合が 61.5%と最も高く、次いで「通園や通学するとき」(56.0%)、「病院を受診するとき」(50.5%)、「仕事をするとき」(49.5%)の順となっている。

障がい種別では、精神障がい者で全ての項目の割合が高くなっている。



単位 (%)	施設を利用するとき	通園や通学するとき	病院を受診するとき	仕事をするとき	地域活動をするとき	その他	特にない
全体(n=91)	61.5	56.0	50.5	49.5	12.1	13.2	1.1
【障がい種別】							
身体障がい者(n=13)	53.8	46.2	38.5	38.5	7.7	0.0	0.0
知的障がい者(n=33)	57.6	48.5	39.4	42.4	6.1	18.2	3.0
精神障がい者(n=24)	70.8	62.5	79.2	70.8	20.8	16.7	0.0
手帳非所持者(n=18)	55.6	61.1	38.9	55.6	16.7	16.7	0.0

Ⅲ-3 資料 調査票

ふくやまし 福山市 福祉に関するアンケート調査 ちょうさ

【ご協力のお願い】

ひごろ 日頃より、ふくやまし 福山市の福祉行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
げんざい 現在、ふくやまし 福山市では、しょう 障がい福祉施策をより一層進めていくために、「ふくやまししょう 福山市障がい者保健福祉総合計画及び福山市障がい福祉計画」の策定に取り組んでいます。

この調査は、ちょうさ 計画を策定するにあたり、市内にお住まいのしょう 障がい者手帳をお持ちの方や福祉サービスを利用している方を対象に、日常生活の様子や福祉サービスなどに対するご意見をお伺いし、ちょうさ 計画の基礎資料とするものです。

このアンケート調査票は、ちょうさ 身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方、または、福祉サービスを利用している方（11月1日現在）から無作為に抽出した方にお送りし、かいとう 回答をお願いしています。

この調査は無記名でお答えいただき、かいとう 回答結果は本調査の目的のみに使用しますので、お答えいただいた方が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。ちょうさ 調査の目的をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

2019年（令和元年）12月

ふくやまし 福山市

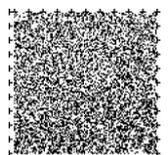
【調査に関する問合せ先】

ふくやまし 福山市保健福祉局 福祉部 障がい福祉課

〒720-8501 福山市東桜町3番5号

でんわ 電話 (084) 928-1062 ファクス (084) 928-1730

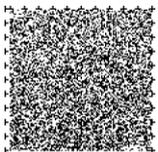
この調査票は、2020年（令和2年）1月6日（月曜日）までに、同封の返信用封筒に入れて、名前を書かずに返送してください（切手は必要ありません）。



【ご記入にあたってのお願い】

- 1 この調査票に直接お書きください。
- 2 このアンケートは、宛名のご本人（以下「お子さん」といいます。）のことについてお伺いしています。質問には、難しい言葉で書かれた内容もありますので、できるだけ保護者（または、保護者の立場に近い方）にご記入をお願いします。その場合、お子さんのお考えをお聴きのうえ、または、ご意向を尊重してお答えください。
市役所の職員が出向き、直接聞き取りをさせていただくことも可能です。希望される方は、福山市障がい福祉課までご連絡ください。
- 3 2019年（令和元年）11月1日現在の内容をお答えください。
- 4 答えたくない質問には、無理にお答えいただく必要はありません。

※この調査票では、郵送された宛名の方を「お子さん」、記入される方を「あなた」と書いています。お子さんの状況などについて、お答えください。



1

お子さんのことについておたずねします

問1 このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つだけ)

- 1 本人 (この調査票が郵送された宛名の方)
- 2 本人の家族
- 3 家族以外の介助者

問2 お子さんの年齢をお答えください。

_____ 歳 (2019年(令和元年) 11月1日現在)

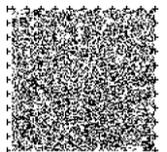
問3 お子さんが住んでいる小学校区をお答えください。(〇は1つだけ)

※小学校区の名前はあいうえお順に並んでいます。

1	赤坂	17	春日	33	千田	49	能登原	65	道上
2	曙	18	霞	34	高島	50	野々浜	66	緑丘
3	旭	19	金江	35	竹尋	51	服部	67	南
4	旭丘	20	神村	36	多治米	52	東	68	御野
5	網引	21	加茂	37	千年	53	東村	69	箕島
6	ありま有磨	22	川口	38	中条	54	光	70	水呑
7	泉	23	川口東	39	常石	55	引野	71	御幸
8	伊勢丘	24	神辺	40	常金丸	56	久松台	72	明王台
9	今津	25	熊野	41	津之郷	57	日吉台	73	宜山
10	内浦	26	蔵王	42	坪生	58	広瀬	74	柳津
11	内海	27	桜丘	43	手城	59	深津	75	山手
12	駅家	28	山南	44	戸手	60	福相	76	山野
13	駅家西	29	樹徳	45	鞆	61	藤江	77	湯田
14	駅家東	30	新市	46	長浜	62	本郷		
15	大谷台	31	新涯	47	西	63	幕山		
16	大津野	32	瀬戸	48	西深津	64	松永		

※わからない場合は、町名をお書きください。

(福山市 _____ 町 _____ 丁目)



問4 手帳をお持ちの場合は、種類と等級をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1	身体障がい者手帳1級	11	精神障がい者保健福祉手帳1級
2	身体障がい者手帳2級	12	精神障がい者保健福祉手帳2級
3	身体障がい者手帳3級	13	精神障がい者保健福祉手帳3級
4	身体障がい者手帳4級	14	もっていない
5	身体障がい者手帳5級		
6	身体障がい者手帳6級		
7	療育手帳 <input checked="" type="radio"/> A		
8	療育手帳 A		
9	療育手帳 <input checked="" type="radio"/> B		
10	療育手帳 B		

→【問4で「1～6」を選んだ方におたずねします。それ以外の方は問6へお進みください】

問5 お子さんは身体障がい者手帳をお持ちですが、主たる障がいをお答えください。
（○は1つだけ）

1	視覚障がい	5	肢体不自由（下肢）
2	聴覚障がい	6	肢体不自由（体幹）
3	音声・言語・そしゃく機能障がい	7	内部障がい（1～6以外）
4	肢体不自由（上肢）		

問6 お子さんは医師から難病（小児慢性特定疾病）と診断を受けたことがありますか。
（○は1つだけ）

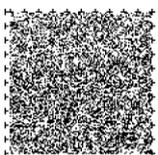
1	ある	2	ない
---	----	---	----

問7 お子さんは医師から発達障がいと診断を受けたことがありますか。（○は1つだけ）

1	ある	2	ない
---	----	---	----

問8 お子さんは医師から高次脳機能障がいと診断を受けたことがありますか。（○は1つだけ）

1	ある	2	ない
---	----	---	----



【問13で「1～2」を選んだ方におたずねします】

問16 お子さんの主な介助者が、必要としている支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

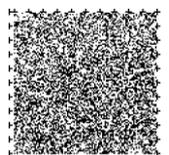
- 1 相談支援や情報提供の充実
- 2 障がい児を持つ家族同士の交流
- 3 心身のリフレッシュ
- 4 就労への支援
- 5 経済的な支援
- 6 その他（ ）

3 相談についておたずねします

問17 お子さんの発達の不安や障がいに気付いたきっかけは何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 家庭内での様子 | 7 小学校での様子 |
| 2 定期健診（1歳6か月児健康診査） | 8 中学校での様子 |
| 3 定期健診（3歳児健康診査） | 9 高校での様子 |
| 4 病院での診察 | 10 友人・知人からの助言 |
| 5 保育所・幼稚園・認定こども園での様子 | 11 その他（ ） |
| 6 就学時健康診断 | 12 特にない |



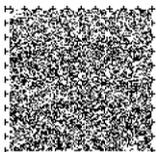
とい
問 18 お子さんの発達^この不安^{はったつ}や障^{ふあん}がい^{しょう}に気付いた^{きづ}のは、お子さん^こが何歳^{なんさい}のときですか。

_____ さい
歳^{さい}のとき

とい
問 19 お子さんの発達^この不安^{はったつ}や障^{ふあん}がい^{しょう}に気付いてから、悩^{なや}んだこと^{なん}は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)^{まる}

- 1 どこに相談^{そうだん}すればよいのか分^わからなかった
- 2 実際^{じっさい}に何を^{なに}すればよいのか分^わからなかった
- 3 これからどうなるのか不安^{ふあん}を感じ^{かん}た
- 4 周囲^{しゅうい}の理解^{りかい}がなかった
- 5 家族^{かぞく}を支^{ささ}えてくれる支援^{しえん}機関^{きかん}が少^{すく}なかった
- 6 専門^{せんもん}の医療^{いりょう}機関^{きかん}が少^{すく}なかった
- 7 療育^{りょういく}機関^{きかん}が少^{すく}なかった
- 8 親族^{しんぞく}の理解^{りかい}を得^えることが難^{むずか}しかった
- 9 障^{しょう}がいのある人^{ひと}やその家族^{かぞく}など同じ立場^{おな たちば}の人^{ひと}に相談^{そうだん}したかった
- 10 その他^た ()



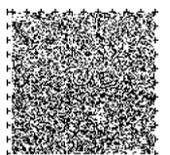
問20 お子さんのことで、相談したいのは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 家族・学校・近所などでの人間関係のこと | 9 育児のこと |
| 2 介助者の健康や体力のこと | 10 就学・進学・教育のこと |
| 3 支援してくれる人のこと | 11 仕事・就職のこと |
| 4 生活費や収入のこと | 12 差別に関すること |
| 5 利用できる福祉制度のこと | 13 余暇・スポーツ活動のこと |
| 6 家事(炊事・掃除・洗濯)のこと | 14 緊急時・災害時のこと |
| 7 住まいのこと | 15 その他() |
| 8 外出・移動のこと | 16 特にない |

【問20で「11」を選んだ方におたずねします。それ以外の方は問22へお進みください】

問21 お子さんが、将来、仕事に就くために重要だと思ふことは何ですか。(主なもの3つまでに○)

- | |
|------------------------|
| 1 就職に向けた相談先や相談相手 |
| 2 就職先の紹介などの支援 |
| 3 就職に必要な知識や技術の習得 |
| 4 就職に必要なコミュニケーション技術の習得 |
| 5 生活のために十分な給料 |
| 6 本人への日常の健康管理の支援 |
| 7 障がい特性に配慮した職場環境の整備 |
| 8 就職後の相談支援(定着のための支援) |
| 9 職場の上司や同僚の理解 |
| 10 就職に向けた本人や家族に対する意識啓発 |
| 11 その他() |
| 12 特にない |



問 2 2 発育・発達上の支援が必要な子どものために、どのようなことが必要だと思えますか。
 (主なものを3つまでに○)

- 1 乳幼児健診の充実
- 2 発育・発達上の課題の早期発見
- 3 相談対応の充実
- 4 家庭訪問による相談や指導
- 5 地域での療育体制の充実
- 6 保育所・幼稚園・認定こども園での発達支援の充実
- 7 小中学校や高校での教育・指導内容の充実
- 8 特別支援学級(学校)での教育・指導内容の充実
- 9 通園や通学時の介助や付き添い
- 10 地域社会との交流
- 11 一時的な預かりや介助
- 12 その他()

問 2 3 あなたは、基幹相談支援センター(クローバー)*を利用したことがありますか。
 (○は1つだけ)

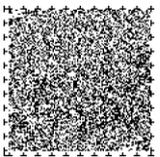
- 1 利用したことがある
- 2 利用したことはないが、知っている
- 3 知らない

*基幹相談支援センター(クローバー)では、障がいの種別などを問わず、障がいのある人の日常生活や社会生活を支援し、地域で安心して生活できるよう総合相談や専門の相談員による相談を行っています。

問 2 4 こども発達支援センター*を利用したことがありますか。(○は1つだけ)

- 1 利用したことがある
- 2 利用したことはないが、知っている
- 3 知らない

*こども発達支援センターでは、就学前の発達が気になるお子さんとその保護者に対し、相談や診察、訓練などの医療的支援を行っています。



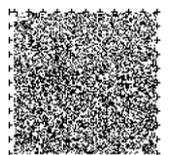
とい 問 2 5 あなたが相談するときに望むことは何ですか。(主なもの3つまでに○)

- 1 身近な地域で相談できること
- 2 1か所ですべての相談ができること
- 3 どんな相談にも対応できること
- 4 障がい特性に応じて専門の相談ができること
- 5 障がいのある人やその家族など、同じ立場の人に相談ができること
- 6 24時間365日、緊急時などいつでも相談できること
- 7 自宅や病院、施設を訪問してくれること
- 8 電話・ファクス・電子メールでの相談ができること
- 9 年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること
- 10 相談員の質を向上させること
- 11 その他 ()
- 12 特になし

4 日中の過ごし方についておたずねします

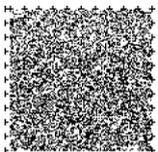
とい 問 2 6 お子さんの通所・通学先はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 小学校・中学校・高校に通学している
- 2 特別支援学校に通学している
- 3 特別支援学級・通級指導教室に通学している
- 4 保育所・幼稚園・認定こども園を利用している
- 5 児童発達支援センター・児童発達支援事業所を利用している
- 6 その他 ()
- 7 通所・通学していない(自宅で過ごしている)



とい 問27 保育所・幼稚園・認定こども園・学校や療育機関について、どのようなことを充実して
 ほしいと思いますか。(主なものを3つまでに○)

- 1 保育士・教職員などの障がいへの理解
- 2 子どもの障がいの特性や発達に合わせた支援
- 3 補助員や加配職員などの人員を増やすこと
- 4 施設, 設備, 教材
- 5 周りの子どもたちの理解を深めるような交流機会
- 6 進級・進学などの進路相談
- 7 就労に向けた教育・支援
- 8 放課後や長期休暇中に過ごせる場所
- 9 クラブ活動・部活動(学校内)
- 10 通所・通学時の支援
- 11 その他()
- 12 特にない



5

障がい児福祉サービスなどについておたずねします

問28 お子さんは、現在、問29の1～15に書いてある障がい児福祉サービスなどを利用して
いますか。(○は1つだけ)

- 1 支給決定を受けており、利用している
- 2 支給決定を受けているが、利用していない
- 3 支給決定を受けていない → 問31へお進みください

【問28で「1～2」を選んだ方におたずねします】

問29 お子さんが受給しているサービスについておたずねします。

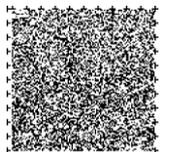
①現在、お子さんが支給決定を受けているサービスをすべてお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

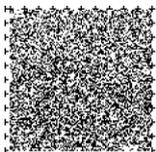
②上記①でお子さんが支給決定を受けているサービスについて、それぞれの利用状況を
お答えください。(○は1つだけ)

※受給者証の交付を受けている方は、その記載内容を参考にしてください。

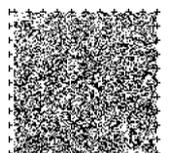
障がい福祉サービスなどの種類	①	②利用状況			
	サービスに○印↓ 受けている 現在、支給決定を している	1 利用できていない	2 どちらかといえば 利用できていない	3 どちらかといえば 利用できている	4 十分に利用でき ている
1 児童発達支援 日常生活における基本的な動作の指導、知識や 技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援を 行うサービスです。	1	1	2	3	4



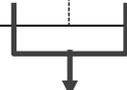
障がい福祉サービスなどの種類	①	②利用状況			
	サービスに○印↓ 受けている 現在、支給決定を	1 利用できていない	2 どちらかといえ ば利用できてい ない	3 どちらかといえ ば利用できている	4 十分に利用でき ている
2 居宅訪問型児童発達支援 重度の障がいがあり、外出することが非常に困難な児童の自宅を訪問し、日常生活に必要な動作の指導や、知識や技能を身に付けるための援助を行うサービスです。	2	1	2	3	4
3 医療型児童発達支援 日常生活における基本的な動作の指導、知識や技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援と治療を行うサービスです。	3	1	2	3	4
4 放課後等デイサービス 学校の授業終了後や休校日に、施設に通い、生活能力の向上のために必要な訓練や、社会との交流促進などの支援を行うサービスです。	4	1	2	3	4
5 保育所等訪問支援 保育所などを訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援などを行うサービスです。	5	1	2	3	4
6 居宅介護（ホームヘルプ） ホームヘルパーが、自宅を訪問して、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、生活等に関する助言などを行うサービスです。	6	1	2	3	4



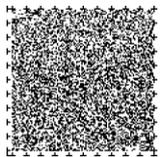
しょう ぶんし サービスなどの種類 <small>しょう ぶんし サービスなどの種類</small>	①	②利用状況 <small>りようじょうきょう</small>			
	サービスに○印↓ <small>サービスに○印↓</small>	1 利用できていない	2 どちらかといえ ば 利用できていない	3 どちらかといえ ば 利用できている	4 十分に利用でき ている
7 行動援護 <small>こうどうえんご</small> 知的障がいや精神障がいにより行動が困難で <small>ちてきしょう せいしんしょう こうどう こんなん</small> 常に介護が必要な児童に、行動するとき必要な <small>つね かいご ひつよう じどう こうどう ひつよう</small> 介助や外出時の移動の補助などを行うサービス <small>かいじょ がいしゅつじ いどう ほじょ おこな</small> です。	7	1	2	3	4
8 同行援護 <small>どうこうえんご</small> 視覚障がいにより、移動することが非常に困難な <small>しかくしょう じどう ひじょう こんなん</small> 児童に、外出に必要な情報の提供や、移動の <small>じどう がいしゅつ ひつよう じょうほう ていきょう いどう</small> 援護などを行うサービスです。 <small>えんご おこな</small>	8	1	2	3	4
9 短期入所（ショートステイ） <small>たんきにゅうしょ</small> 介護する人が病気の時などに、児童が施設に <small>かいご ひと びょうき とし じどう しせつ</small> 短期間入所し、入浴、排せつ、食事の介護など <small>たんきかんにゅうしょ にゅうよく はい しょくじ かいご</small> を行うサービスです。 <small>おこな</small>	9	1	2	3	4
10 福祉型児童入所支援 <small>ふくしがたじどうにゅうしょしえん</small> 障がい児入所施設に入所する児童に対して、 <small>しょう じにゅうしょしせつ にゅうしょ じどう たい</small> 保護・日常生活の指導、知識や技能の付与を行う <small>ほご にちじょうせいかつ じどう ちしき ぎのう ふよ おこな</small> サービスです。	10	1	2	3	4
11 医療型児童入所支援 <small>いりょうがたじどうにゅうしょしえん</small> 障がい児入所施設や指定医療機関に入所など <small>しょう じにゅうしょしせつ していいりょうきかん にゅうしょ</small> をする児童に対して、保護・日常生活の指導、知識 <small>じどう たい ほご にちじょうせいかつ じどう ちしき</small> や技能の付与や治療を行うサービスです。 <small>ぎのう ふよ ちりょう おこな</small>	11	1	2	3	4



障がい福祉サービスなどの種類	①	②利用状況			
	サービスに○印↓ 受けている 現在、支給決定を	1 利用できていない	2 どちらかといえば 利用できていない	3 どちらかといえば 利用できている	4 十分に利用できている
12 計画相談支援・障がい児相談支援 障がい児通所支援を利用する児童に、サービスの利用開始時や更新・変更の前に利用計画案を作成するとともに、定期的に利用状況を検証し、また、サービス提供事業者との連絡調整を行うサービスです。	12	1	2	3	4
13 重度障がい者等包括支援 常に介護が必要で、介護の必要な程度が非常に高い児童に、居宅介護（ホームヘルプ）などのサービスを、ほかのサービスと組み合わせながら行うサービスです。	13	1	2	3	4
14 移動支援 一人で移動することが困難な人に、自立した日常生活や社会参加のための支援を行うサービスです。	14	1	2	3	4
15 日中一時支援 日中において、介護者の休息や不在の時に、見守りと日中活動の場を提供するサービスです。	15	1	2	3	4



いずれか1つでも「1」または「2」を選んだ方は問30へお進みください



【問29②でいずれか1つでも「1」または「2」を選んだ方におたずねします】

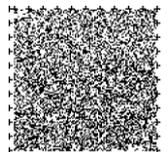
問30 お子さんが利用できていないサービスについて、その理由をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|-------------------------|
| 1 | 定員がいっぱいなどの理由で事業所に断られたから |
| 2 | 障がい特性に合っていないから |
| 3 | 利用手続きに時間がかかりすぎるなど、大変だから |
| 4 | 家の近くに事業所がないから |
| 5 | 利用料の負担が大きすぎるから |
| 6 | サービスの内容がよくわからないから |
| 7 | サービスの質が悪いから |
| 8 | 利用できる回数や時間が希望に合っていないから |
| 9 | 支給決定を受けたが、現在は利用の必要がないから |
| 10 | その他() |

問31 お子さんが、今後新たに利用したいサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|--------------|----|-----------------|
| 1 | 児童発達支援 | 9 | 短期入所(ショートステイ) |
| 2 | 居宅訪問型児童発達支援 | 10 | 福祉型児童入所支援 |
| 3 | 医療型児童発達支援 | 11 | 医療型児童入所支援 |
| 4 | 放課後等デイサービス | 12 | 計画相談支援・障がい児相談支援 |
| 5 | 保育所等訪問支援 | 13 | 重度障がい者等包括支援 |
| 6 | 居宅介護(ホームヘルプ) | 14 | 移動支援 |
| 7 | 行動援護 | 15 | 日中一時支援 |
| 8 | 同行援護 | 16 | 特になし |



【問29①で「4」を選んだ方（現在「放課後等デイサービス」の支給決定を受けている方）にお
たずねします。それ以外の方は問34へお進みください】

問32 「放課後等デイサービス」を①週に何日くらい利用していますか。また、②今後、利用日数
を増やしたい（または減らしたい）と思いますか。（○は1つだけ）

①利用日数	週に_____日程度（または月に_____日程度）
②今後の希望	1 今後、利用日数を増やしたい 2 今後、利用日数を減らしたい 3 現在のままでよい

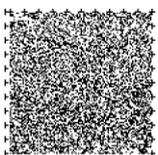
【問29①で「4」を選んだ方（現在「放課後等デイサービス」の支給決定を受けている方）にお
たずねします】

問33 現在「放課後等デイサービス」を利用している主な理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1 保護者が働いているから 2 子どもを家でみるが大変だから 3 土日や休日、長期休暇中でも利用できるから 4 放課後を過ごす場所がないから 5 学校との連絡がとりやすいから 6 医療ケアが必要な子どもに対応しているから 7 利用人数（定員数）がちょうど良いから 8 指導員の人数が十分だから 9 建物や室内がバリアフリー化されているから 10 保護者の希望をよく聞いてくれるから 11 子どもの成長に気になることや不安があったから 12 検診などで助言があったから 13 その他（ _____ ）



次は問36へお進みください



6

障がいに対する理解についておたずねします

問37 お子さんは、障がいがあることで差別を受けたことがありますか。(〇は1つだけ)

- 1 ある
- 2 少しある
- 3 ない → 問39へお進みください

【問37で「1～2」を選んだ方におたずねします】

問38 お子さんは、どのような場面で、差別を受けましたか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 保育所や幼稚園、学校 | 7 公共の場での人の視線 |
| 2 進路の選択 | 8 店などでの対応や態度 |
| 3 隣近所との付き合い | 9 市役所などの公共施設 |
| 4 冠婚葬祭 | 10 交通機関の利用 |
| 5 スポーツや趣味の活動 | 11 病院などの医療機関 |
| 6 地域の行事や集まり | 12 その他() |

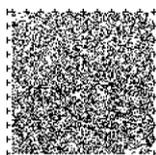
問39 あなたは、障がいを理由とした差別を受けた場合の相談先を知っていますか。(〇は1つだけ)

※障がいを理由とする差別を受けたときは、まず市役所のそれぞれの課の窓口にご相談ください。そこで解決ができない場合も、その内容に応じた相談窓口を紹介します。

- 1 知っている
- 2 知らない

問40 障がいのある人に対する、地域の人の理解は進んできたと思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 かなり進んできた
- 2 どちらかといえば進んできた
- 3 あまり進んできたとは思わない
- 4 進んでいない(変わらない)



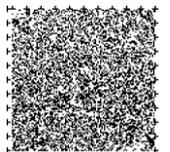
とい 問 4 1 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深め、共に地域で支え合って生活していくた
めには、どのようなことが必要だと思えますか。(主なもの3つまでに○)

- 1 障がい者理解のための広報・啓発の充実
- 2 地域の人との交流の機会を増やすこと
- 3 障がいのある人自身ももっと積極的に地域活動などに参加すること
- 4 ボランティア活動の推進
- 5 地域や学校における人権教育の充実
- 6 参加しやすい地域活動などの充実
- 7 福祉施設の地域への開放などによる地域住民との交流
- 8 障がいのある人のまちづくりへの参加
- 9 障がいへの理解を深めるために活動する市民団体への支援
- 10 その他 ()
- 11 特にない

7 さいがいじ たいおう 災害時の対応についておたずねします

とい 問 4 2 ふうすいがい かじ じしん さいがいじ こま おも なん 風水害や火事・地震などの災害時に困ると思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 投薬や治療が受けられないこと
- 2 補装具や日常生活用具の使用ができなくなる
- 3 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる
- 4 救助を求めることができない
- 5 安全なところまで、迅速に避難することができない
- 6 被害状況、避難場所などの情報が入手できない
- 7 周囲とコミュニケーションがとれない
- 8 避難場所において設備(トイレなど)や生活環境に対する配慮が受けられない
- 9 その他 ()
- 10 特にない

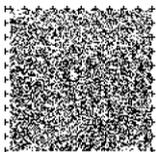


とい 問 4 3 ふうすいがい かじ じしん さいがいじ そな たいさく ひつよう おも
 風水害や火事・地震などの災害時の備えとして、どのような対策が必要だと思ひますか。
 おも (主なものの3つまでに○)

- 1 しょう とくせい はいりよ さいがい じょうきょう ひなんばしょ しょうほうていきょう
 障がい特性に配慮した、災害の状況や避難場所についての情報提供
- 2 ひなん かいじょしゃ しえんしゃ かくほ
 避難するときの介助者や支援者の確保
- 3 しょう ひと はいりよ ひなんばしょ かくほ
 障がいのある人に配慮した避難場所の確保
- 4 ひなんばしょ かいじょしゃ しえんしゃ かくほ
 避難場所での介助者や支援者の確保
- 5 ひなんじょせいかつ まち たいさく
 避難所生活におけるプライバシーを守る対策
- 6 いりょうせつ いりょうせつび かくほ
 医療施設や医療設備の確保
- 7 ぼうさいちしき ふきゅう けいはつ
 防災知識の普及や啓発
- 8 ぼうさいくねん じっし
 防災訓練の実施
- 9 その他 ()
- 10 とく
 特になひ

とい 問 4 4 あなたは、ちいき おこな ぼうさいくねん さんか まる
 あなたは、地域で行われる防災訓練に参加していますか。(○は1つだけ)

- 1 さんか
 参加している → とい 問 4 6 へおすすみください
- 2 さんか
 参加したことはない
- 3 いぜんさんか げんざい さんか
 以前参加したことがあるが、現在は参加していない



【問44で「2～3」を選んだ方におたずねします】

問45 現在、防災訓練に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

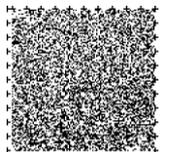
- 1 会場がバリアフリー化されていないから
- 2 資料に読み仮名がないなど配慮がないから
- 3 会場が遠いから
- 4 会場に介助や相談などの支援をしてくれる人がいないから
- 5 日時が合わないから
- 6 周囲とコミュニケーションをとるのが難しいから
- 7 訓練に関する情報がないから
- 8 参加方法がわからないから
- 9 普段から地域とのつながりが薄いから
- 10 自治会（町内会など）に入っていないから
- 11 必要性を感じないから
- 12 その他（ ）
- 13 特にない

8

行政の福祉施策などについておたずねします

問46 福祉に関する必要な情報を、どこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 県や市の窓口 | 12 障がい者団体など |
| 2 県や市からの通知 | 13 家族・友人・知人 |
| 3 社会福祉協議会 | 14 県や市などの広報誌・パンフレット |
| 4 基幹相談支援センター（クローバー） | 15 県や市などのホームページ |
| 5 相談支援事業所 | 16 ラジオ・テレビ |
| 6 福祉施設・サービス提供事業所 | 17 新聞・雑誌など |
| 7 病院・薬局 | 18 インターネット |
| 8 障がい者相談員 | 19 その他（ ） |
| 9 民生委員・児童委員 | 20 特にない |
| 10 こども発達支援センター | 21 入手方法がわからない |
| 11 ふくやま子育て応援センター | |



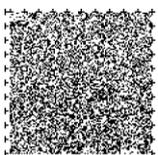
問47 障がいのある人が地域で安心して暮らしていくための施策について、お子さんにとって重要だと思うことは、次のどれですか。（主なもの3つまでに○）

- 1 障がいへの理解を深める啓発の充実
- 2 相談支援の充実
- 3 財産や権利を守る支援の充実
- 4 地域で安心して生活できる障がい福祉サービスなどの充実
- 5 医療費の助成や手当の支給などの、経済的な支援の充実
- 6 災害時の避難支援体制の充実
- 7 地域で生活するための住まいの確保
- 8 医療・保健・福祉の情報共有や支援の連携
- 9 就労支援・働く場の充実
- 10 スポーツ・文化活動、生涯学習の充実
- 11 交通の利便性の確保
- 12 建物や交通のバリアフリー化
- 13 情報のバリアフリー化（手話や音声などによる情報の提供）
- 14 住民同士がふれあう機会やコミュニケーションの場の充実
- 15 福祉に関する情報提供の充実
- 16 その他（ ）
- 17 特になし

問48 障がいのある人の生育歴やケアの仕方を、乳幼児期から成人期に至るまで継続して記録整理できる「サポートファイル 結愛※」を利用していますか。（○は1つだけ）

- 1 利用している（利用したことがある）
 - 2 利用していないが、知っている
 - 3 知らない
- 問50へお進みください

※「サポートファイル 結愛」は、本市の窓口で利用希望者に配布しています。



【問48で「1」を選んだ方におたずねします】

問49 「サポートファイル 結愛」は利用しやすいですか。(○は1つだけ)

- 1 利用しやすい
- 2 どちらかといえば利用しやすい
- 3 どちらかといえば利用しにくい
- 4 利用しにくい



次は問52へお進みください

【問48で「2～3」を選んだ方におたずねします】

問50 あなたは、今後、「サポートファイル 結愛」を利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 ぜひ利用したい
- 2 できれば利用したい
- 3 あまり利用したいと思わない
- 4 利用しない

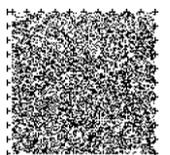
→ 問52へお進みください

【問50で「1～2」を選んだ方におたずねします】

問51 あなたは、「サポートファイル 結愛」をどのようなときに利用したいと思いますか。

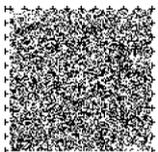
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 病院を受診するとき | 5 地域活動をするとき |
| 2 施設を利用するとき | 6 その他 () |
| 3 通園や通学するとき | 7 特にない |
| 4 仕事をするとき | |



とい 問52 福山市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

～ご協力ありがとうございました～

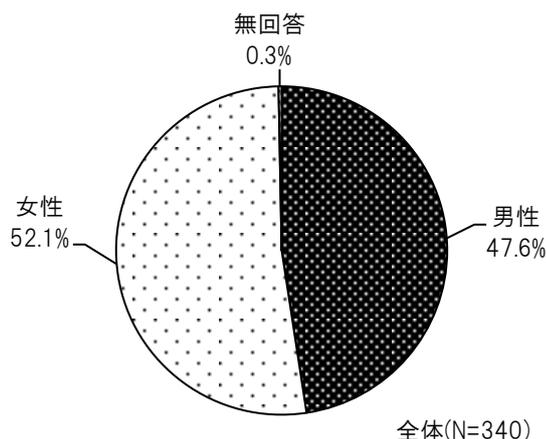


IV 調査結果（手帳等非所持者）

IV-1 回答者の属性

1 性別構成

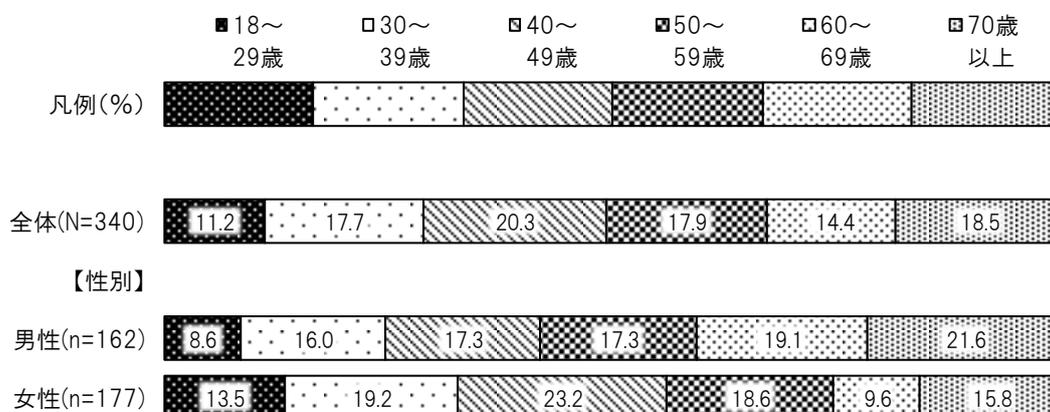
回答者の性別構成比は、「男性」が 47.6%、「女性」が 52.1%と、おおむね二分している。



2 年齢別構成

年齢別構成は、「40～49 歳」が 20.3%と最も高く、次いで「70 歳以上」（18.5%）、「50～59 歳」（17.9%）が続いている。

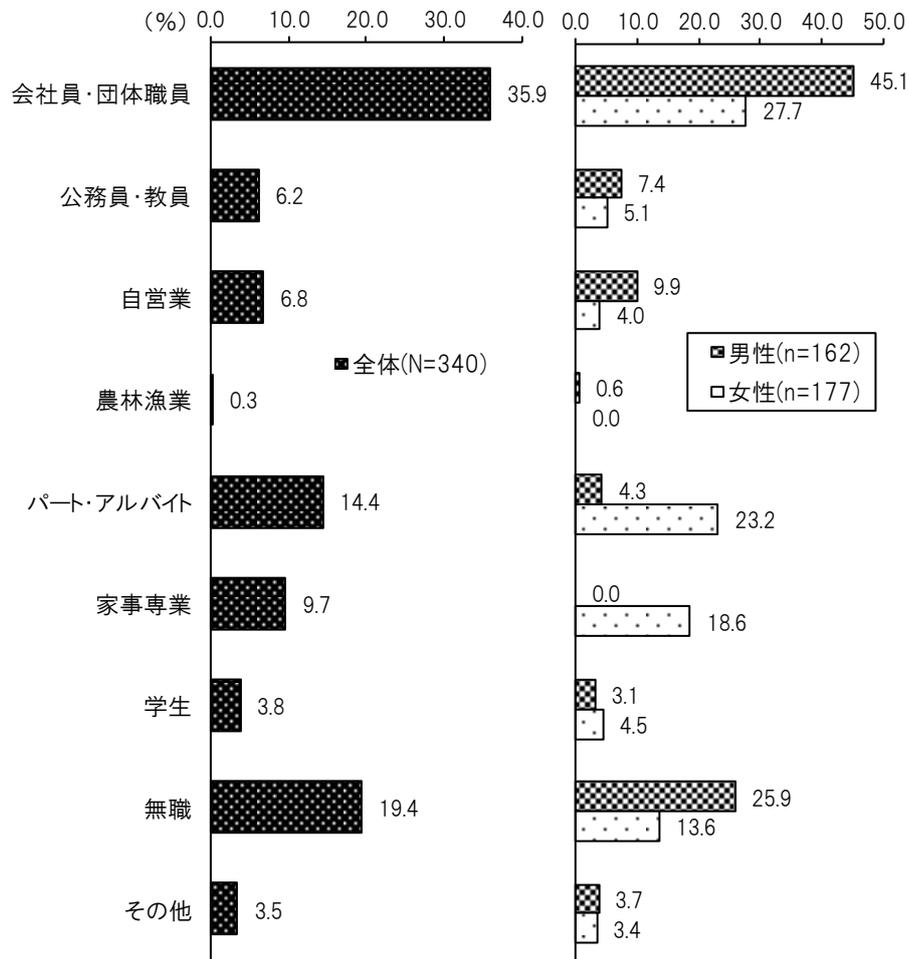
性別でみると、男性は「60～69 歳」「70 歳以上」、女性は「18～29 歳」「40～49 歳」などの割合がそれぞれ高く、女性は男性に比べ若い年齢層の占める割合が高い。



3 職業別構成

職業別構成については、「会社員・団体職員」の割合が35.9%と最も高く、次いで「無職」(19.4%)、「パート・アルバイト」(14.4%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「会社員・団体職員」「自営業」「無職」などの割合が高く、女性は「パート・アルバイト」「家事専業」の割合が男性を大きく上回っている。



IV-2 調査結果

【1】地域との関わりについて

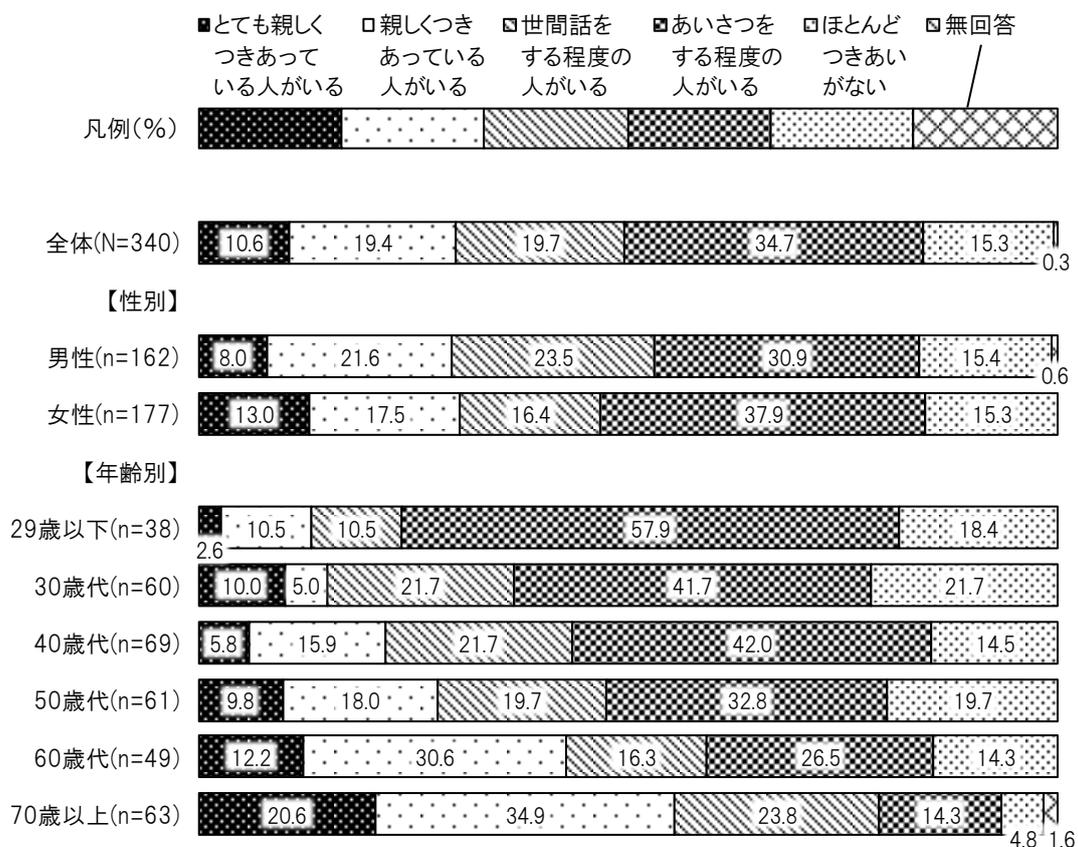
1 地域の人との付き合い程度

問4 あなたは、近所の人や地域の人とのつきあいはどの程度ですか。(○は1つだけ)

地域の人との付き合い程度については、「あいさつをする程度の人がある」が34.7%と最も高く、次いで「世間話をする程度の人がある」(19.7%)、「親しくつきあっている人がある」(19.4%)、「とても親しくつきあっている人がある」(10.6%)の順となっている。一方、「ほとんどつきあがない」は15.3%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「親しくつきあっている人がある」「世間話をする程度の人がある」の割合が高く、女性は「とても親しくつきあっている人がある」「あいさつをする程度の人がある」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、おおむね年齢が上がるほど「親しくつきあっている人がある」の割合が増える傾向にあり、若い年齢層ほど「あいさつをする程度の人がある」の割合が増える傾向にある。

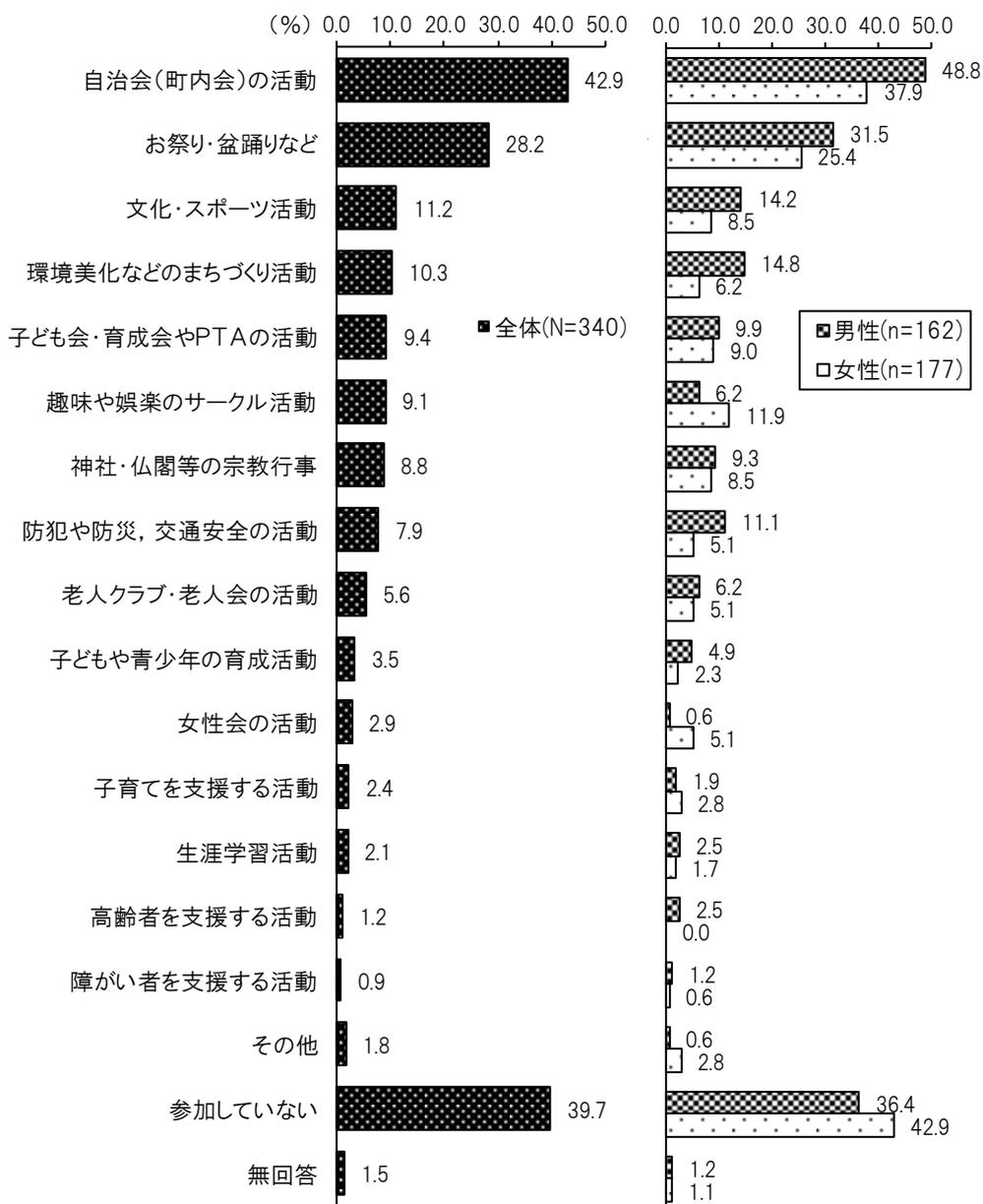


2 地域の行事や町内活動などへの参加状況

問5 あなたはふだん、地域の行事や町内活動などに参加していますか。
 (あてはまるものすべてに○)

地域の行事や町内活動などへの参加状況については、「自治会（町内会）の活動」の割合が42.9%と最も高く、次いで「お祭り・盆踊りなど」(28.2%)、「文化・スポーツ活動」(11.2%)、「環境美化などのまちづくり活動」(10.3%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「自治会（町内会）の活動」「環境美化などのまちづくり活動」「参加していない」などの割合が男性を上回っている。



年齢別では、30～40歳代で「子ども会・育成会やPTAの活動」、60歳代で「文化・スポーツ活動」「防犯や防災、交通安全の活動」、70歳以上で「趣味や娯楽のサークル活動」「老人クラブ・老人会の活動」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。また、おおむね年齢が上がるほど「自治会（町内会）の活動」の割合が増える傾向にあり、若い年齢層ほど「参加していない」の割合が増える傾向にある。

単位 (%)	自治会（町内会）の活動	お祭り・盆踊りなど	文化・スポーツ活動	環境美化などのまちづくり活動	子ども会・育成会やPTAの活動	趣味や娯楽のサークル活動	神社・仏閣等の宗教行事	防犯や防災、交通安全の活動	老人クラブ・老人会の活動	子どもや青少年の育成活動	女性会の活動	子育てを支援する活動	生涯学習活動	高齢者を支援する活動	障がい者を支援する活動	参加していない
全体(N=340)	42.9	28.2	11.2	10.3	9.4	9.1	8.8	7.9	5.6	3.5	2.9	2.4	2.1	1.2	0.9	39.7
【年齢別】																
29歳以下(n=38)	7.9	21.1	7.9	2.6	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	68.4
30歳代(n=60)	26.7	20.0	5.0	5.0	20.0	0.0	3.3	1.7	0.0	3.3	1.7	5.0	0.0	0.0	0.0	56.7
40歳代(n=69)	47.8	30.4	10.1	13.0	23.2	2.9	5.8	8.7	1.4	7.2	4.3	2.9	0.0	1.4	0.0	37.7
50歳代(n=61)	47.5	19.7	4.9	11.5	4.9	3.3	13.1	8.2	0.0	0.0	1.6	1.6	1.6	1.6	0.0	36.1
60歳代(n=49)	59.2	40.8	26.5	14.3	0.0	18.4	16.3	16.3	4.1	4.1	6.1	0.0	6.1	4.1	6.1	24.5
70歳以上(n=63)	57.1	36.5	14.3	12.7	0.0	28.6	11.1	11.1	25.4	4.8	3.2	3.2	4.8	0.0	0.0	23.8

注1：表中の「網掛け」は、各クロス集計（年齢別など）において最も高い割合を示している。

（例／年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。）

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。

また「無回答」は表記から省略している。（本報告書においては、以下同様）

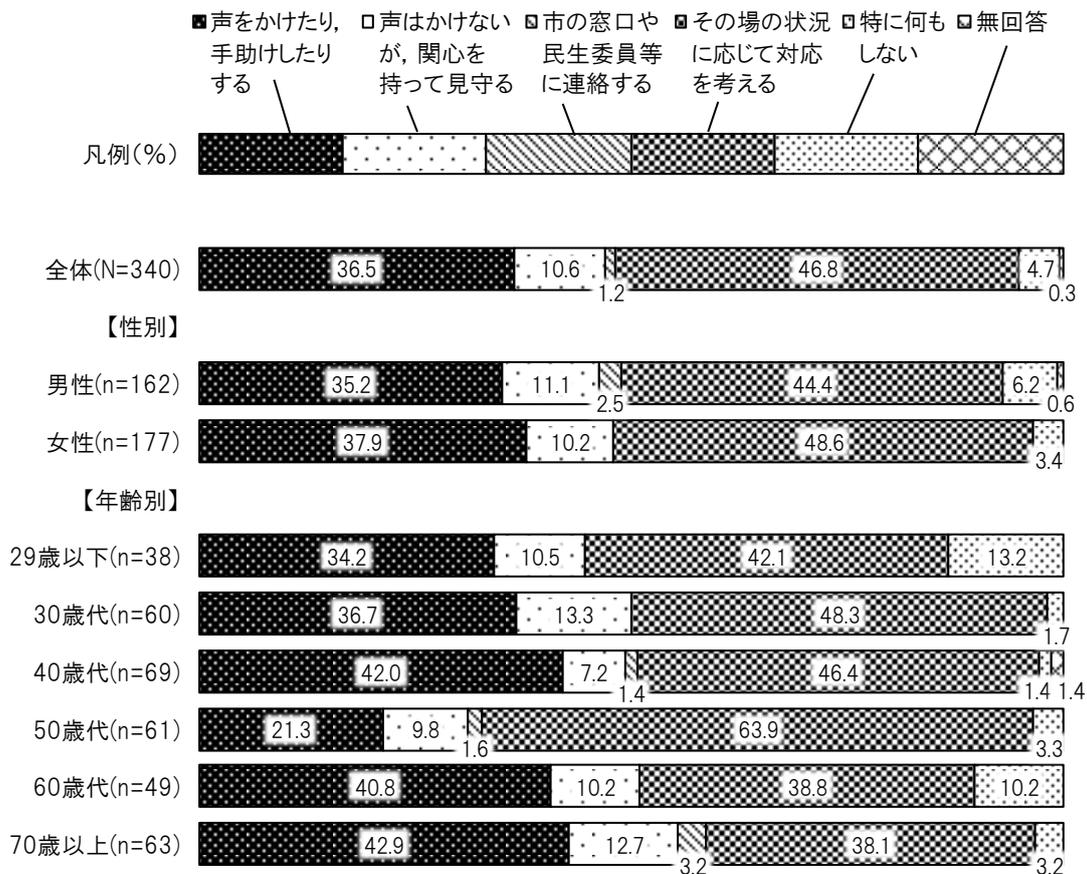
注2：「その他」は表記から省略している。

3 支援を必要としている方を見かけた時の望ましい対応について

問6 介護や介助など、何らかの支援を必要としている方を見かけたとき、あなたはどのような対応が望ましいと思いますか。（○は1つだけ）

支援を必要としている方を見かけた時の望ましい対応については、「その場の状況に応じて対応を考える」が46.8%と最も高く、次いで「声をかけたり、手助けしたりする」(36.5%)、「声はかけないが、関心を持って見守る」(10.6%)の順となっている。

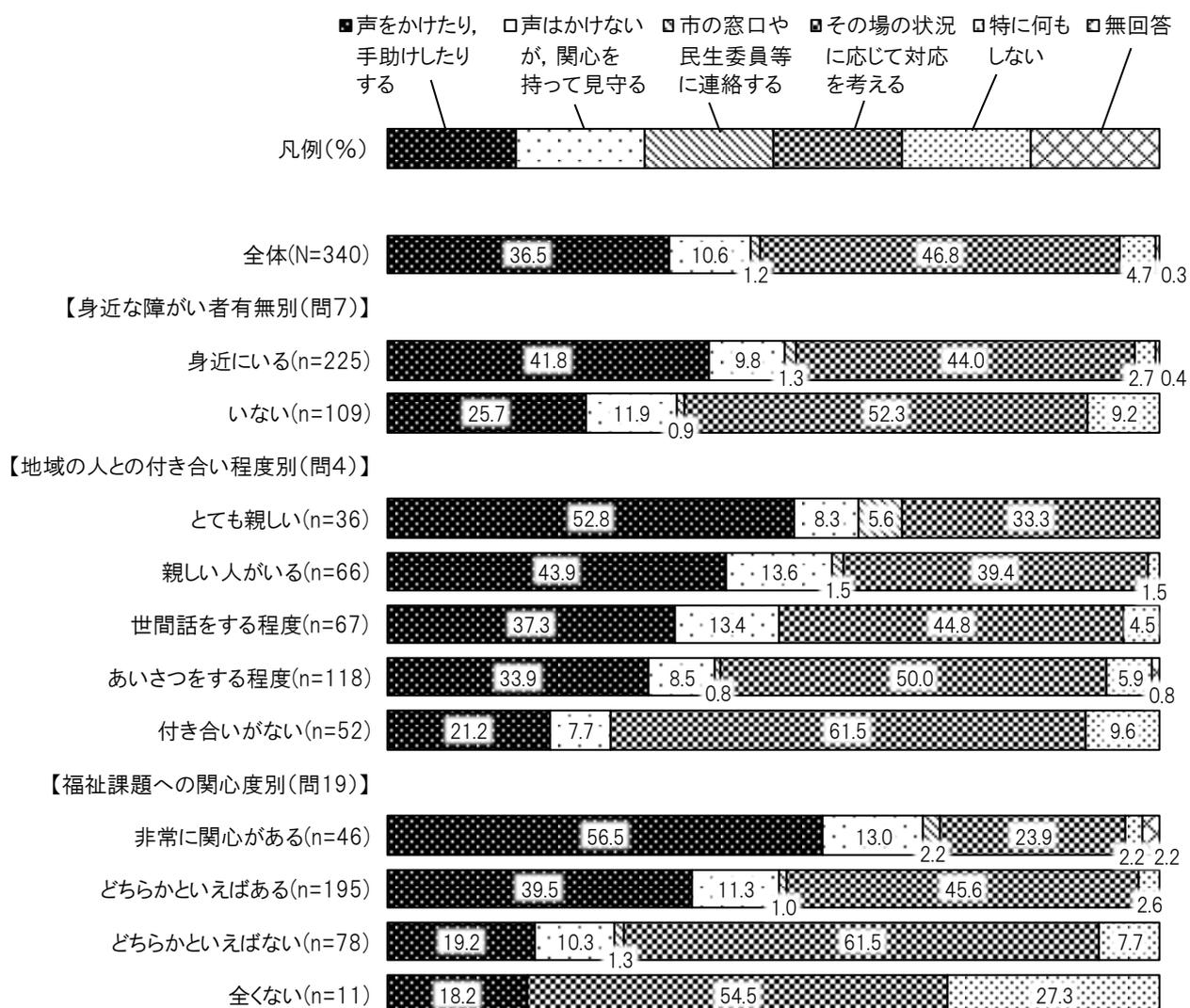
性別では大きな差はみられないが、年齢別では50歳代で「その場の状況に応じて対応を考える」の割合がほかの年齢層を大きく上回っている。



身近な障がい者有無別では、身近にいる層で「声をかけたり、手助けしたりする」、いない層で「その場の状況に応じて対応を考える」「特に何もしない」の割合がそれぞれほかの層に比べて高くなっている。

地域の人との付き合い程度別では、付き合いが親しい層ほど「声をかけたり、手助けしたりする」の割合が増える傾向にあり、付き合いの程度が低い層ほど「その場の状況に応じて対応を考える」の割合が増える傾向にある。

福祉課題への関心度別では、関心がある層はしない層に比べ「声をかけたり、手助けしたりする」の割合が高くなっている。



【2】障がいがある人とのふれあいなどについて

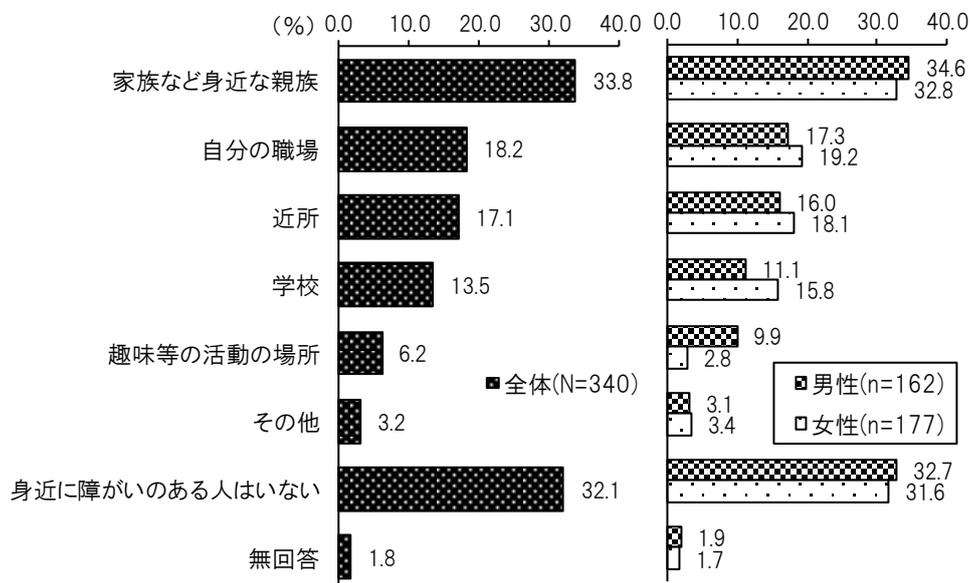
1 身近な障がい者の有無

問7 あなたの身近に障がいのある人がいますか、または、これまでいたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

身近な障がい者の有無については、「家族など身近な親族」が33.8%で最も高く、次いで「自分の職場」(18.2%)、「近所」(17.1%)、「学校」(13.5%)の順となっている。一方、約3割(32.1%)は「身近に障がいのある人はいない」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「趣味等の活動の場所」の割合が高くなっている。

年齢別では、29歳以下で「学校」「身近に障がいのある人はいない」、50～60歳代で「家族など身近な親族」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



単位 (%)	家族など身近な親族	自分の職場	近所	学校	趣味等の活動の場所	その他	は身近に障がいのある人
全体(N=340)	33.8	18.2	17.1	13.5	6.2	3.2	32.1
【年齢別】							
29歳以下(n=38)	23.7	13.2	5.3	26.3	5.3	0.0	52.6
30歳代(n=60)	26.7	30.0	11.7	18.3	3.3	3.3	33.3
40歳代(n=69)	34.8	23.2	20.3	18.8	4.3	2.9	29.0
50歳代(n=61)	39.3	26.2	18.0	13.1	4.9	3.3	23.0
60歳代(n=49)	40.8	6.1	22.4	2.0	8.2	6.1	26.5
70歳以上(n=63)	34.9	6.3	20.6	4.8	11.1	3.2	34.9

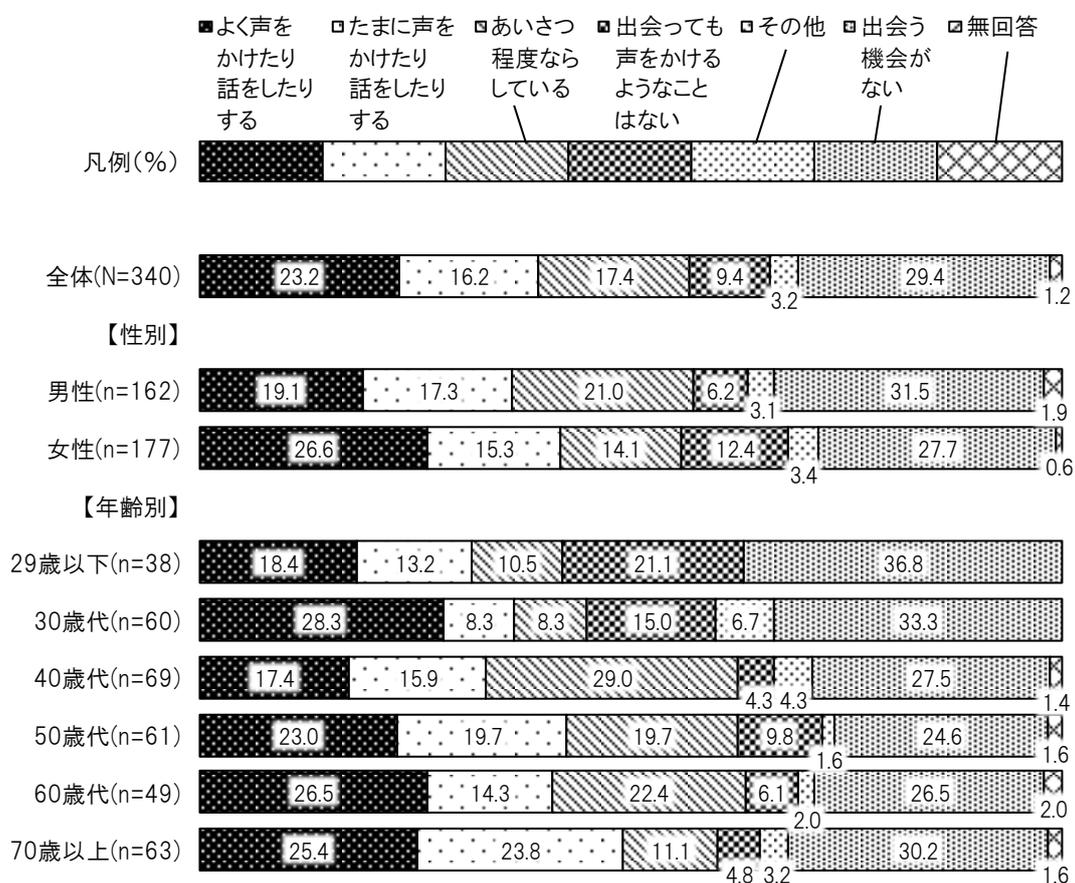
2 障がい者に関わる機会

問8 日頃、障がいのある人に声をかけたり、話をしたりする機会がありますか（ありましたか）。（○は1つだけ）

障がい者に関わる機会については、「出会う機会がない」が29.4%と最も高く、次いで「よく声をかけたり話をしたりする」（23.2%）、「あいさつ程度ならしている」（17.4%）、「たまに声をかけたり話をしたりする」（16.2%）の順となっている。

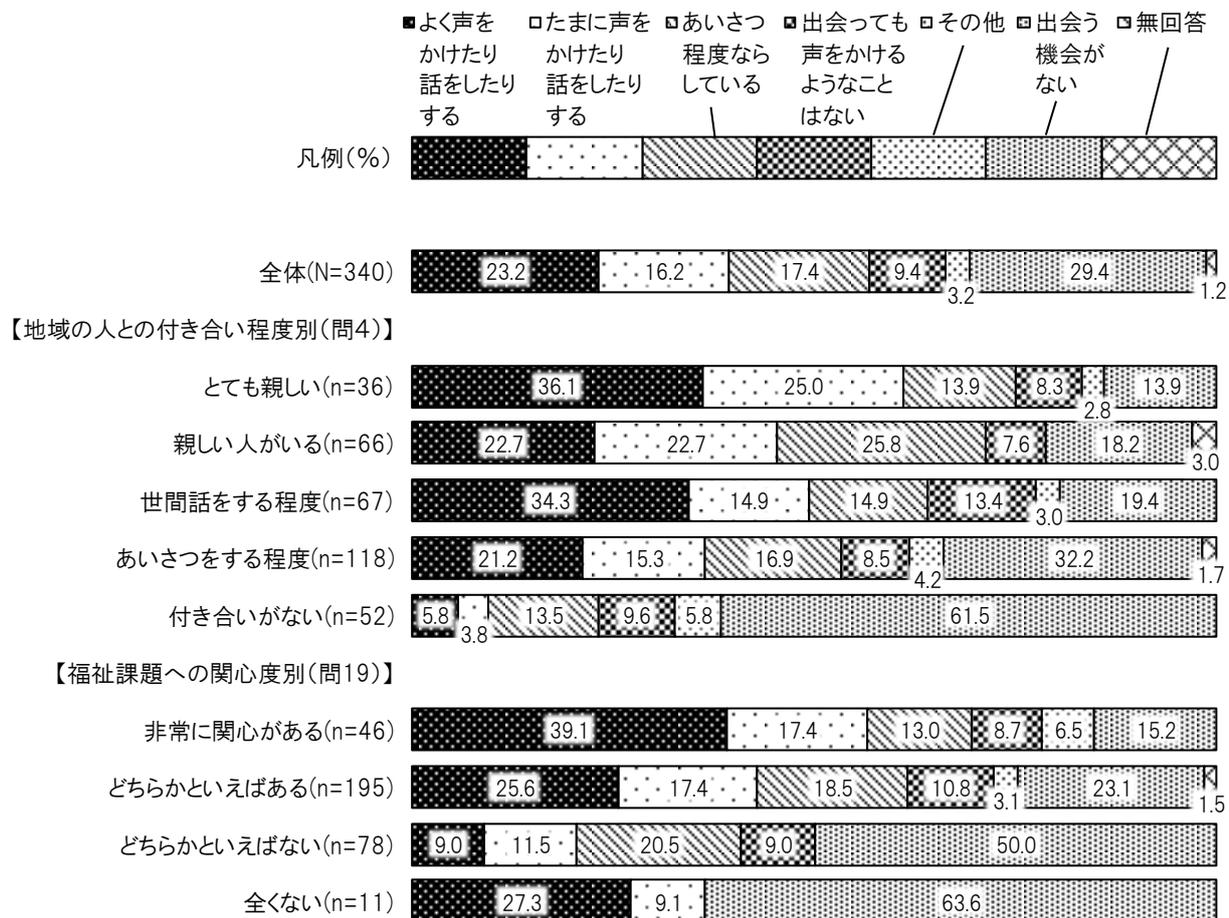
性別では、男性は女性に比べ「あいさつ程度ならしている」の割合が高く、女性は「よく声をかけたり話をしたりする」「出会っても声をかけるようなことはない」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、30歳代以下で「出会っても声をかけるようなことはない」、40歳代で「あいさつ程度ならしている」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



地域の人との付き合い程度別では、付き合いが親しい層ほど障がい者との関わりも深くなる傾向がみられ、付き合いがない層で「出会う機会がない」の割合がほかの層を大きく上回っている。

福祉課題への関心度別では、関心がある層はない層に比べ「よく声をかけたり話をしたりする」「たまに声をかけたり話をしたりする」の割合が高くなっている。

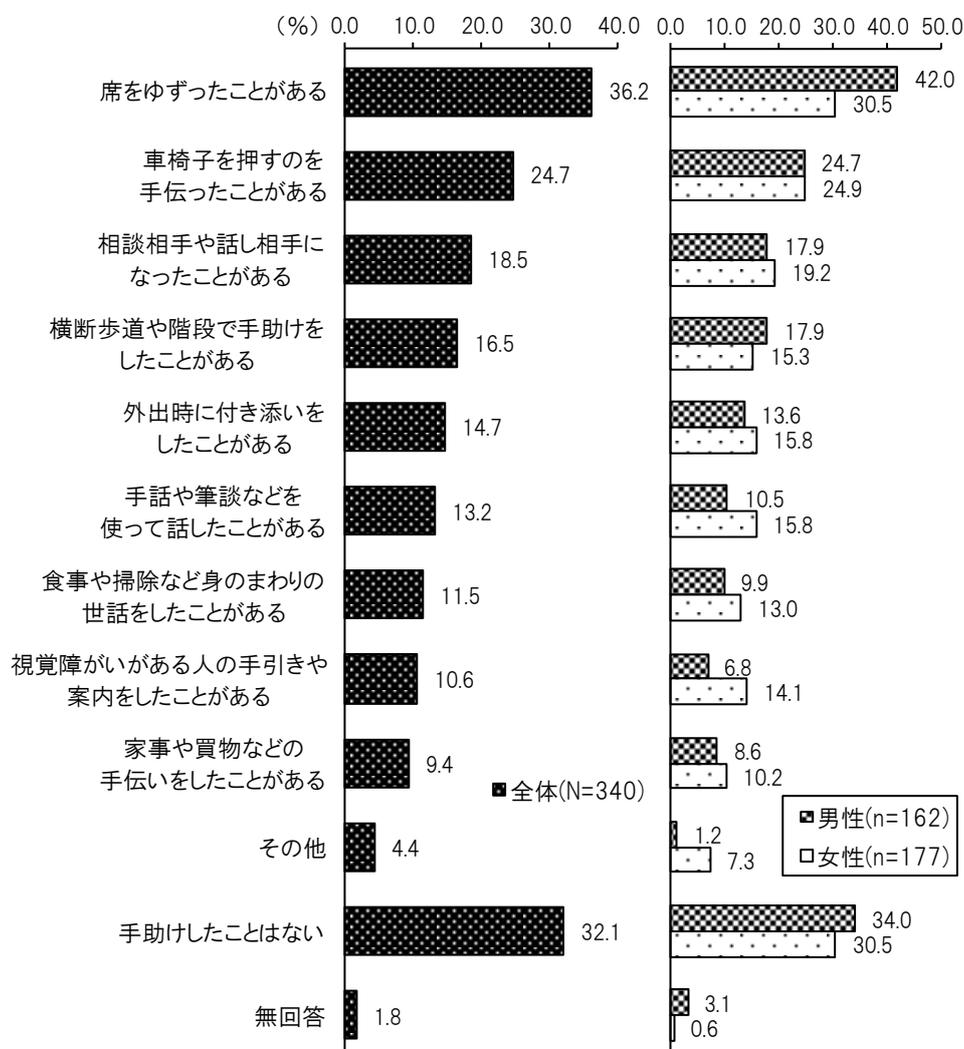


3 障がい者やその家族に対する手助けの経験

問9 あなたは、障がいのある人やその家族に、手助けをしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

障がい者やその家族に対する手助けの経験については、「席をゆずったことがある」の割合が36.2%と最も高く、次いで「車椅子を押すのを手伝ったことがある」(24.7%)、「相談相手や話し相手になったことがある」(18.5%)、「横断歩道や階段で手助けをしたことがある」(16.5%)の順となっている。一方、約3割(32.1%)は「手助けしたことはない」と回答している。

性別では、男性は「席をゆずったことがある」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「手話や筆談などを使って話したことがある」「視覚障がいがある人の手引きや案内をしたことがある」などの割合が高くなっている。



年齢別では、29歳以下で「手助けしたことはない」、30歳代で「手話や筆談などを使って話したことがある」、40歳代や60歳代で「席をゆずったことがある」、60歳代で「外出時に付き添いをしたことがある」、70歳以上で「相談相手や話し相手になったことがある」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

福祉課題への関心度別では関心が高い層ほど、障がい者との付き合い別では付き合いの程度が高い層ほど、割合の高い項目が多くみられる。

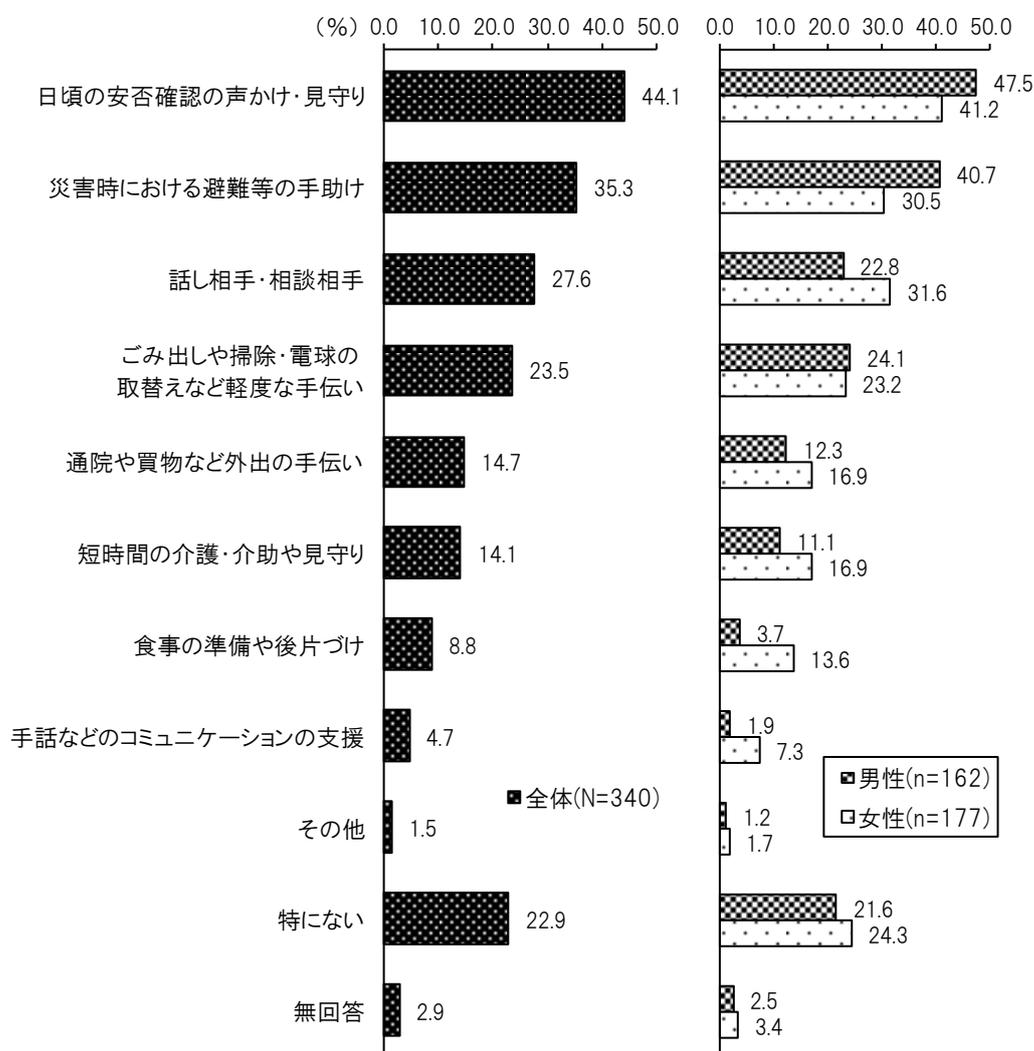
単位 (%)	席をゆずったことがある	車椅子を押すの手伝ったことがある	相談相手や話し相手になったことがある	横断歩道や階段で手助けをしたことがある	外出時に付き添いをしたことがある	手話や筆談などを使って話したことがある	食事や掃除など身のまわりの世話をしたことがある	視覚障がいがある人がある	家事や買物などの手伝いをしたことがある	その他	手助けしたことはない
全体(N=340)	36.2	24.7	18.5	16.5	14.7	13.2	11.5	10.6	9.4	4.4	32.1
【年齢別】											
29歳以下(n=38)	31.6	26.3	7.9	5.3	10.5	5.3	7.9	10.5	5.3	0.0	50.0
30歳代(n=60)	23.3	21.7	20.0	11.7	13.3	23.3	10.0	13.3	3.3	8.3	36.7
40歳代(n=69)	49.3	29.0	17.4	17.4	13.0	18.8	8.7	10.1	15.9	5.8	26.1
50歳代(n=61)	34.4	24.6	14.8	24.6	13.1	14.8	14.8	16.4	8.2	8.2	34.4
60歳代(n=49)	44.9	28.6	20.4	20.4	24.5	10.2	14.3	12.2	14.3	2.0	26.5
70歳以上(n=63)	31.7	19.0	27.0	15.9	14.3	3.2	12.7	1.6	7.9	0.0	25.4
【福祉課題への関心度別(問19)】											
非常に関心がある(n=46)	45.7	41.3	39.1	23.9	30.4	17.4	28.3	19.6	15.2	4.3	17.4
どちらかといえばある(n=195)	36.4	26.7	18.5	17.9	15.4	14.4	11.8	10.8	11.3	4.6	28.2
どちらかといえばない(n=78)	32.1	11.5	9.0	10.3	6.4	7.7	2.6	5.1	3.8	3.8	44.9
全くない(n=11)	18.2	27.3	9.1	0.0	9.1	27.3	9.1	18.2	0.0	0.0	72.7
【障がい者との付き合い別(問8)】											
よく声をかける(n=79)	43.0	50.6	51.9	27.8	45.6	26.6	32.9	21.5	25.3	5.1	5.1
たまに声をかける(n=55)	36.4	29.1	20.0	16.4	12.7	10.9	9.1	10.9	12.7	1.8	18.2
あいさつ程度(n=59)	45.8	20.3	11.9	13.6	6.8	10.2	5.1	5.1	3.4	5.1	32.2
何もしない(n=32)	25.0	12.5	3.1	6.3	0.0	6.3	3.1	3.1	0.0	3.1	43.8
出会う機会がない(n=100)	25.0	6.0	1.0	8.0	1.0	5.0	3.0	5.0	1.0	1.0	61.0

4 障がい者やその家族に対して手助けできること

問 10 あなたは、障がいのある人やその家族に、どのような手助けができますか。
 (あてはまるものすべてに○)

障がい者やその家族に対して手助けできることについては、「日頃の安否確認の声かけ・見守り」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「災害時における避難等の手助け」(35.3%)、「話し相手・相談相手」(27.6%)、「ごみ出しや掃除・電球の取替えなど軽度な手伝い」(23.5%) の順となっている。一方、約 2 割 (22.9%) は「特にない」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「日頃の安否確認の声かけ・見守り」「災害時における避難等の手助け」の割合が高く、女性は「話し相手・相談相手」「食事の準備や後片づけ」などの割合が男性を上回っている。



年齢別では、29歳以下で「特にない」、29歳以下や60歳代で「話し相手・相談相手」、50歳代で「ごみ出しや掃除・電球の取替えなど軽度な手伝い」「短時間の介護・介助や見守り」、60歳代で「災害時における避難等の手助け」などの割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

福祉課題への関心度別では関心が高い層ほど、障がい者との付き合い別では付き合いの程度が高い層ほど、割合の高い項目が多くみられる。

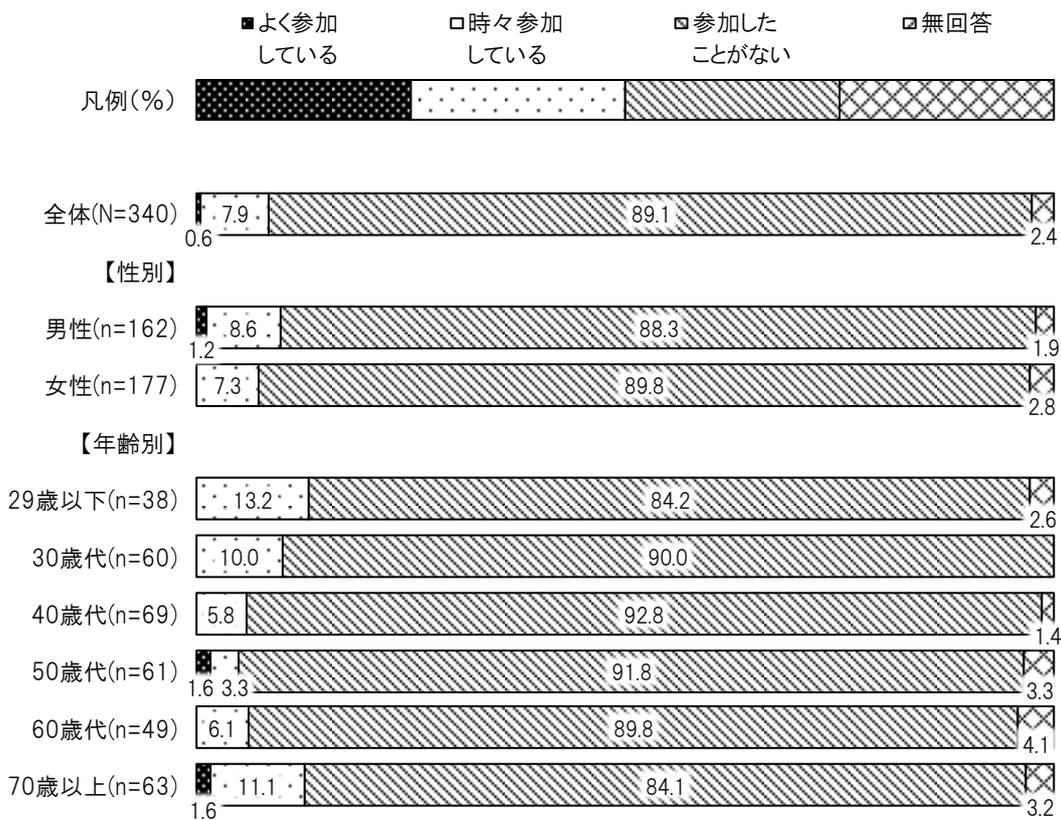
単位 (%)	見守り 日頃の安否確認の声かけ・	災害時における避難等の手助け	話し相手・相談相手	ごみ出しや掃除・電球の取替えなど軽度な手伝い	通院や買物など外出の手伝い	短時間の介護・介助や見守り	食事の準備や後片づけ	手話などのコミュニケーションの支援	その他	特にない
全体(N=340)	44.1	35.3	27.6	23.5	14.7	14.1	8.8	4.7	1.5	22.9
【年齢別】										
29歳以下(n=38)	34.2	26.3	36.8	10.5	5.3	13.2	5.3	7.9	0.0	36.8
30歳代(n=60)	45.0	40.0	26.7	21.7	13.3	6.7	10.0	6.7	1.7	26.7
40歳代(n=69)	49.3	36.2	27.5	26.1	17.4	15.9	4.3	4.3	2.9	15.9
50歳代(n=61)	49.2	37.7	21.3	34.4	18.0	23.0	9.8	3.3	1.6	19.7
60歳代(n=49)	44.9	44.9	32.7	26.5	16.3	18.4	12.2	8.2	0.0	18.4
70歳以上(n=63)	38.1	25.4	25.4	17.5	14.3	7.9	11.1	0.0	1.6	25.4
【福祉課題への関心度別(問19)】										
非常に関心がある(n=46)	65.2	39.1	50.0	26.1	26.1	19.6	23.9	10.9	0.0	10.9
どちらかといえばある(n=195)	48.7	39.5	27.7	26.2	17.4	13.8	7.7	4.6	2.1	20.0
どちらかといえばない(n=78)	25.6	29.5	16.7	17.9	5.1	11.5	5.1	2.6	1.3	32.1
全くない(n=11)	27.3	0.0	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	54.5
【障がい者との付き合い別(問8)】										
よく声をかける(n=79)	62.0	40.5	55.7	34.2	38.0	32.9	22.8	10.1	0.0	5.1
たまに声をかける(n=55)	47.3	36.4	29.1	21.8	12.7	9.1	3.6	1.8	0.0	10.9
あいさつ程度(n=59)	52.5	39.0	25.4	30.5	11.9	11.9	6.8	1.7	0.0	15.3
何もしない(n=32)	37.5	34.4	21.9	18.8	3.1	3.1	3.1	6.3	0.0	31.3
出会う機会がない(n=100)	27.0	29.0	11.0	16.0	5.0	6.0	4.0	1.0	2.0	47.0

5 障がい者に対するボランティア活動への参加状況

問 11 あなたは、障がいのある人に対するボランティア活動に参加していますか。
(○は1つだけ)

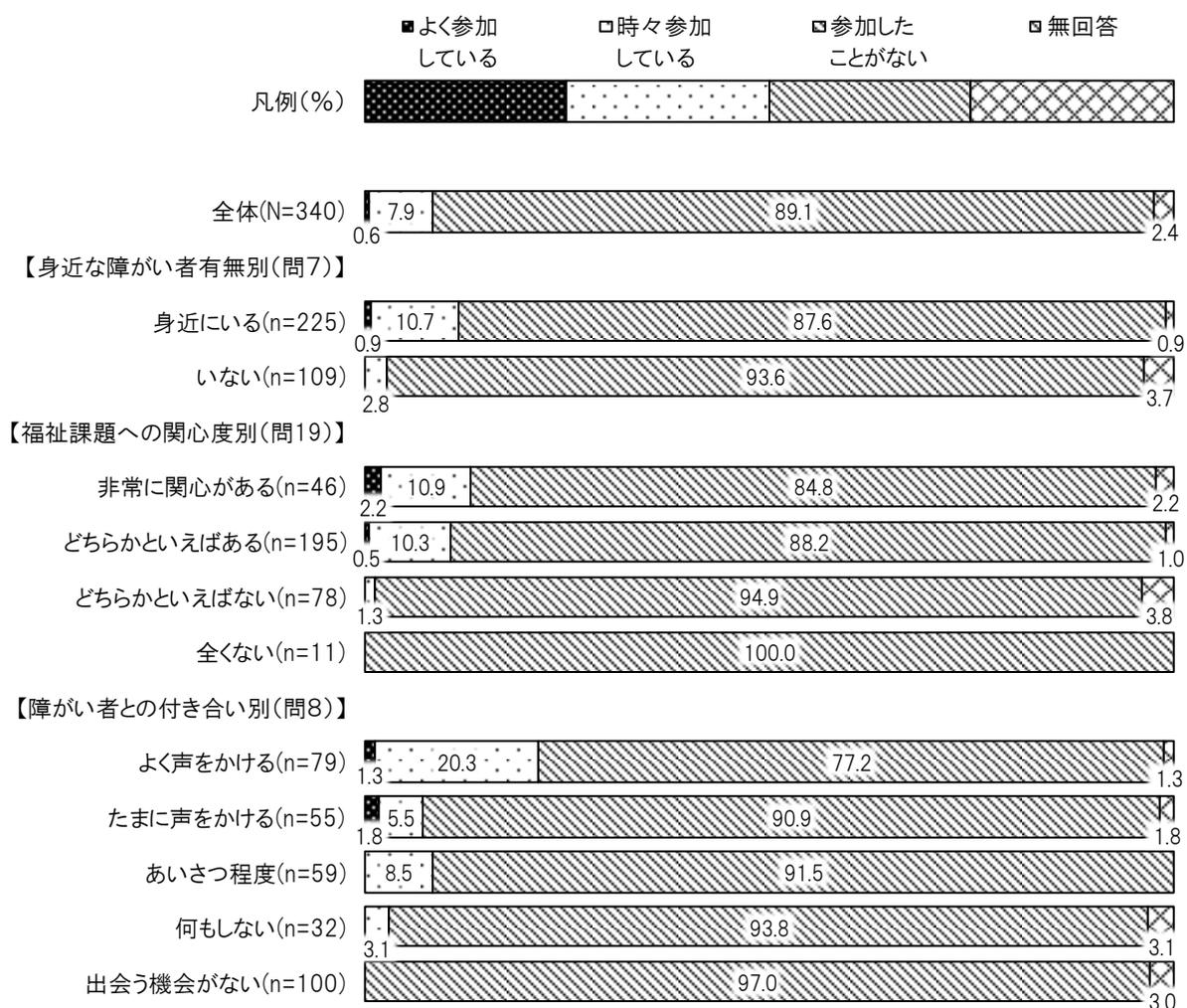
障がい者に対するボランティア活動への参加状況については、約9割(89.1%)が「参加したことがない」と回答しており、「よく参加している」(0.6%)、「時々参加している」(7.9%)の合計は1割未満(8.5%)となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、30歳代以下や70歳以上で『参加している(合計)』の割合がほかの年齢層に比べてやや高くなっている。



身近な障がい者有無別では身近にいる層で、福祉課題への関心度別では関心がある層で、『参加している（合計）』の割合がそれぞれほかの層に比べて高くなっている。

障がい者との付き合い別では、よく声をかける層で『参加している（合計）』の割合がほかの層を大きく上回っている。



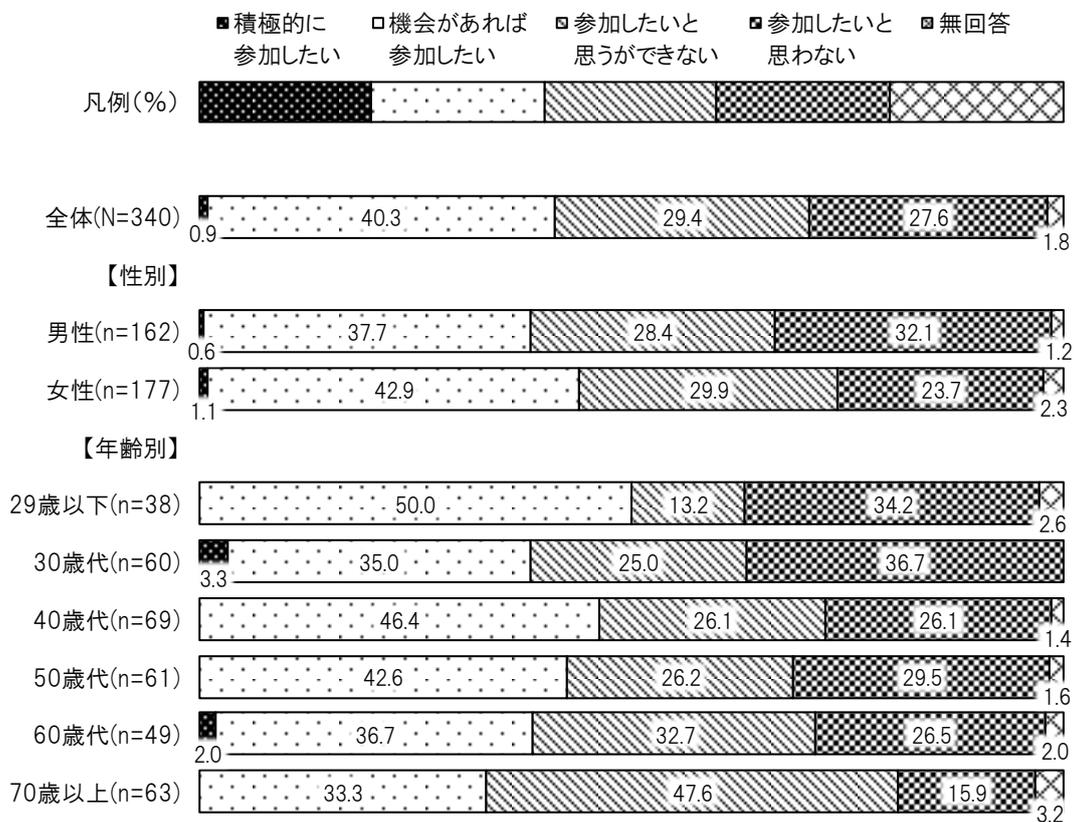
6 障がい者に対するボランティア活動への参加意向

問 12 あなたは、今後、障がいのある人に対するボランティア活動に参加してみたいと思いますか。（○は1つだけ）

障がい者に対するボランティア活動への参加意向については、「積極的に参加したい」が 0.9%、「機会があれば参加したい」が 40.3%で、合計約4割（41.2%）が『参加したい』と回答している。一方、「参加したいと思うができない」（29.4%）、「参加したいと思わない」（27.6%）の合計は 57.0%であった。

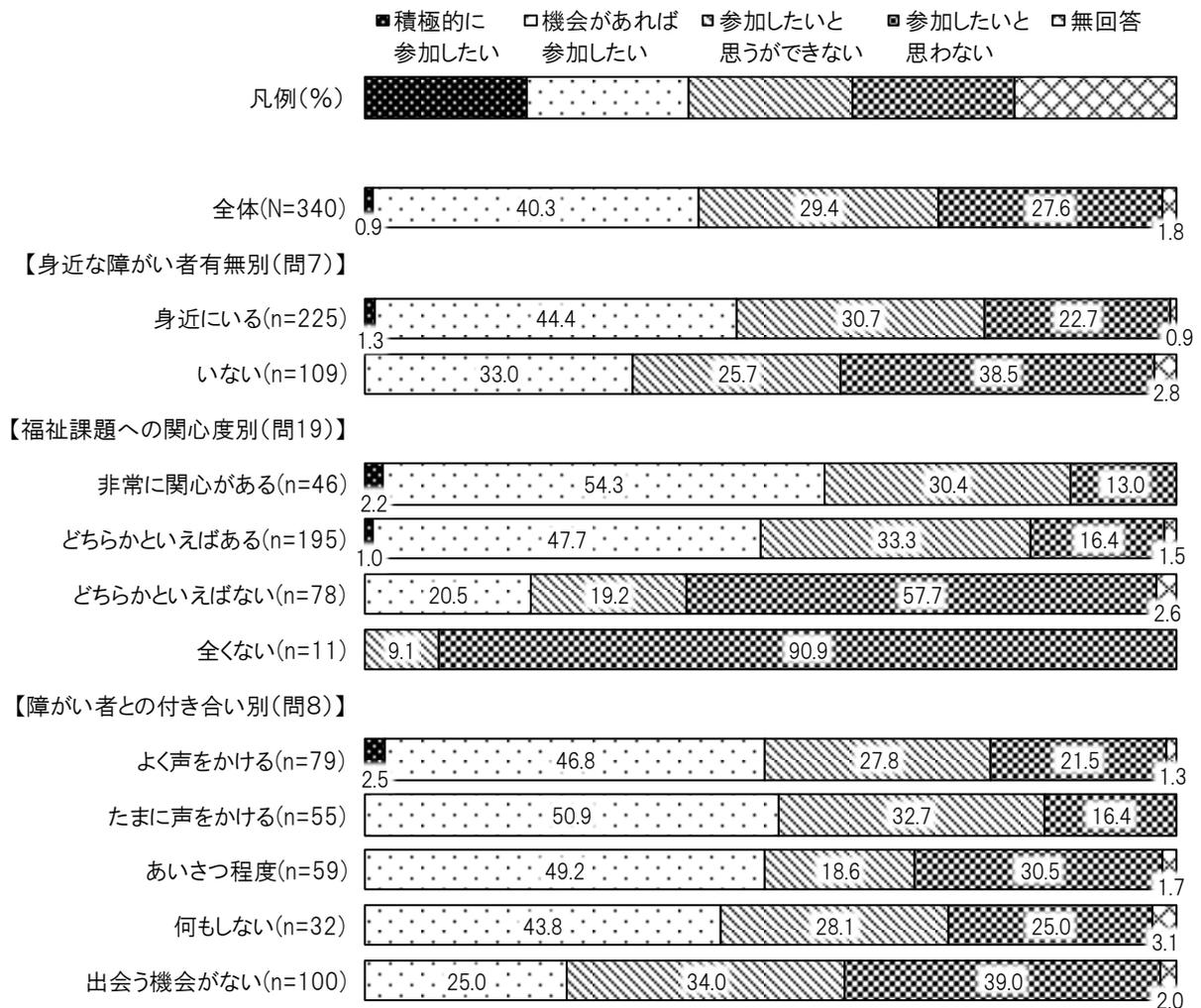
性別では、男性は女性に比べ「参加したいと思わない」の割合が高く、女性は「機会があれば参加したい」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、30歳代以下で「参加したいと思わない」、60歳代以上で「参加したいと思うができない」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



身近な障がい者有無別では身近にいる層で、福祉課題への関心度別では関心がある層で『参加したい（合計）』の割合がそれぞれほかの層に比べて高くなっている。

障がい者との付き合い別では、出会う機会がない層で「参加したいと思わない」の割合がほかの層を大きく上回っている。



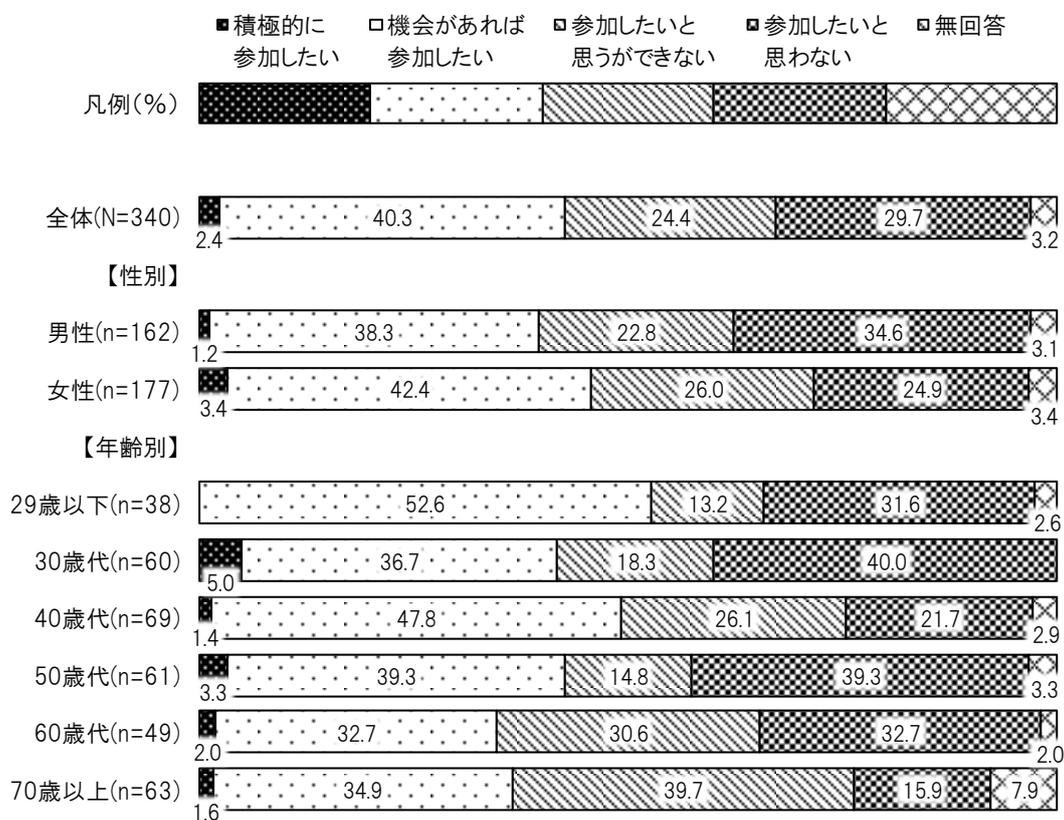
7 障がい者とふれあう機会への参加意向

問 13 今後、障がいのある人と一緒に、スポーツやものづくり、趣味の集いなどのイベントなどを通じて「ふれあう機会」があれば、参加してみたいと思いますか。
(○は1つだけ)

障がい者とふれあう機会への参加意向については、「積極的に参加したい」が2.4%、「機会があれば参加したい」が40.3%で、合計約4割(42.7%)が『参加したい』と回答している。一方、「参加したいと思うができない」(24.4%)、「参加したいと思わない」(29.7%)の合計は54.1%であった。

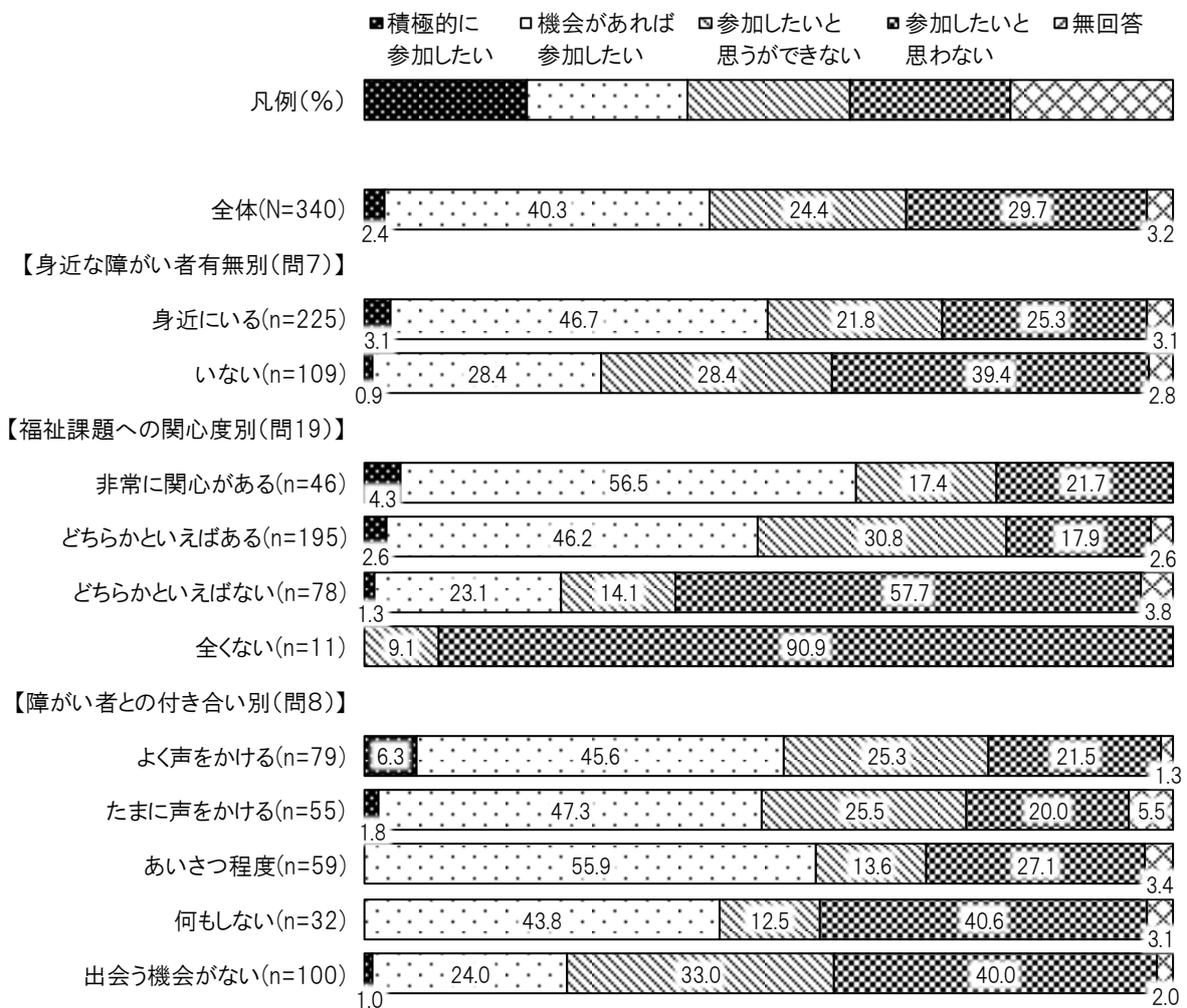
性別では、男性は「参加したいと思わない」の割合が女性を大きく上回っている。

年齢別では、29歳以下や40歳代で『参加したい(合計)』、60歳代以上で「参加したいと思うができない」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



身近な障がい者有無別では身近にいる層で、福祉課題への関心度別では関心がある層で『参加したい（合計）』の割合がそれぞれほかの層に比べて高くなっている。

障がい者との付き合い別では、出会う機会がない層で「参加したいと思うができない」の割合がほかの層に比べて高くなっている。

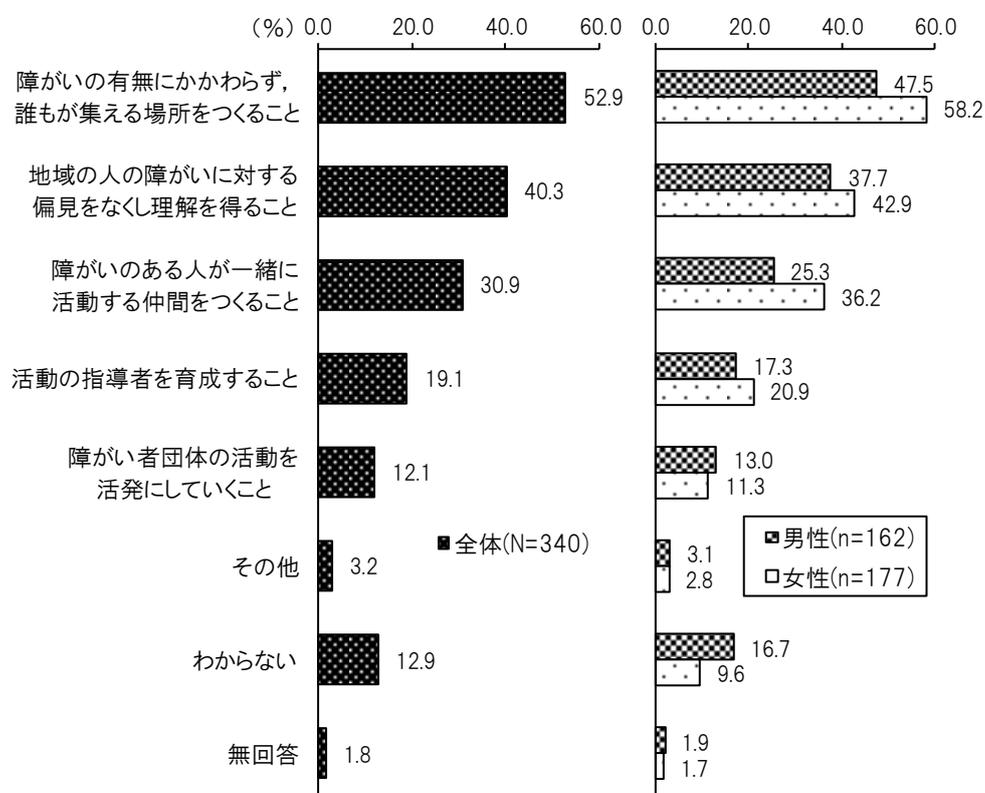


8 障がい者とふれあうために必要なこと

問 14 障がいのある人の閉じこもりを防ぎ、地域の人とふれあうために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者とふれあうために必要なことについては、「障がいの有無にかかわらず、誰もが集える場所をつくること」の割合が52.9%と最も高く、次いで「地域の人への障がいに対する偏見をなくし理解を得ること」(40.3%)、「障がいのある人が一緒に活動する仲間をつくること」(30.9%)、「活動の指導者を育成すること」(19.1%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「わからない」の割合が高く、女性は「障がいの有無にかかわらず、誰もが集える場所をつくること」「障がいのある人が一緒に活動する仲間をつくること」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、30歳代以下で「地域の人への障がいに対する偏見をなくし理解を得ること」、40歳代で「障がいの有無にかかわらず、誰もが集える場所をつくること」「障がいのある人が一緒に活動する仲間をつくること」、70歳以上で「わからない」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

障がい者との付き合い別では、よく声をかける層で「地域の人への障がいに対する偏見をなくし理解を得ること」「活動の指導者を育成すること」の割合がほかの層に比べて高くなっている。

単位 (%)	障がい者、誰もが集える場所をつくること	地域の人への偏見をなくし理解を得ること	活動がすすめる仲間をつくること	活動の指導者を育成すること	障がい者団体の活動を活発にする	その他	わからない
全体(N=340)	52.9	40.3	30.9	19.1	12.1	3.2	12.9
【年齢別】							
29歳以下(n=38)	52.6	50.0	28.9	13.2	7.9	2.6	13.2
30歳代(n=60)	48.3	51.7	35.0	25.0	13.3	1.7	11.7
40歳代(n=69)	60.9	37.7	40.6	15.9	11.6	1.4	11.6
50歳代(n=61)	52.5	27.9	32.8	16.4	16.4	8.2	9.8
60歳代(n=49)	55.1	44.9	26.5	18.4	8.2	4.1	10.2
70歳以上(n=63)	47.6	34.9	19.0	23.8	12.7	1.6	20.6
【障がい者との付き合い別(問8)】							
よく声をかける(n=79)	65.8	50.6	40.5	29.1	16.5	5.1	2.5
たまに声をかける(n=55)	54.5	41.8	34.5	16.4	14.5	1.8	9.1
あいさつ程度(n=59)	62.7	39.0	20.3	16.9	15.3	1.7	13.6
何もしない(n=32)	40.6	43.8	37.5	18.8	9.4	0.0	15.6
出会う機会がない(n=100)	41.0	32.0	27.0	13.0	8.0	4.0	23.0

【3】障がいに対する理解などについて

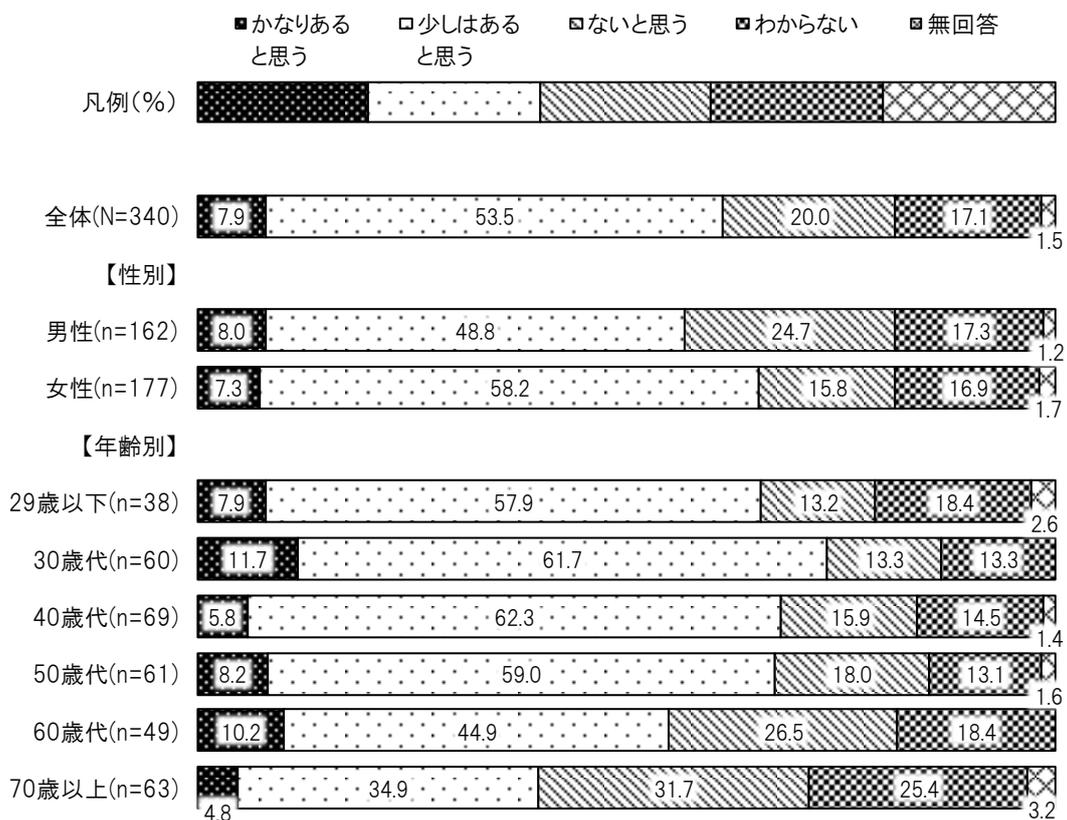
1 障がい者に対する差別や偏見について

問 15 あなたのまわりには、障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。（○は1つだけ）

障がい者に対する差別や偏見については、「かなりあると思う」が7.9%、「少しはあると思う」が53.5%で、合計約6割（61.4%）が『あると思う』と回答している。一方、2割（20.0%）は「ないと思う」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「ないと思う」の割合が高く、女性は「少しはあると思う」の割合が男性を大きく上回っている。

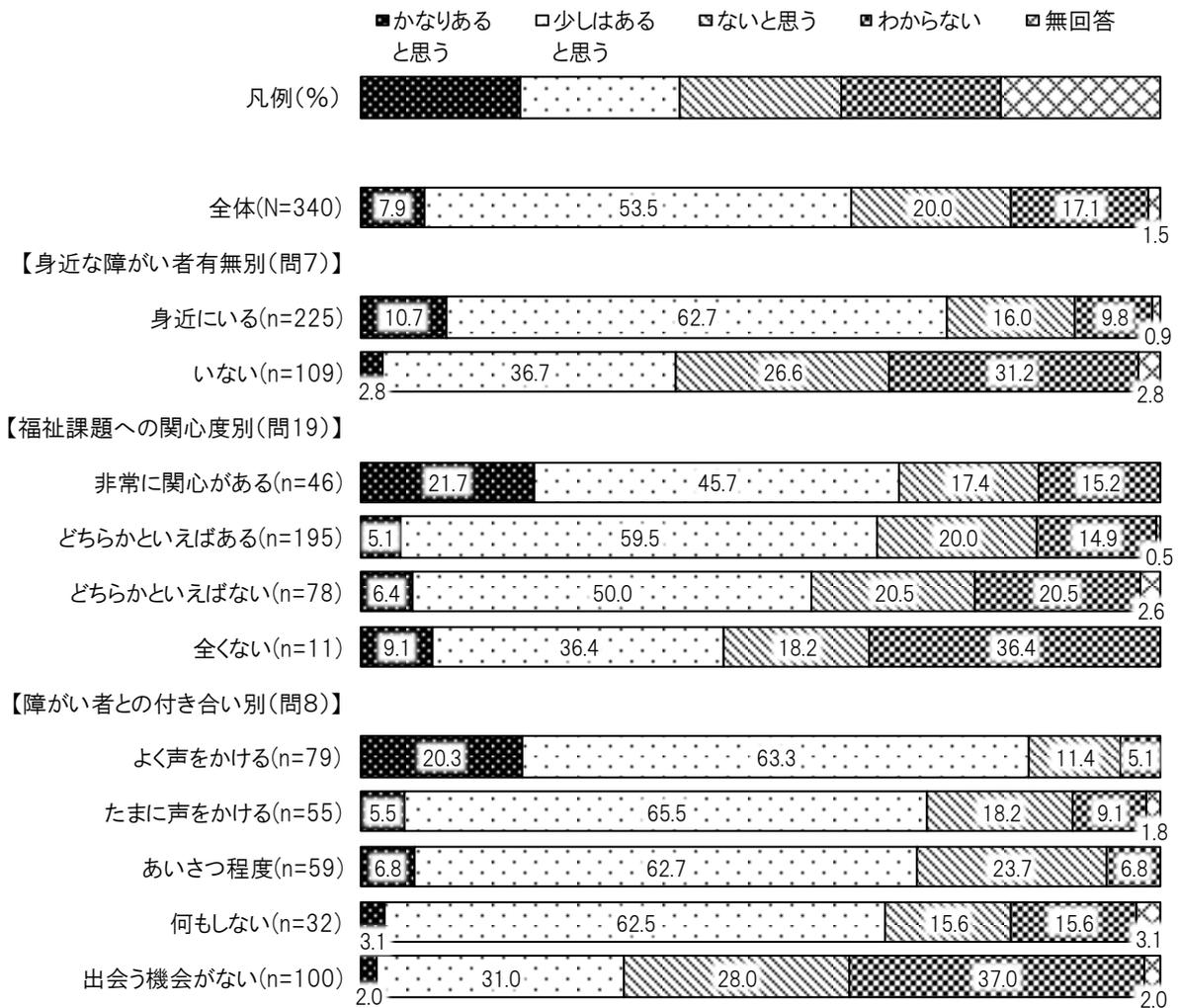
年齢別では、30歳代で『あると思う（合計）』、60歳代以上で「ないと思う」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



身近な障がい者有無別では、身近にいる層で『あると思う（合計）』の割合がいない層を大きく上回っている。

福祉課題への関心度別では、非常に関心がある層で「かなりあると思う」の割合がほかの層を大きく上回っている。

障がい者との付き合い別では、よく声をかける層で「かなりあると思う」、出会う機会がない層で「わからない」の割合がそれぞれほかの層を大きく上回っている。

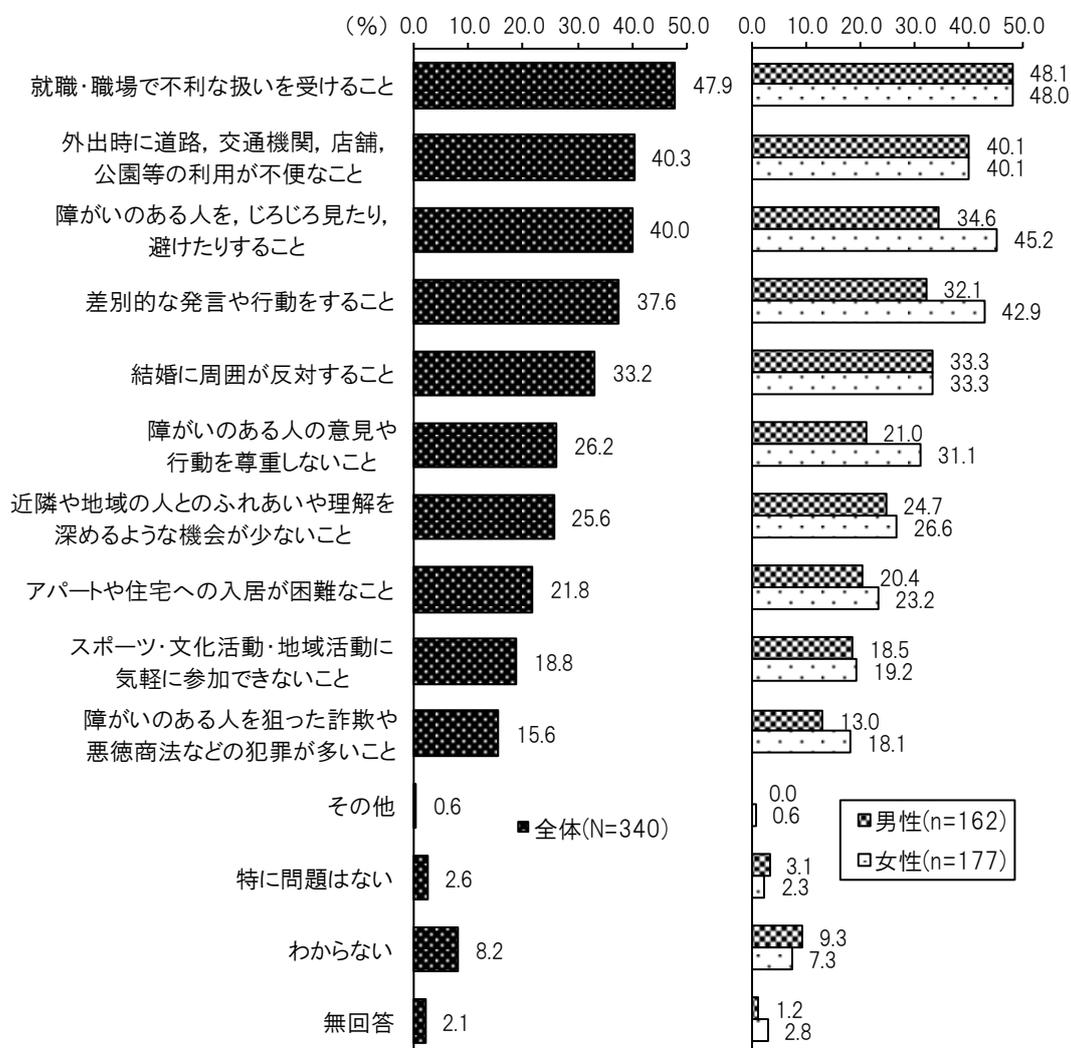


2 障がい者に対して人権上問題があると思うこと

問 16 障がいのある人が地域で生活するとき、特に人権上問題があると思われるのどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者に対して人権上問題があると思うことについては、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が47.9%と最も高く、次いで「外出時に道路、交通機関、店舗、公園等の利用が不便なこと」（40.3%）、「障がいのある人を、じろじろ見たり、避けたりすること」（40.0%）、「差別的な発言や行動をすること」（37.6%）、「結婚に周囲が反対すること」（33.2%）の順となっている。

性別では、女性は「障がいのある人を、じろじろ見たり、避けたりすること」「差別的な発言や行動をすること」「障がいのある人の意見や行動を尊重しないこと」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、30歳代で「就職・職場で不利な扱いを受けること」「障がいのある人を、じろじろ見たり、避けたりすること」、40歳代で「結婚に周囲が反対すること」「アパートや住宅への入居が困難なこと」、60歳代で「スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと」、70歳以上で「わからない」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。また、年齢が上がるほど「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと」の割合が増える傾向にある。

単位 (%)	と就職・職場で不利な扱いを受けること	園外等の利用が不便なこと	り障がいのある人を、じろじろ見たり、避けたりすること	差別的な発言や行動をすること	結婚に周囲が反対すること	障がいのある人の意見や行動を尊重しないこと	近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと	とアパートや住宅への入居が困難なこと	スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと	障がいのある人を狙った詐欺や悪徳商法などの犯罪が多いこと	その他	特に問題はない	わからない
全体(N=340)	47.9	40.3	40.0	37.6	33.2	26.2	25.6	21.8	18.8	15.6	0.6	2.6	8.2
【年齢別】													
29歳以下(n=38)	52.6	39.5	44.7	47.4	23.7	26.3	7.9	13.2	15.8	21.1	0.0	2.6	5.3
30歳代(n=60)	60.0	36.7	51.7	43.3	35.0	30.0	20.0	21.7	20.0	23.3	0.0	1.7	6.7
40歳代(n=69)	50.7	52.2	36.2	44.9	44.9	23.2	26.1	39.1	23.2	21.7	1.4	2.9	2.9
50歳代(n=61)	49.2	47.5	37.7	45.9	36.1	29.5	26.2	24.6	9.8	16.4	0.0	1.6	8.2
60歳代(n=49)	40.8	46.9	40.8	24.5	32.7	30.6	34.7	14.3	30.6	8.2	2.0	2.0	8.2
70歳以上(n=63)	34.9	19.0	31.7	20.6	22.2	19.0	33.3	11.1	14.3	3.2	0.0	4.8	17.5

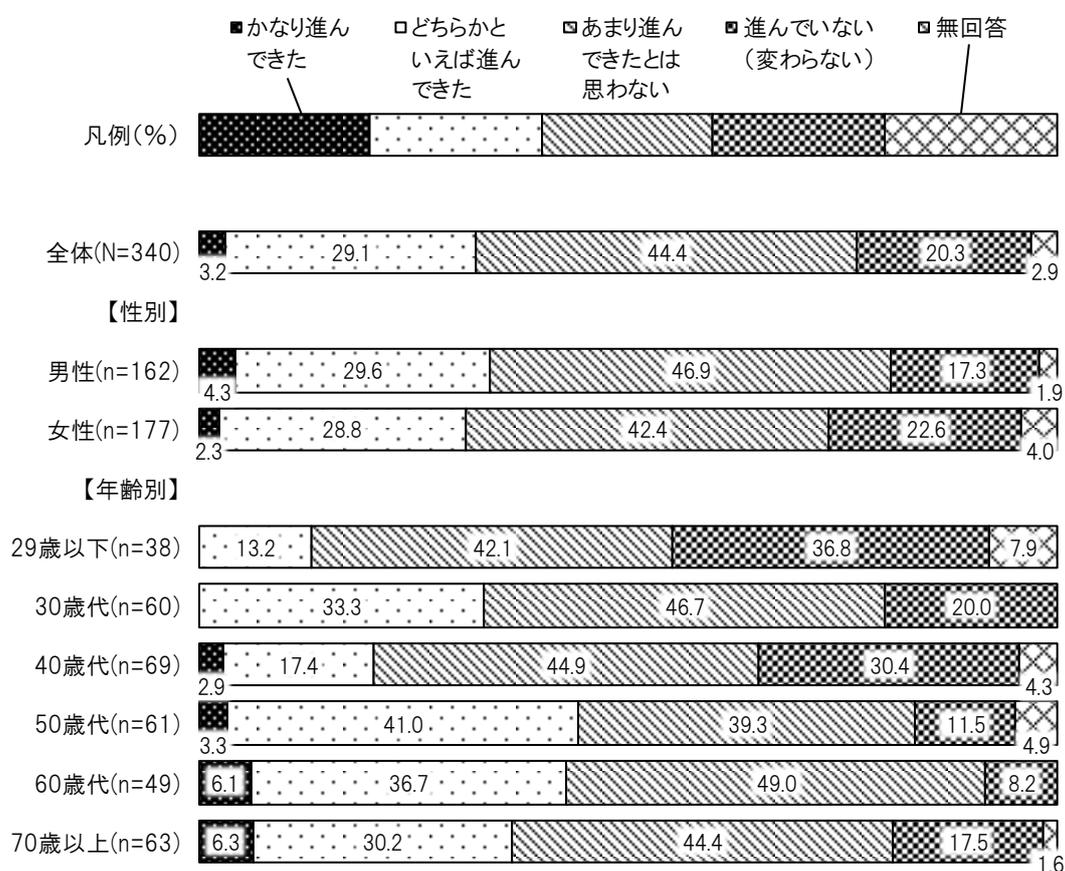
3 障がい者に対する地域の人々の理解度

問 17 あなたは、障がいのある人に対する、地域の人々の理解は進んできたと思いますか。
(○は1つだけ)

障がい者に対する地域の人々の理解度については、「かなり進んできた」が3.2%、「どちらかといえば進んできた」(29.1%)で、合計約3割(32.3%)が『進んできた』と回答している。一方、「あまり進んできたとは思わない」(44.4%)、「進んでいない(変わらない)」(20.3%)は合計で64.7%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「進んでいない(変わらない)」の割合が高くなっている。

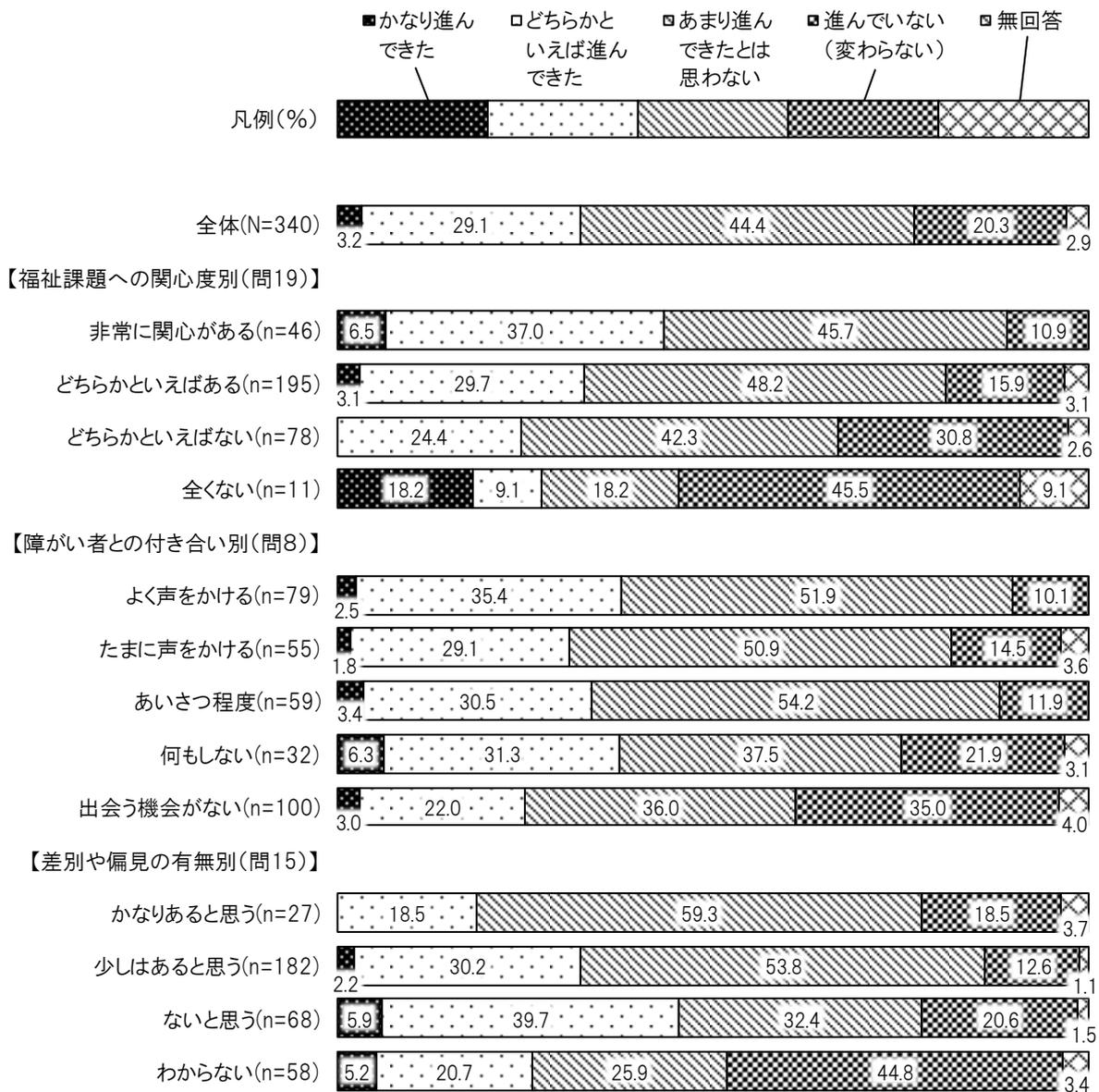
年齢別では、29歳以下や40歳代で「進んでいない(変わらない)」, 50~60歳代で『進んできた(合計)』の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



福祉課題への関心度別では、関心がある層ほど『進んできた（合計）』、関心がない層ほど「進んでいない（変わらない）」の割合がそれぞれ増える傾向にある。

障がい者との付き合い別では、出会う機会がない層で「進んでいない（変わらない）」の割合がほかの層を大きく上回っている。

差別や偏見の有無別でみると、ないと思う層で『進んできた（合計）』の割合が高く、あると思う層ほど「あまり進んできたとは思わない」の割合が増える傾向にある。

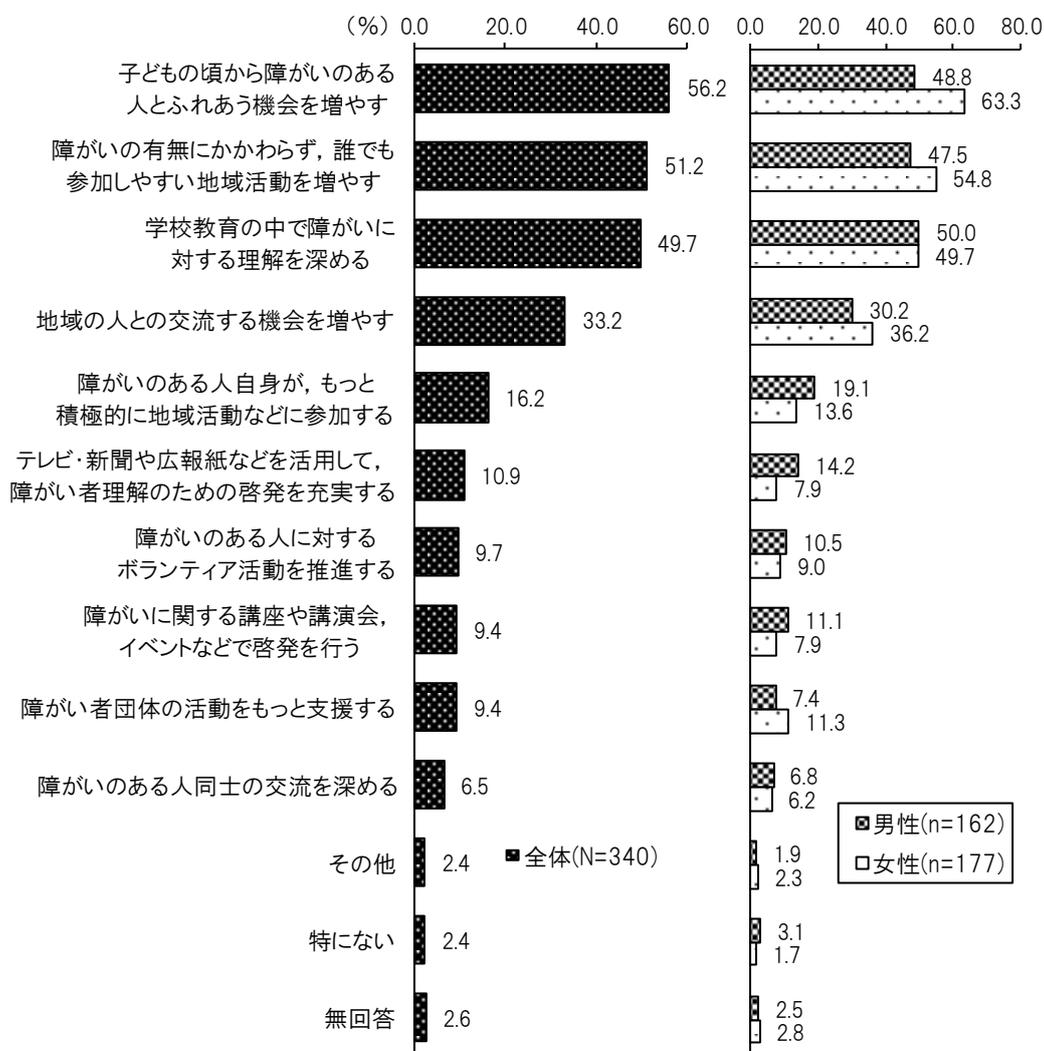


4 障がい者に対する理解を深めるために必要な取組

問 18 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深め、共に地域で支え合って生活していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

障がい者に対する理解を深めるために必要な取組については、「子どもの頃から障がいのある人とふれあう機会を増やす」が56.2%と最も高く、次いで「障がいの有無にかかわらず、誰でも参加しやすい地域活動を増やす」(51.2%)、「学校教育の中で障がいに対する理解を深める」(49.7%)、「地域の人との交流する機会を増やす」(33.2%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「障がいのある人自身が、もっと積極的に地域活動などに参加する」「テレビ・新聞や広報紙などを活用して、障がい者理解のための啓発を充実する」の割合が高く、女性は「子どもの頃から障がいのある人とふれあう機会を増やす」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、29歳以下で「障がいのある人に対するボランティア活動を推進する」、30歳代で「子どもの頃から障がいのある人とふれあう機会を増やす」、60歳代以上で「障がいのある人自身が、もっと積極的に地域活動などに参加する」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	ふれあう機会を増やす	子どもの頃から障がいのある人とふれあう機会を増やす	障がいの有無にかかわらず誰でも参加しやすい地域活動を増やす	学校教育の中で障がいに対する理解を深める	地域の人の交流する機会を増やす	障がいのある人自身が参加する	障がいのある人自身も積極的に地域活動に参加する	テレビ・新聞や広報紙などを活用して、障がい者理解のための啓発を充実する	障がいのある人に対するボランティア活動を推進する	障がいに関する講座や講演会、イベントなどで啓発を行う	障がい者団体の活動をもっと支援する	障がいのある人同士の交流を深める	その他	特になし
全体(N=340)	56.2	51.2	49.7	33.2	16.2	10.9	9.7	9.4	9.4	6.5	2.4	2.4		
【年齢別】														
29歳以下(n=38)	57.9	60.5	47.4	36.8	13.2	5.3	18.4	2.6	15.8	2.6	5.3	2.6		
30歳代(n=60)	75.0	55.0	53.3	26.7	13.3	15.0	3.3	10.0	5.0	5.0	0.0	1.7		
40歳代(n=69)	65.2	46.4	49.3	33.3	10.1	14.5	10.1	7.2	13.0	8.7	2.9	1.4		
50歳代(n=61)	62.3	57.4	42.6	37.7	14.8	8.2	9.8	13.1	14.8	8.2	4.9	1.6		
60歳代(n=49)	51.0	49.0	55.1	26.5	22.4	12.2	8.2	14.3	8.2	2.0	2.0	0.0		
70歳以上(n=63)	25.4	42.9	50.8	38.1	23.8	7.9	11.1	7.9	1.6	9.5	0.0	6.3		

【4】地域での福祉の取組について

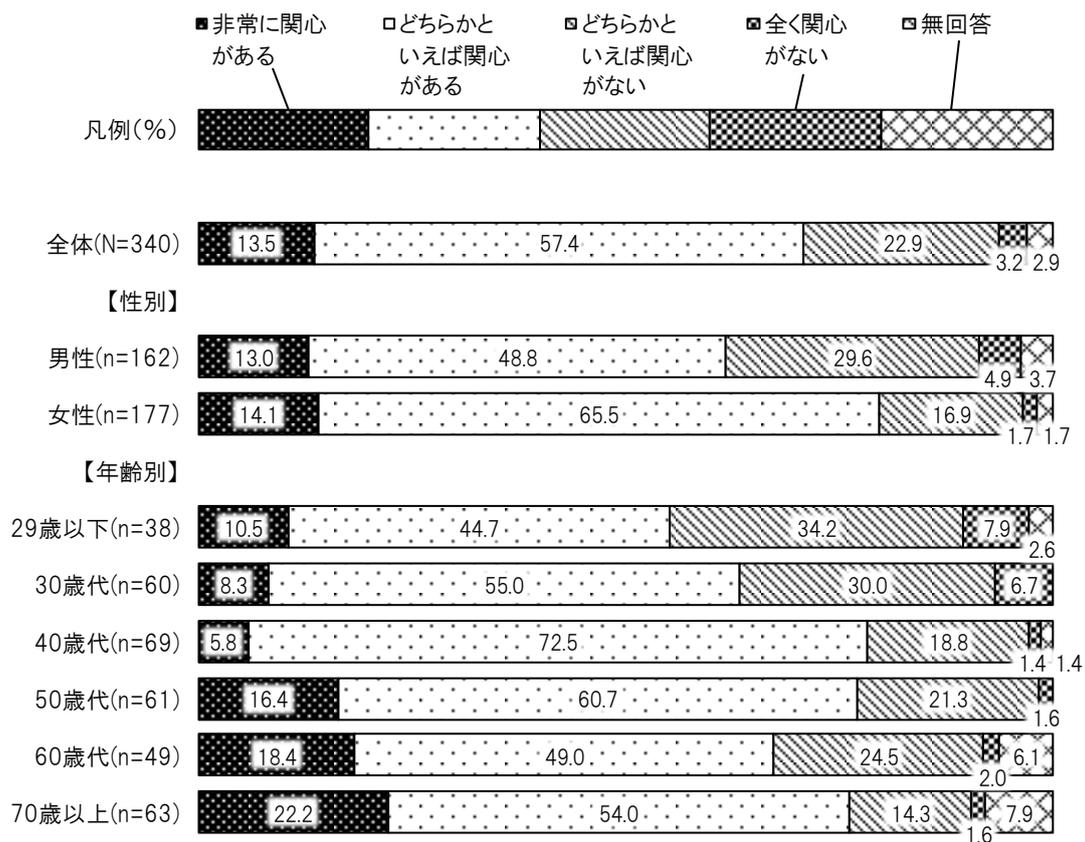
1 地域の福祉課題への関心度

問 19 あなたは、地域の福祉課題（例：障がい者や一人暮らし高齢者などの見守り，生活困窮，子どもの貧困，障がい者や高齢者への虐待，社会的孤立など）に関心がありますか。（○は1つだけ）

地域の福祉課題への関心度については、「非常に関心がある」が13.5%、「どちらかといえば関心がある」が57.4%で、合計約7割（70.9%）が『関心がある』と回答している。一方、「どちらかといえば関心がない」（22.9%）と「全く関心がない」（3.2%）の合計は26.1%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「どちらかといえば関心がない」の割合が高く、女性は「どちらかといえば関心がある」の割合が男性を大きく上回っている。

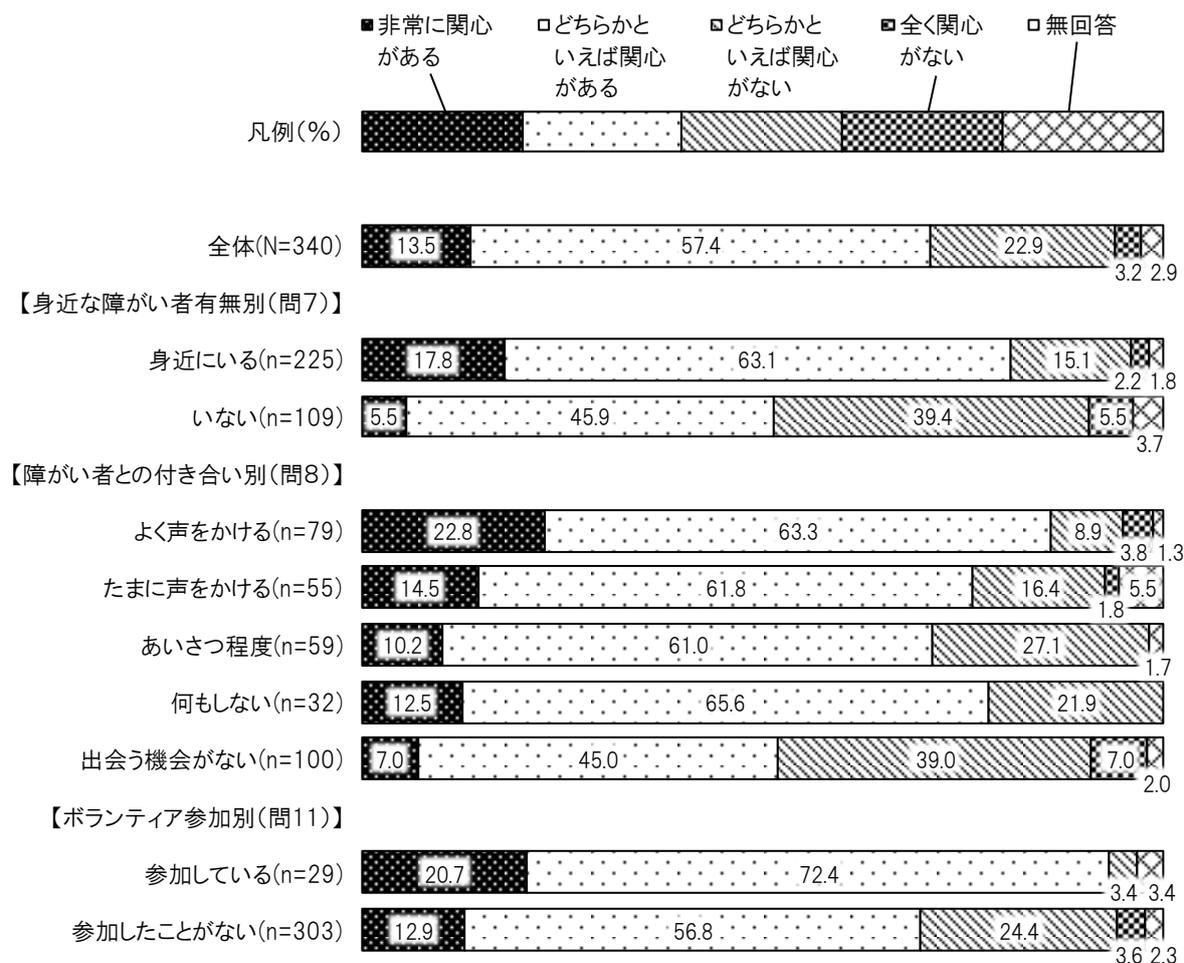
年齢別では、30歳代以下で『関心がない（合計）』、40～50歳代で『関心がある（合計）』の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。



身近な障がい者有無別では、身近にいる層で『関心がある（合計）』の割合がいない層を大きく上回っている。

障がい者との付き合い別では、よく声をかける層で「非常に関心がある」、出会う機会がない層で「どちらかといえば関心がない」の割合がそれぞれほかの層に比べて高くなっている。

ボランティア参加別でみると、参加している層の9割以上が『関心がある（合計）』と回答している。



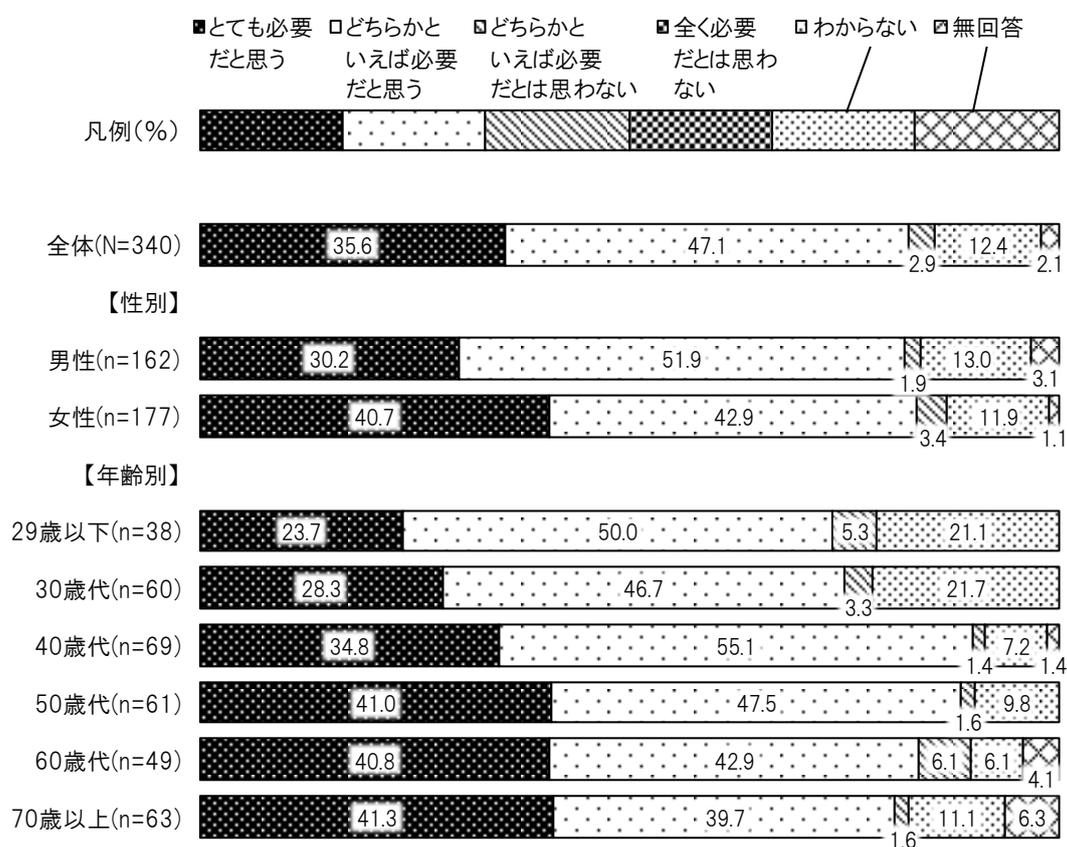
2 地域の福祉課題に対して住民相互の助け合いの必要性

問 20 あなたは、地域の福祉課題に対して、住民相互の自主的な支え合い・助け合いが、どの程度必要だと思いますか。（〇は1つだけ）

地域の福祉課題に対して住民相互の助け合いの必要性については、「とても必要だと思う」が35.6%、「どちらかといえば必要だと思う」が47.1%で、合計約8割（82.7%）が『必要だと思う』と回答している。一方、「どちらかといえば必要だとは思わない」は2.9%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「どちらかといえば必要だと思う」の割合が高く、女性は「とても必要だと思う」の割合が男性を大きく上回っている。

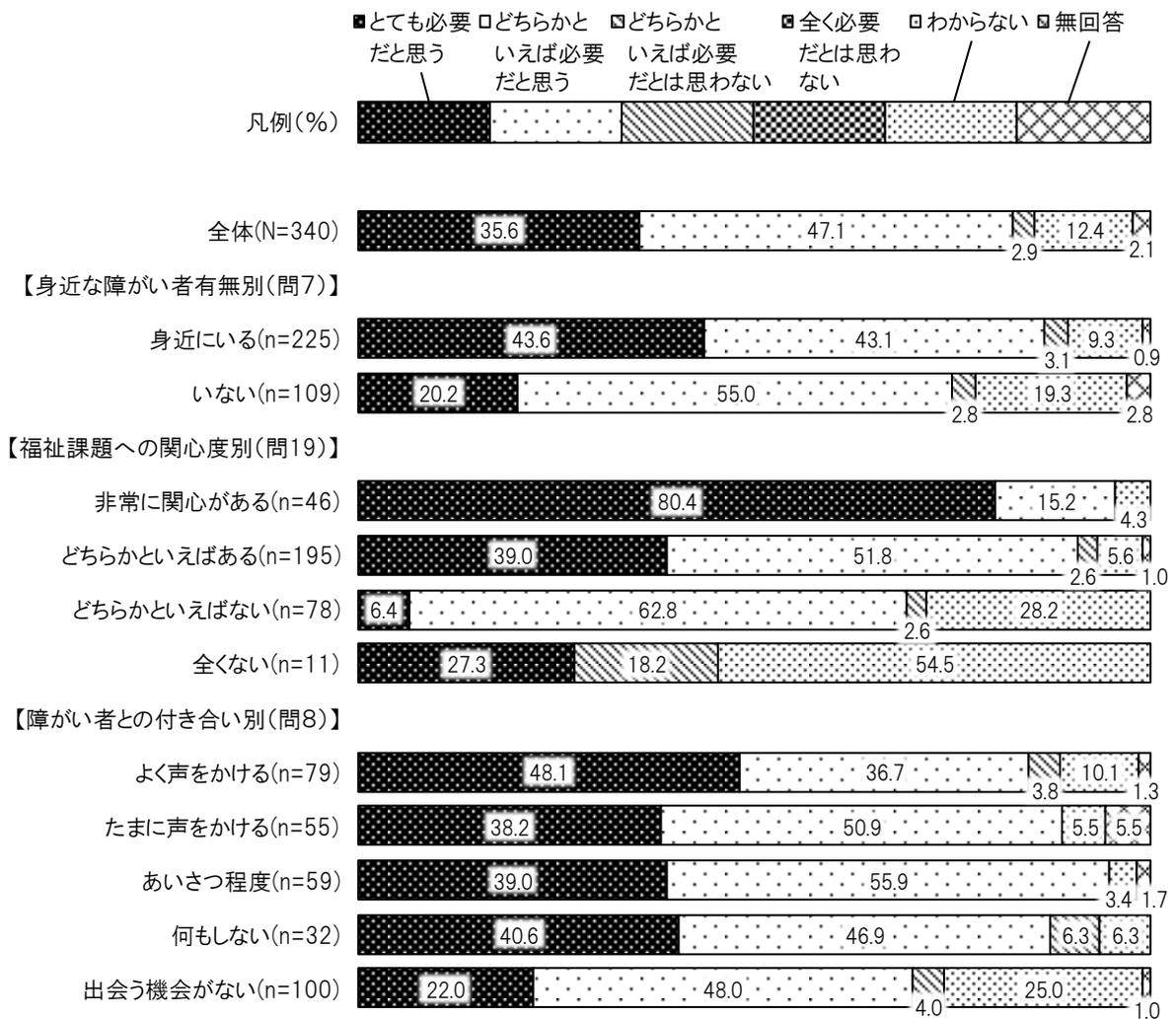
年齢別では、30歳代以下で『必要だと思う（合計）』の割合が低く、「わからない」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。



身近な障がい者有無別では、身近にいる層で「とても必要だと思う」の割合がいない層を大きく上回っている。

福祉課題への関心度別では、非常に関心がある層で「とても必要だと思う」の割合がほかの層を大きく上回っている。

障がい者との付き合い別では、よく声をかける層で「とても必要だと思う」、出会う機会がない層で「わからない」の割合がそれぞれほかの層に比べて高くなっている。

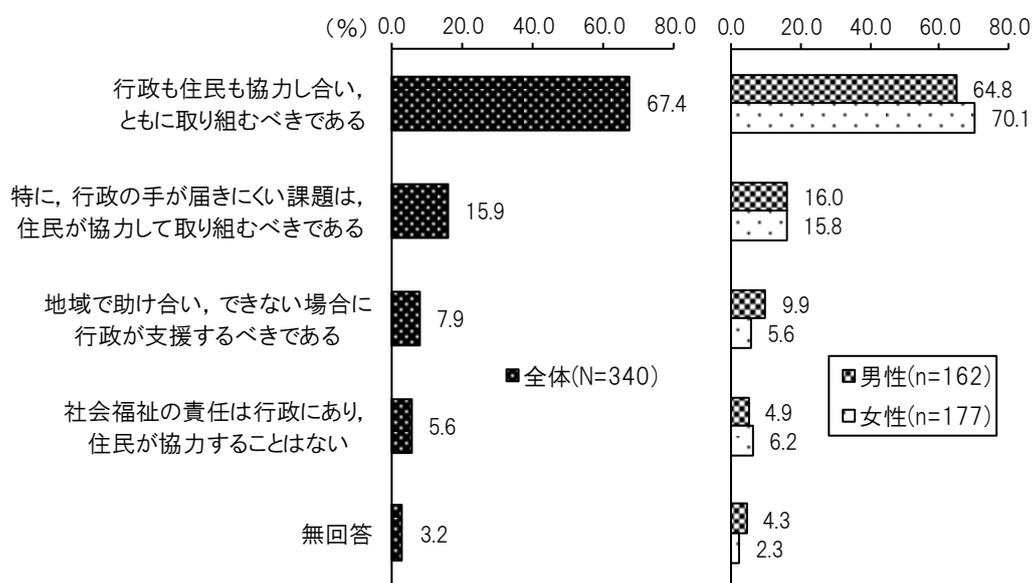


3 行政と地域住民の関係について

問 21 障がいのある人に対する福祉を充実させていく上で、行政と地域住民との関係について、あなたのお考えに最もあてはまるものはどれですか。（○は1つだけ）

行政と地域住民の関係については、「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」の割合が67.4%と突出して最も高く、次いで「特に、行政の手が届きにくい課題は、住民が協力して取り組むべきである」（15.9%）が続いている。

性別では、女性は男性に比べ「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」の割合が高くなっている。



4 障がい者に対する行政の取組について

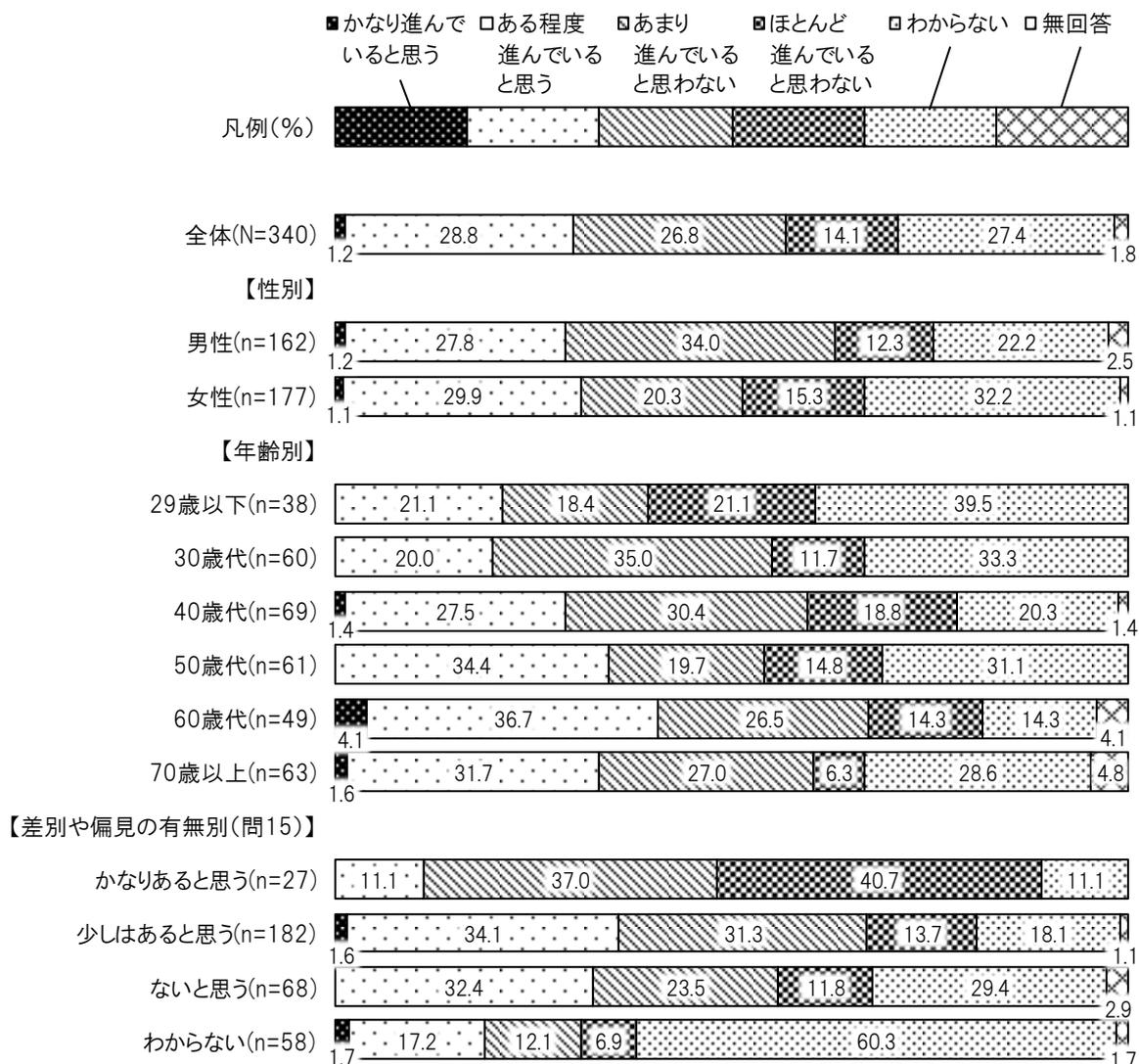
問 22 福祉・教育・雇用・まちづくりなど、障がいのある人に対する行政の取組は進んでいると思いますか。(○は1つだけ)

障がい者に対する行政の取組については、「かなり進んでいると思う」が1.2%、「ある程度進んでいると思う」が28.8%で、合計3割(30.0%)が『進んでいると思う』と回答している。一方、「あまり進んでいると思わない」(26.8%)と「ほとんど進んでいると思わない」(14.1%)の合計は約4割(40.9%)となっている。また、「わからない」は27.4%みられた。

性別では、男性は「あまり進んでいると思わない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「わからない」の割合が高くなっている。

年齢別では、29歳以下で「わからない」、30～40歳代で『進んでいると思わない(合計)』、60歳代で『進んでいると思う(合計)』の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

差別や偏見の有無別でみると、かなりあると思う層で「ほとんど進んでいると思わない」の割合がほかの層を大きく上回っている。

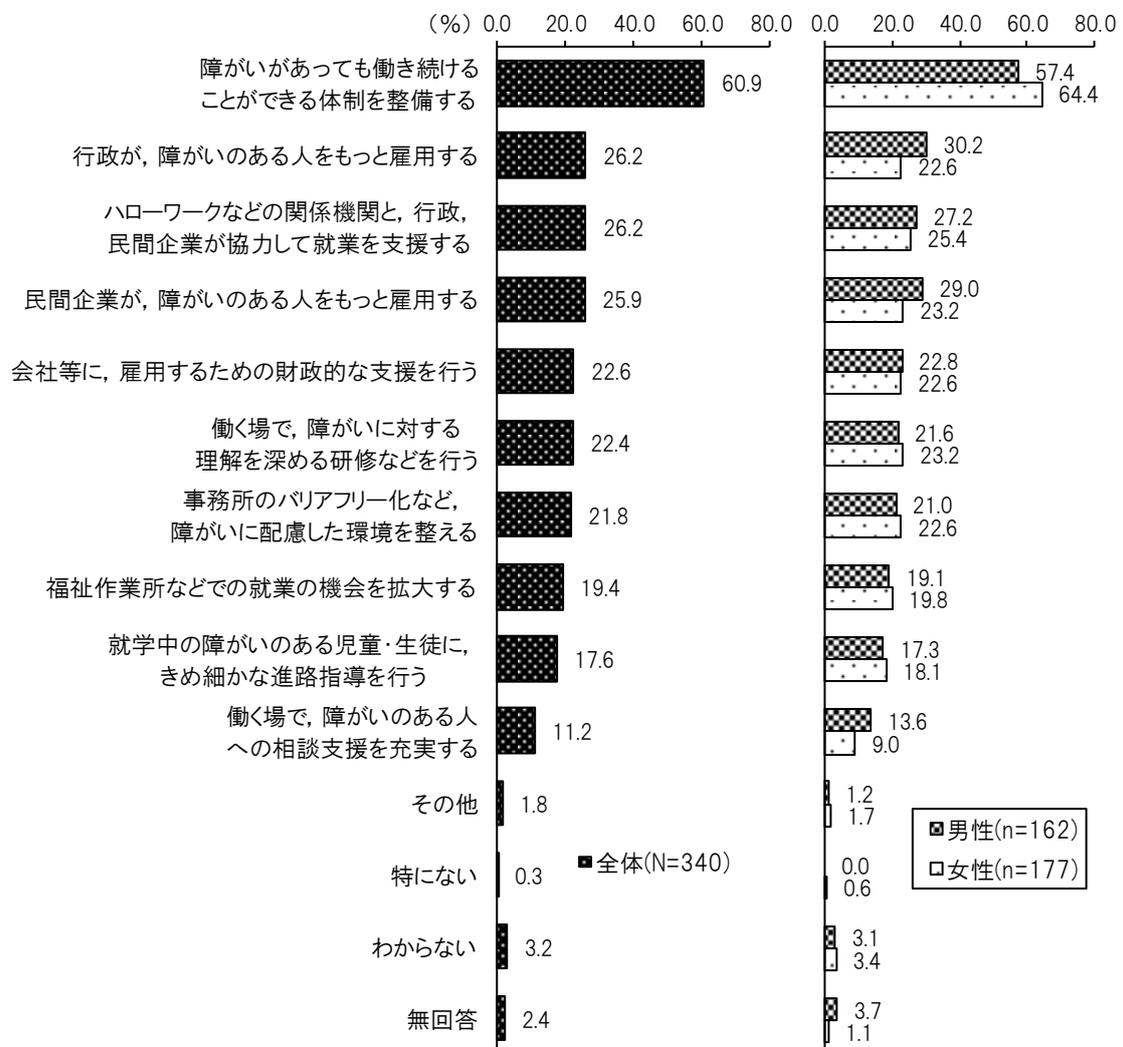


5 障がい者の就労促進のために必要な取組

問 23 障がいのある人が、もっと働けるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

障がい者の就労促進のために必要な取組については、「障がいがあっても働き続けることができる体制を整備する」が60.9%と突出して最も高く、次いで「行政が、障がいのある人をもっと雇用する」「ハローワークなどの関係機関と、行政、民間企業が協力して就業を支援する」（各26.2%）、「民間企業が、障がいのある人をもっと雇用する」（25.9%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「行政が、障がいのある人をもっと雇用する」「民間企業が、障がいのある人をもっと雇用する」などの割合が高く、女性は「障がいがあっても働き続けることができる体制を整備する」の割合が男性を上回っている。



年齢別では、29歳以下で「働く場で、障がいに対する理解を深める研修などを行う」「事務所のバリアフリー化など、障がいに配慮した環境を整える」、50歳代で「民間企業が、障がいのある人をもっと雇用する」、60歳代で「ハローワークなどの関係機関と、行政、民間企業が協力して就業を支援する」などの割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	と障がいでい けるがあ つても 体制を 整備す るこ	と行政が 雇用す る障が いのある 人をも つ	就業、行政 支援、民間 企業が協 力して	ハローワー クなどの 関係機 関	も民間企 業が雇 用する 障が いのある 人	会的な支 援を行 うため の財政	を深く めめる 研、障 がい に 対 する 理 解	障 事 務 所 の バ リ ア フ リ ー 化 な ど	を福 祉 作 業 所 な ど の 就 業 の 機 会	う徒 就 学 中 の 障 が い の 進 路 指 導 を 行 う	相 談 支 援 を 充 実 す る	働 く 場 で 障 が い の あ る 人 へ の	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い
全体(N=340)	60.9	26.2	26.2	25.9	22.6	22.4	21.8	19.4	17.6	11.2	1.8	0.3	3.2		
【年齢別】															
29歳以下(n=38)	57.9	26.3	21.1	26.3	28.9	34.2	31.6	15.8	10.5	7.9	2.6	0.0	2.6		
30歳代(n=60)	63.3	28.3	26.7	26.7	26.7	18.3	26.7	16.7	18.3	11.7	0.0	0.0	5.0		
40歳代(n=69)	60.9	27.5	21.7	29.0	23.2	15.9	23.2	17.4	24.6	11.6	2.9	0.0	1.4		
50歳代(n=61)	67.2	21.3	29.5	34.4	23.0	24.6	14.8	19.7	8.2	8.2	3.3	0.0	4.9		
60歳代(n=49)	57.1	28.6	42.9	18.4	20.4	18.4	26.5	24.5	10.2	10.2	2.0	0.0	0.0		
70歳以上(n=63)	57.1	25.4	17.5	19.0	15.9	27.0	12.7	22.2	28.6	15.9	0.0	1.6	4.8		

6 障がい者にとって福山市での暮らしやすさ

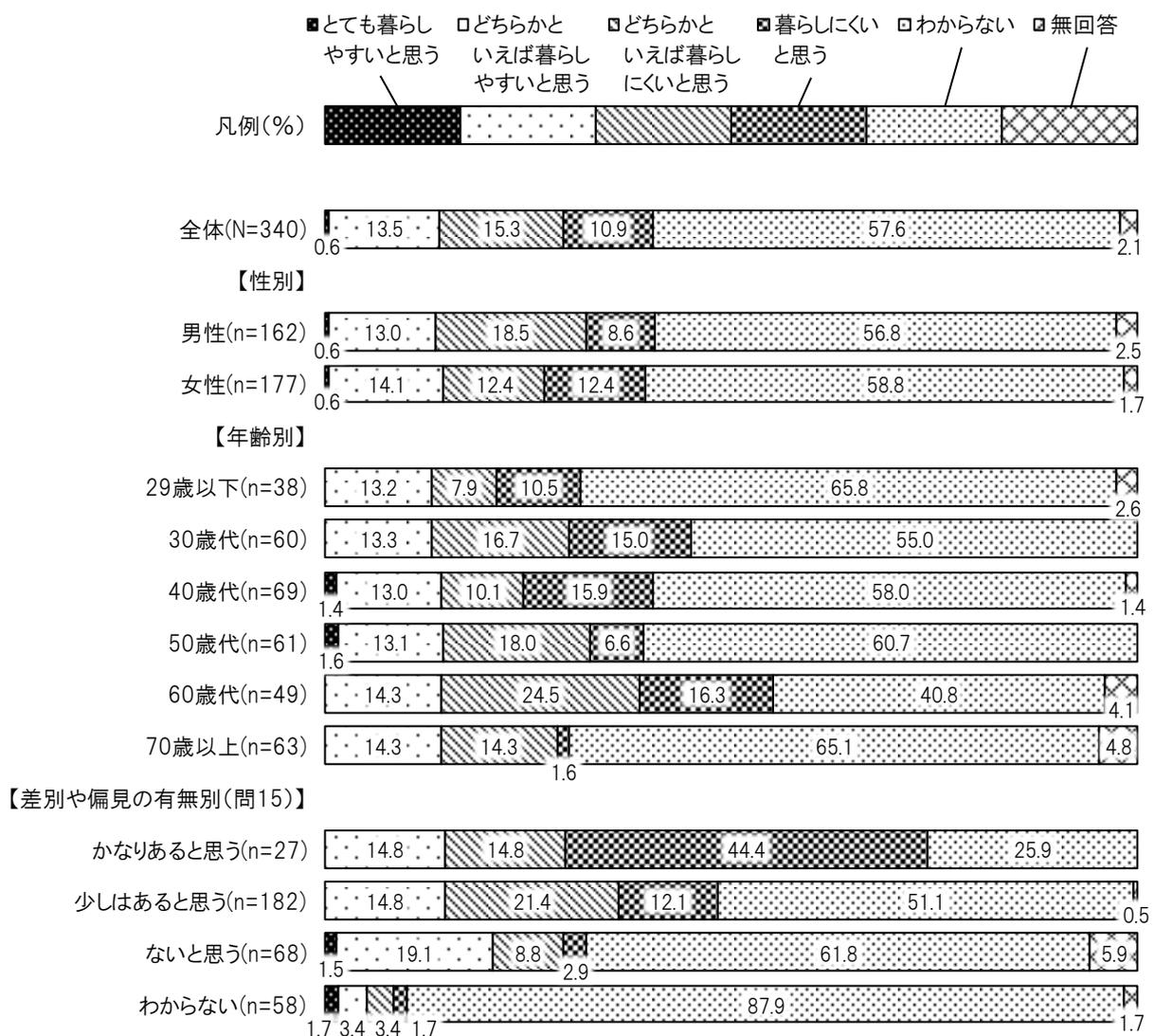
問 24 福山市は、障がいのある人にとって暮らしやすいと思いますか。(○は1つだけ)

障がい者にとって福山市での暮らしやすさについては、「とても暮らしやすいと思う」が0.6%、「どちらかといえば暮らしやすいと思う」が13.5%で、合計14.1%が『暮らしやすいと思う』と回答している。一方、「どちらかといえば暮らしにくいと思う」(15.3%)、「暮らしにくいと思う」(10.9%)の合計は26.2%となっている。また、「わからない」は57.6%みられた。

性別では、男性は女性に比べ「どちらかといえば暮らしにくいと思う」の割合が高くなっている。

年齢別では、60歳代で「どちらかといえば暮らしにくいと思う」の割合がほかの年齢層に比べて高くなっている。

差別や偏見の有無別でみると、かなりあると思う層で「暮らしにくいと思う」の割合がほかの層を大きく上回っている。



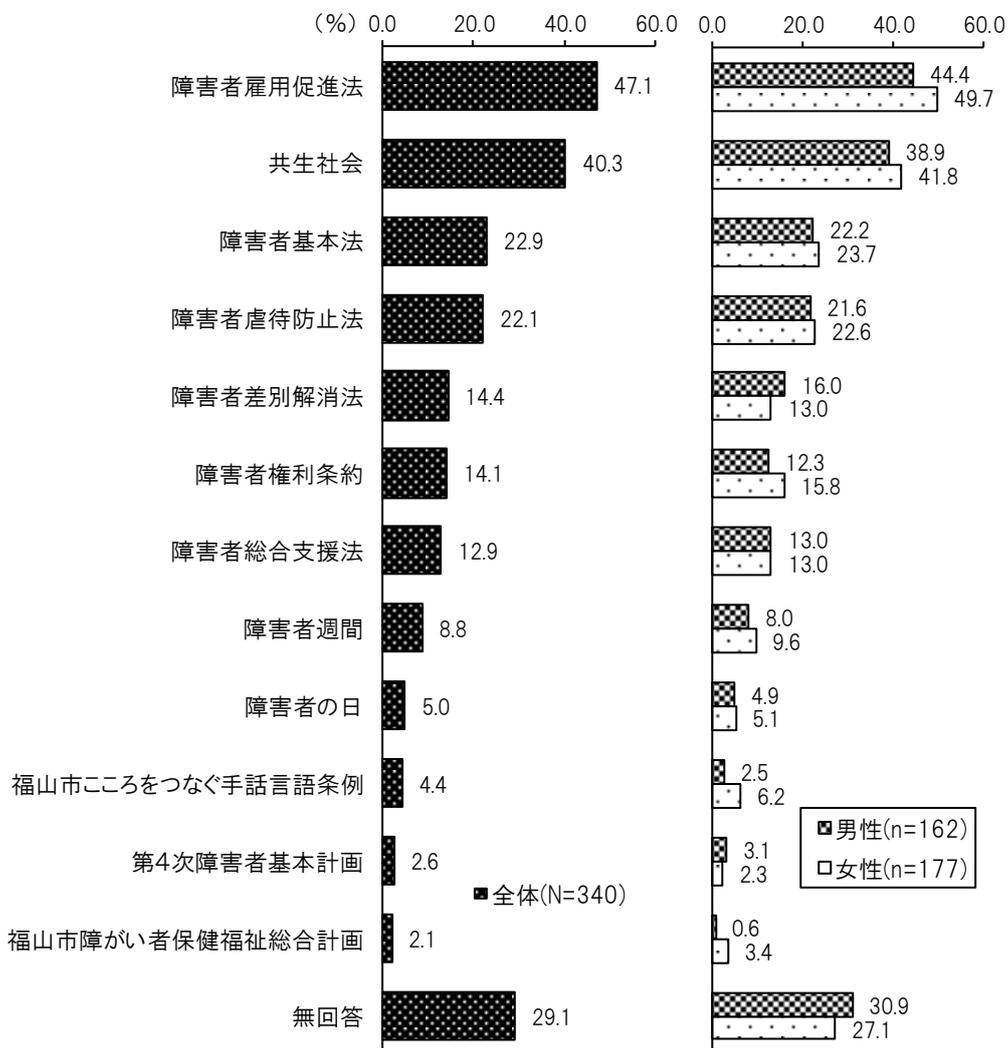
【5】行政の取組などについて

1 障がい者に関することへの認知状況

問 25 次にあげる、障がい者に関することをご存じのもの（見聞きしたことがあるもの）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者に関することへの認知状況については、「障害者雇用促進法」が47.1%と最も高く、次いで「共生社会」(40.3%)、「障害者基本法」(22.9%)、「障害者虐待防止法」(22.1%)、「障害者差別解消法」(14.4%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「障害者雇用促進法」の割合が高くなっている。



年齢別では、29歳以下で「障害者総合支援法」「第4次障害者基本計画」、30歳代で「障害者基本法」、29歳以下や50歳代で「障害者雇用促進法」、29歳以下や60歳代で「共生社会」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

身近な障がい者有無別では身近にいる層で、福祉課題への関心度別では非常に関心がある層で、ほとんど全ての項目に関して認知率が高くなっている。

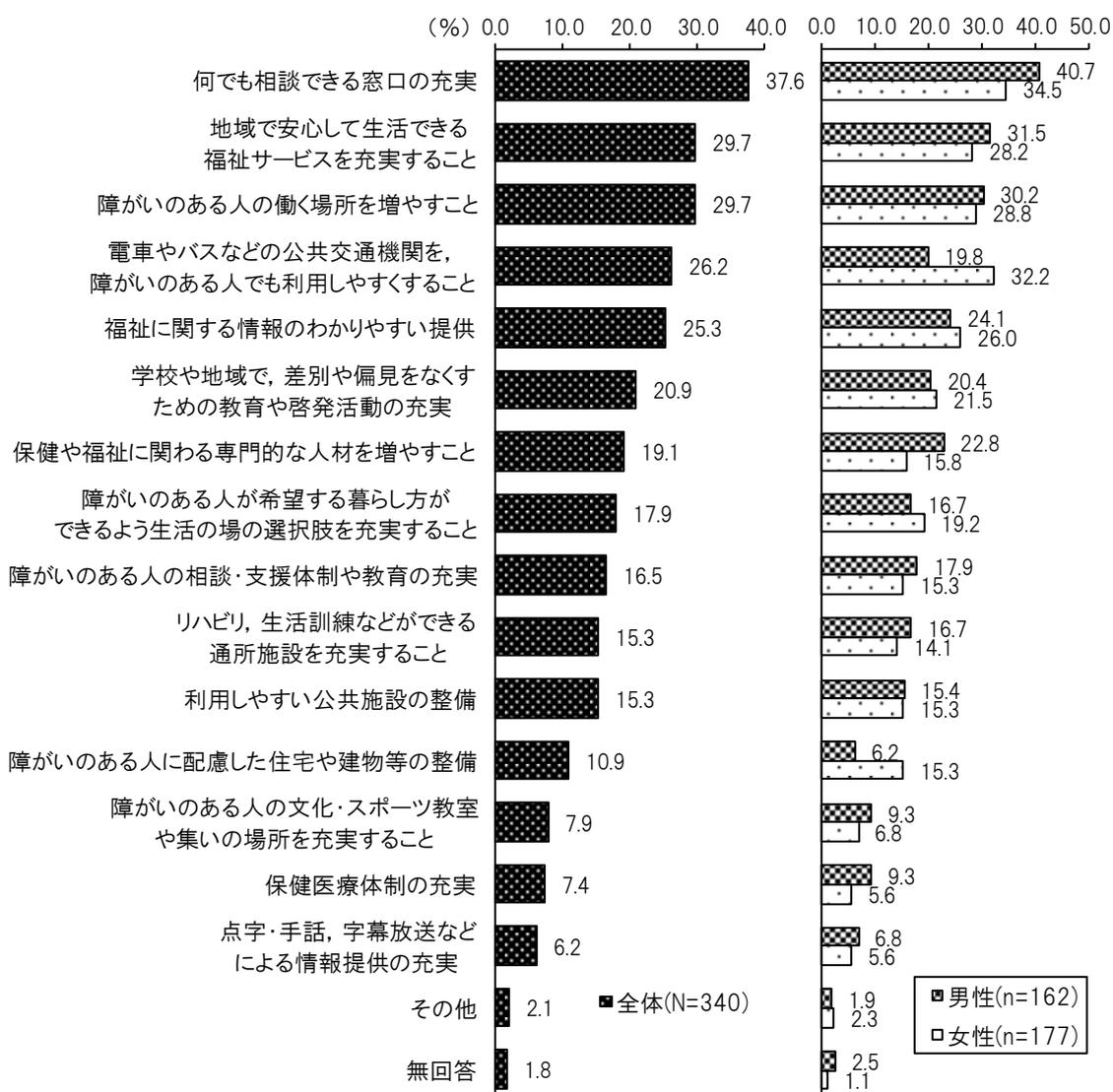
単位 (%)	障害者雇用促進法	共生社会	障害者基本法	障害者虐待防止法	障害者差別解消法	障害者権利条約	障害者総合支援法	障害者週間	障害者の日	話言語条例	福山市こころをつなぐ手	第4次障害者基本計画	総計 福山市障がい者保健福祉
全体(N=340)	47.1	40.3	22.9	22.1	14.4	14.1	12.9	8.8	5.0	4.4	2.6	2.1	
【年齢別】													
29歳以下(n=38)	55.3	47.4	26.3	28.9	18.4	21.1	28.9	10.5	5.3	7.9	10.5	2.6	
30歳代(n=60)	36.7	41.7	33.3	15.0	20.0	21.7	13.3	16.7	10.0	1.7	3.3	3.3	
40歳代(n=69)	44.9	30.4	18.8	21.7	10.1	11.6	10.1	2.9	2.9	4.3	0.0	2.9	
50歳代(n=61)	55.7	41.0	21.3	23.0	16.4	6.6	8.2	8.2	6.6	6.6	3.3	1.6	
60歳代(n=49)	49.0	51.0	24.5	24.5	8.2	18.4	10.2	12.2	4.1	2.0	0.0	2.0	
70歳以上(n=63)	44.4	36.5	15.9	22.2	14.3	9.5	12.7	4.8	1.6	4.8	1.6	0.0	
【身近な障がい者有無別(問7)】													
身近にいる(n=225)	54.2	41.8	28.0	26.7	18.7	18.2	15.1	10.2	7.1	6.2	2.2	3.1	
いない(n=109)	33.9	38.5	12.8	12.8	6.4	6.4	9.2	5.5	0.9	0.9	3.7	0.0	
【福祉課題への関心度別(問19)】													
非常に関心がある(n=46)	58.7	63.0	34.8	34.8	19.6	17.4	15.2	15.2	10.9	10.9	2.2	2.2	
どちらかといえばある(n=195)	48.2	37.9	25.1	23.6	14.9	15.9	13.8	9.2	6.2	3.6	2.6	2.1	
どちらかといえない(n=78)	41.0	39.7	14.1	14.1	12.8	7.7	10.3	3.8	0.0	3.8	2.6	2.6	
全くない(n=11)	36.4	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	

2 障がい者のために行政が力を入れるべきこと

問 26 あなたは、障がいのある人にとって暮らしやすいまちづくりのために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（主なもの3つまでに○）

障がい者のために行政が力を入れるべきことについては、「何でも相談できる窓口の充実」が37.6%と最も高く、次いで「地域で安心して生活できる福祉サービスを充実すること」「障がいのある人の働く場所を増やすこと」（各29.7%）、「電車やバスなどの公共交通機関を、障がいのある人でも利用しやすくすること」（26.2%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「何でも相談できる窓口の充実」「保健や福祉に関わる専門的な人材を増やすこと」などの割合が高く、女性は「電車やバスなどの公共交通機関を、障がいのある人でも利用しやすくすること」「障がいのある人に配慮した住宅や建物等の整備」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、29歳以下で「学校や地域で、差別や偏見をなくすための教育や啓発活動の充実」「保健や福祉に関わる専門的な人材を増やすこと」、30歳代で「障がいのある人の働く場所を増やすこと」、30～40歳代で「利用しやすい公共施設の整備」、60歳代で「福祉に関する情報のわかりやすい提供」「障がいのある人の相談・支援体制や教育の充実」、60歳代以上で「何でも相談できる窓口の充実」、70歳以上で「地域で安心して生活できる福祉サービスを充実すること」の割合がそれぞれほかの年齢層に比べて高くなっている。

単位(%)	何でも相談できる窓口の充実	地域で安心して生活できる福祉サービス	障がいのある人の働く場所を増やすこと	障がいのある人も利用しやすくすること	電車やバスなどの公共交通機関を、障がいのある人も利用しやすくすること	福祉に関する情報のわかりやすい提供	学校や地域で、差別や偏見をなくすための教育や啓発活動の充実	増やすこと	保健や福祉に関わる専門的な人材を増やすこと	実務ができるよう生活の希望する暮らし方を支援すること	障がいのある人の相談・支援体制や教育の充実	障がいのある人の相談・支援体制や教育の充実	リハビリ、生活訓練などができる通所施設を充実すること	利用しやすい公共施設の整備	障がいのある人に配慮した住宅や建物等の整備	障がいのある人の文化・スポーツ教室や集いの場を充実すること	障がいのある人の文化・スポーツ教室や集いの場を充実すること	保健医療体制の充実	点字・手話、字幕放送などによる情報提供の充実
全体(N=340)	37.6	29.7	29.7	26.2	25.3	20.9	19.1	17.9	16.5	15.3	15.3	10.9	7.9	7.4	6.2				
【年齢別】																			
29歳以下(n=38)	23.7	28.9	23.7	26.3	10.5	28.9	34.2	21.1	21.1	18.4	13.2	7.9	7.9	5.3	7.9				
30歳代(n=60)	31.7	20.0	41.7	25.0	21.7	23.3	21.7	18.3	8.3	6.7	23.3	13.3	10.0	8.3	8.3				
40歳代(n=69)	39.1	29.0	23.2	30.4	24.6	20.3	17.4	15.9	15.9	8.7	23.2	14.5	8.7	4.3	7.2				
50歳代(n=61)	37.7	29.5	29.5	27.9	29.5	18.0	16.4	19.7	18.0	16.4	9.8	8.2	6.6	6.6	1.6				
60歳代(n=49)	44.9	32.7	22.4	28.6	34.7	18.4	22.4	20.4	26.5	24.5	10.2	10.2	6.1	12.2	8.2				
70歳以上(n=63)	44.4	38.1	34.9	19.0	27.0	19.0	9.5	14.3	12.7	20.6	9.5	9.5	7.9	7.9	4.8				

注:「その他」は表記から省略している。

IV-3 資料 調査票

福山市 福祉に関するアンケート調査

～ご協力をお願い～

日頃より、福山市の福祉行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

現在、福山市では、障がい福祉施策をより一層進めていくために、「福山市障がい者保健福祉総合計画及び福山市障がい福祉計画」の策定に取り組んでいます。

この調査は、計画を策定するにあたり、市民の方を対象に、日常生活における障がいのある人とのつながりの様子や、今後の福祉のあり方などに対するご意見をお伺いし、計画の基礎資料とするものです。

このアンケート調査票は、住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上（11月1日現在）の方にお送りし、回答をお願いしています。

この調査は無記名でお答えいただき、回答結果は本調査の目的のみに使用しますので、答えられた方が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。調査の目的をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

2019年（令和元年）12月

福 山 市

ご記入に当たってのお願い

- 1 封筒の宛名のご本人がお答えください。病気や身体が不自由などの理由で、記入が難しい場合は、家族や介護者の方などが、本人の意向を尊重して代筆してください。また、ご不明な点は、以下の「調査に関する問合せ先」までお問い合わせください。
- 2 この調査票に直接お書きください。

【調査に関する問合せ先】

福山市保健福祉局福祉部障がい福祉課
〒720-8501 福山市東桜町3番5号
電話（084）928-1062 ファクス（084）928-1730

この調査票は、**2020年（令和2年）1月6日（月曜日）**までに、同封の返信用封筒に入れて、名前を書かずに返送してください（切手は必要ありません）。

※この調査票では「障害」の表記については、法律名等固有名詞以外は「障がい」と表記していますので、正式名称と一部異なります。

1 あなたご自身（宛名のご本人）のことについておたずねします

問1 あなたの性別をお答えください。（○は1つだけ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 あなたの年齢をお答えください。（○は1つだけ）

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1 18～24 歳 | 4 35～39 歳 | 7 50～54 歳 | 10 65～69 歳 |
| 2 25～29 歳 | 5 40～44 歳 | 8 55～59 歳 | 11 70 歳以上 |
| 3 30～34 歳 | 6 45～49 歳 | 9 60～64 歳 | |

問3 あなたの職業をお答えください。（○は1つだけ）

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1 会社員・団体職員 | 4 農林漁業 | 7 学生 |
| 2 公務員・教員 | 5 パート・アルバイト | 8 無職 |
| 3 自営業 | 6 家事専業 | 9 その他（ ） |

2 地域との関わりについておたずねします

問4 あなたは、近所の人や地域の人とのつきあいはどの程度ですか。（○は1つだけ）

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 とても親しくつきあっている人がいる | 4 あいさつをする程度の人がある |
| 2 親しくつきあっている人がいる | 5 ほとんどつきあいがいい |
| 3 世間話をする程度の人がある | |

問5 あなたはふだん、地域の行事や町内活動などに参加していますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| 1 自治会（町内会）の活動 | 10 子育てを支援する活動 ^{注1} |
| 2 お祭り・盆踊りなど | 11 障がい者を支援する活動 ^{注2} |
| 3 女性会の活動 | 12 高齢者を支援する活動 ^{注3} |
| 4 老人クラブ・老人会の活動 | 13 環境美化などのまちづくり活動 |
| 5 子ども会・育成会やPTAの活動 | 14 子どもや青少年の育成活動 |
| 6 防犯や防災、交通安全の活動 | 15 神社・仏閣等の宗教行事 |
| 7 文化・スポーツ活動 | 16 その他（ ） |
| 8 趣味や娯楽のサークル活動 | 17 参加していない |
| 9 生涯学習活動 | |

注1【子育て支援活動】短時間の子どもの預かりや子育てサークルなどの活動

注2【障害者支援活動】身体介助や外出の付き添い、手話通訳などの活動

注3【高齢者支援活動】外出の付き添いや食事の準備、簡単な家事など

問6 介護や介助など、何らかの支援を必要としている方を見かけたとき、あなたはどのような対応が望ましいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 声をかけたり、手助けしたりする
- 2 声はかけないが、関心を持って見守る
- 3 市の窓口や民生委員等に連絡する
- 4 その場の状況に応じて対応を考える
- 5 特に何もしない

3 障がいがある人とのふれあいなどについておたずねします

問7 あなたの身近に障がいのある人がいますか、または、これまでいたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 家族など身近な親族 | 5 趣味等の活動の場所 |
| 2 学校 | 6 その他() |
| 3 自分の職場 | 7 身近に障がいのある人はいない |
| 4 近所 | |

問8 日頃、障がいのある人に声をかけたり、話をしたりする機会がありますか(ありましたか)。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 よく声をかけたり話をしたりする | 4 出会っても声をかけるようなことはない |
| 2 たまに声をかけたり話をしたりする | 5 その他() |
| 3 あいさつ程度ならしている | 6 出会う機会がない |

問9 あなたは、障がいのある人やその家族に、手助けをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 席をゆずったことがある
- 2 横断歩道や階段で手助けをしたことがある
- 3 車椅子を押すのを手伝ったことがある
- 4 相談相手や話し相手になったことがある
- 5 手話や筆談などを使って話したことがある
- 6 視覚障がいがある人の手引きや案内をしたことがある
- 7 外出時に付き添いをしたことがある
- 8 家事や買物などの手伝いをしたことがある
- 9 食事や掃除など身のまわりの世話をしたことがある
- 10 その他()
- 11 手助けしたことはない

問 10 あなたは、障がいのある人やその家族に、どのような手助けができますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 日頃の安否確認の声かけ・見守り
- 2 災害時における避難等の手助け
- 3 話し相手・相談相手
- 4 短時間の介護・介助や見守り
- 5 通院や買物など外出の手伝い
- 6 ごみ出しや掃除・電球の取替えなど軽度な手伝い
- 7 食事の準備や後片づけ
- 8 手話などのコミュニケーションの支援
- 9 その他 ()
- 10 特になし

問 11 あなたは、障がいのある人に対するボランティア活動に参加していますか。(○は1つだけ)

- 1 よく参加している
- 2 時々参加している
- 3 参加したことがない

問 12 あなたは、今後、障がいのある人に対するボランティア活動に参加してみたいと思いますか。

(○は1つだけ)

- 1 積極的に参加したい
- 2 機会があれば参加したい
- 3 参加したいと思うができない
- 4 参加したいと思わない

問 13 今後、障がいのある人と一緒に、スポーツやものづくり、趣味の集いなどのイベントなどを通じて「ふれあう機会」があれば、参加してみたいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 積極的に参加したい
- 2 機会があれば参加したい
- 3 参加したいと思うができない
- 4 参加したいと思わない

問 14 障がいのある人の閉じこもりを防ぎ、地域の人とふれあうために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 障がいのある人が一緒に活動する仲間をつくること
- 2 障がい者団体の活動を活発にしていくこと
- 3 障がいの有無にかかわらず、誰もが集える場所をつくること
- 4 活動の指導者を育成すること
- 5 地域の人々の障がいに対する偏見をなくし理解を得ること
- 6 その他 ()
- 7 わからない

4 障がいに対する理解などについておたずねします

問 15 あなたのまわりには、障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|------------|---------|
| 1 かなりあると思う | 3 ないと思う |
| 2 少しはあると思う | 4 わからない |

問 16 障がいのある人が地域で生活するとき、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1 就職・職場で不利な扱いを受けること |
| 2 結婚に周囲が反対すること |
| 3 障がいのある人を、じろじろ見たり、避けたりすること |
| 4 差別的な発言や行動をすること |
| 5 障がいのある人の意見や行動を尊重しないこと |
| 6 近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと |
| 7 外出時に道路、交通機関、店舗、公園等の利用が不便なこと |
| 8 アパートや住宅への入居が困難なこと |
| 9 障がいのある人を狙った詐欺や悪徳商法などの犯罪が多いこと |
| 10 スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと |
| 11 その他（ ） |
| 12 特に問題はない |
| 13 わからない |

問 17 あなたは、障がいのある人に対する、地域の人々の理解は進んできたと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 かなり進んできた | 3 あまり進んできたとは思わない |
| 2 どちらかといえば進んできた | 4 進んでいない（変わらない） |

問 18 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深め、共に地域で支え合って生活していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

- 1 子どもの頃から障がいのある人とふれあう機会を増やす
- 2 学校教育の中で障がいに対する理解を深める
- 3 テレビ・新聞や広報紙などを活用して、障がい者理解のための啓発を充実する
- 4 地域の人との交流する機会を増やす
- 5 障がいに関する講座や講演会、イベントなどで啓発を行う
- 6 障がいのある人に対するボランティア活動を推進する
- 7 障がいのある人自身が、もっと積極的に地域活動などに参加する
- 8 障がいのある人同士の交流を深める
- 9 障がいの有無にかかわらず、誰でも参加しやすい地域活動を増やす
- 10 障がい者団体の活動をもっと支援する
- 11 その他（ ）
- 12 特にない

5 地域での福祉の取組についておたずねします

問 19 あなたは、地域の福祉課題（例：障がい者や一人暮らし高齢者などの見守り、生活困窮、子どもの貧困、障がい者や高齢者への虐待、社会的孤立など）に関心がありますか。（○は1つだけ）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 非常に関心がある | 3 どちらかといえば関心がない |
| 2 どちらかといえば関心がある | 4 全く関心がない |

問 20 あなたは、地域の福祉課題に対して、住民相互の自主的な支え合い・助け合いが、どの程度必要だと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 とても必要だと思う | 4 全く必要だとは思わない |
| 2 どちらかといえば必要だと思う | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば必要だとは思わない | |

問 21 障がいのある人に対する福祉を充実させていく上で、行政と地域住民との関係について、あなたのお考えに最もあてはまるものはどれですか。（○は1つだけ）

- 1 社会福祉の責任は行政にあり、住民が協力することはない
- 2 特に、行政の手が届きにくい課題は、住民が協力して取り組むべきである
- 3 行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである
- 4 地域で助け合い、できない場合に行政が支援するべきである

問 22 福祉・教育・雇用・まちづくりなど、障がいのある人に対する行政の取組は進んでいると思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 かなり進んでいると思う | 4 ほとんど進んでいると思わない |
| 2 ある程度進んでいると思う | 5 わからない |
| 3 あまり進んでいると思わない | |

問 23 障がいのある人が、もっと働けるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

- | |
|--|
| 1 行政が、障がいのある人をもっと雇用する |
| 2 民間企業が、障がいのある人をもっと雇用する |
| 3 障がいがあっても働き続けることができる体制を整備する |
| 4 事務所のバリアフリー化など、障がいに配慮した環境を整える |
| 5 働く場で、障がいに対する理解を深める研修などを行う |
| 6 働く場で、障がいのある人への相談支援を充実する |
| 7 会社等に、雇用するための財政的な支援を行う |
| 8 福祉作業所などでの就業の機会を拡大する |
| 9 ハローワークなどの関係機関と、行政、民間企業が協力して就業を支援する |
| 10 就学中の障がいのある児童・生徒に、きめ細かな進路指導を行う |
| 11 その他（ ） |
| 12 特にない |
| 13 わからない |

問 24 福山市は、障がいのある人にとって暮らしやすいと思いますか。（○は1つだけ）

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1 とても暮らしやすいと思う | 4 暮らしにくいと思う |
| 2 どちらかといえば暮らしやすいと思う | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば暮らしにくいと思う | |

6 行政の取組などについておたずねします

問 25 次にあげる、障がい者に関することをご存じのもの(見聞きしたことがあるもの)はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

	ご存じの ものに○印↓
1 共生社会 障がいのある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す考え方。	1
2 障害者の日 障がい者について国民の理解と認識を深めるため、1975年(昭和50年)の国連総会で「障害者の権利宣言」が採択された12月9日を「障害者の日」と国が定めたもの。	2
3 障害者週間 障がい者について国民の理解と認識を深めるため、毎年12月3日から12月9日までの1週間を「障害者週間」と国が定めたもの。	3
4 障害者権利条約 障がい者の権利や尊厳を保護・促進するため、障がいを理由とする差別の禁止や、障がいのある人が障がいのない人と同じように暮らすための施策を包括的に定めたもの。	4
5 障害者基本法 障がい者のための施策に関して基本的な理念を定め、国や自治体等の責務と障がい者のための施策の基本となる事項を定めた法律。	5
6 障害者差別解消法 正式な法律名を「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」といい、障がい者に対する差別的な取り扱いを禁止し、国や自治体等の公的機関には障がい者に必要な配慮を義務付ける法律。	6
7 障害者総合支援法 正式な法律名を「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」といい、福祉サービスの充実など、障がい者が日常生活又は社会生活を営むために総合的な支援を行う法律。	7
8 第4次障害者基本計画 2018年(平成30年)3月に、障害者基本法に基づき、障がい者の自立及び社会参加の支援等のための施策の総合的かつ計画的な推進を図るために国が策定した計画。	8
9 福山市障がい者保健福祉総合計画 2016年(平成28年)3月に、障害者基本法に基づき市が策定した計画で、本市における障がい者福祉施策の方向性を示したもの。	9
10 障害者虐待防止法 正式な法律名を「障害者虐待の防止、障害者の擁護者に対する支援等に関する法律」といい、障がい者を虐待から守り、擁護者に必要な支援を行うための法律。	10
11 福山市こころをつなぐ手話言語条例 2017年(平成29年)12月に施行され、手話が言語であるとの認識に基づき、手話への理解と普及に関して基本理念を定め、すべての市民が共生する地域社会を実現することを目指した市の条例。	11
12 障害者雇用促進法 正式な法律名を「障害者の雇用の促進等に関する法律」といい、雇用の分野での障がい者に対する差別の禁止及び合理的配慮の提供義務などを定めた法律。	12

問 26 あなたは、障がいのある人にとって暮らしやすいまちづくりのために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（主なもの3つまでに○）

- 1 何でも相談できる窓口の充実
- 2 福祉に関する情報のわかりやすい提供
- 3 点字・手話、字幕放送などによる情報提供の充実
- 4 保健や福祉に関わる専門的な人材を増やすこと
- 5 地域で安心して生活できる福祉サービスを充実すること
- 6 保健医療体制の充実
- 7 リハビリ、生活訓練などができる通所施設を充実すること
- 8 障がいのある人が希望する暮らし方ができるよう生活の場の選択肢を充実すること
- 9 障がいのある人の相談・支援体制や教育の充実
- 10 障がいのある人の働く場所を増やすこと
- 11 障がいのある人の文化・スポーツ教室や集いの場所を充実すること
- 12 障がいのある人に配慮した住宅や建物等の整備
- 13 電車やバスなどの公共交通機関を、障がいのある人でも利用しやすくすること
- 14 利用しやすい公共施設の整備
- 15 学校や地域で、差別や偏見をなくすための教育や啓発活動の充実
- 16 その他（）

問 27 福山市の障がい福祉の取組について、日頃感じていることやご意見がございましたら、自由にご記入ください。

～ご協力ありがとうございました～

V フリーアンサー集約結果

【1】18歳以上

問 64 福山市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

	回答数	主な回答について
1 情報提供について	30	○福祉制度や福山市の取組を分かりやすく発信してほしい。 ○障がい者団体に関する情報を提供してほしい。
2 経済的支援について	30	○経済的な支援をしてほしい。 ○医療費や税金をもっと軽減してほしい。 ○交通運賃の割引をしてほしい。
3 窓口での対応について	13	○障がい福祉担当職員の障がいへの理解や障がい福祉制度の知識を深めてほしい。 ○申請の手続きを分かりやすくしてほしい。
4 相談支援体制について	6	○相談先が分からない。
5 福祉サービスについて	16	○福祉サービスや事業所を充実してほしい。 ○グループホームを充実してほしい。
6 雇用・就労支援について	13	○障がいのある人が就職できる場所を増やしてほしい。 ○職場での障がいへの理解を深めてほしい。
7 障がいに対する理解について	11	○障がい者理解を深めてほしい。
8 その他の意見や要望	37	○将来への不安 ○介護者への支援 ○介護保険制度と障がい福祉制度の連携 ○交通のバリアフリー化

【2】18歳未満

問 52 福山市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由に記入ください。

	回答数	主な回答について
1 情報提供について	11	○福祉制度や福山市の取組を分かりやすく発信してほしい。
2 経済的支援について	5	○経済的な支援をしてほしい
3 窓口での対応について	10	○障がい福祉担当職員の障がいへの理解や障がい福祉制度の知識を深めてほしい。 ○申請の手続きを分かりやすくしてほしい。
4 相談支援体制について	6	○特別支援学校卒業後の支援・相談等を充実してほしい。
5 福祉サービスについて	11	○福祉サービスや事業所を充実してほしい。 ○福祉サービスを使いたいときに使えるようにしてほしい。 ○グレーゾーンの子どもへの支援を充実してほしい。
6 保育，教育について	11	○保育士，教員に障がいへの理解や専門知識を深めてほしい。 ○福祉と教育の連携をしてほしい。 ○加配職員を配置してほしい。
7 障がいに対する理解について	2	○障がい者理解を深めてほしい。
8 その他の意見や要望	13	○手続き等の更新のお知らせをしてほしい。

【3】手帳等非所持者

問 27 福山市の障がい福祉の取組について、日頃感じていることやご意見がございましたら、自由にご記入ください。

	回答数	主な回答について
1 情報提供について	11	○福祉制度や福山市の取組を分かりやすく発信してほしい。
2 生活環境について	21	○障がいがある人が生活しやすいようバリアフリーに努めてほしい。 ○経済的な支援をしてほしい
3 窓口での対応について	3	○障がい福祉担当職員の障がいへの理解や障がい福祉制度の知識を深めてほしい。
4 相談支援体制について	6	○いつでも、何でも相談できる窓口を整備してほしい。
5 雇用・就労支援について	1	○障がいがある人が働きやすい環境を作ってほしい。
6 障がいに対する理解について	14	○普段から障がいのある人に関心が持てる機会があればいい。 ○身近に障がいがある人がいないため、関わり方が分からない。 ○障がい者への理解を深めてほしい
7 その他の意見や要望	13	○障がいのある人が自立できるよう支援することが必要 ○真に必要な人に支援が行き届くようにしてほしい ○地域での支え合いが必要

福山市 福祉に関するアンケート調査 報告書

発 行 行／2020年（令和2年）3月
発 行 者／福山市
問 合 せ 先／福山市保健福祉局福祉部障がい福祉課
〒720-8501 福山市東桜町3番5号
TEL（084）928-1062
FAX（084）928-1730
